

湖南省女性の生きづらさ等に関する意識実態 調査結果報告書

湖南省女性の生きづらさに関する市民意識調査
男女共同参画社会づくりに関する事業所実態調査
女性の生きづらさ等に関するヒアリング調査

令和 3 年（2021 年） 3 月

湖 南 市

目 次

I	女性の生きづらさに関する市民意識調査	1
1	調査の概要	2
1	調査の目的	2
2	調査対象	2
3	調査期間	2
4	調査方法	2
5	回収状況	2
6	調査結果の表示方法	2
2	調査結果のまとめ	3
	(1) あなた自身について	3
	(2) 「生きづらさ」について	3
	(3) 男女共同参画について	4
3	調査結果	5
	(1) 回答者属性	5
	(2) 生きづらさについて	18
	(3) 男女共同参画について	141
4	自由意見	160
II	男女共同参画社会づくりに関する事業所実態調査	161
1	調査の概要	162
1	調査の目的	162
2	調査対象	162
3	調査期間	162
4	調査方法	162
5	回収状況	162
6	調査結果の表示方法	162

2	調査結果のまとめ	163
	(1) 就労環境・人材育成について	163
	(2) ハラスメントなどの生きづらさについて	163
3	調査結果	164
	(1) 事業所について	164
	(2) 就労環境・人材育成について	169
	(3) ハラスメントなど生きづらさについて	198
4	自由回答	204
Ⅲ	女性の生きづらさ等に関するヒアリング調査	205
1	調査の概要	206
	1 調査目的	206
	2 調査対象	206
	3 調査方法	206
	4 調査実施時期	206
	5 調査項目	206
	6 調査結果のまとめ	207
2	調査項目（個別詳細）	208
Ⅳ	調査票	220
1	市民意識調査	221
2	事業所実態調査	228

I 女性の生きづらさに関する市民意識調査

1 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「湖南省男女共同参画アクション 2017 計画」を改定するにあたり、湖南省における女性の生きづらさの実態把握を目的に実施したものです。

2 調査対象

湖南省に在住する、20 歳以上の女性 2,000 人を無作為抽出

3 調査期間

令和 2 年（2020 年）12 月 25 日から令和 3 年（2021 年）1 月 20 日

4 調査方法

郵送による配付回収

5 回収状況

	配 付 数	回答者数	有効回答率
市民調査	2,000 通	670 通	33.5%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の回答者数の合計と単純集計（全体）の回答者数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・平成 27 年度調査との経年比較では、前回調査は男女であるため、グラフに「回答者数（女性のみ）」と記載しています。

2 調査結果のまとめ

(1) あなた自身について

ひきこもりの経験について、同居者別にみると、『過去にひきこもっていた』人では「配偶者」が 61.4%、「子ども」が 47.7%、『ひきこもったことがない』人では「配偶者」が 72.5%、「子ども」が 55.0%に対し、『現在ひきこもっている』人では「配偶者」が 37.5%、「子ども」が 12.5%となっており、ひきこもっていない人ほど、配偶者や子どもと一緒に生活している傾向にあります。(問 3)

さらに、日ごろの家族の中での精神的な支えになっている人別にみると、「母親」の割合について『過去にひきこもっていた』人では 20.5%、『ひきこもったことがない』人では 30.4%であるのに対し、『現在ひきこもっている』人では 37.5%となっており、ひきこもっている人の精神的な支えは母親が高い傾向にあります。また、「いない」の割合が『現在ひきこもっている』人で 12.5%と、『過去にひきこもっていた』人や『ひきこもったことがない』人と比較して高いことから、誰にも頼れず、社会から孤立してしまっているひきこもりの方に寄り添う支援が必要です。(問 6-2)

(2) 「生きづらさ」について

「生きづらさ」を感じた経験の有無について、「過去に「生きづらさ」を感じていた」が 24.8%、「現在「生きづらさ」を感じている」が 21.9%となっており、46.7%の人が「生きづらさ」について何らかの経験があります。(問 11-1) そのうち、その理由について年代別にみると、10~20 歳代では「家族以外の関係」、30~50 歳代では「経済的不安」、60 歳代以上では「それ(父親、母親)以外の家族との関係」となっており、年代によってその理由は様々です。(問 11-2)

そして、生きづらさが改善されるために必要なことについて、年代別にみると、10~40 歳代で「安心できる居場所が見つかる」が、50 歳代以上で「経済的に安定する」が最も高くなっています。(問 11-3)

また、女性の「ひきこもり」に対する問題意識について、年代別にみると、年代が上がるにつれて、「問題だとは考えたことがなかった」の割合が低くなる傾向にある一方、「問題だと考え、行政としても対策・支援が必要である」の割合が高くなる傾向にあります。年齢を重ねるごとにひきこもりの問題を重く考え、行政に対しても何らかの支援を求める声が高まっています。(問 8)

さらに、「女性のひきこもり」に対して必要だと思う支援について、ひきこもり経験別にみると、『ひきこもったことがない』人で「女性に配慮した相談体制の充実」が 54.5%、『過去にひきこもっていた』人で「就労のきっかけづくり・技術の習得」が 63.6%、『現在ひきこもっている』人で、「気軽に参加できる居場所の確保」、「就労のきっかけづくり・技術の習得」がいずれも 50.0%となっています。(問 9)

また、「ひきこもり」や「生きづらさ」に関して、これまでに利用した支援・サービスについてどう思うかについて、ひきこもり経験別にみると、「利用したことがない」の割合について、『過去にひきこもっていた』人で 50.0%、「現在ひきこもっている」人で 75.0%となっています。(問 17-1)

その他、「生きづらさ」を解決するために期待する事業や取組について、「就労支援、仕事の紹

介」が 42.8%と最も高く、次いで「当事者や経験者が働ける場づくり」が 38.7%、「家族や企業、市民への理解促進」が 31.9%となっています。(問 24)

日常生活で様々な「生きづらさ」を感じる方や現在ひきこもりの状況におかれている方に対し、些細な悩み事でも、その問題が大きくなる前に、気軽に相談できるような相談先や居場所づくり、支援やサービスについての情報提供等、本人に応じた適切な支援が必要です。

(3) 男女共同参画について

各場面での男女平等について、「学校」と「地域」を除く、「家庭」、「職場」、「政治」、「法律や制度」、「習慣やしきたり」において、「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた“優遇されている”が 50.0%を上回っており、今後もさまざまな場面での男女平等に取り組んでいく必要があります。(問 25)

また、『自分の家庭に限らず、一般に「夫が外で働き、妻が家を守るべきである」』という考え方について、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」をあわせた“そう思う”が 16.2%となっており、平成 27 年度調査の 25.8%と比較すると、9.6 ポイント低くなっています。(問 26)

『家事や子育ては女性が行ったほうがよい』という考え方については、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」をあわせた“そう思う”が 22.3%となっており、平成 27 年度調査の 34.8%と比較すると 12.5 ポイント低くなっています。(問 26)

『子どもが小さいうちは、母親は外で働かないほうがよい』という考え方について、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」をあわせた“そう思う”が 32.1%となっており、平成 27 年度調査の 59.3%と比較すると、27.2 ポイント低くなっています。(問 26)

これらから、固定的な性別役割分担意識を持つ人は少なくなっている状況がうかがえます。

他方、DVを受けた経験の有無について、「過去に受けたことがある」と「現在受けている」をあわせた“DVを受けたことがある”人の割合は 11.3%となっており、「生きづらさ」別でみると、『「生きづらさ」を感じたことはない』人に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人、『過去に「生きづらさ」を感じていた』人で“DVを受けたことがある”人と答えた人の割合が高くなっており、そのうち、DVを受けたときの対処について、「がまんした」が 60.5%となっています。(問 26)

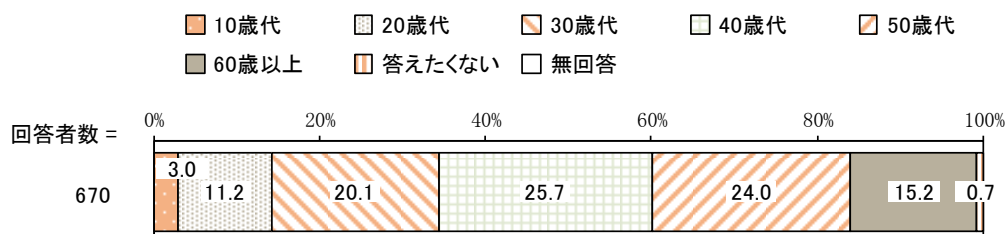
このことから、DVが「生きづらさ」を感じる要因の一つであることが示唆されるとともに、半数以上が誰にも相談せず一人で抱え込んでいる状況にあることから、被害者が安全に安心して相談できる体制の充実を図るとともに、被害を受けた場合は、自分の被害を過小に評価し、一人で悩みを抱え込むことのないように、DVについての周知啓発が必要です。

3 調査結果

(1) 回答者属性

問1 あなたの年代についてお答えください。(○は1つだけ)

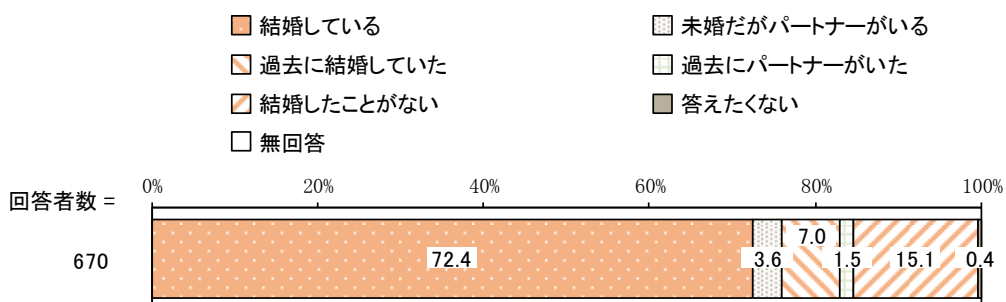
「40 歳代」の人の割合が 25.7%と最も高く、次いで「50 歳代」の人の割合が 24.0%、「30 歳代」の割合が 20.1%となっています。



※以下【年代別】は、この設問の結果とのクロス集計のことを言います。

問2 配偶者・パートナーの有無についてお答えください。(○は1つだけ)

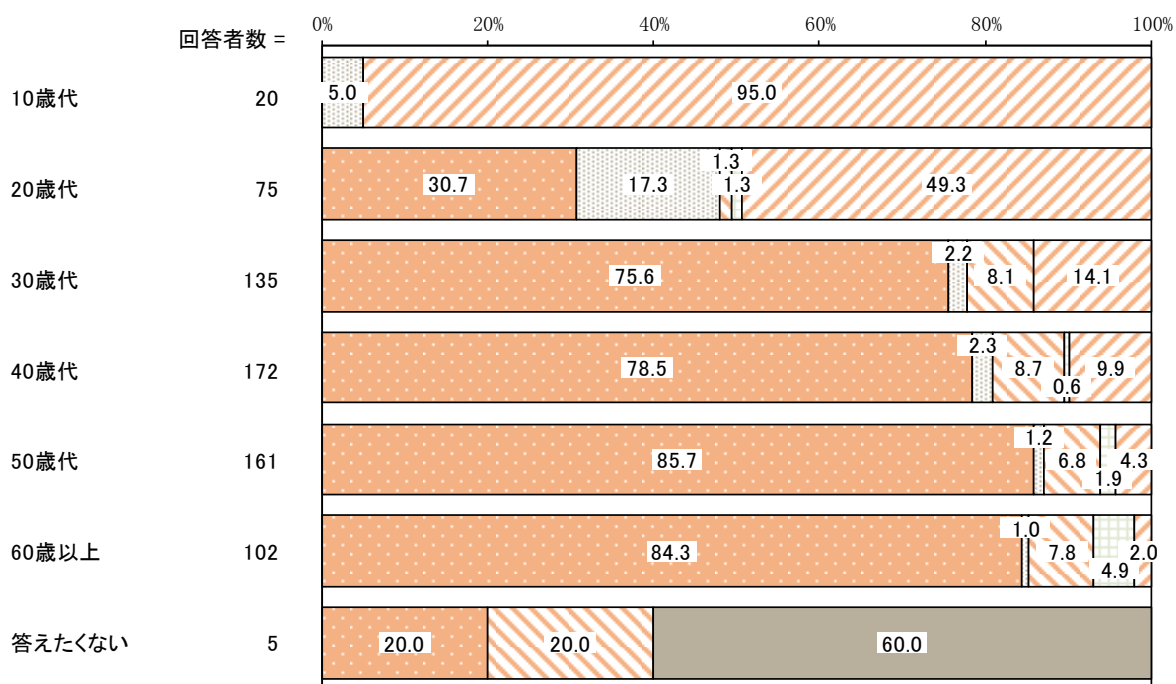
「結婚している」人の割合が 72.4%と最も高く、次いで「結婚したことがない」人の割合が 15.1%となっています。



※以下【婚姻状況別】は、この設問の結果とのクロス集計のことを言います。

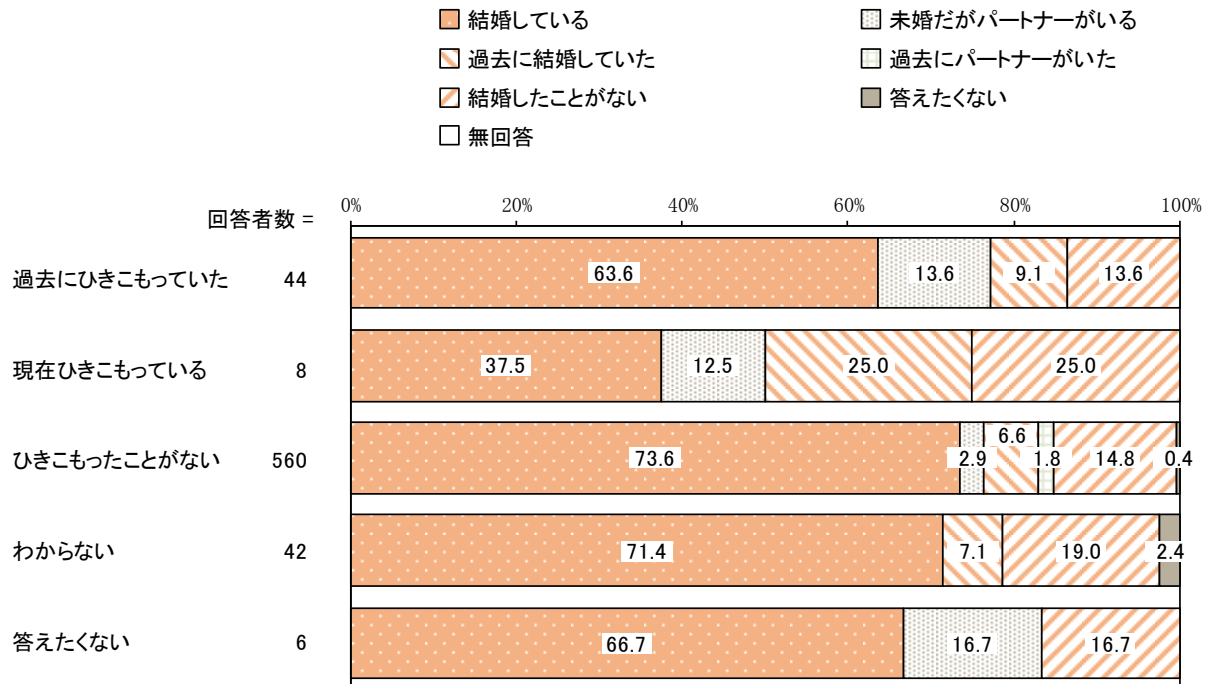
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『50 歳代』で「結婚している」人の割合が高くなっています。また、他に比べ、『20 歳代』で「未婚だがパートナーがいる」人の割合が、『10 歳代』で「結婚したことがない」人の割合が高くなっています。



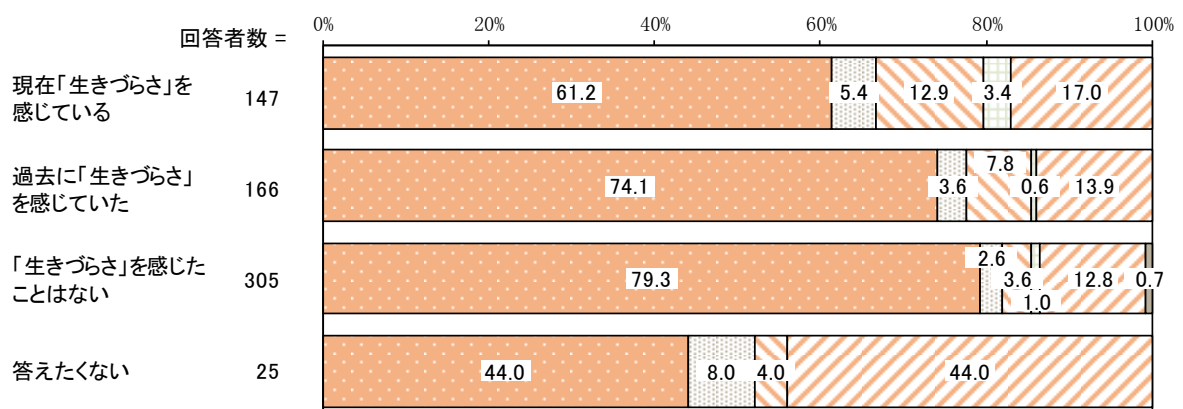
【ひきこもり経験別】※【ひきこもり経験別】は、問 10－1 の結果とのクロス集計になります。

ひきこもり経験別でみると、他に比べ、『ひきこもったことがない』人で「未婚だがパートナーがいる」「過去にパートナーがいた」の割合が低くなっています。



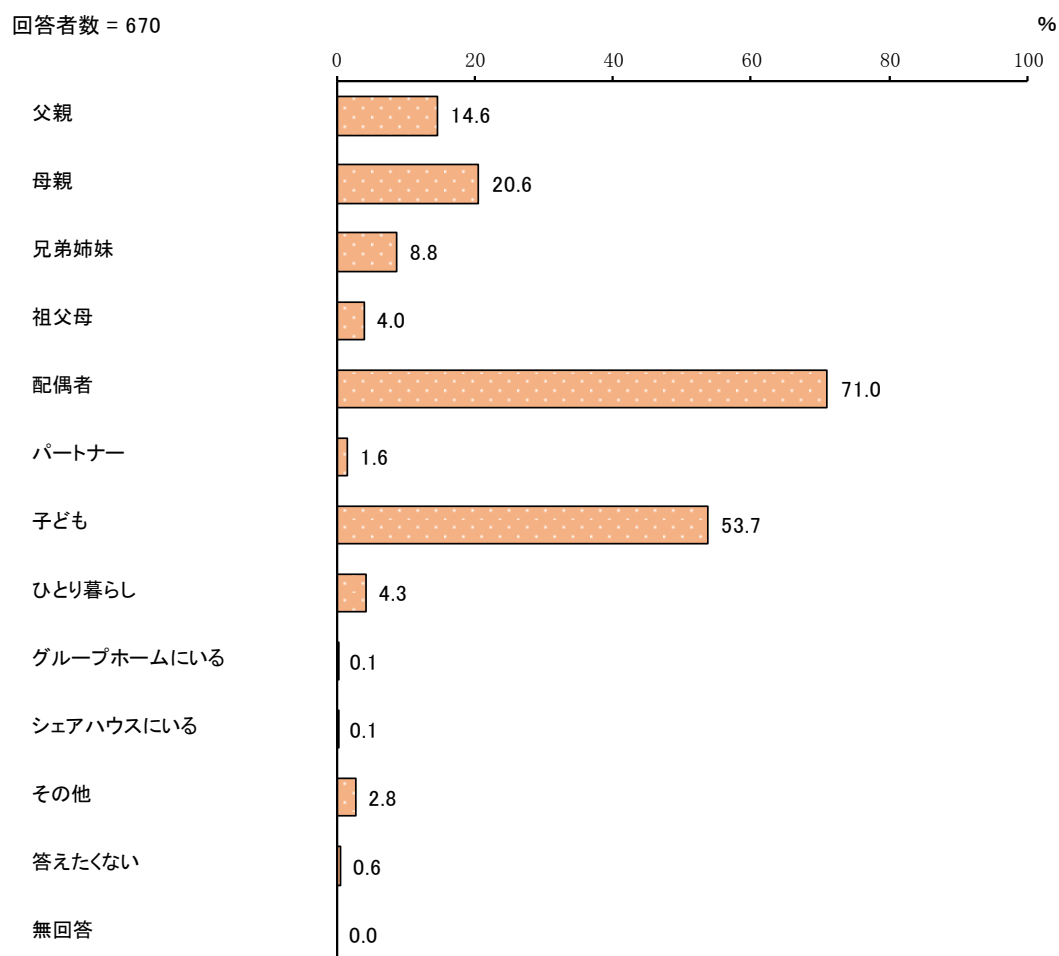
【「生きづらさ」別】※【「生きづらさ」別】は、問 11－1 の結果とのクロス集計になります。

「生きづらさ」別でみると、他に比べ、『「生きづらさ」を感じたことはない』人で「結婚している」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、『「生きづらさ」を感じたことはない』人で「過去に結婚していた」の割合が低くなっています。



問3 あなたはだれと同居していますか。(〇はいくつでも可)

「配偶者」と同居している人の割合が71.0%と最も高く、次いで「子ども」と同居している人の割合が53.7%、「母親」の割合が20.6%となっています。



※以下【世帯構成別】は、この設問の結果とのクロス集計のことを言います。

【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ「父親」「母親」「兄弟姉妹」「祖父母」と同居している人の割合が高くなる傾向がみられます。一方、年代が高くなるにつれて「配偶者」と同居している人の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、『40 歳代』で「子ども」と同居している人の割合が、『20 歳代』で「ひとり暮らし」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	父親	母親	兄弟姉妹	祖父母	配偶者	パートナー	子ども	ひとり暮らし	グループホームにいる	シェアハウスにいる	その他	答えたくない	無回答
10 歳代	20	80.0	95.0	80.0	20.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20 歳代	75	38.7	46.7	29.3	18.7	30.7	1.3	18.7	12.0	—	—	2.7	2.7	—
30 歳代	135	16.3	18.5	7.4	1.5	75.6	3.0	64.4	2.2	—	—	1.5	—	—
40 歳代	172	11.6	17.4	4.1	1.2	77.3	1.7	75.0	2.9	—	0.6	2.9	—	—
50 歳代	161	6.2	10.6	1.2	2.5	83.2	0.6	57.8	4.3	0.6	—	3.7	—	—
60 歳以上	102	1.0	11.8	2.0	1.0	81.4	2.0	34.3	3.9	—	—	3.9	—	—
答えたくない	5	—	—	—	—	20.0	—	40.0	20.0	—	—	—	40.0	—

【ひきこもり経験別】

ひきこもり経験別でみると、他に比べ、『ひきこもったことがない』人で「子ども」と同居している人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	父親	母親	兄弟姉妹	祖父母	配偶者	パートナー	子ども	ひとり暮らし	グループホームにいる	シェアハウスにいる	その他	答えたくない	無回答
過去にひきこもっていた	44	15.9	22.7	11.4	4.5	61.4	6.8	47.7	6.8	—	—	2.3	—	—
現在ひきこもっている	8	12.5	25.0	—	—	37.5	12.5	12.5	12.5	—	—	—	—	—
ひきこもったことがない	560	15.2	20.5	8.9	4.1	72.5	0.7	55.0	4.1	—	—	2.5	0.5	—
わからない	42	9.5	23.8	9.5	4.8	66.7	4.8	50.0	2.4	—	2.4	4.8	2.4	—
答えたくない	6	—	—	—	—	66.7	16.7	16.7	16.7	—	—	—	—	—

【「生きづらさ」別】

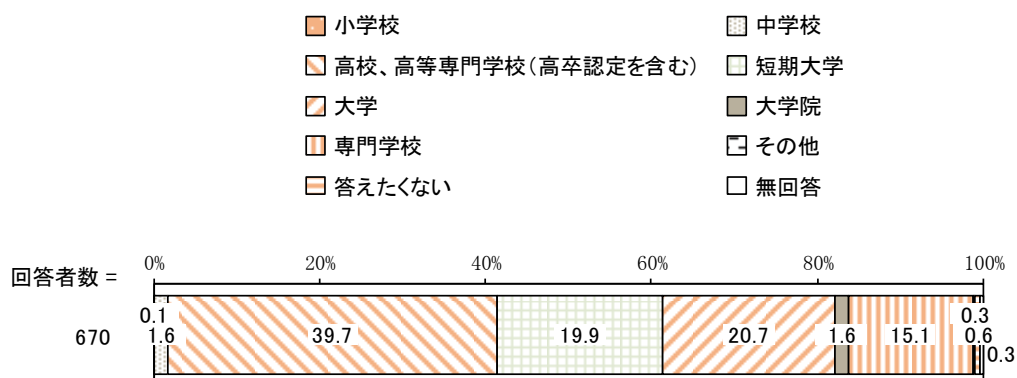
「生きづらさ」別でみると、すべての項目で「配偶者」「子ども」「母親」「父親」と同居している人の順に割合が高くなる傾向がみられます。『現在「生きづらさ」を感じている』人は「配偶者」と同居している人の割合が低く、一方、「母親」「父親」と同居している人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	父親	母親	兄弟姉妹	祖父母	配偶者	パートナー	子ども	ひとり暮らし	グループホームにいる	シェアハウスにいる	その他	答えたくない	無回答
現在「生きづらさ」を感じている	147	16.3	23.1	8.8	5.4	59.2	2.7	52.4	5.4	—	0.7	3.4	—	—
過去に「生きづらさ」を感じていた	166	12.7	18.1	7.8	4.2	72.9	2.4	53.0	4.8	—	—	1.8	0.6	—
「生きづらさ」を感じたことはない	305	14.1	19.0	8.2	2.6	79.0	0.7	55.7	3.3	0.3	—	3.3	0.3	—
答えたくない	25	36.0	44.0	28.0	12.0	44.0	4.0	32.0	4.0	—	—	4.0	4.0	—

問4 最後に在籍した（または現在在籍している）学校は次のうちどれですか。
（○は1つだけ）

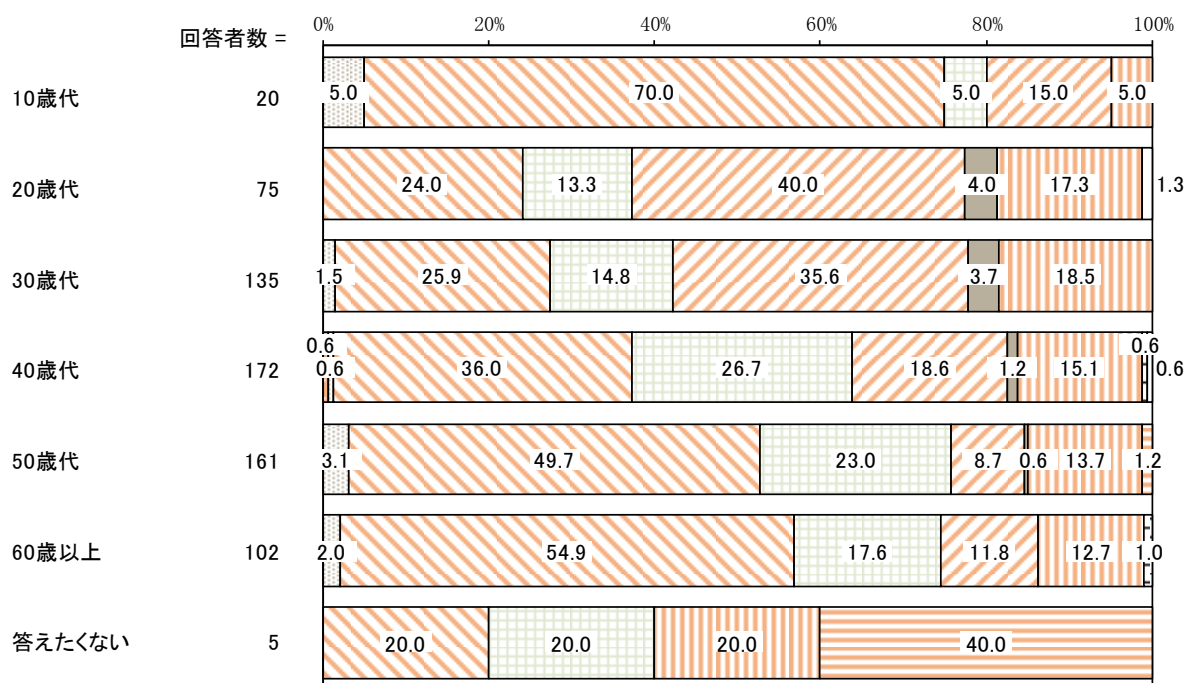
「高校、高等専門学校（高卒認定を含む）」と答えた人の割合が 39.7%と最も高く、次いで「大学」と答えた人の割合が 20.7%、「短期大学」と答えた人の割合が 19.9%となっています。



※以下【最終学歴別】は、この設問の結果とのクロス集計のことを言います。

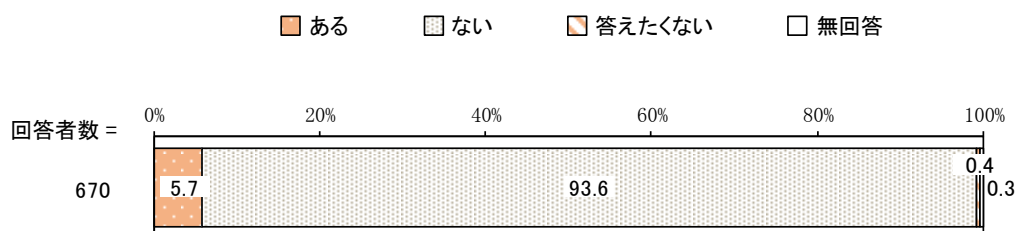
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『10 歳代』で「高校、高等専門学校（高卒認定を含む）」と答えた人の割合が、『40 歳代』で「短期大学」と答えた人の割合が高くなっています。また、『20 歳代』以上で年代が高くなるにつれ「大学」と答えた人の割合が低くなる傾向がみられます。



問5 学校を中退した経験はありますか。(〇は1つだけ)

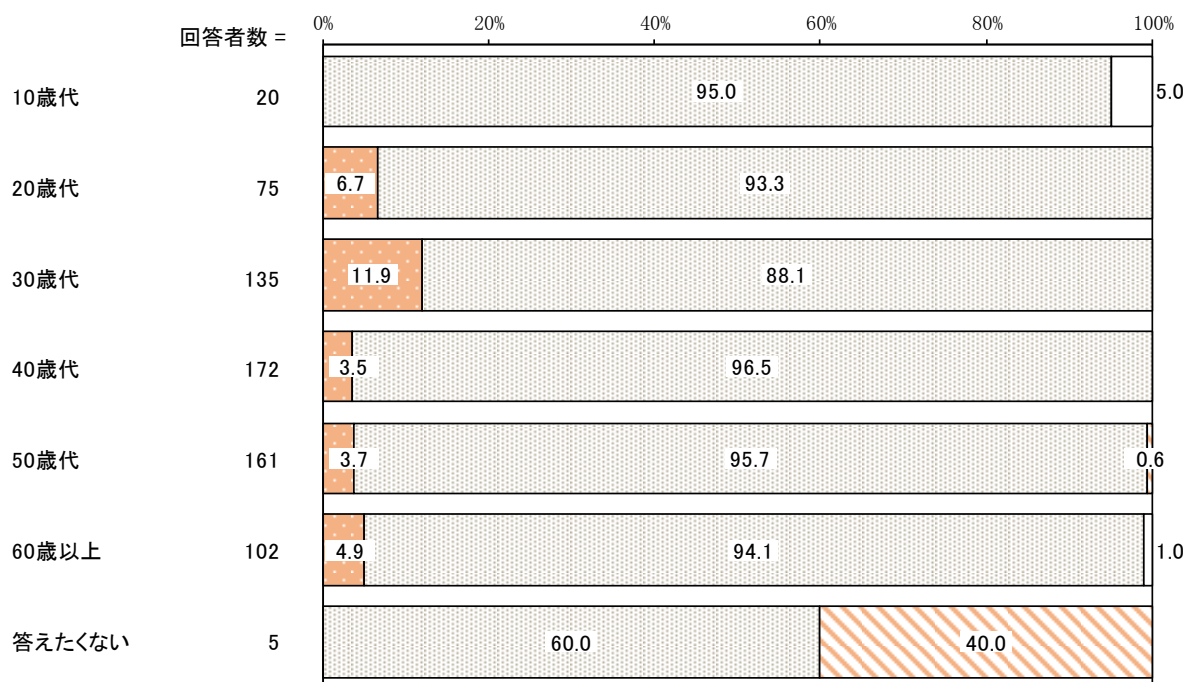
「ない」と答えた人の割合が93.6%と最も高くなっています。



※以下【学校の中退経験の有無別】は、この設問の結果とのクロス集計のことを言います。

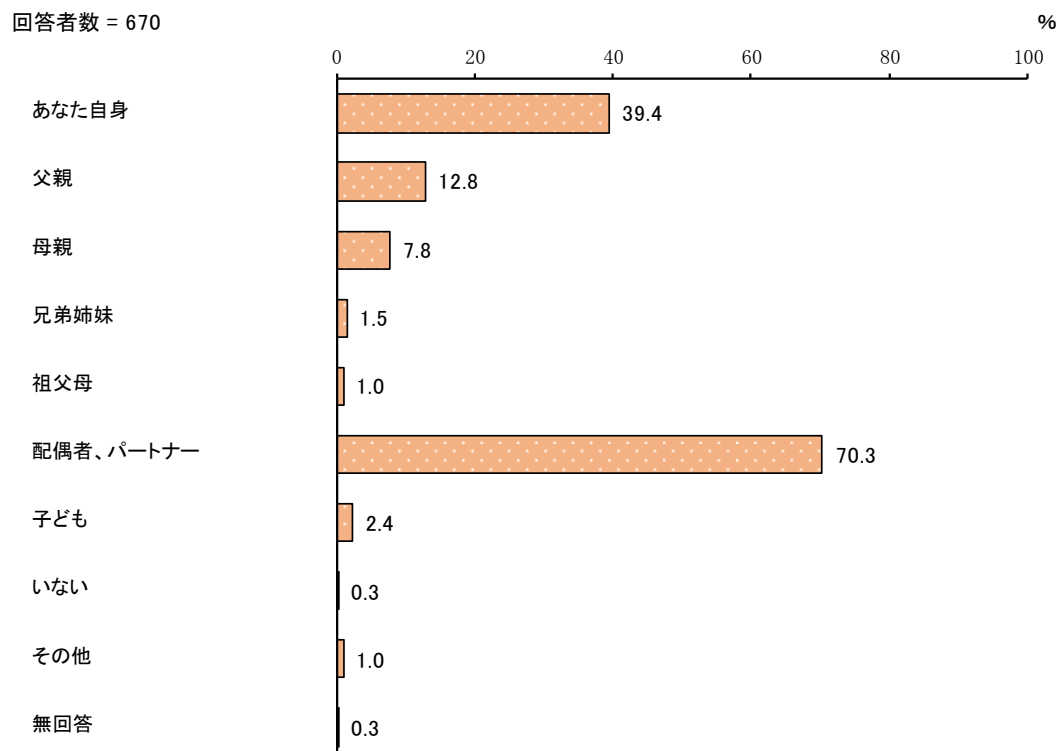
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『30 歳代』で「ある」と答えた人の割合が高く、約1割となっています。



問 6－1 日ごろ家族の中であなたを経済的に支えているのはどなたですか。
(〇はいくつでも可)

「配偶者、パートナー」と答えた人の割合が 70.3%と最も高く、次いで「あなた自身」と答えた人の割合が 39.4%、「父親」と答えた人の割合が 12.8%となっています。



【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ「父親」「母親」と答えた人の割合が、年代が高くなるにつれ「配偶者、パートナー」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、『20 歳代』『30 歳代』で「あなた自身」と答えた人の割合が高くなっています。

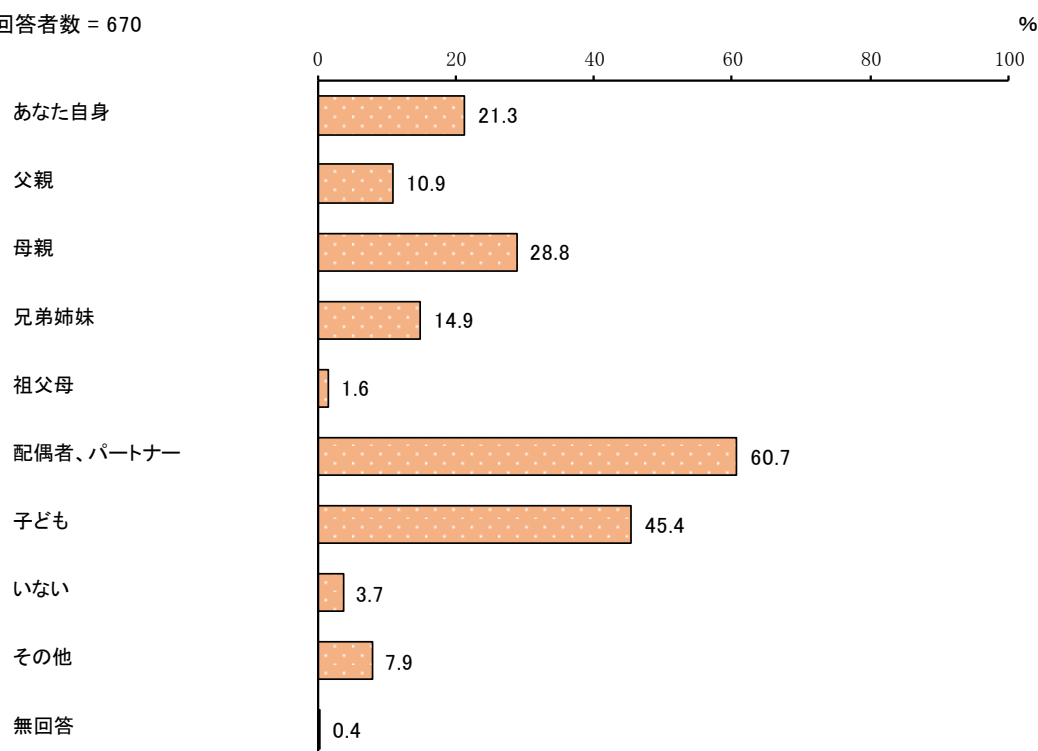
単位：%

区分	回答者数 (件)	あなた 自身	父親	母親	兄弟 姉妹	祖 父母	配偶者、 パートナー	子 ども	い ない	そ 他	無 回 答
10 歳代	20	5.0	85.0	50.0	—	5.0	—	—	—	—	5.0
20 歳代	75	45.3	44.0	33.3	4.0	2.7	32.0	—	—	1.3	—
30 歳代	135	45.2	12.6	5.2	0.7	0.7	76.3	—	—	0.7	—
40 歳代	172	36.6	7.6	3.5	1.7	1.7	76.2	—	—	—	—
50 歳代	161	38.5	3.7	1.9	1.9	—	80.7	4.3	—	2.5	—
60 歳以上	102	40.2	—	1.0	—	—	79.4	8.8	1.0	1.0	—
答えたくない	5	40.0	—	—	—	—	40.0	—	20.0	—	20.0

問 6－2 日ごろ家族の中であなたを精神的に支えているのはどなたですか。
(○はいくつでも可)

「配偶者、パートナー」と答えた人の割合が 60.7%と最も高く、次いで「子ども」と答えた人の割合が 45.4%、「母親」と答えた人の割合が 28.8%となっています。

回答者数 = 670



【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「あなた自身」と答えた人の割合が、年代が低くなるにつれ「父親」「母親」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、『10 歳代』で「兄弟姉妹」と答えた人の割合が、『30 歳代』で「配偶者、パートナー」と答えた人の割合が、『40 歳代』以上は「子ども」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	あなた 自身	父親	母親	兄弟 姉妹	祖 父母	配偶者、 パートナー	子 ども	い ない	そ 他	無 回 答
10 歳代	20	5.0	25.0	80.0	30.0	—	5.0	—	10.0	10.0	—
20 歳代	75	21.3	17.3	53.3	16.0	5.3	33.3	9.3	5.3	12.0	—
30 歳代	135	18.5	20.0	43.7	24.4	3.0	71.1	41.5	3.7	5.9	—
40 歳代	172	20.3	11.6	27.3	7.0	0.6	62.8	56.4	2.3	6.4	1.2
50 歳代	161	23.6	4.3	14.3	12.4	0.6	65.8	52.8	2.5	9.3	0.6
60 歳以上	102	27.5	1.0	6.9	16.7	1.0	67.6	54.9	3.9	6.9	—
答えたくない	5	—	—	20.0	—	—	40.0	60.0	40.0	20.0	—

【世帯構成別】

世帯構成別でみると、同居している家族が精神的な支えとなっている割合が高くなる傾向がみられます。

単位：％

区分	回答者数 (件)	あなた自身	父親	母親	兄弟姉妹	祖父母	配偶者、 パートナー	子ども	いない	その他	無回答
父親	98	27.6	30.6	60.2	17.3	3.1	15.3	17.3	8.2	8.2	1.0
母親	138	23.9	21.7	60.1	18.1	2.2	21.0	18.1	8.0	9.4	0.7
兄弟姉妹	59	22.0	27.1	76.3	33.9	6.8	5.1	5.1	6.8	11.9	—
祖父母	27	25.9	14.8	48.1	18.5	18.5	25.9	18.5	11.1	11.1	—
配偶者	476	18.5	5.9	19.7	12.0	1.3	80.5	54.8	1.5	6.5	0.4
パートナー	11	36.4	9.1	54.5	27.3	—	81.8	9.1	—	9.1	—
子ども	360	20.0	7.8	22.5	10.8	1.7	66.9	70.0	3.1	7.2	0.6
ひとり暮らし	29	51.7	24.1	41.4	37.9	—	17.2	13.8	3.4	20.7	—
グループホームにいる	1	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—
シェアハウスにいる	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—
その他	19	15.8	—	21.1	10.5	—	47.4	52.6	10.5	10.5	5.3
答えたくない	4	—	—	25.0	25.0	—	75.0	25.0	25.0	—	—

【ひきこもり経験別】

ひきこもり経験別でみると、他に比べ、『ひきこもったことがない』人で「配偶者、パートナー」「子ども」と答えた人の割合が、『過去にひきこもっていた』人で「母親」「兄弟姉妹」と答えた人の割合が高くなっています。一方、他に比べ、『現在ひきこもっている』人で家族の中で精神的に支えてくれる人が「いない」と答えた人の割合が高く、12.5%となっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	あなた自身	父親	母親	兄弟姉妹	祖父母	配偶者、 パートナー	子ども	いない	その他	無回答
過去にひきこもっていた	44	27.3	4.5	20.5	20.5	2.3	61.4	29.5	6.8	6.8	—
現在ひきこもっている	8	25.0	12.5	37.5	12.5	—	37.5	12.5	12.5	12.5	—
ひきこもったことがない	560	20.5	11.3	30.4	14.6	1.8	62.0	47.7	2.9	7.9	—
わからない	42	23.8	9.5	19.0	9.5	—	52.4	40.5	11.9	11.9	—
答えたくない	6	16.7	—	16.7	16.7	—	66.7	16.7	—	—	—

【「生きづらさ」別】

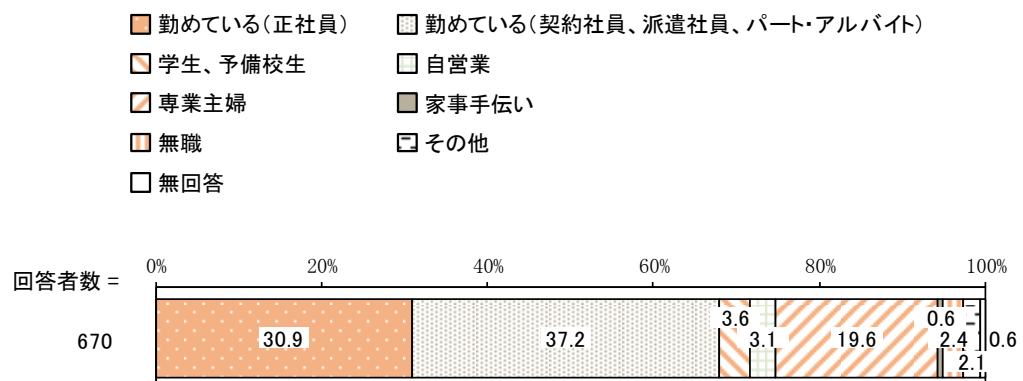
「生きづらさ」別でみると、他に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人で「あなた自身」と答えた人の割合が、『答えたくない』人で「母親」「いない」と答えた人の割合が、『「生きづらさ」を感じたことはない』人で「配偶者、パートナー」「子ども」と答えた人の割合が高くなっています。一方、『現在「生きづらさ」を感じている』人で「いない」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	あなた 自身	父親	母親	兄弟 姉妹	祖父 母	配偶者、 パートナ ー	子 ども	い ない	そ 他	無 回 答
現在「生きづらさ」を感じている	147	26.5	11.6	24.5	18.4	2.7	47.6	43.5	8.8	8.8	0.7
過去に「生きづらさ」を感じていた	166	20.5	10.2	27.1	16.9	1.2	63.9	45.2	3.6	7.8	0.6
「生きづらさ」を感じたことはない	305	19.7	11.5	31.8	12.8	1.3	66.9	46.2	0.7	8.2	0.3
答えたくない	25	20.0	8.0	32.0	12.0	—	48.0	24.0	12.0	4.0	—

問 7 あなたの現在の就学・就労の状況を教えてください。(○は1つだけ)

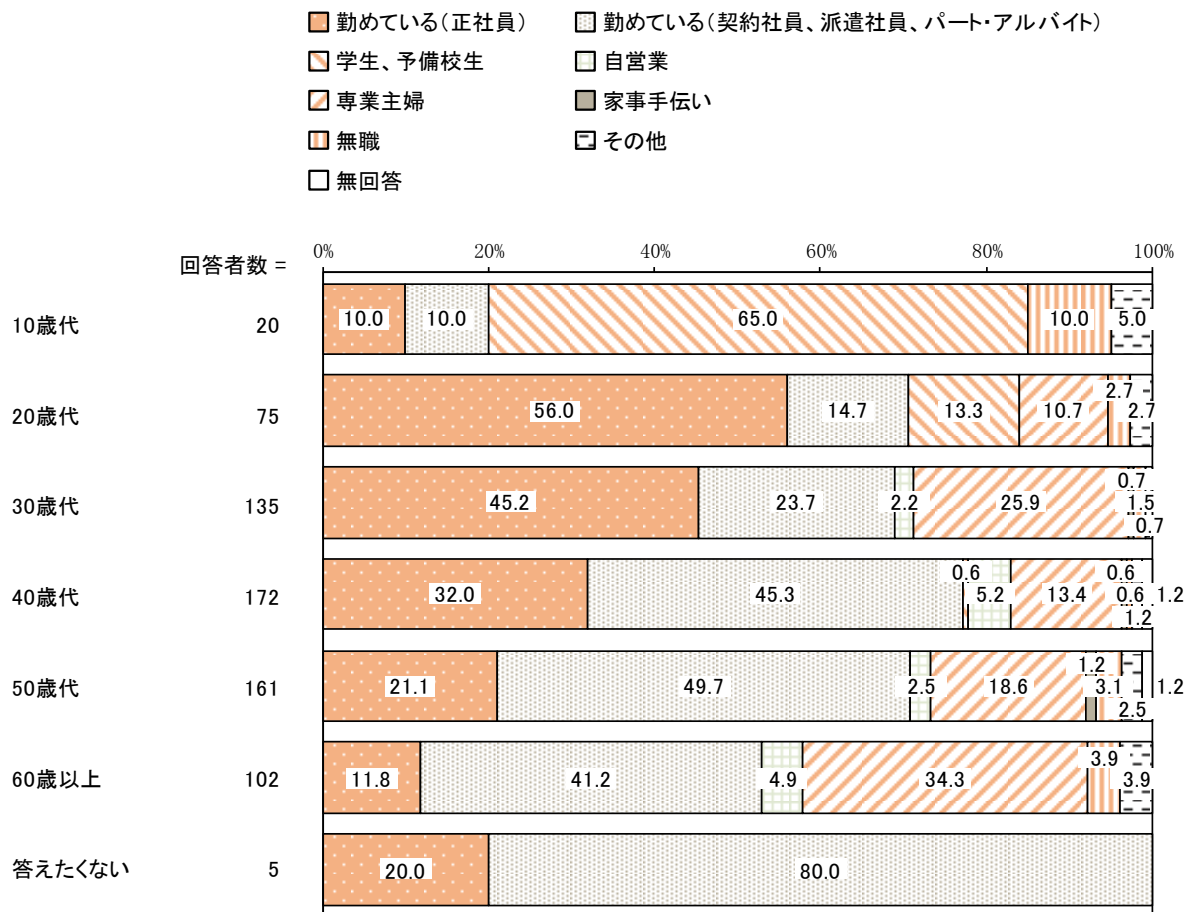
「勤めている（契約社員、派遣社員、パート・アルバイト）」と答えた人の割合が 37.2%と最も高く、次いで「勤めている（正社員）」と答えた人の割合が 30.9%、「専業主婦」と答えた人の割合が 19.6%となっています。



※以下【就学・就労状況別】は、この設問の結果とのクロス集計のことを言います。

【年代別】

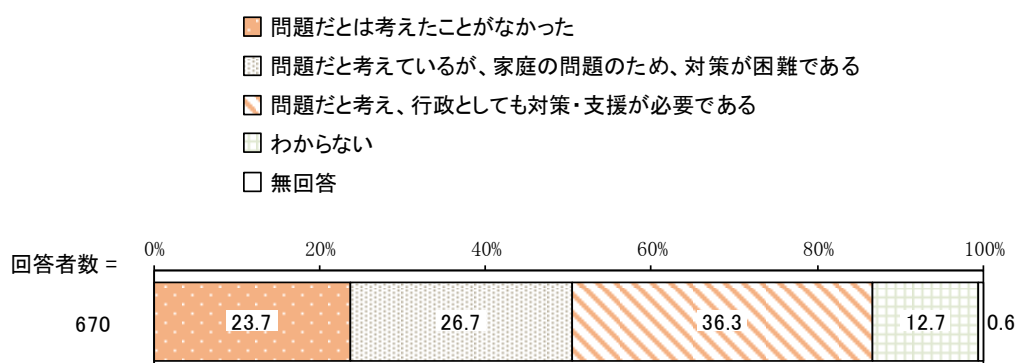
年代別でみると、年代が低くなるほど「勤めている（正社員）」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。一方、年代が高くなるにつれて「勤めている（契約社員、派遣社員、パート・アルバイト）」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、『10 歳代』で「学生、予備校生」と答えた人の割合が、『60 歳以上』で「専業主婦」と答えた人の割合が高くなっています。



(2) 生きづらさについて

問8 あなたは「女性のひきこもり」について、どのように思いますか。(〇は1つだけ)

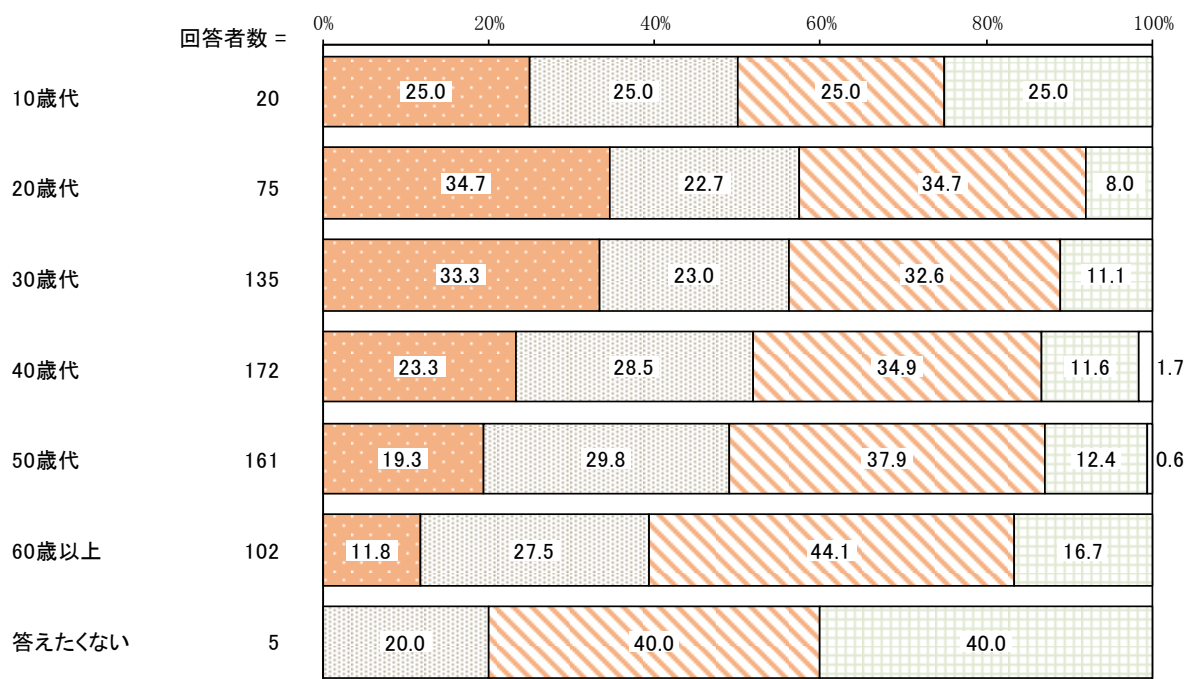
「問題だと考え、行政としても対策・支援が必要である」と答えた人の割合が36.3%と最も高く、次いで「問題だと考えているが、家庭の問題のため、対策が困難である」と答えた人の割合が26.7%、「問題だとは考えたことがなかった」の割合が23.7%となっています。



※以下【女性の「ひきこもり」に対する問題意識別】は、この設問の結果とのクロス集計のことを言います。

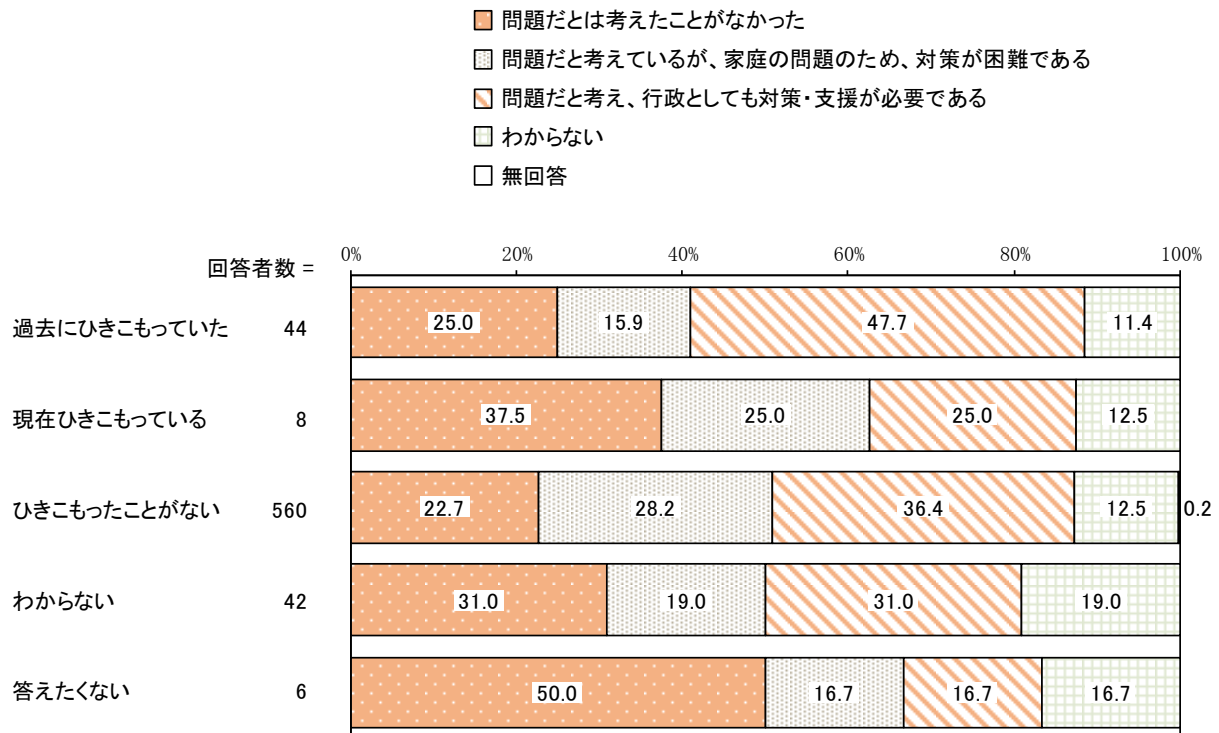
【年代別】

年代別でみると、『20 歳代』以上で年代が低くなるにつれ「問題だとは考えたことがなかった」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、『60 歳以上』で「問題だと考え、行政としても対策・支援が必要である」と答えた人の割合が高くなっています。



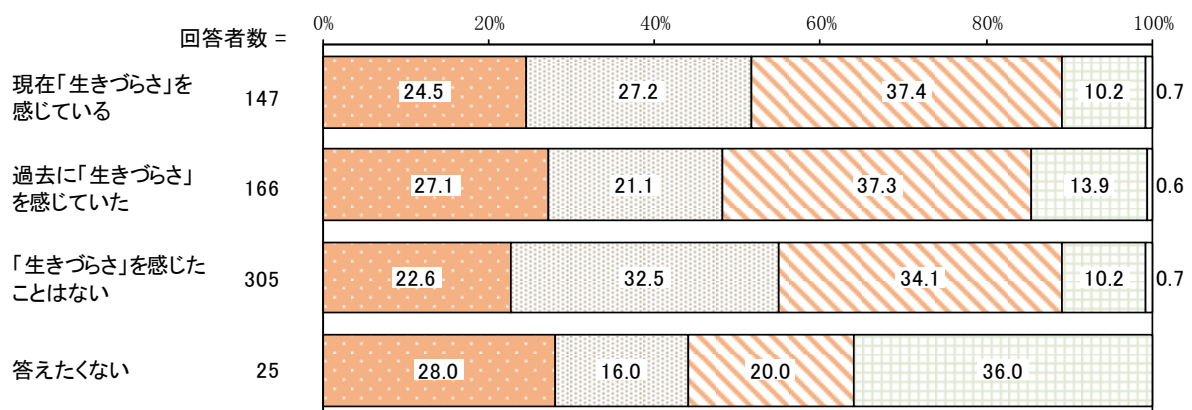
【ひきこもり経験別】

ひきこもり経験別でみると、他に比べ、『過去にひきこもっていた』人で「問題だと考え、行政としても対策・支援が必要である」と答えた人の割合が高くなっています。また、『ひきこもったことがない』人では、「問題だと考えているが、家庭の問題のため、対策が困難である」と答えた人の割合が高くなっています。



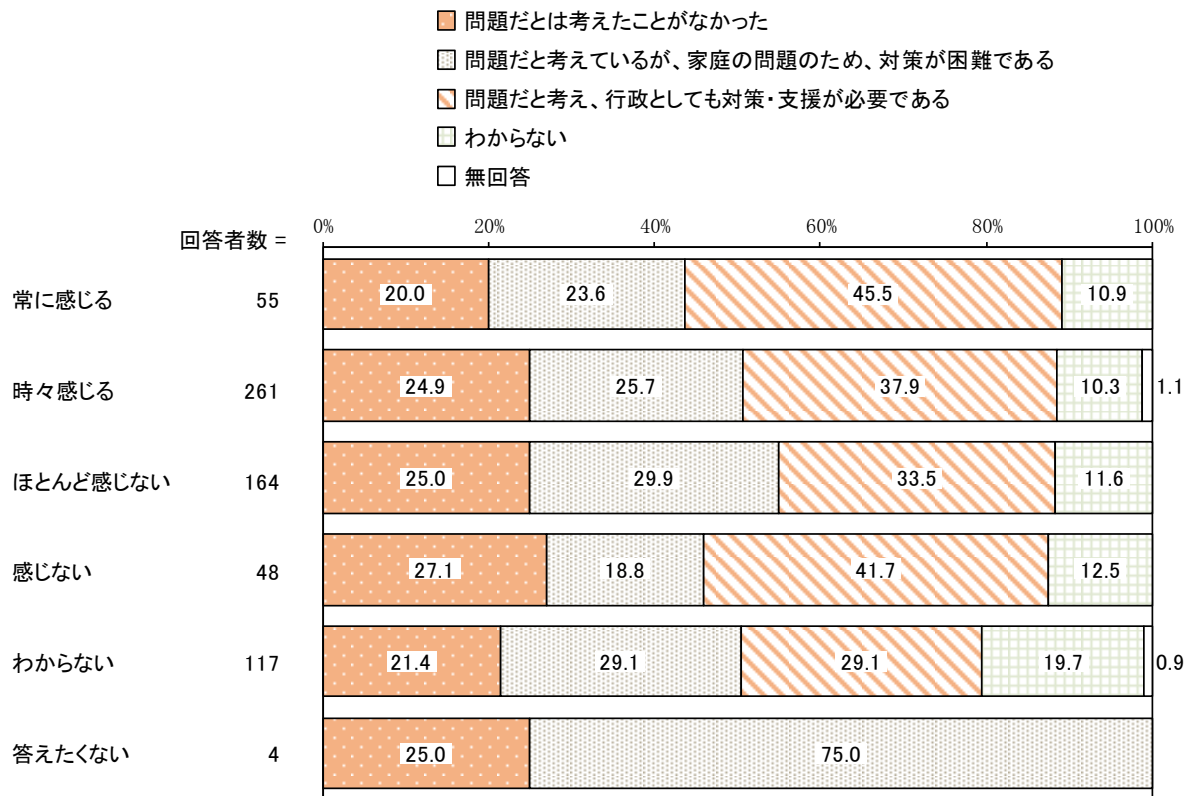
【「生きづらさ」別】

「生きづらさ」別でみると、他に比べ、『「生きづらさ」を感じたことはない』人で「問題だと考えているが、家庭の問題のため、対策が困難である」と答えた人の割合が、『現在「生きづらさ」を感じている』人、『過去に「生きづらさ」を感じていた』人で「問題だと考え、行政としても対策・支援が必要である」と答えた人の割合が高くなっています。



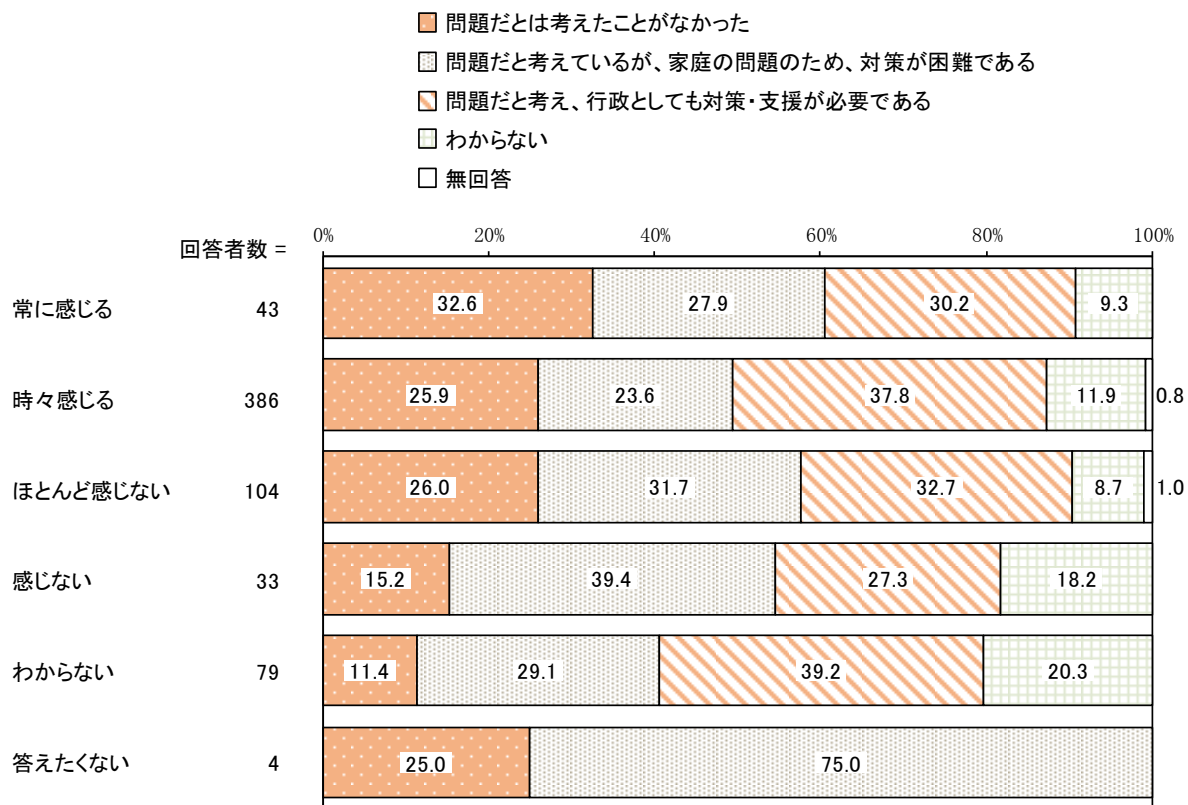
【自分のことを好きと感じる頻度別】※【自分のことを好きと感じる頻度別】は、問 12 の結果とのクロス集計になります。

自分のことを好きと感じる頻度別でみると、好きと感じる頻度が少なくなるにつれ「問題だとは考えたことがなかった」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、『常に感じる』人で「問題だと考え、行政としても対策・支援が必要である」と答えた人の割合が高くなっています。



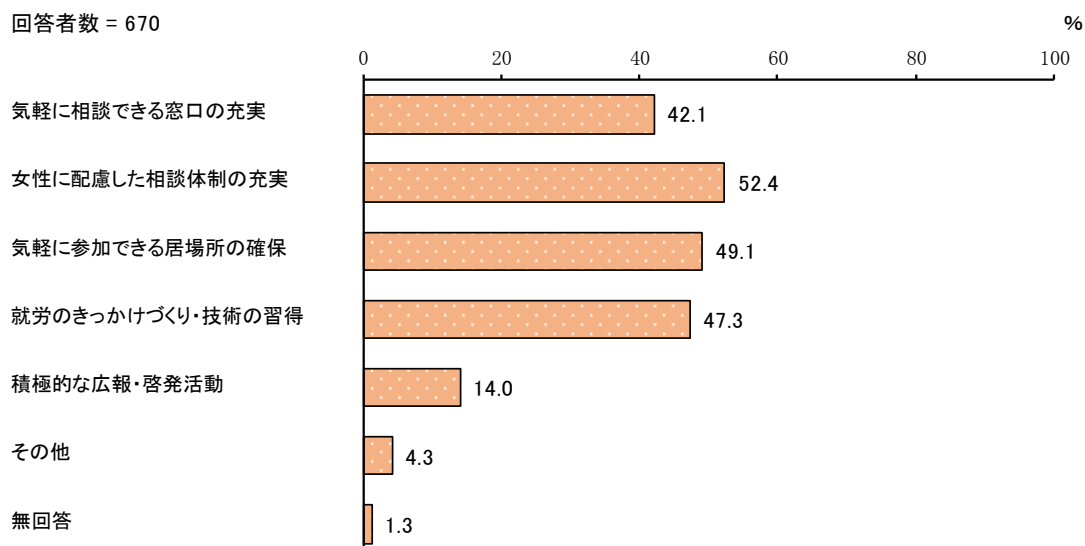
【自分のことが嫌いと感じる頻度別】※【自分のことが嫌いと感じる頻度別】は、問 13 の結果とのクロス集計になります。

自分のことが嫌いと感じる頻度別でみると、他に比べ、嫌いと感じる頻度が高くなるにつれ「問題だとは考えたことがなかった」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、『感じない』人で「問題だと考えているが、家庭の問題のため、対策が困難である」と答えた人の割合が高くなっています。



問9 「女性のひきこもり」について、どのような支援が必要だと思いますか。
(〇はいくつでも可)

「女性に配慮した相談体制の充実」と答えた人の割合が 52.4%と最も高く、次いで「気軽に参加できる居場所の確保」と答えた人の割合が 49.1%、「就労のきっかけづくり・技術の習得」と答えた人の割合が 47.3%となっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『50 歳代』で「気軽に相談できる窓口の充実」と答えた人の割合が、『10 歳代』で「女性に配慮した相談体制の充実」と答えた人の割合が、『20 歳代』で「気軽に参加できる居場所の確保」と答えた人の割合が、『30 歳代』で「就労のきっかけづくり・技術の習得」「積極的な広報・啓発活動」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	気軽に相談できる窓口の充実	女性に配慮した相談体制の充実	気軽に参加できる居場所の確保	就労のきっかけづくり・技術の習得	積極的な広報・啓発活動	その他	無回答
10 歳代	20	30.0	65.0	35.0	50.0	5.0	—	—
20 歳代	75	36.0	42.7	56.0	50.7	8.0	4.0	1.3
30 歳代	135	41.5	47.4	53.3	60.7	20.0	5.9	0.7
40 歳代	172	43.6	55.8	48.3	50.0	12.8	5.2	1.2
50 歳代	161	46.6	53.4	44.7	38.5	15.5	3.1	2.5
60 歳以上	102	39.2	55.9	49.0	35.3	11.8	3.9	1.0
答えたくない	5	60.0	60.0	60.0	60.0	20.0	—	—

【ひきこもり経験別】

ひきこもり経験別でみると、他に比べ、『過去にひきこもっていた』人で「気軽に参加できる居場所の確保」「就労のきっかけづくり・技術の習得就労のきっかけづくり・技術の習得」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	気軽に相談できる 窓口の充実	女性に配慮した相談 体制の充実	気軽に参加できる 居場所の確保	就労のきっかけ づくり・技術の習得	積極的な広報・啓発 活動	その他	無回答
過去にひきこもっていた	44	29.5	31.8	59.1	63.6	20.5	2.3	—
現在ひきこもっている	8	12.5	37.5	50.0	50.0	—	12.5	—
ひきこもったことがない	560	44.1	54.5	48.6	46.8	13.8	4.1	0.7
わからない	42	42.9	54.8	52.4	52.4	16.7	4.8	2.4
答えたくない	6	33.3	50.0	16.7	16.7	—	33.3	—

【「生きづらさ」別】

「生きづらさ」別でみると、他に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人で「女性に配慮した相談体制の充実」「就労のきっかけづくり・技術の習得」と答えた人の割合が、『過去に「生きづらさ」を感じていた』人で「気軽に相談できる窓口の充実」「気軽に参加できる居場所の確保」「積極的な広報・啓発活動」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	気軽に相談できる 窓口の充実	女性に配慮した相談 体制の充実	気軽に参加できる 居場所の確保	就労のきっかけ づくり・技術の習得	積極的な広報・啓発 活動	その他	無回答
現在「生きづらさ」を感じている	147	40.1	55.8	49.7	59.9	14.3	4.8	1.4
過去に「生きづらさ」を感じていた	166	46.4	47.6	56.0	50.6	18.1	7.2	1.2
「生きづらさ」を感じたことはない	305	40.7	53.4	47.5	40.7	12.1	2.0	1.3
答えたくない	25	40.0	44.0	36.0	40.0	—	12.0	4.0

【自分のことを好きと感じる頻度別】

自分のことを好きと感じる頻度別でみると、自分を好きと感じる頻度が高くなるにつれ「積極的な広報・啓発活動」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、『常に感じる』人に比べ、『感じない』人で「就労のきっかけづくり・技術の習得」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	気軽に相談できる 窓口の充実	女性に配慮した相談 体制の充実	気軽に参加できる 居場所の確保	就労のきっかけ づくり・技術の習得	積極的な広報・啓発 活動	その他	無回答
常に感じる	55	32.7	43.6	49.1	34.5	20.0	5.5	1.8
時々感じる	261	43.7	52.1	52.9	51.0	14.9	2.3	1.5
ほとんど感じない	164	44.5	51.2	51.8	50.0	13.4	4.3	0.6
感じない	48	33.3	45.8	43.8	45.8	2.1	10.4	4.2
わからない	117	43.6	59.8	41.9	44.4	13.7	6.0	0.9
答えたくない	4	—	50.0	25.0	50.0	—	25.0	—

【自分のことが嫌いと感じる頻度別】

自分のことが嫌いと感じる頻度別でみると、“感じない” 人に比べ、“感じる” 人で「気軽に参加できる居場所の確保」と答えた人の割合が高くなっています。一方、『感じない』人に比べ、『常に感じる』人で「気軽に参加できる居場所の確保」「就労のきっかけづくり・技術の習得」と答えた人の割合が高くなっています。

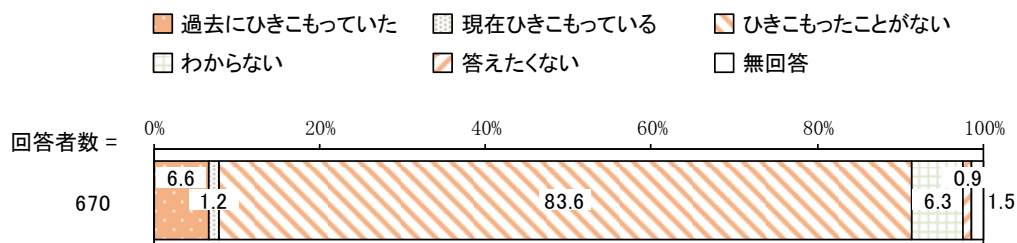
単位：％

区分	回答者数 (件)	気軽に相談できる 窓口の充実	女性に配慮した相談 体制の充実	気軽に参加できる 居場所の確保	就労のきっかけ づくり・技術の習得	積極的な広報・啓発 活動	その他	無回答
常に感じる	43	39.5	46.5	51.2	48.8	9.3	9.3	4.7
時々感じる	386	45.6	52.3	52.1	50.3	15.0	3.9	1.0
ほとんど感じない	104	37.5	51.9	48.1	49.0	16.3	3.8	1.0
感じない	33	33.3	42.4	39.4	24.2	9.1	9.1	6.1
わからない	79	36.7	58.2	43.0	43.0	8.9	2.5	—
答えたくない	4	—	50.0	25.0	50.0	—	25.0	—

問 10－1 あなたはこれまで「ひきこもり」だったことはありますか。
(○は1つだけ)

「ひきこもったことがない」と答えた人の割合が83.6%と最も高くなっています。

「過去にひきこもっていた」「現在ひきこもっている」と答えた人をあわせると7.8%になります。

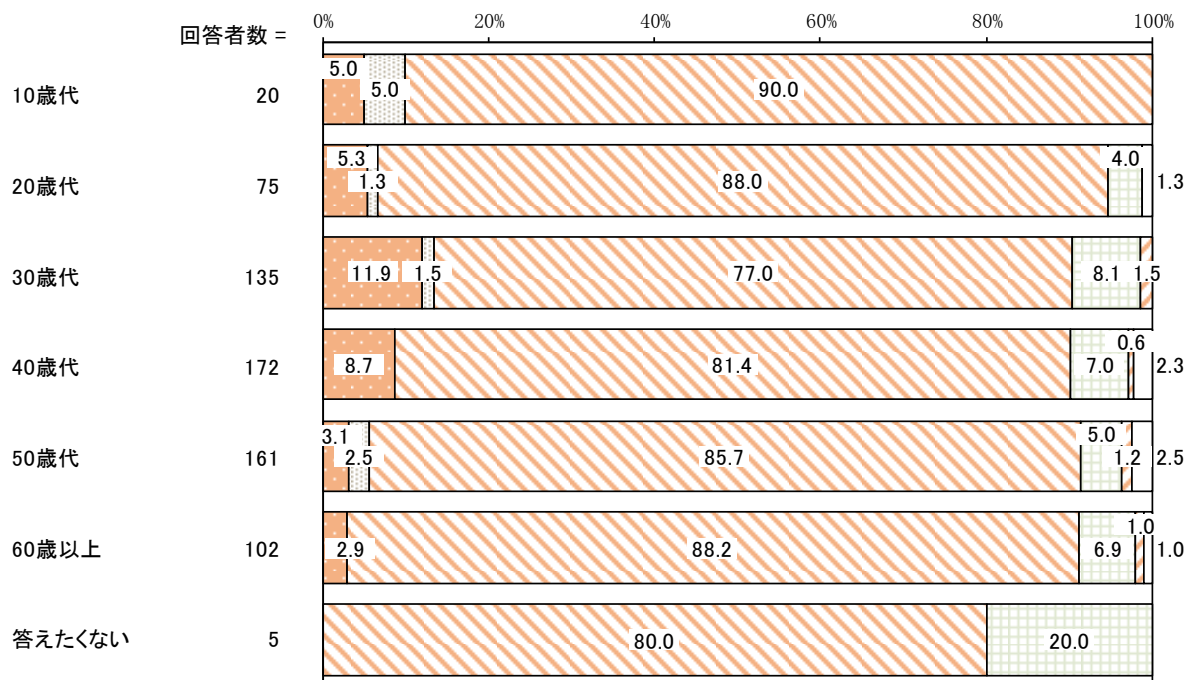


※以下【ひきこもり経験別】は、この設問の結果とのクロス集計のことを言います。

※以下【就業経験の有無別（ひきこもり経験のある人のみ）】は、この設問と問 18－1 の結果とのクロス集計のことを言います。

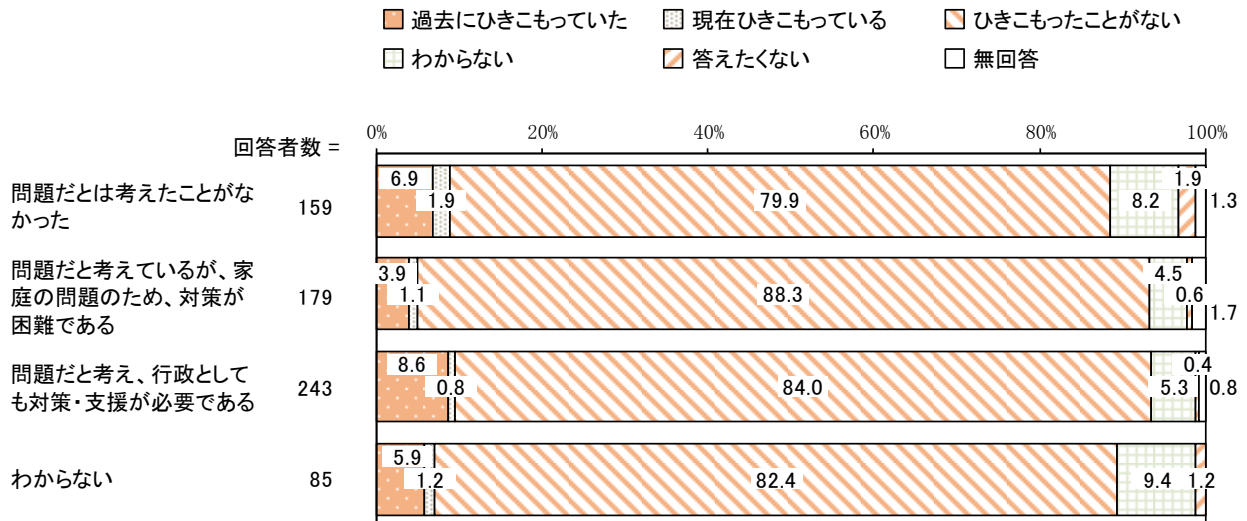
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『30 歳代』で「過去にひきこもっていた」と答えた人の割合が、『10 歳代』で「現在ひきこもっている」と答えた人の割合が高くなっています。



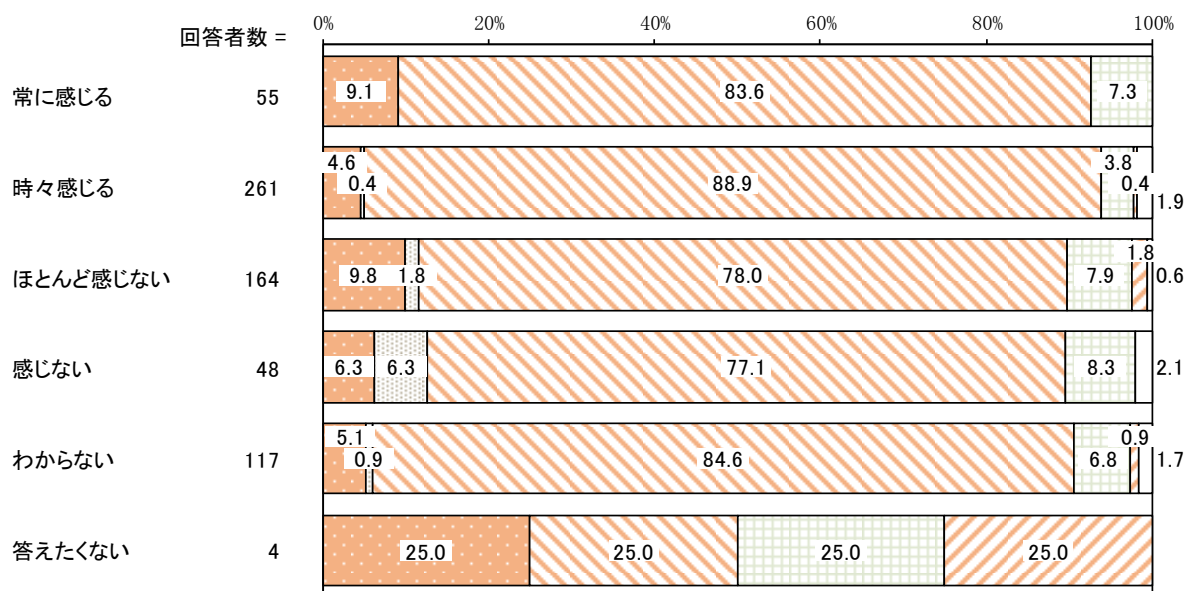
【女性の「ひきこもり」に対する問題意識別】

女性の「ひきこもり」に対する問題意識別でみると、他に比べ、『問題だと考えているが、家庭の問題のため、対策が困難である』人で「ひきこもったことがない」と答えた人の割合が高くなっています。



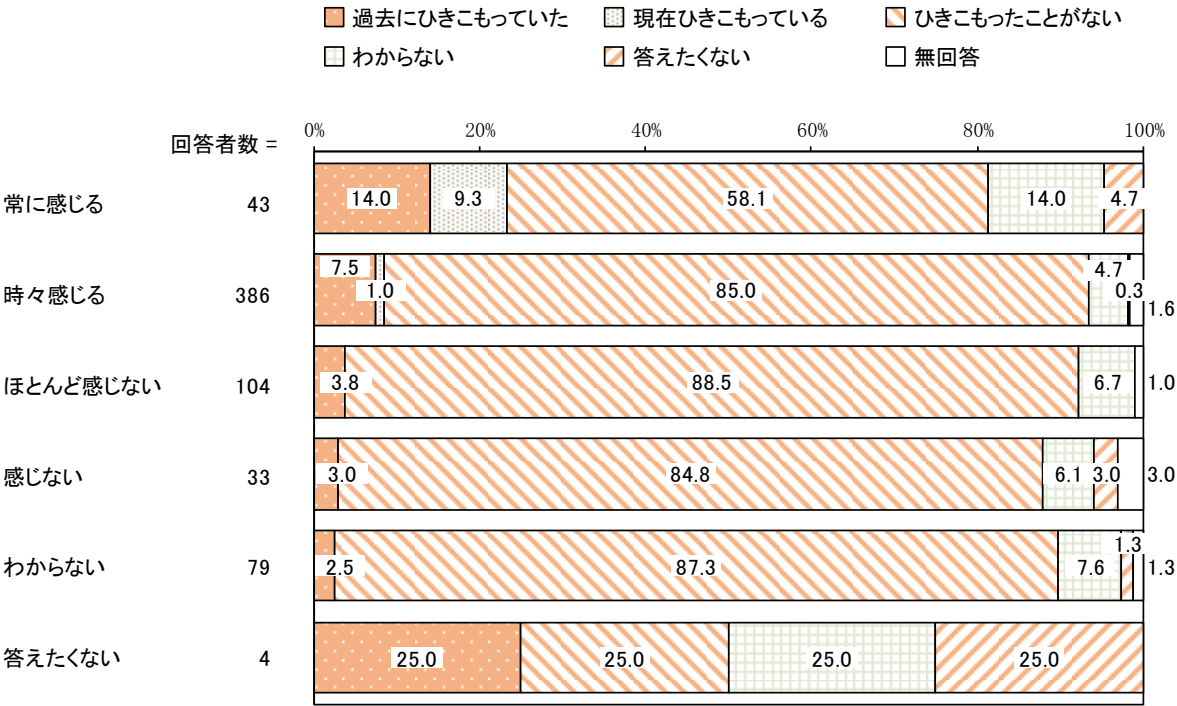
【自分のことを好きと感じる頻度別】

自分のことを好きと感じる頻度別でみると、自分を好きと“感じない”人に比べ、“感じる”人で「ひきこもったことがない」と答えた人の割合が高くなっています。



【自分のことが嫌いと感じる頻度別】

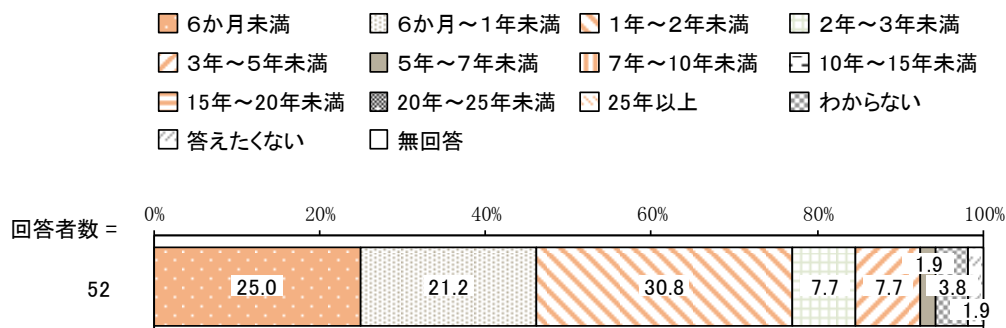
自分のことが嫌いと感じる頻度別でみると、他に比べ、『常を感じる』人で「過去にひきこもっていた」「現在もひきこもっている」と答えた人の割合が高くなっています。



問 10－1 で「過去に引きこもっていた」「現在引きこもっている」を選んだ方にお聞きます。

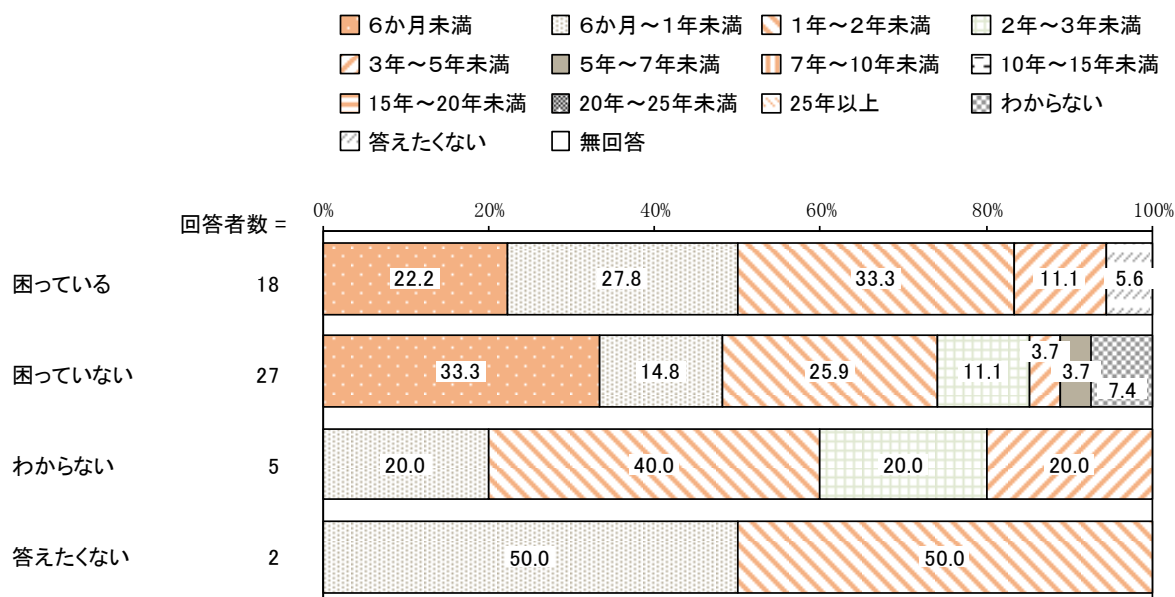
問 10－2 あなたの「ひきこもり」の期間について教えてください。(○は1つだけ)

「1 年～2 年未満」と答えた人の割合が 30.8%と最も高く、次いで「6 か月未満」と答えた人の割合が 25.0%、「6 か月～1 年未満」と答えた人の割合が 21.2%となっています。



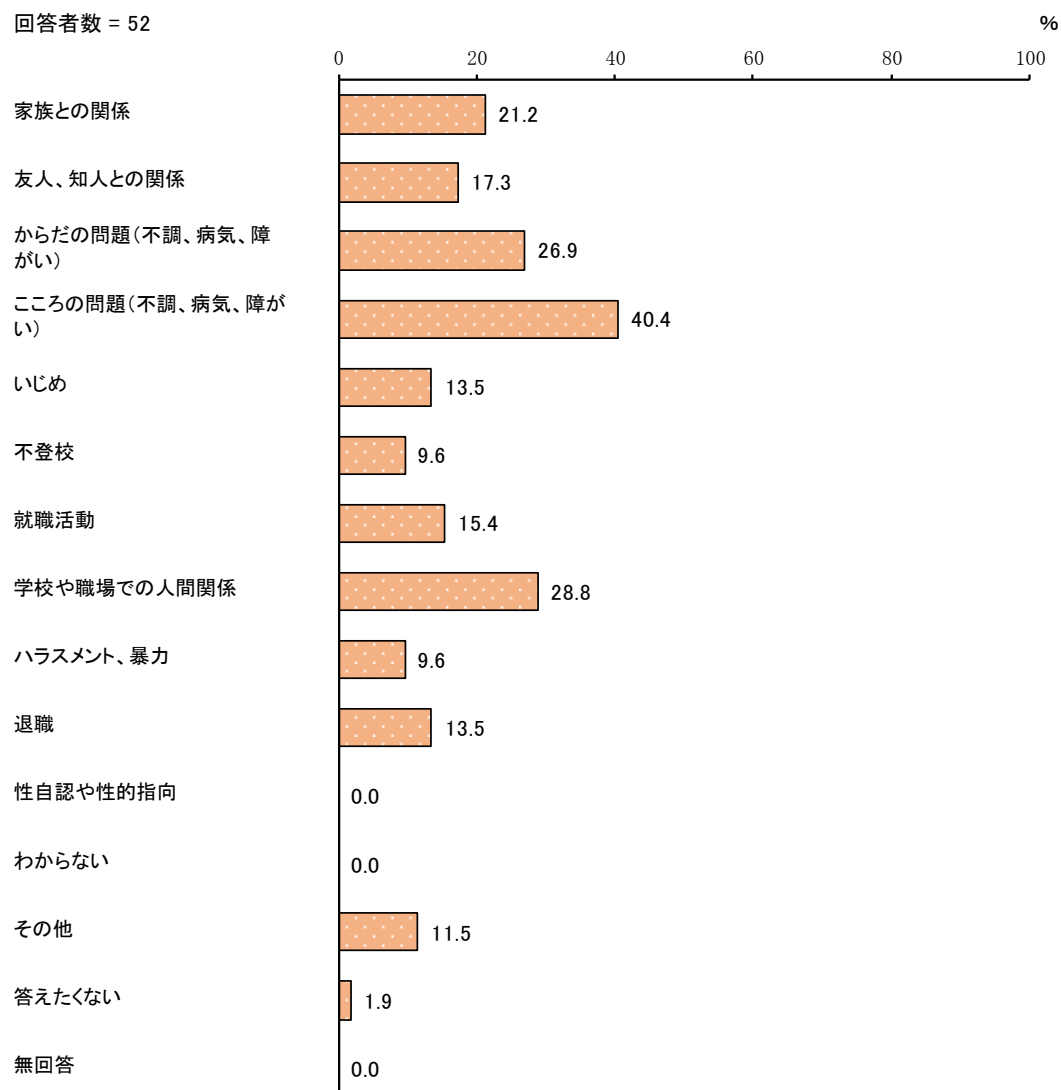
【生活困窮別】※【生活困窮別】は、問 22 の結果とのクロス集計になります。

生活困窮別でみると、『困っている』人に比べ、『困っていない』人で「6 か月未満」「2 年～3 年未満」と答えた人の割合が高くなっています。一方、『困っていない』人に比べ、『困っている』人で「6 か月～1 年未満」「1 年～2 年未満」「3 年～5 年未満」と答えた人の割合が高くなっています。



問 10－3 あなたの「ひきこもり」の原因やきっかけはなんですか。
(〇はいくつでも可)

「こころの問題（不調、病気、障がい）」と答えた人の割合が 40.4%と最も高く、次いで「学校や職場での人間関係」と答えた人の割合が 28.8%、「からだの問題（不調、病気、障がい）」と答えた人の割合が 26.9%となっています。



【年代別】

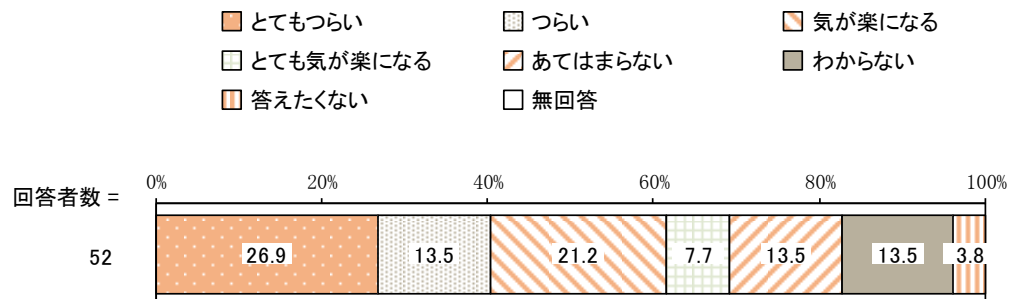
単位：％

区分	有効回答数 (件)	家族との関係	友人、知人との関係	からだの問題 (不調、病気、障がい)	こころの問題 (不調、病気、障がい)	いじめ	不登校	就職活動
10 歳代	2	—	—	50.0	50.0	50.0	—	—
20 歳代	5	20.0	60.0	20.0	40.0	20.0	20.0	—
30 歳代	18	22.2	22.2	16.7	44.4	11.1	16.7	5.6
40 歳代	15	13.3	—	26.7	33.3	13.3	6.7	26.7
50 歳代	9	33.3	11.1	55.6	44.4	—	—	33.3
60 歳以上	3	33.3	33.3	—	33.3	33.3	—	—
答えたくない	—	—	—	—	—	—	—	—

区分	学校や職場での人間関係	ハラスメント、暴力	退職	性自認や性的指向	わからない	その他	答えたくない	無回答
10 歳代	50.0	—	—	—	—	—	50.0	—
20 歳代	40.0	20.0	—	—	—	20.0	—	—
30 歳代	33.3	5.6	22.2	—	—	22.2	—	—
40 歳代	26.7	6.7	13.3	—	—	—	—	—
50 歳代	11.1	11.1	11.1	—	—	11.1	—	—
60 歳以上	33.3	33.3	—	—	—	—	—	—
答えたくない	—	—	—	—	—	—	—	—

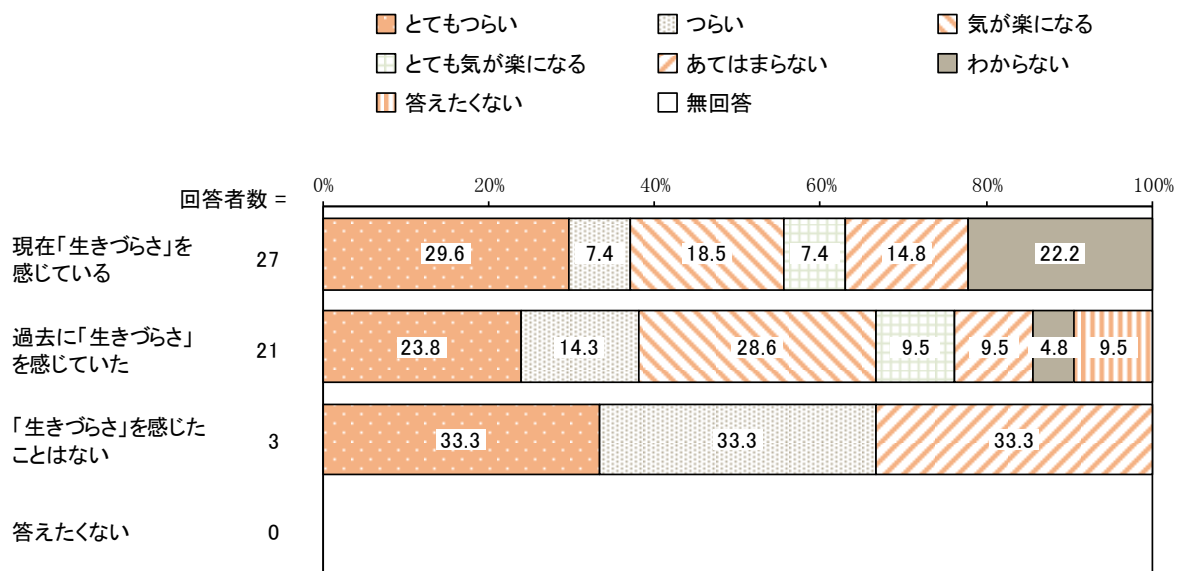
問 10－4 ひきこもることはあなたにとってつらいことですか、気が楽になることですか。（○は1つだけ）

「とてもつらい」と「つらい」を合わせた“つらい”と答えた人の割合が 40.4%、「気が楽になる」と「とても気が楽になる」を合わせた“楽になる”と答えた人の割合が 28.9%、「あてはまらない」と答えた人の割合が 13.5%となっています。



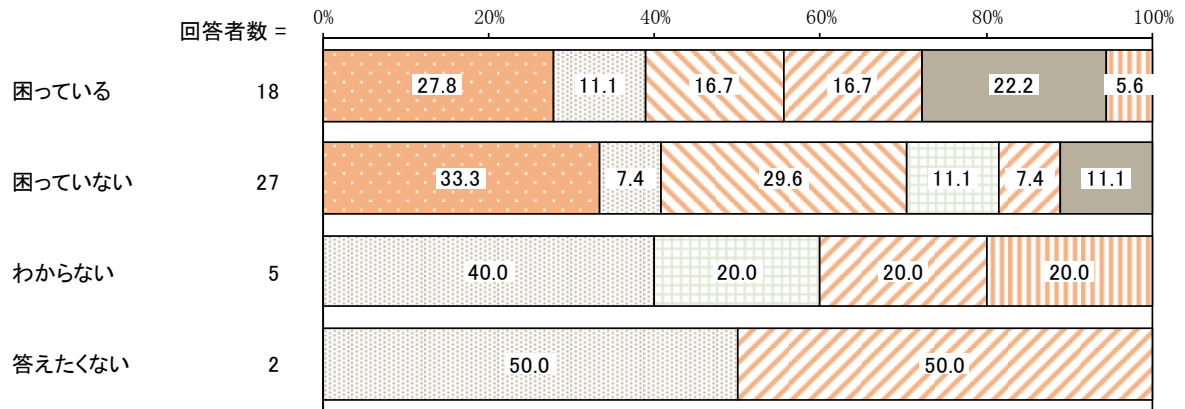
【「生きづらさ」別】

「生きづらさ」別でみると、『現在「生きづらさ」を感じている』人に比べ、『過去に「生きづらさ」を感じていた』人で“楽になる”と答えた人の割合が高くなっています。



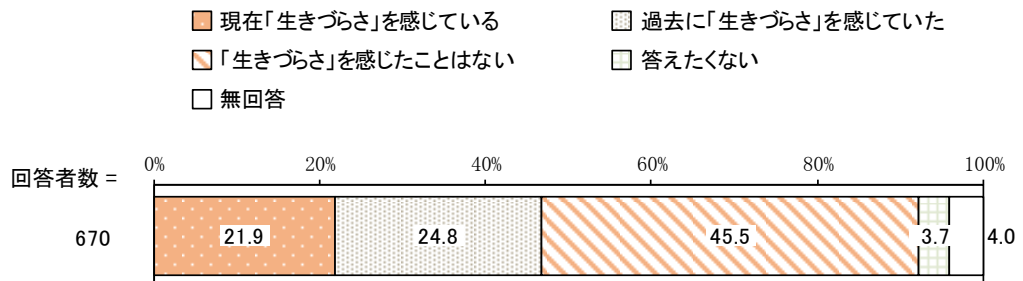
【生活困窮別】

生活困窮別でみると、『困っている』人に比べ、『困っていない』人で“楽になる”と答えた人の割合が高くなっています。



問 11－1 あなたは「生きづらさ」を感じたことはありませんか。(○は1つだけ)

「「生きづらさ」を感じたことはない」と答えた人の割合が 45.5%と最も高く、次いで「過去に「生きづらさ」を感じていた」と答えた人の割合が 24.8%、「現在「生きづらさ」を感じている」と答えた人の割合が 21.9%となっています。

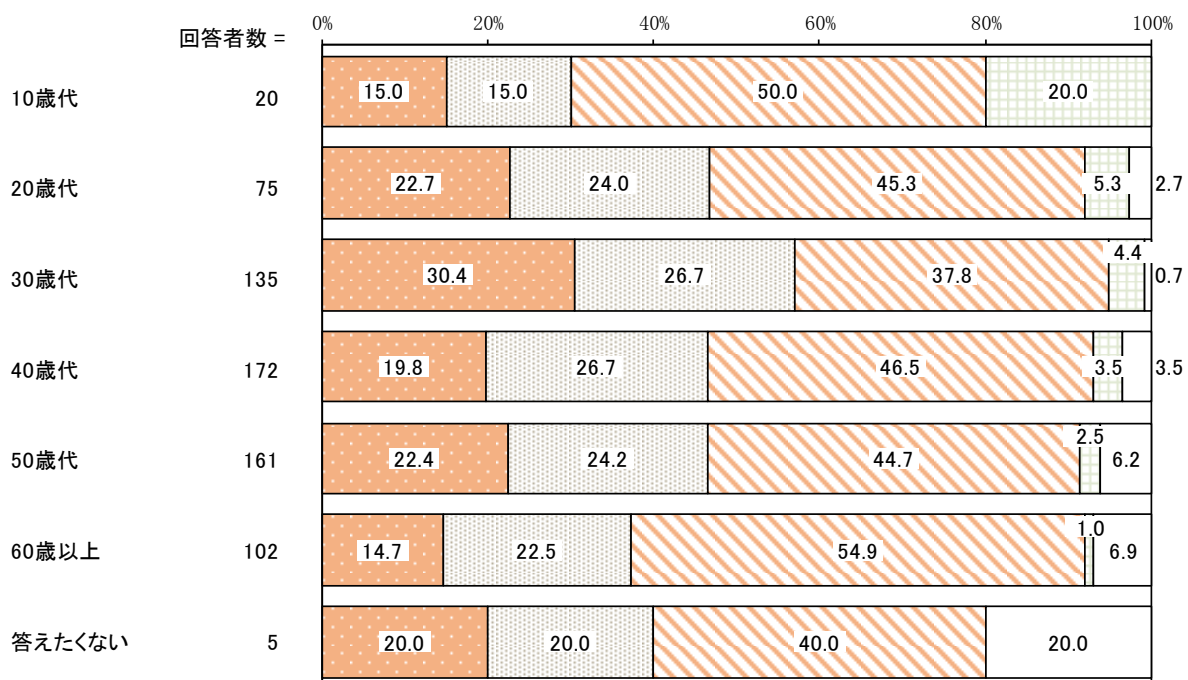


※以下【「生きづらさ」別】は、この設問の結果とのクロス集計のことを言います。

※以下【就業経験の有無別（「生きづらさ」を感じたことがある人のみ）】は、この設問と問 18－1（「生きづらさ」を感じたことがある人のみ）の結果とのクロス集計のことを言います。

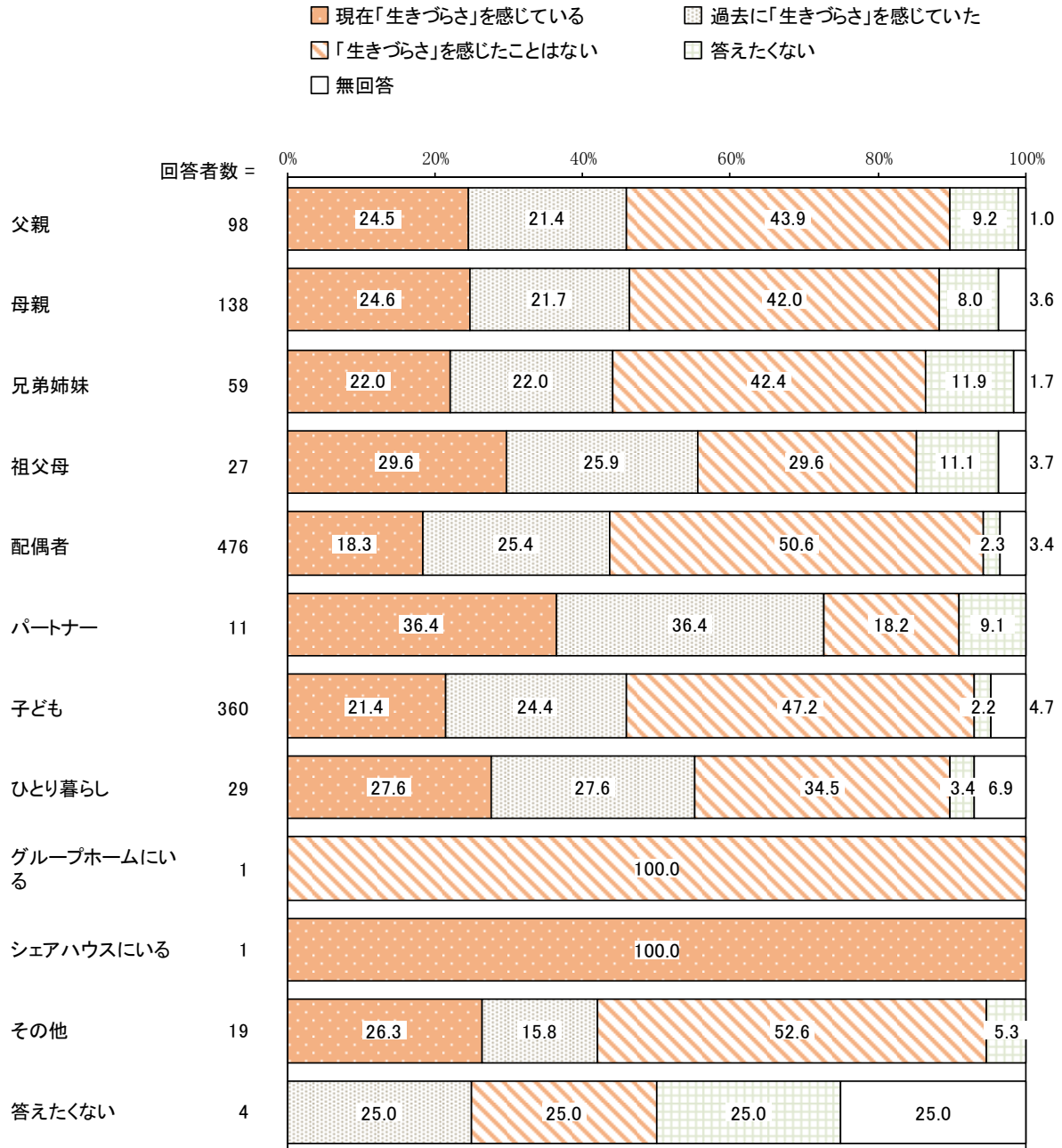
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『30 歳代』で「現在、「生きづらさ」を感じている」「過去に「生きづらさ」を感じていた」と答えた人の割合が、『40 歳代』で「過去に「生きづらさ」を感じていた」と答えた人の割合が、『60 歳以上』で「「生きづらさ」を感じたことはない」と答えた人の割合が高くなっています。



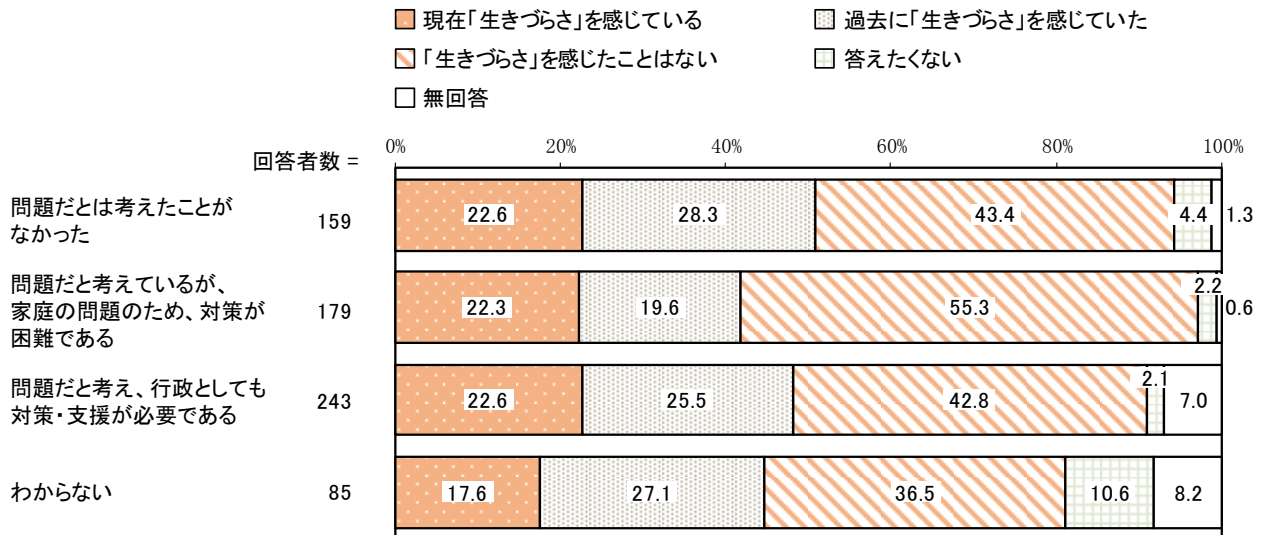
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『パートナー』と同居している人で「現在、「生きづらさ」を感じている」「過去に「生きづらさ」を感じていた」と答えた人の割合が、『配偶者』と同居している人で「「生きづらさ」を感じたことはない」と答えた人の割合が高くなっています。



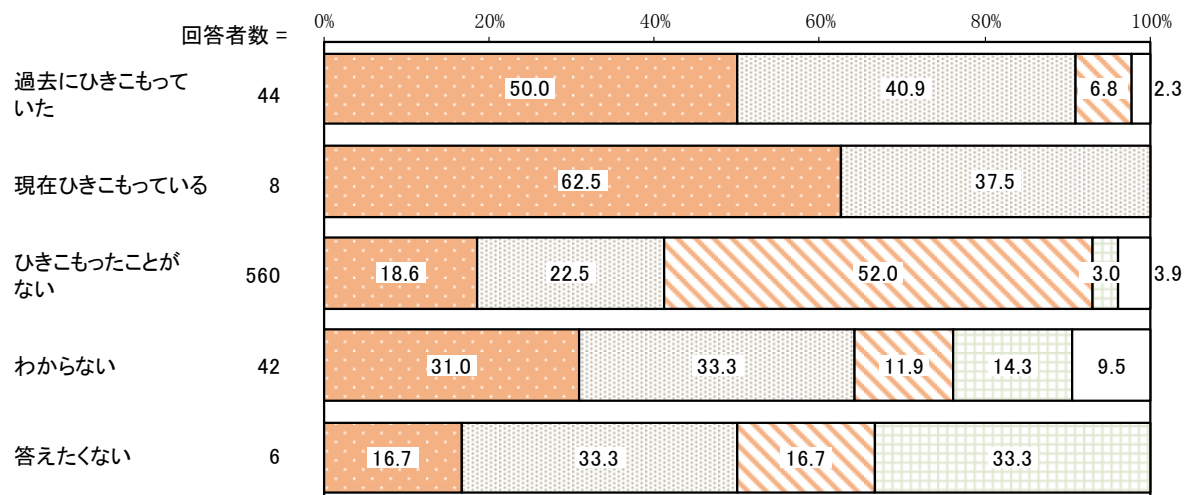
【女性の「ひきこもり」に対する問題意識別】

女性の「ひきこもり」に対する問題意識別でみると、他に比べ、『問題だとは考えたことがなかった』人で「過去に「生きづらさ」を感じていた」と答えた人の割合が、『問題だと考えているが、家庭の問題のため、対策が困難である』人で「「生きづらさ」を感じたことはない」と答えた人の割合が高くなっています。



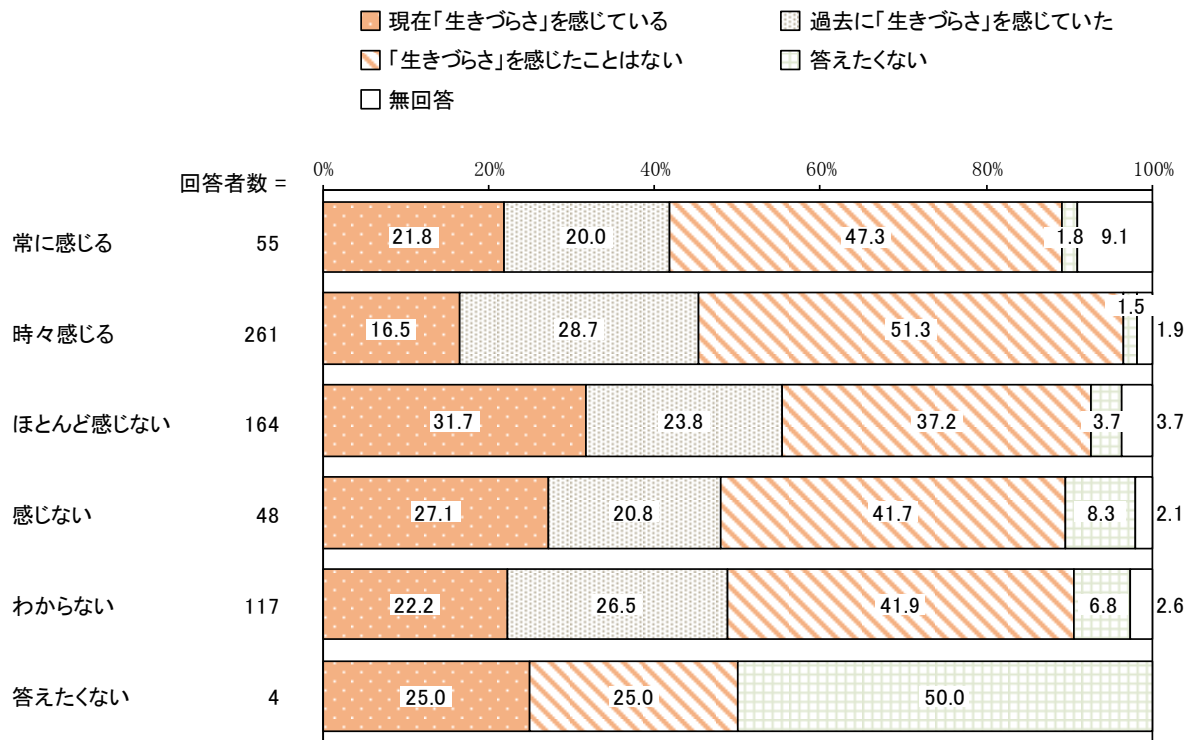
【ひきこもり経験別】

ひきこもり経験別でみると、『ひきこもったことがない』人に比べ、『過去にひきこもっていた』人で「現在「生きづらさ」を感じている」「過去に「生きづらさ」を感じていた」と答えた人の割合が高くなっています。



【自分のことを好きと感ずる頻度別】

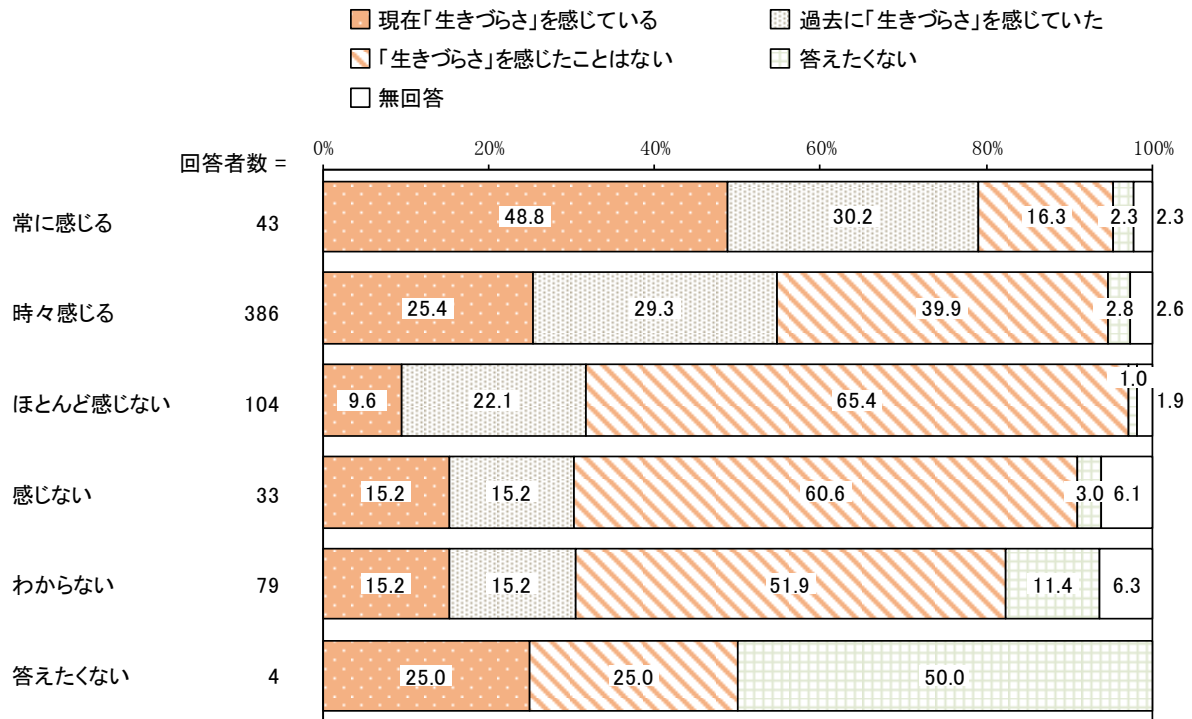
自分のことを好きと感ずる頻度別でみると、他に比べ、『ほとんど感ずない』人で「現在、「生きづらさ」を感ずている」と答えた人の割合が、『時々感ずる』人で「過去に「生きづらさ」を感ずていた」「「生きづらさ」を感ずたことはない」と答えた人の割合が高くなっています。また、『常に感ずる』人に比べ、『感ずない』人で「現在「生きづらさ」を感ずている」と答えた人の割合が高くなっています。



【自分のことが嫌いと感じる頻度別】

自分のことが嫌いと感じる頻度別でみると、他に比べ、嫌いと感じる頻度が高くなるにつれ「現在「生きづらさ」を感じている」「過去に「生きづらさ」を感じていた」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、『感じない』人に比べ、『常を感じる』人で「現在「生きづらさ」を感じている」「過去に「生きづらさ」を感じていた」と答えた人の割合が高くなっています。

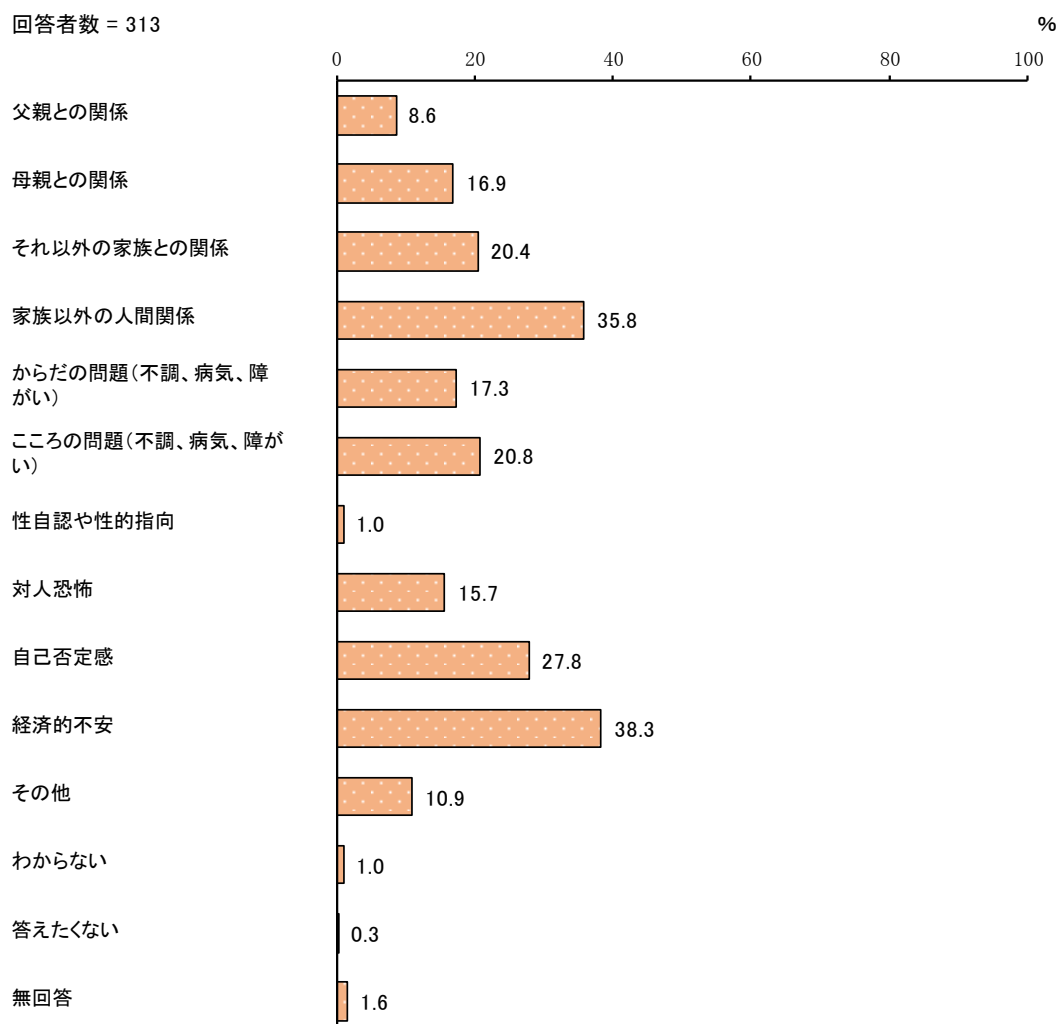
【自分のことを好きと感じる頻度別】と合わせてみると、「自分のことが嫌いと感じるかどうか」と「生きづらさ」は大きく相関関係があるといえます。



問 11－1 で「現在「生きづらさ」を感じている」「過去に「生きづらさ」を感じていた」を選んだ方にお聞きします。

問 11－2 「生きづらさ」を感じる理由はなんですか。(〇はいくつでも可)

「経済的不安」と答えた人の割合が 38.3%と最も高く、次いで「家族以外の人間関係」と答えた人の割合が 35.8%、「自己否定感」と答えた人の割合が 27.8%となっています。



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『30 歳代』で「父親との関係」「自己否定感」「経済的不安」と答えた人の割合が、『60 歳以上』で「母親との関係」「それ以外の家族との関係」「からだの問題（不調、病気、障がい）」と答えた人の割合が、『20 歳代』で「家族以外の人間関係」の割合が、『40 歳代』で「対人恐怖」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	父親との 関係	母親との 関係	それ以外の 家族との 関係	家族以外 の人間 関係	からだの 問題 (不調、 病気、 障がい)	こころの 問題 (不調、 病気、 障がい)	性自認や 性的指向	対人恐怖	自己否定 感	経済的 不安	その他	わからない	答えたく ない	無回答
10 歳代	6	—	16.7	—	50.0	16.7	33.3	—	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	—
20 歳代	35	5.7	14.3	8.6	42.9	5.7	22.9	5.7	5.7	34.3	37.1	11.4	—	—	2.9
30 歳代	77	13.0	18.2	18.2	37.7	7.8	22.1	1.3	19.5	36.4	45.5	15.6	1.3	—	1.3
40 歳代	80	7.5	18.8	8.8	33.8	20.0	22.5	—	22.5	32.5	36.3	11.3	1.3	—	3.8
50 歳代	75	6.7	13.3	34.7	36.0	22.7	17.3	—	9.3	17.3	38.7	6.7	—	—	—
60 歳以上	38	10.5	21.1	36.8	26.3	28.9	15.8	—	13.2	13.2	31.6	7.9	—	—	—
答えたくない	2	—	—	—	50.0	50.0	50.0	—	50.0	50.0	50.0	—	—	—	—

【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『兄弟姉妹』と同居している人で「父親との関係」「母親との関係」「家族以外の人間関係」「こころの問題（不調、病気、障がい）」と答えた人の割合が、『母親』と同居している人で「母親との関係」「経済的不安」と答えた人の割合が、『祖父母』と同居している人で「家族以外の人間関係」「自己否定感」と答えた人の割合が、『配偶者』と同居している人で「からだの問題（不調、病気、障がい）」と答えた人の割合が、『子ども』と同居している人で「対人恐怖」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	父親との 関係	母親との 関係	それ以外の 家族との 関係	家族以外 の人間関係	からだの 問題 (不調、 病気、 障がい)	こころの 問題 (不調、 病気、 障がい)	性自認 や性的 指向	対人 恐怖	自己 否定感	経済的 不安	その他	わから ない	答え たくない	無回 答
父親	45	8.9	17.8	20.0	44.4	13.3	26.7	2.2	11.1	28.9	35.6	11.1	2.2	—	2.2
母親	64	9.4	23.4	14.1	37.5	17.2	20.3	1.6	9.4	29.7	39.1	12.5	1.6	1.6	3.1
兄弟姉妹	26	15.4	23.1	15.4	46.2	11.5	26.9	—	15.4	38.5	30.8	15.4	3.8	—	—
祖父母	15	6.7	13.3	26.7	33.3	6.7	13.3	6.7	6.7	60.0	26.7	13.3	—	—	6.7
配偶者	208	9.6	17.3	23.6	36.1	18.8	18.3	—	16.8	27.9	33.2	9.6	1.0	—	1.9
パートナー	8	12.5	12.5	12.5	25.0	12.5	62.5	12.5	37.5	25.0	37.5	25.0	—	—	—
子ども	165	10.3	18.2	23.0	35.2	13.3	17.0	—	18.2	27.3	37.6	6.7	1.2	—	2.4
ひとり暮らし	16	—	12.5	—	25.0	25.0	18.8	6.3	12.5	31.3	56.3	25.0	—	—	—
グループホームにいる	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
シェアハウスにいる	1	—	100.0	—	—	—	100.0	—	—	100.0	100.0	—	—	—	—
その他	8	—	12.5	25.0	12.5	37.5	37.5	—	12.5	25.0	62.5	12.5	—	—	—
答えたくない	1	—	100.0	—	—	—	—	—	100.0	—	100.0	—	—	—	—

【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『自営業』の人で「父親との関係」「経済的不安」と答えた人の割合が、『専業主婦』の人で「母親との関係」「それ以外の家族との関係」「からだの問題（不調、病気、障がい）」「対人恐怖」と答えた人の割合が、『勤めている（正社員）』の人で「家族以外の人間関係」「こころの問題（不調、病気、障がい）」と答えた人の割合が高くなっています。

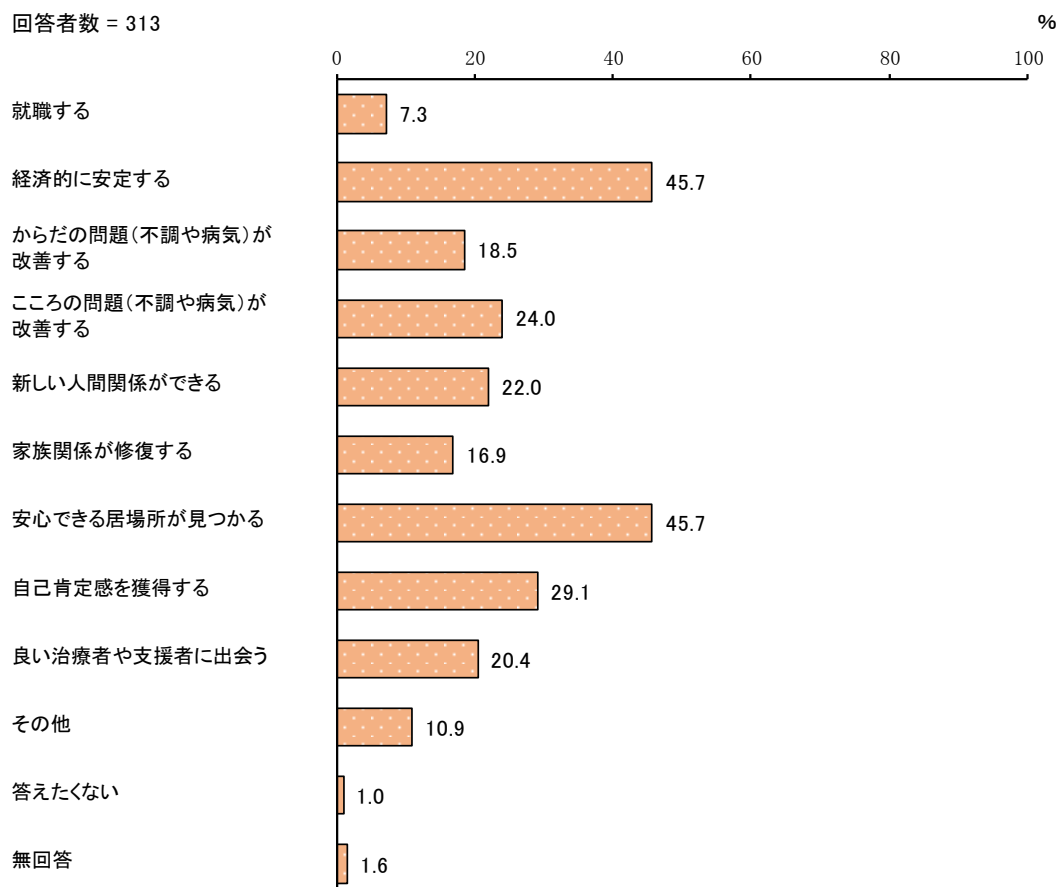
単位：％

区分	回答者数 (件)	父親との関係	母親との関係	それ以外の家族との関係	家族以外の人間関係	からだの問題 (不調、病気、障がい)	こころの問題 (不調、病気、障がい)	性自認や性的指向	対人恐怖	自己否定感	経済的不安	その他	わからない	答えたくない	無回答
勤めている(正社員)	104	5.8	13.5	14.4	41.3	9.6	19.2	1.9	13.5	30.8	36.5	17.3	1.9	—	1.9
勤めている(契約社員、派遣社員、パート・アルバイト)	104	9.6	17.3	23.1	36.5	20.2	18.3	1.0	16.3	25.0	37.5	8.7	—	—	1.9
学生、予備校生	8	—	12.5	—	37.5	—	50.0	—	12.5	62.5	—	12.5	—	—	—
自営業	10	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	10.0	—	10.0	30.0	40.0	10.0	—	—	10.0
専業主婦	66	12.1	24.2	25.8	25.8	21.2	18.2	—	21.2	25.8	37.9	7.6	1.5	—	—
家事手伝い	2	—	—	50.0	—	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—
無職	10	10.0	10.0	—	40.0	20.0	50.0	—	—	10.0	70.0	—	—	10.0	—
その他	7	—	14.3	42.9	57.1	57.1	42.9	—	14.3	42.9	57.1	—	—	—	—

問 11－3 どうなったら生きづらさが改善されると思いますか。(〇はいくつでも可)

「経済的に安定する」、「安心できる居場所が見つかる」と答えた人の割合が 45.7%と最も高く、次いで「自己肯定感を獲得する」と答えた人の割合が 29.1%となっています。

回答者数 = 313



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『30 歳代』で「就職する」「自己肯定感を獲得する」、『40 歳代』で「良い治療者や支援者に出会う」、『50 歳代』で「からだの問題（不調や病気）が改善する」「家族関係が修復する」、『60 歳以上』で「経済的に安定する」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	就職する	経済的に安定する	からだの問題（不調や病気）が改善する	こころの問題（不調や病気）が改善する	新しい人間関係ができる	家族関係が修復する	安心できる居場所が見つかる	自己肯定感を獲得する	良い治療者や支援者に出会う	その他	答えたくない	無回答
10 歳代	6	—	33.3	16.7	33.3	33.3	—	33.3	16.7	—	—	16.7	—
20 歳代	35	2.9	42.9	2.9	17.1	31.4	11.4	54.3	31.4	14.3	14.3	—	—
30 歳代	77	13.0	44.2	6.5	22.1	19.5	10.4	53.2	41.6	23.4	13.0	—	2.6
40 歳代	80	7.5	47.5	22.5	25.0	21.3	17.5	48.8	37.5	23.8	11.3	—	2.5
50 歳代	75	6.7	45.3	30.7	25.3	24.0	25.3	40.0	14.7	17.3	8.0	2.7	—
60 歳以上	38	2.6	50.0	23.7	26.3	13.2	21.1	28.9	15.8	23.7	10.5	—	2.6
答えたくない	2	—	50.0	50.0	50.0	50.0	—	50.0	—	—	—	—	—

【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『ひとり暮らし』の人で「就職する」「経済的に安定する」と答えた人の割合が、『兄弟姉妹』と同居している人で「新しい人間関係ができる」「自己肯定感を獲得する」と答えた人の割合が、『祖父母』と同居している人で「家族関係が修復する」「良い治療者や支援者に出会う」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	就職する	経済的に安定する	からだの問題（不調や病気が改善する	こころの問題（不調や病気が改善する	新しい人間関係ができる	家族関係が修復する	安心できる居場所が見つかる	自己肯定感を獲得する	良い治療者や支援者に出会う	その他	答えたくない	無回答
父親	45	6.7	40.0	11.1	31.1	26.7	15.6	53.3	33.3	17.8	6.7	2.2	—
母親	64	7.8	46.9	14.1	25.0	25.0	18.8	50.0	28.1	15.6	4.7	3.1	—
兄弟姉妹	26	11.5	42.3	11.5	30.8	38.5	23.1	61.5	42.3	19.2	—	—	—
祖父母	15	—	33.3	—	20.0	20.0	26.7	60.0	26.7	26.7	6.7	—	—
配偶者	208	7.7	40.4	20.2	22.6	20.7	18.8	42.3	29.8	22.6	11.5	1.0	1.9
パートナー	8	12.5	37.5	25.0	37.5	12.5	12.5	62.5	25.0	25.0	37.5	—	—
子ども	165	9.1	49.7	17.6	24.8	20.0	18.2	44.8	31.5	22.4	8.5	1.2	2.4
ひとり暮らし	16	12.5	62.5	12.5	18.8	25.0	6.3	37.5	37.5	12.5	31.3	—	—
グループホームにいる	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
シェアハウスにいる	1	—	100.0	—	—	—	100.0	100.0	100.0	—	—	—	—
その他	8	12.5	62.5	37.5	25.0	12.5	12.5	37.5	25.0	37.5	—	—	—
答えたくない	1	—	100.0	—	—	100.0	—	100.0	—	—	—	—	—

【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、『勤めている（正社員）』の人で「安心できる居場所が見つかる」、
『勤めている（契約社員、派遣社員、パート・アルバイト）』『自営業』『専業主婦』『無職』の人
で「経済的に安定する」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	就職する	経済的に安定する	からだの問題（不調や病気が改善する	こころの問題（不調や病気が改善する	新しい人間関係ができる	家族関係が修復する	安心できる居場所が見つかる	自己肯定感を獲得する	良い治療者や支援者に会える	その他	答えたくない	無回答
勤めている（正社員）	104	4.8	41.3	11.5	22.1	22.1	14.4	46.2	38.5	17.3	16.3	1.0	3.8
勤めている（契約社員、派遣社員、パート・アルバイト）	104	2.9	46.2	21.2	20.2	22.1	19.2	44.2	20.2	18.3	10.6	1.0	1.0
学生、予備校生	8	12.5	12.5	—	50.0	25.0	12.5	37.5	50.0	25.0	—	—	—
自営業	10	20.0	80.0	20.0	30.0	30.0	30.0	50.0	40.0	40.0	10.0	—	—
専業主婦	66	13.6	43.9	21.2	25.8	19.7	15.2	43.9	27.3	22.7	7.6	—	—
家事手伝い	2	—	50.0	—	50.0	—	—	100.0	—	—	—	—	—
無職	10	30.0	70.0	40.0	30.0	40.0	20.0	50.0	10.0	30.0	—	10.0	—
その他	7	—	71.4	42.9	28.6	—	14.3	42.9	42.9	28.6	—	—	—

【ひきこもり経験別】

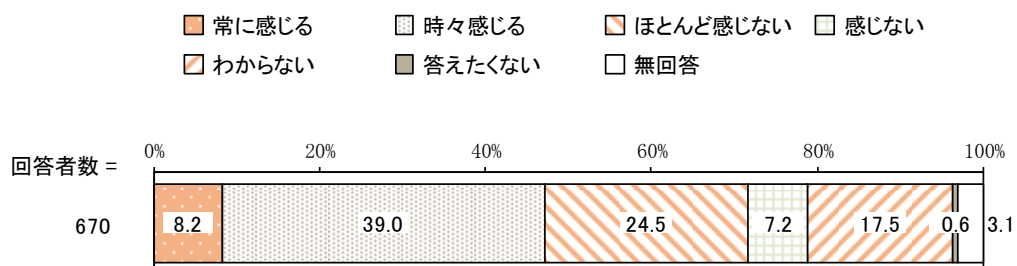
ひきこもり経験別でみると、『ひきこもったことがない』人に比べ、『過去にひきこもっていた』人で「経済的に安定する」「からだの問題（不調や病気）が改善する」「安心できる居場所が見つかる」「自己肯定感を獲得する」「良い治療者や支援者に会おう」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	就職する	経済的に安定する	からだの問題 (不調や 病気)が改善する	こころの問題 (不調や 病気)が改善する	新しい人間関係ができる	家族関係が修復する	安心できる居場所が 見つかる	自己肯定感を獲得する	良い治療者や支援者に 出会う	その他	答えたくない	無回答
過去にひきこもっていた	40	10.0	60.0	27.5	40.0	15.0	10.0	62.5	42.5	32.5	10.0	—	—
現在ひきこもっている	8	25.0	37.5	12.5	62.5	12.5	12.5	25.0	12.5	—	12.5	12.5	—
ひきこもったことがない	230	4.8	42.6	17.0	20.0	22.2	16.5	41.7	26.1	18.3	11.7	0.9	2.2
わからない	27	22.2	51.9	22.2	25.9	33.3	25.9	51.9	37.0	25.9	3.7	—	—
答えたくない	3	—	—	—	—	—	33.3	100.0	33.3	33.3	—	—	—

問 12 自分のことを好きだと感じるときがありますか。(○は1つだけ)

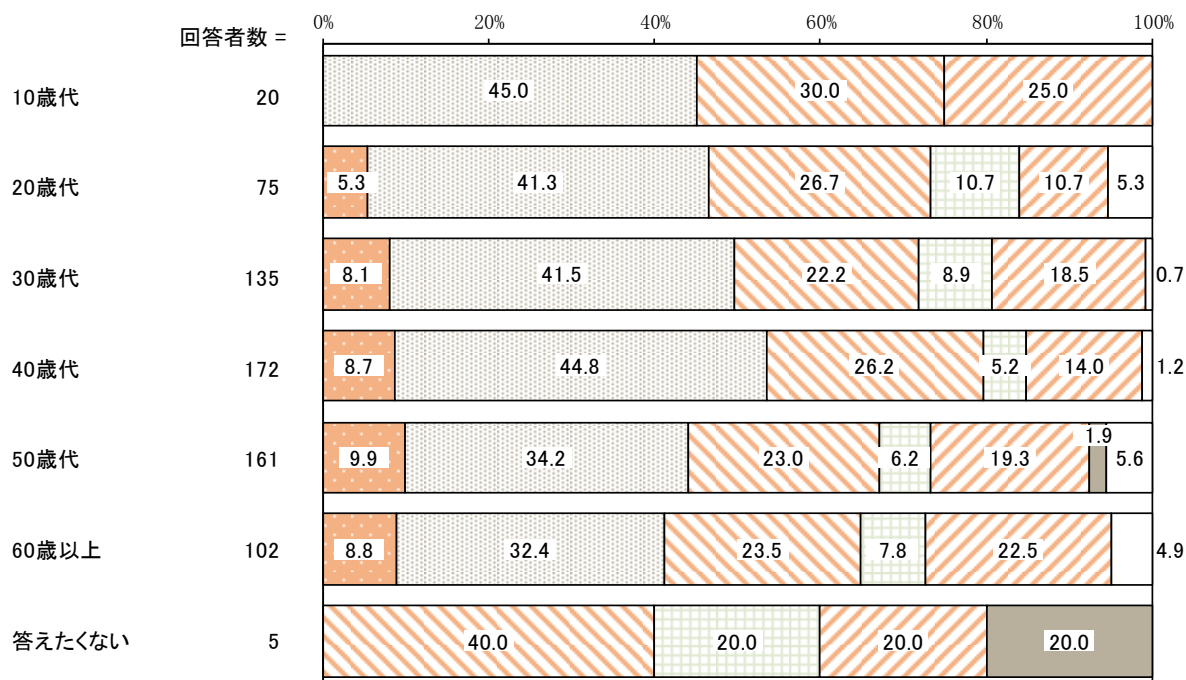
「常を感じる」と「時々感じる」を合わせた“感じる”と答えた人の割合が 47.2%、「ほとんど感じない」と「感じない」を合わせた“感じない”と答えた人の割合が 31.7%となっています。



※以下【自分のことを好きと感じる頻度別】は、この設問の結果とのクロス集計のことを言います。

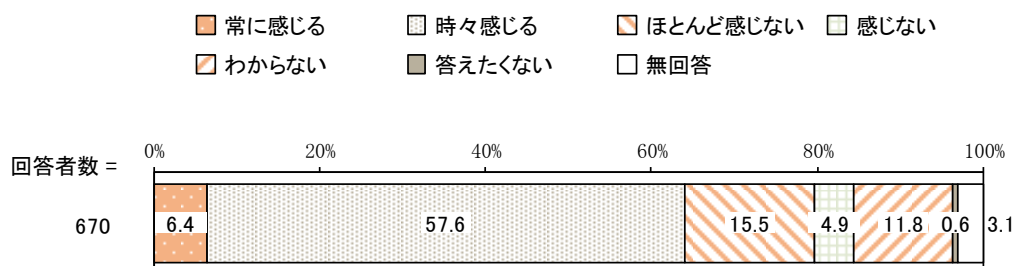
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『30 歳代』『40 歳代』で“感じる”と答えた人の割合が高くなっています。また、『20 歳代』で“感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



問 13 自分のことを嫌いだと感じるときがありますか。(○は1つだけ)

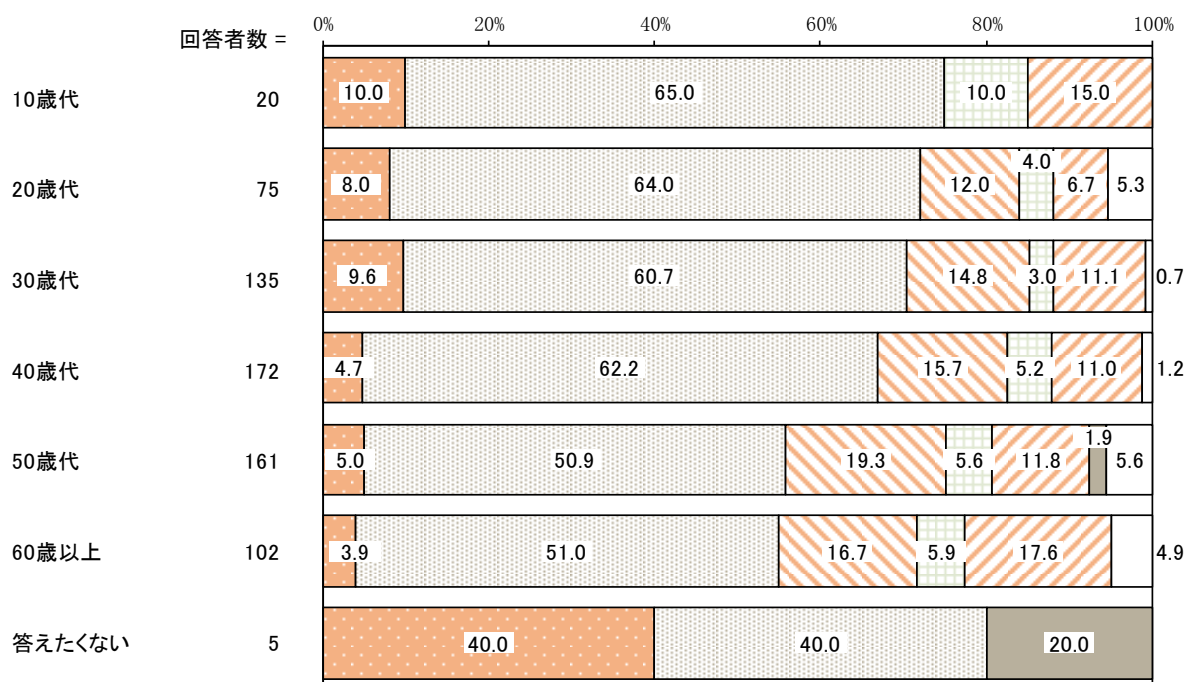
「常を感じる」と「時々感じる」を合わせた“感じる”と答えた人の割合が 64.0%、「ほとんど感じない」と「感じない」を合わせた“感じない”と答えた人の割合が 20.4%となっています。



※以下【自分のことが嫌いと感じる頻度別】は、この設問の結果とのクロス集計のことを言います。

【年代別】

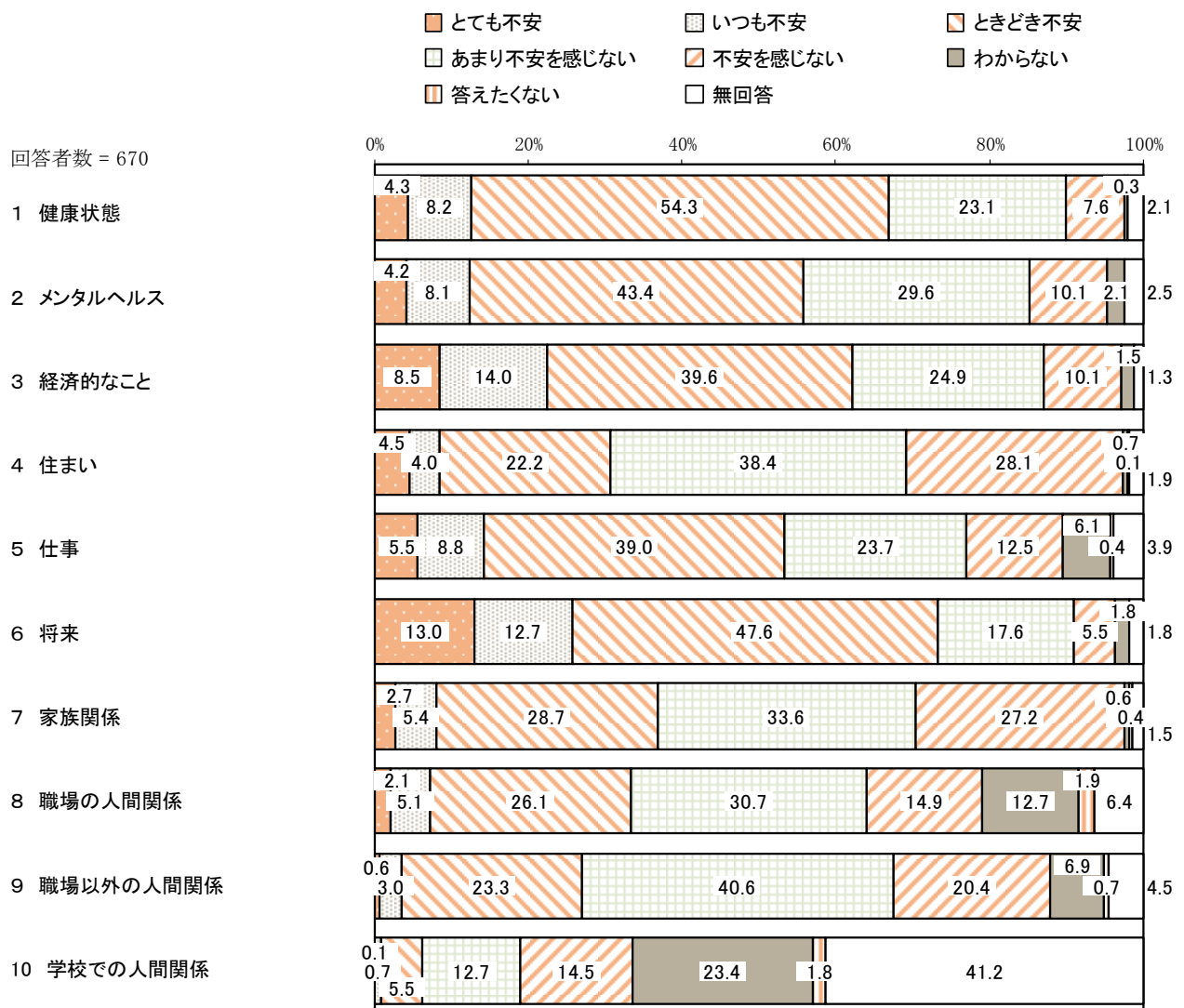
年代別でみると、年代が低くなるにつれ“感じる”と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、『50 歳代』で“感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



問 14 あなたが感じる不安について、該当するものを選んでください。
(それぞれの項目で○は1つだけ)

『6 将来』で「とても不安」「いつも不安」と「ときどき不安」をあわせた“不安”と答えた人の割合が高く、73.3%となっています。

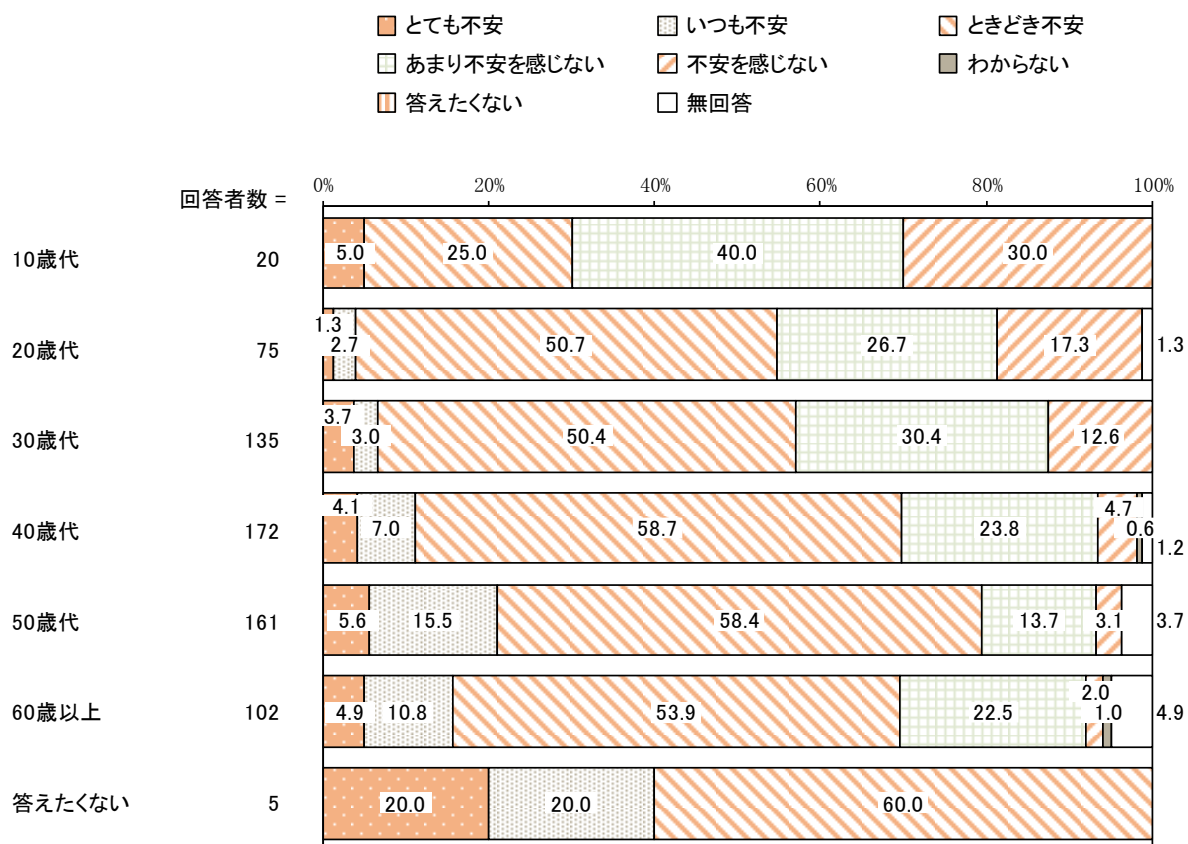
一方、『4 住まい』『7 家族関係』『9 職場以外の人間関係』で「あまり不安を感じない」と「不安を感じない」をあわせた“不安を感じない”と答えた人の割合が高く、それぞれ、66.5%、60.8%、61.0%となっています。



1 健康状態

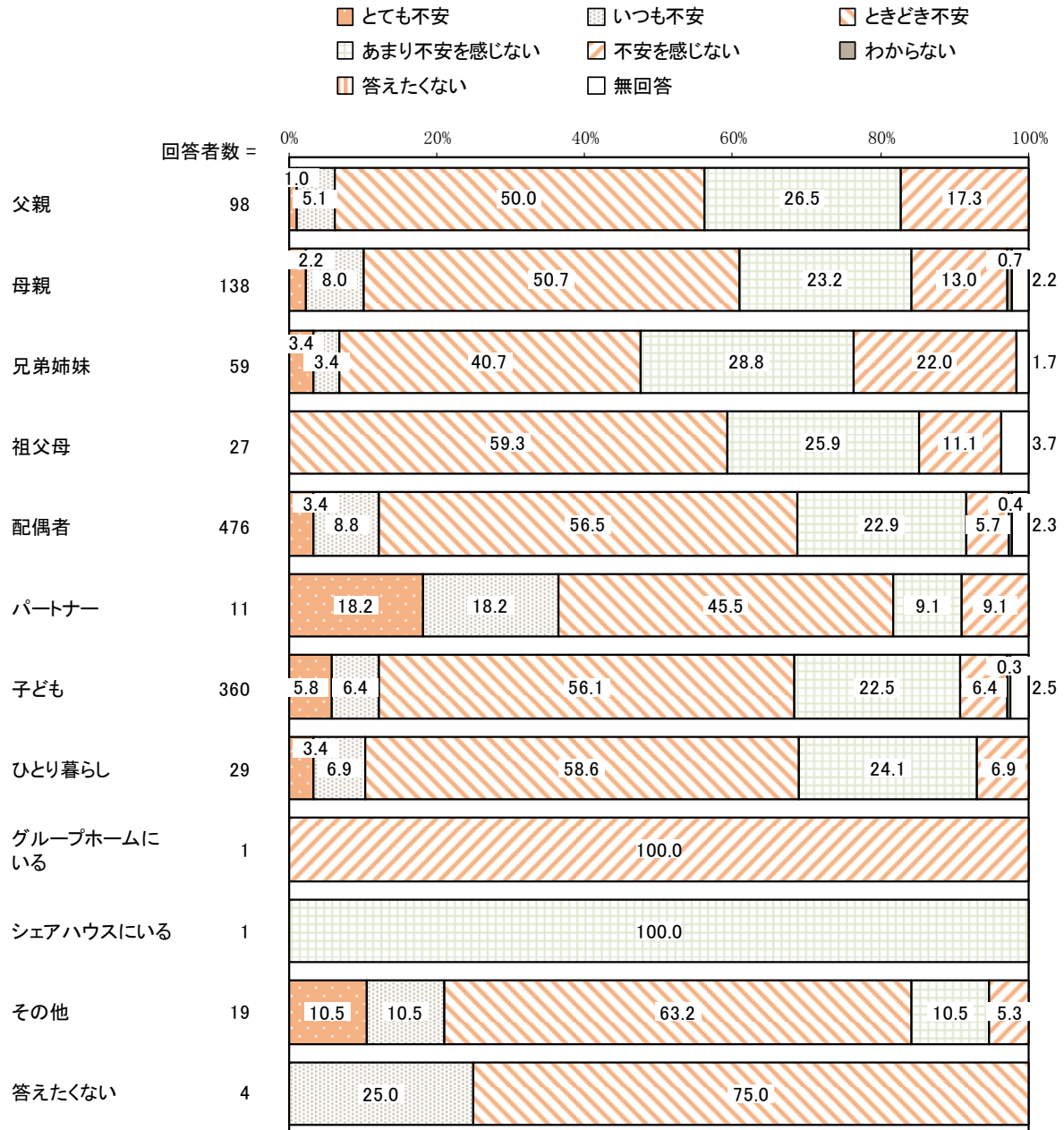
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるほど“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、『50 歳代』で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。



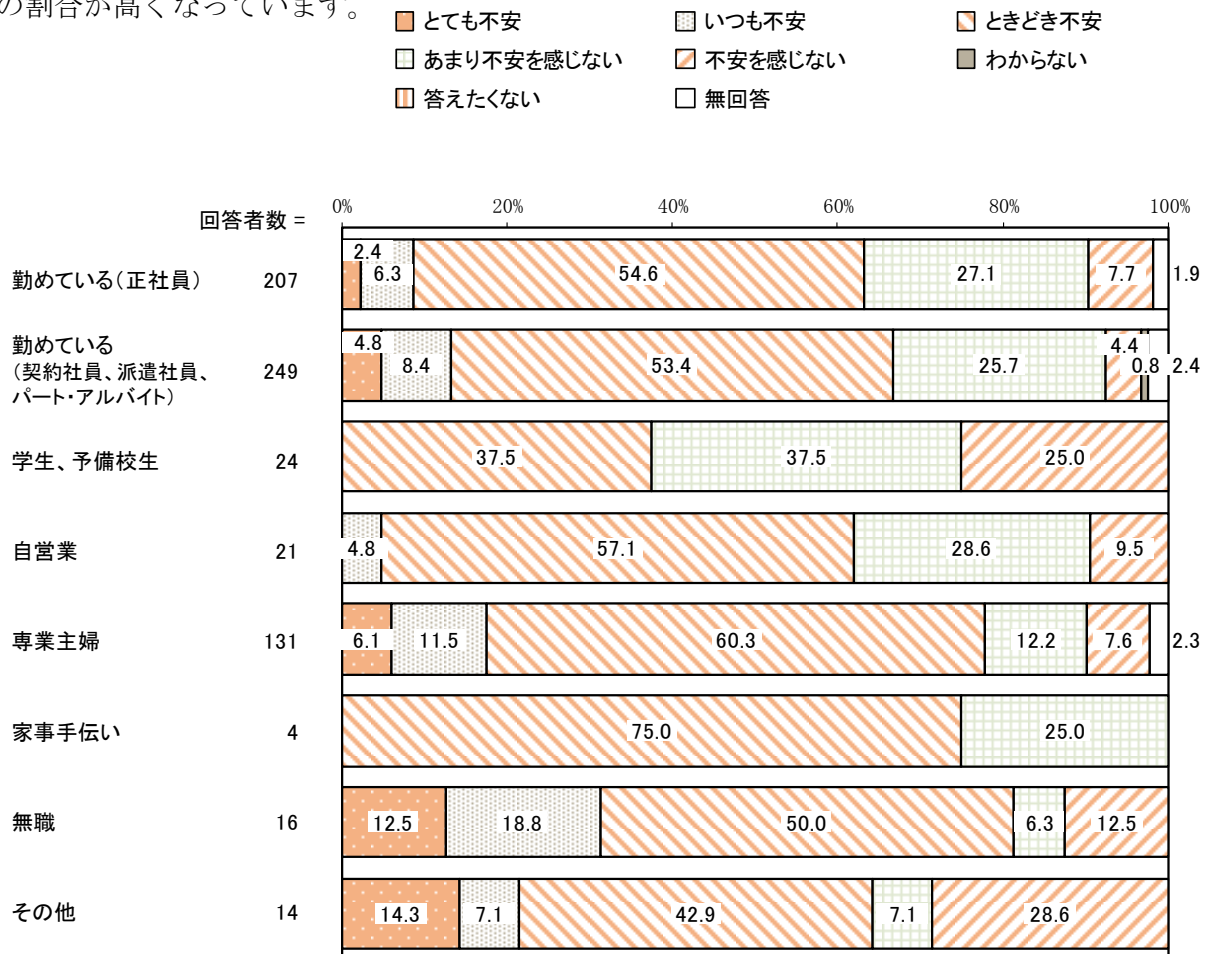
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『配偶者』『パートナー』『子ども』と同居している人、『ひとり暮らし』の人で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また、他に比べ、『兄弟姉妹』と同居している人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



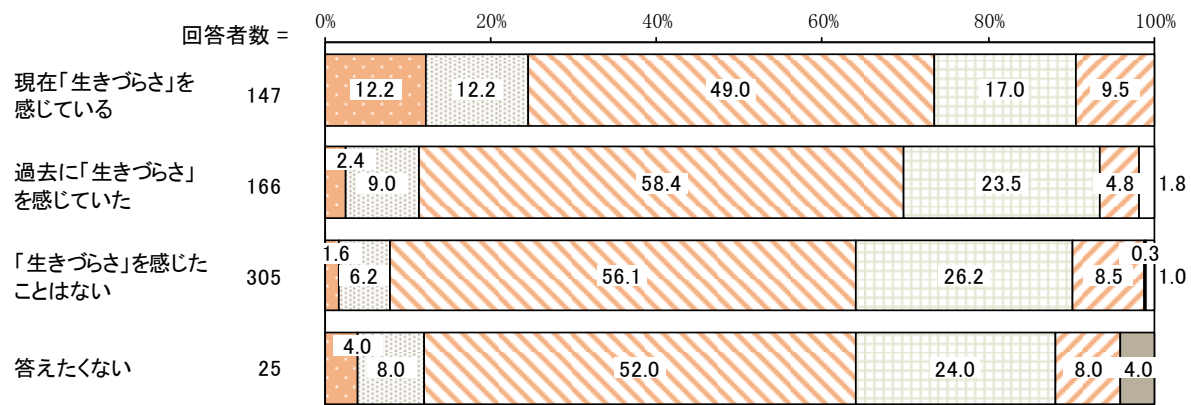
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『専業主婦』『無職』の人で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また、他に比べ、『学生、予備校生』の人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

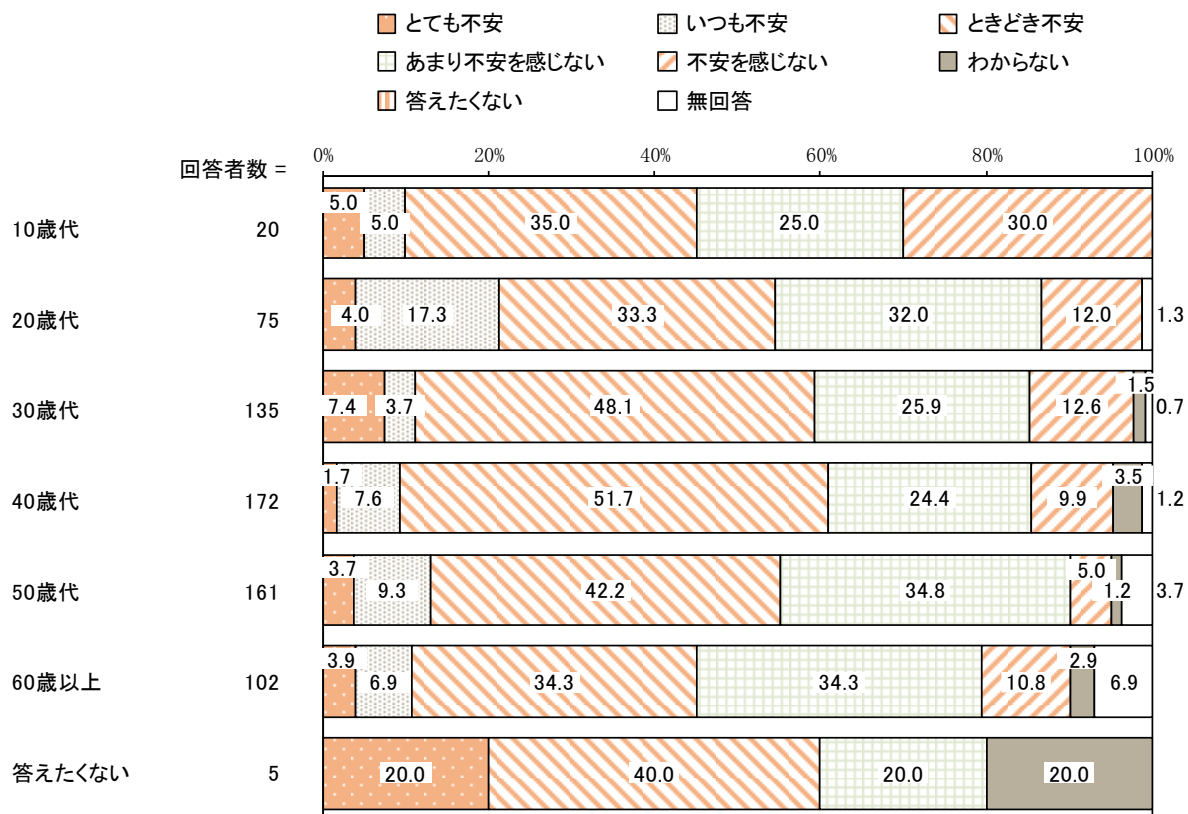
「生きづらさ」別でみると、他に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人で“不安”と答えた人の割合が高く、73.4%となっています。また、他に比べ、『「生きづらさ」を感じたことはない』人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高く、8.5%となっています。



2 メンタルヘルス

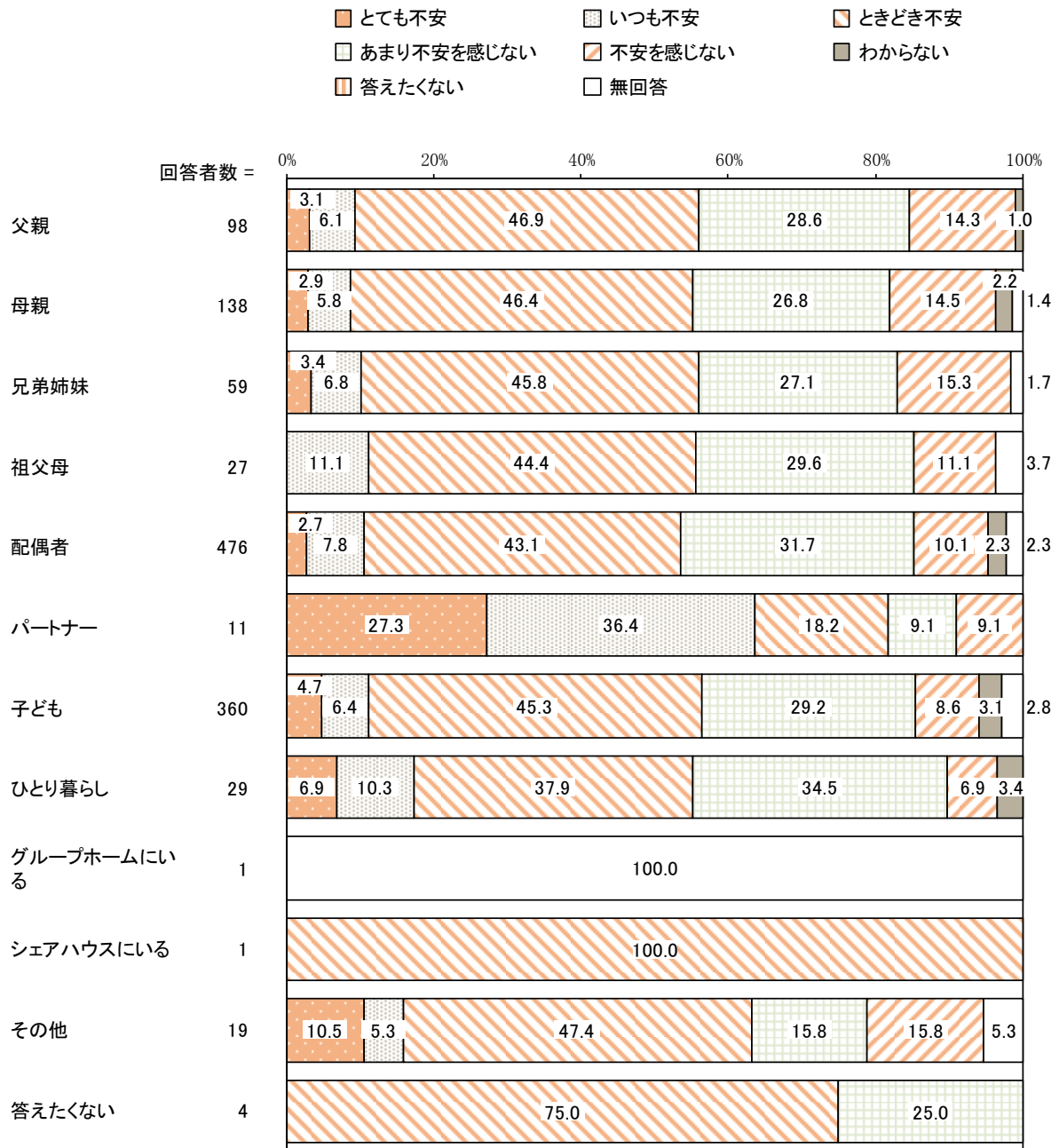
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『30 歳代』で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また、『10 歳代』で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



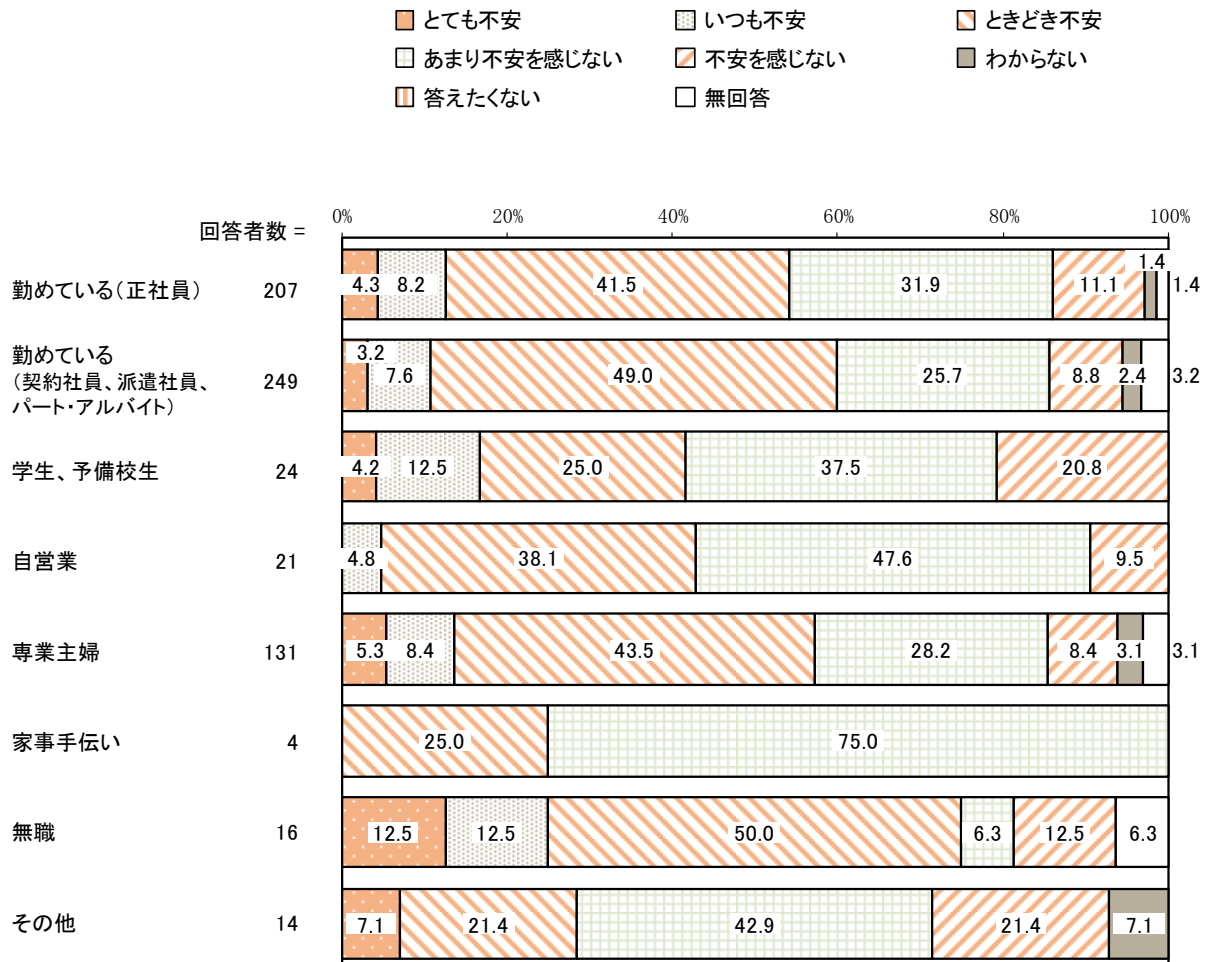
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『パートナー』と同居している人で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。



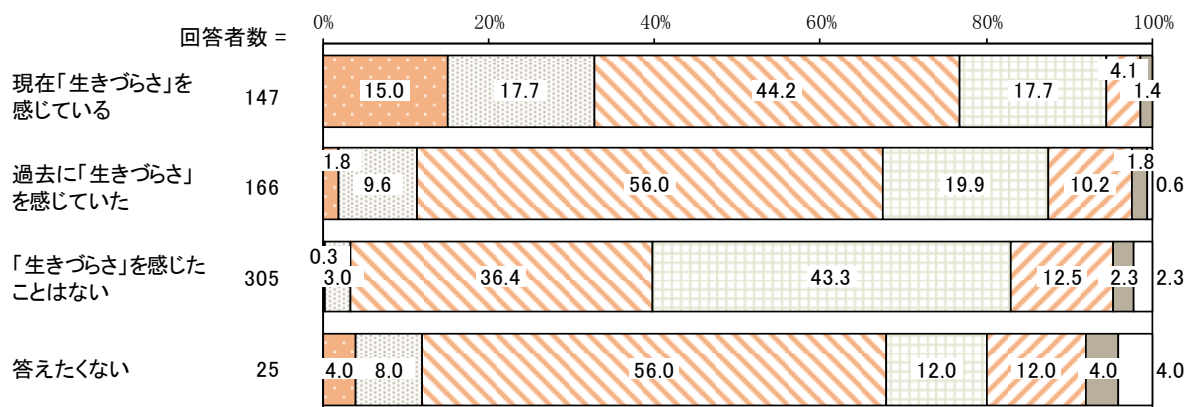
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『無職』の人で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また、『学生、予備校生』『自営業』の人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

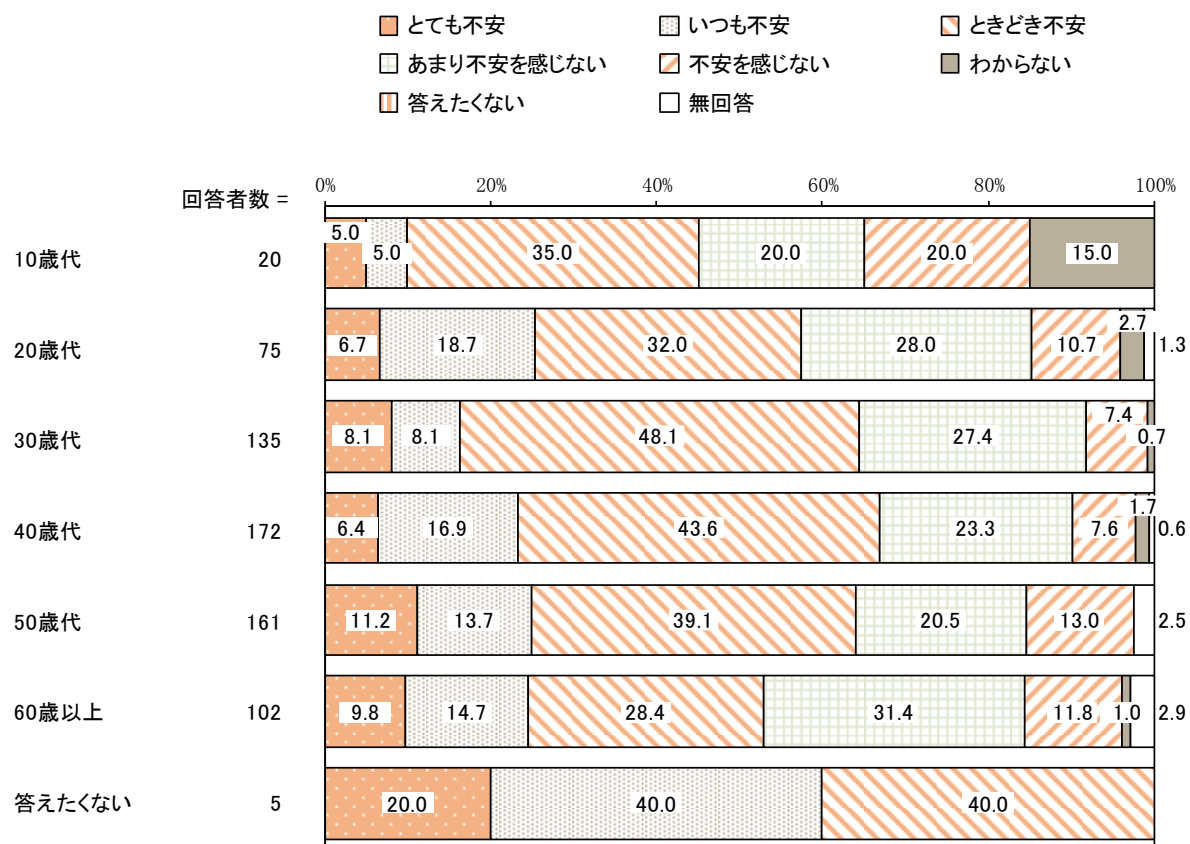
「生きづらさ」別でみると、『現在「生きづらさ」を感じている』人で“不安”と答えた人の割合が高く、76.9%となっています。また、『「生きづらさ」を感じたことはない』人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高く、12.5%となっています。



3 経済的なこと

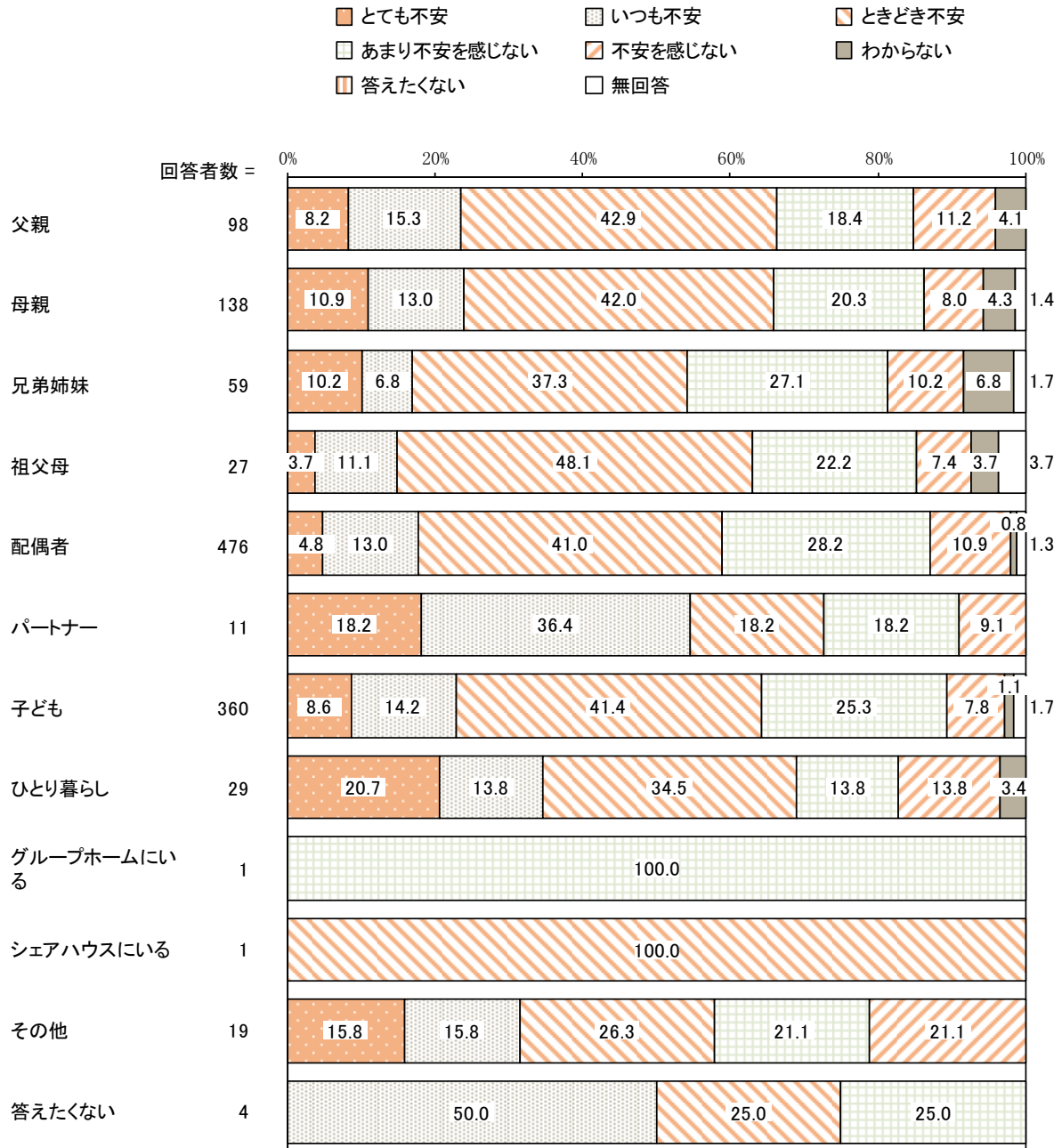
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『30 歳代』から『50 歳代』で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。



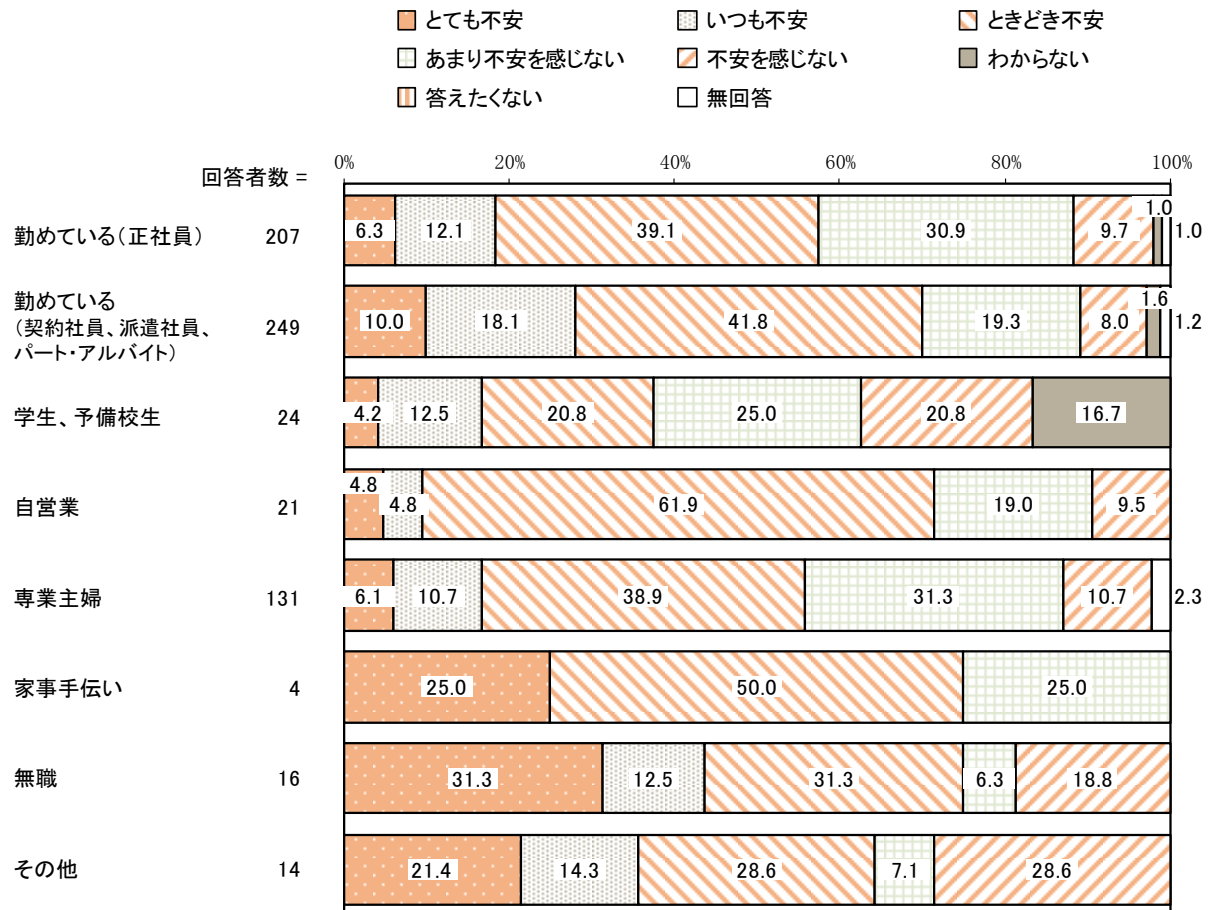
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『パートナー』と同居している人、『ひとり暮らし』の人で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また、『配偶者』と同居している人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



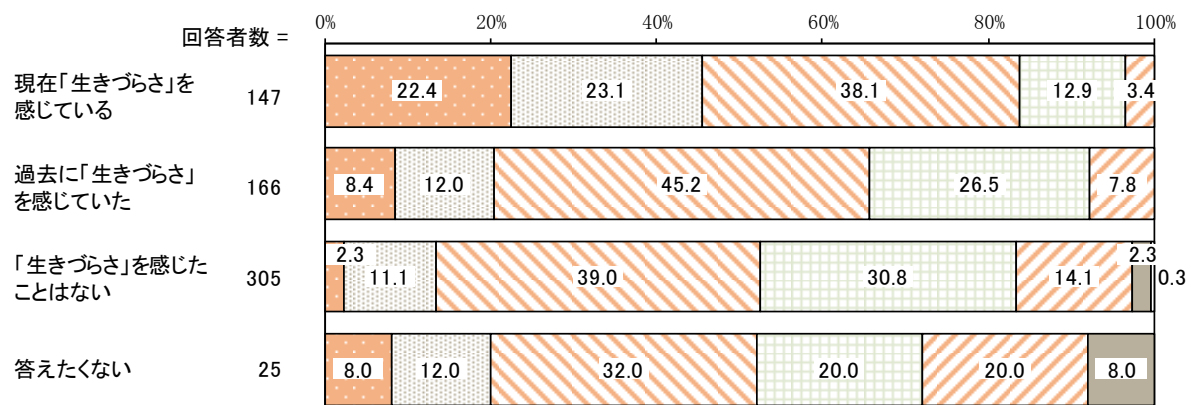
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『自営業』『無職』の人で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また、『学生、予備校生』の人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

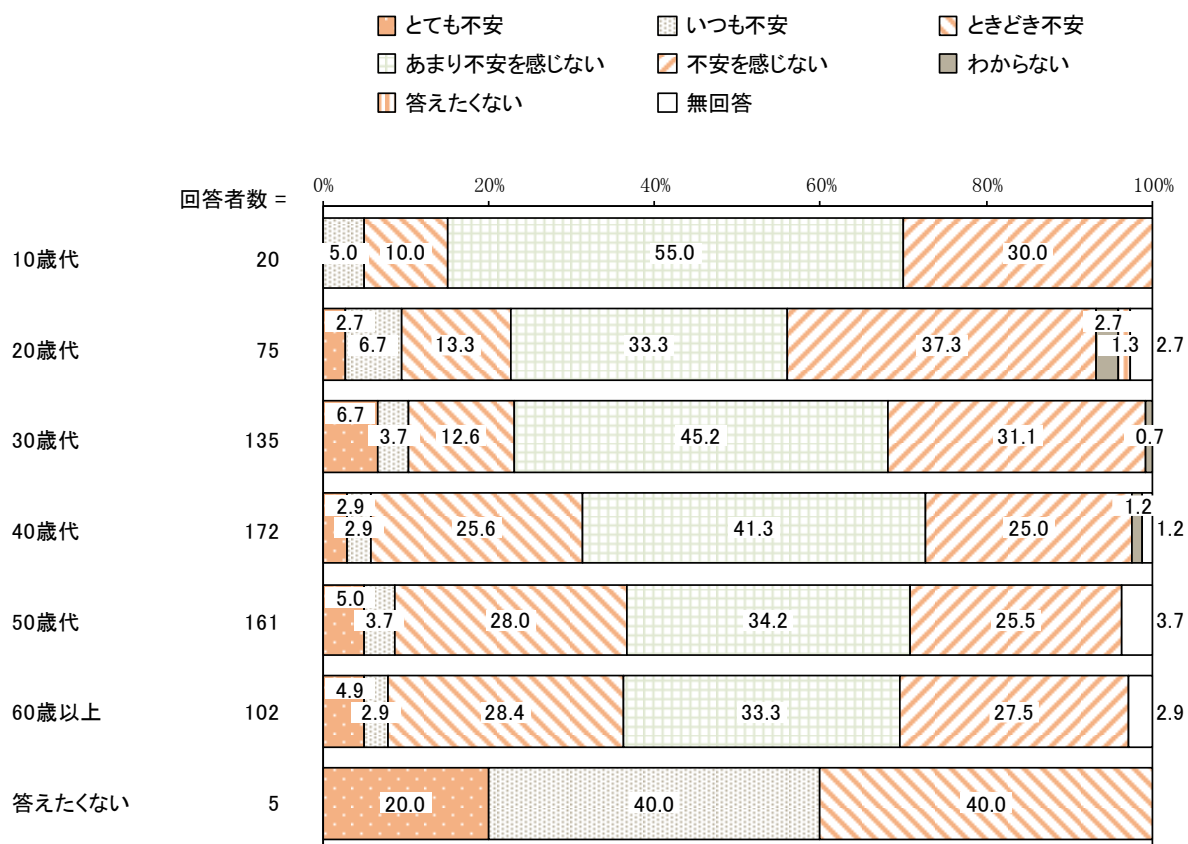
「生きづらさ」別でみると、他に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人で“不安”と答えた人の割合が高く、83.6%となっています。また、『「生きづらさ」を感じたことはない』人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高く、14.1%となっています。



4 住まい

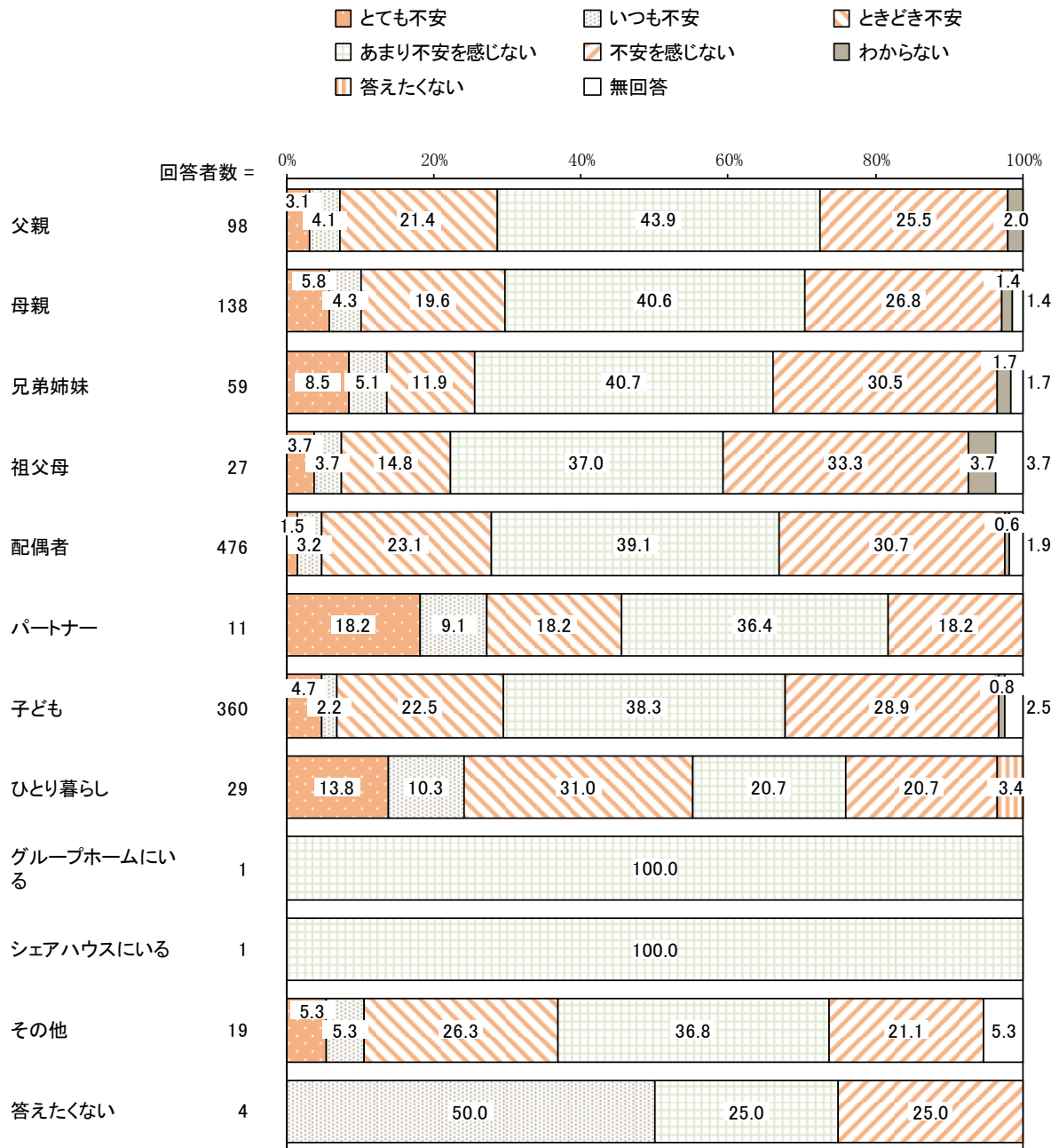
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“不安”と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。



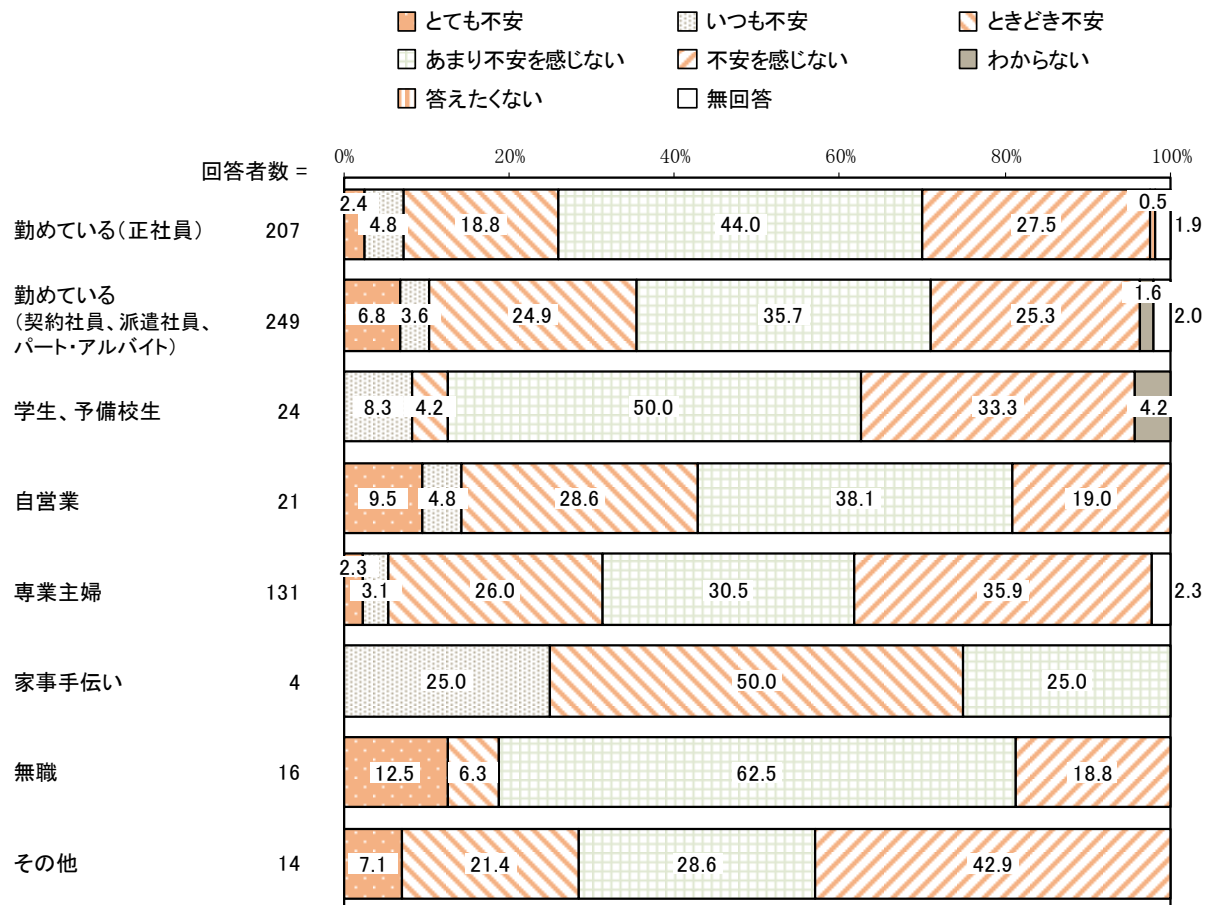
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『ひとり暮らし』の人で”不安”と答えた人の割合が高くなっています。



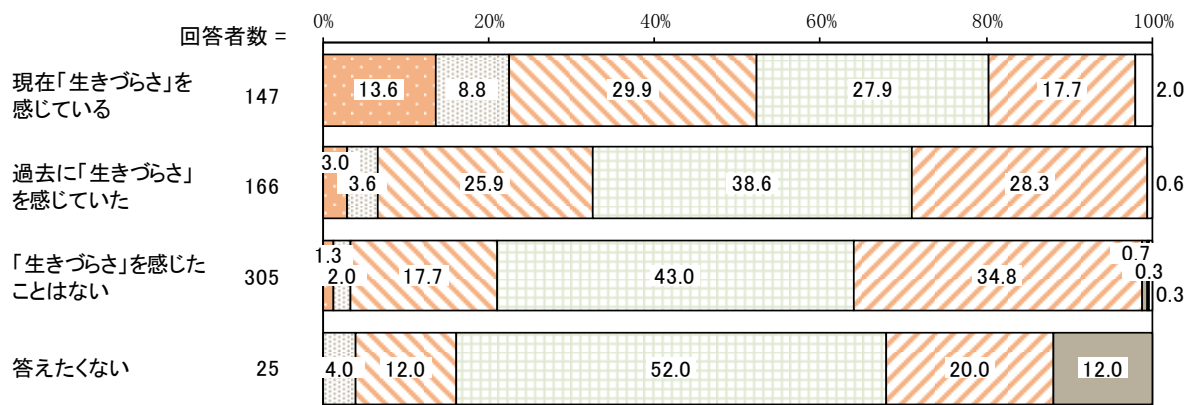
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『自営業』の人で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また、『学生、予備校生』『無職』の人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

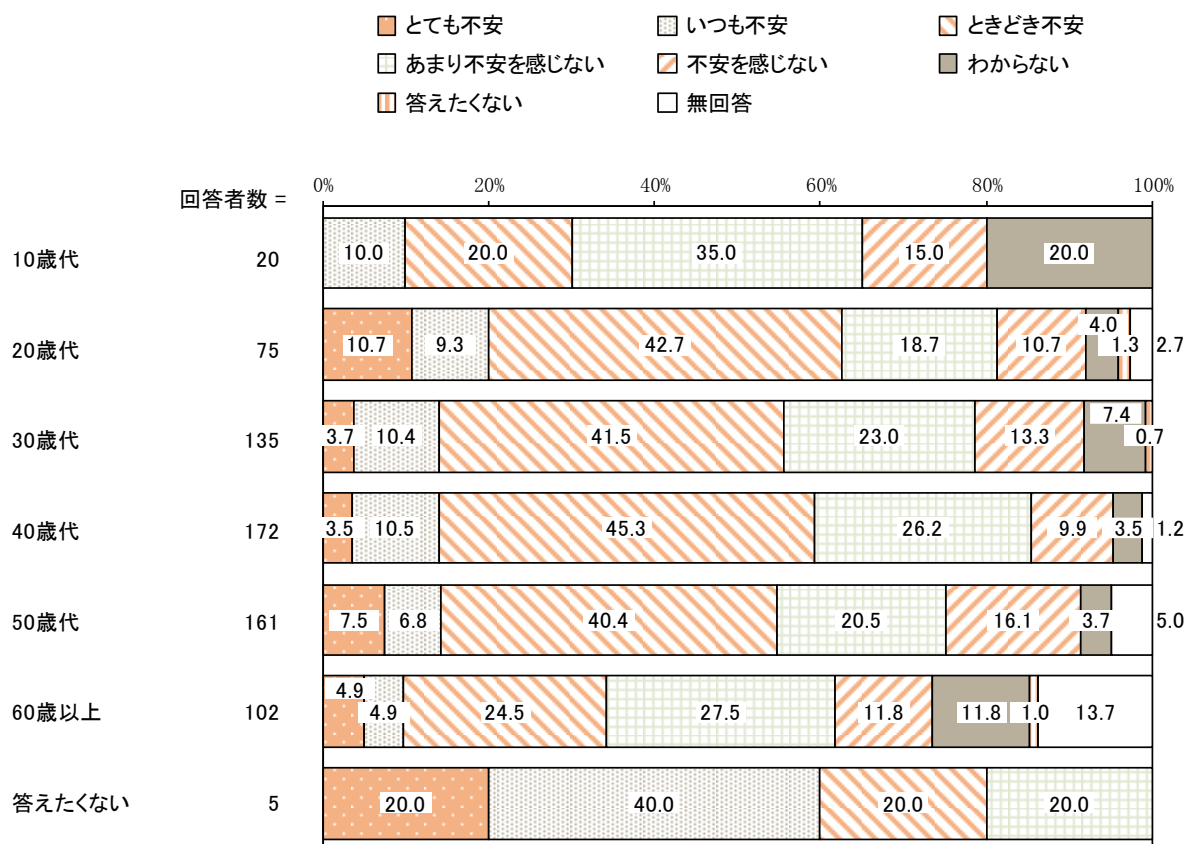
「生きづらさ」別でみると、他に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人で“不安”と答えた人の割合が高く、52.3%となっています。また、『「生きづらさ」を感じたことはない』人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高く、34.8%となっています。



5 仕事

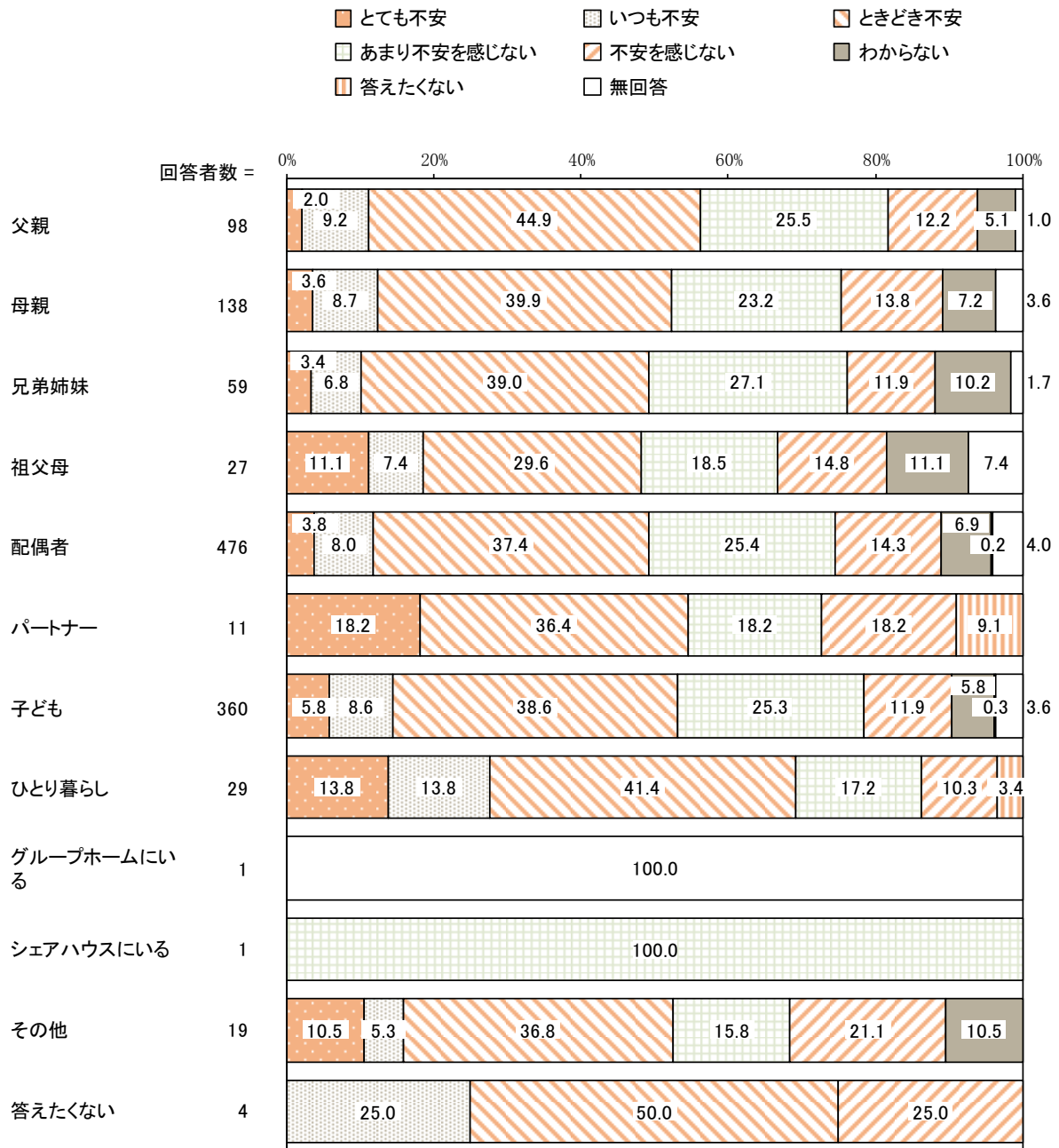
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『20 歳代』『40 歳代』で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また、『10 歳代』で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



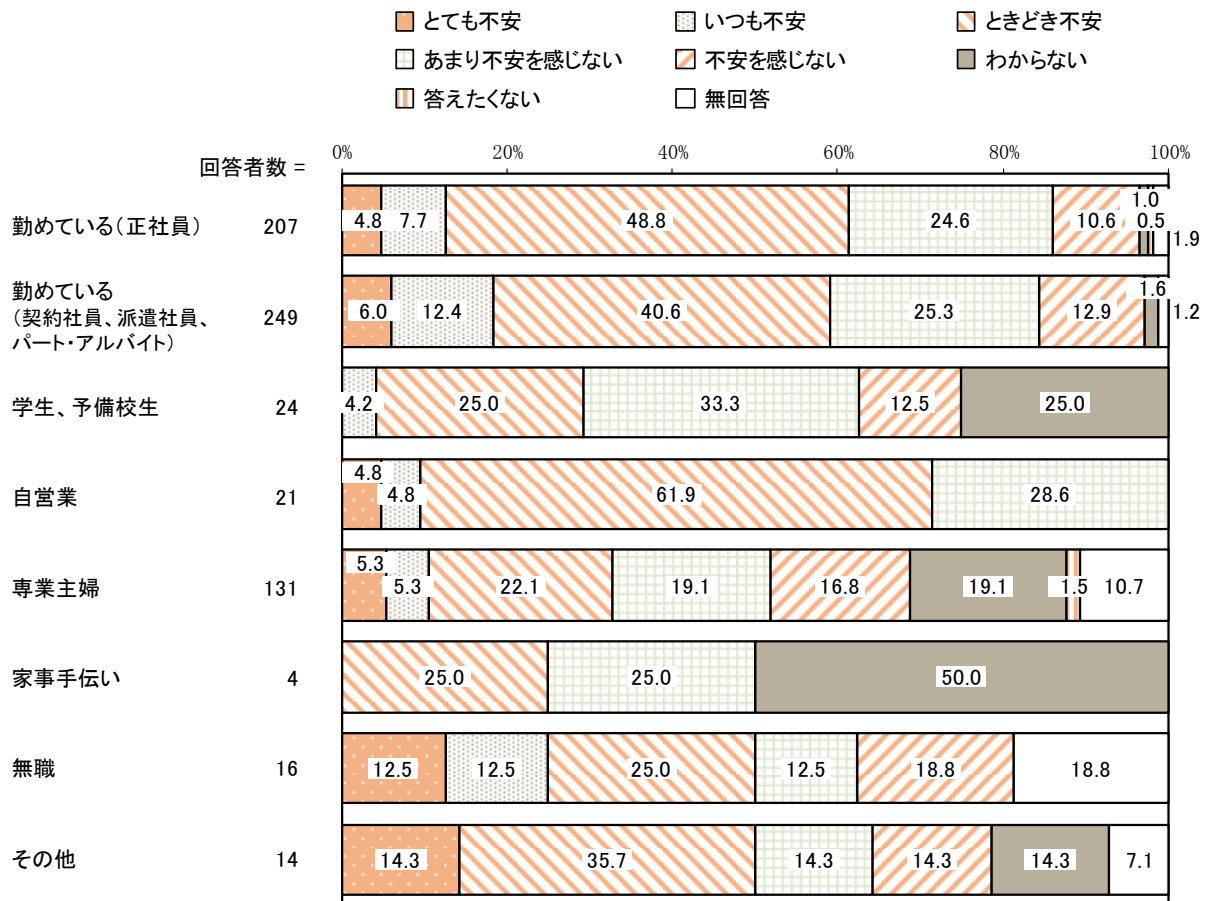
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『ひとり暮らし』の人で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。



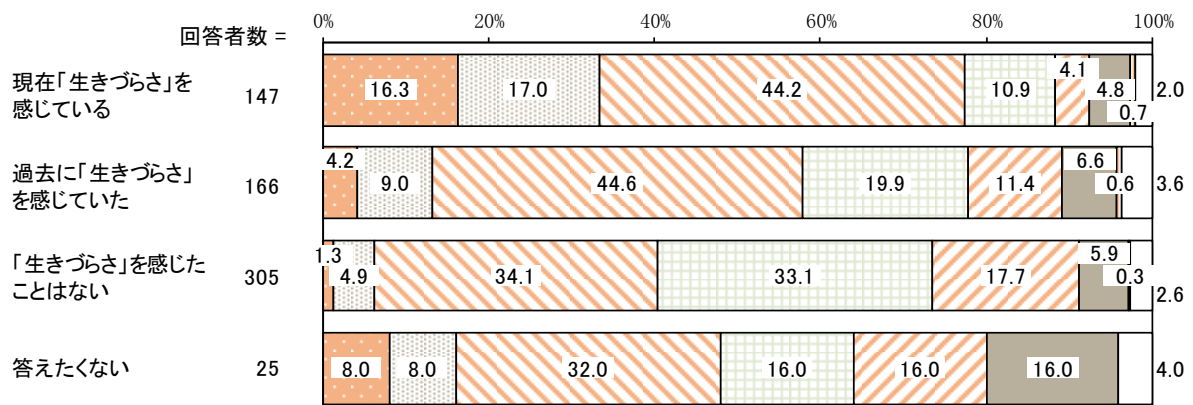
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『自営業』の人で“不安”と答えた人の割合が高く、71.5%となっています。また、『学生、予備校生』の人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

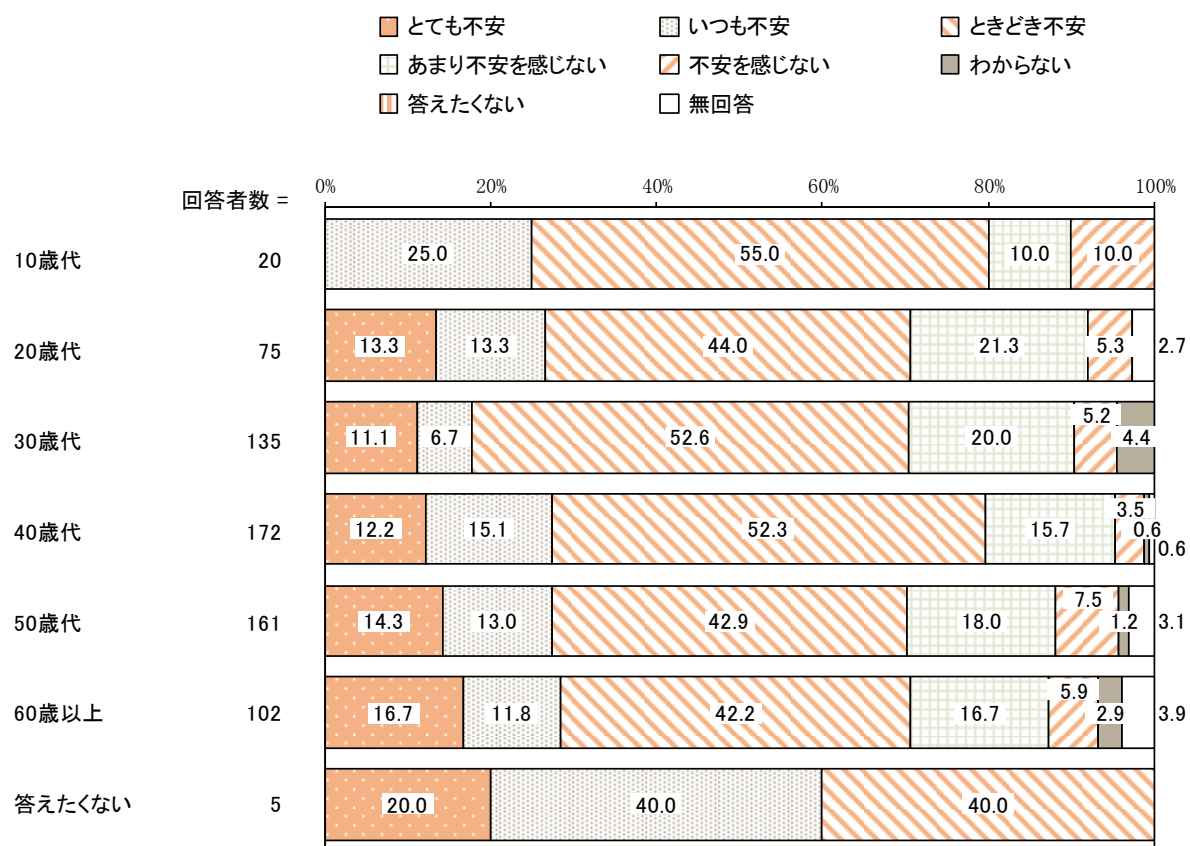
「生きづらさ」別でみると、他に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人で“不安”と答えた人の割合が高く、77.5%となっています。また、『「生きづらさ」を感じたことはない』人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高く、17.7%となっています。



6 将来

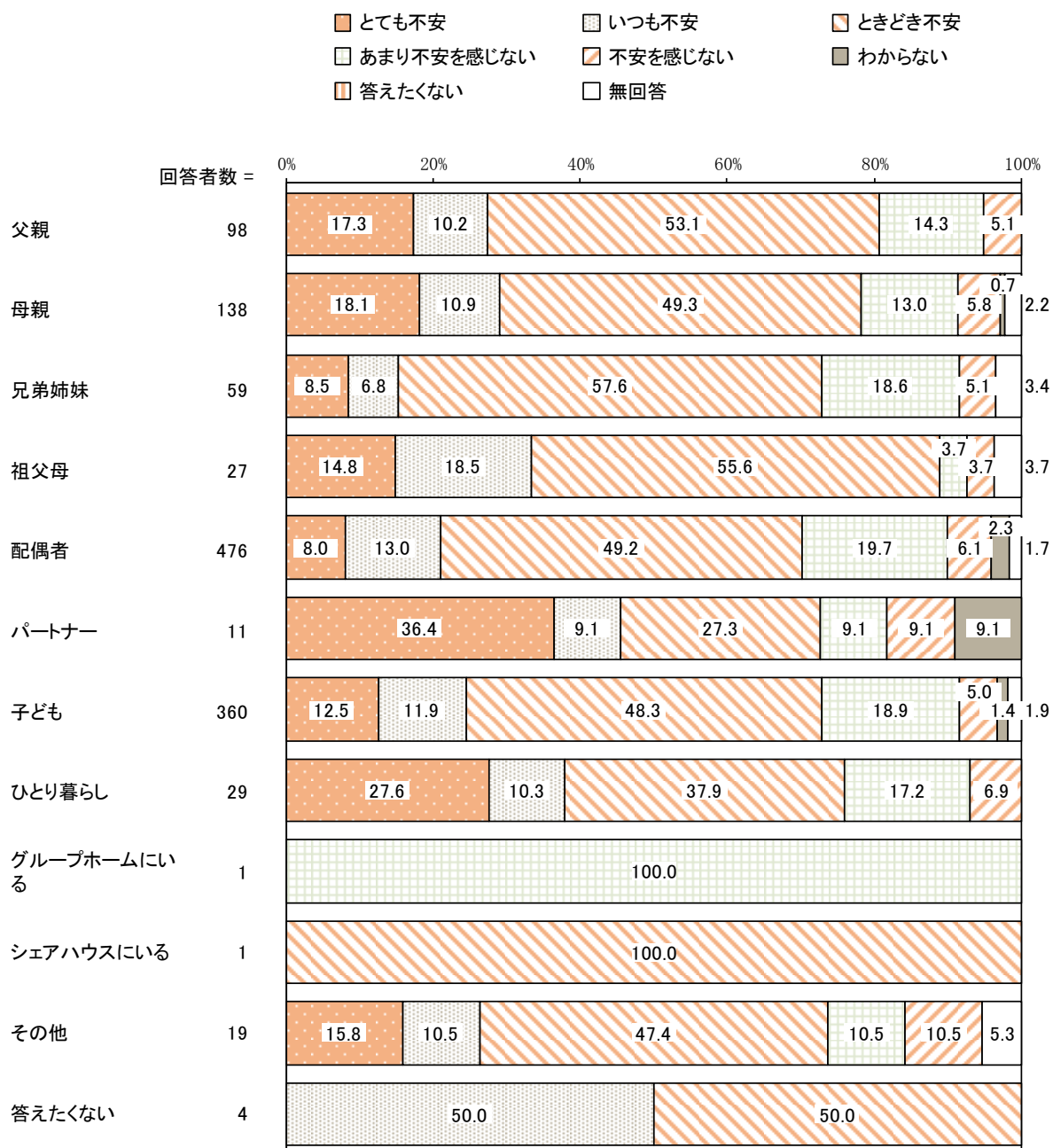
【年代別】

年代別でみると、『10 歳代』『40 歳代』で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。



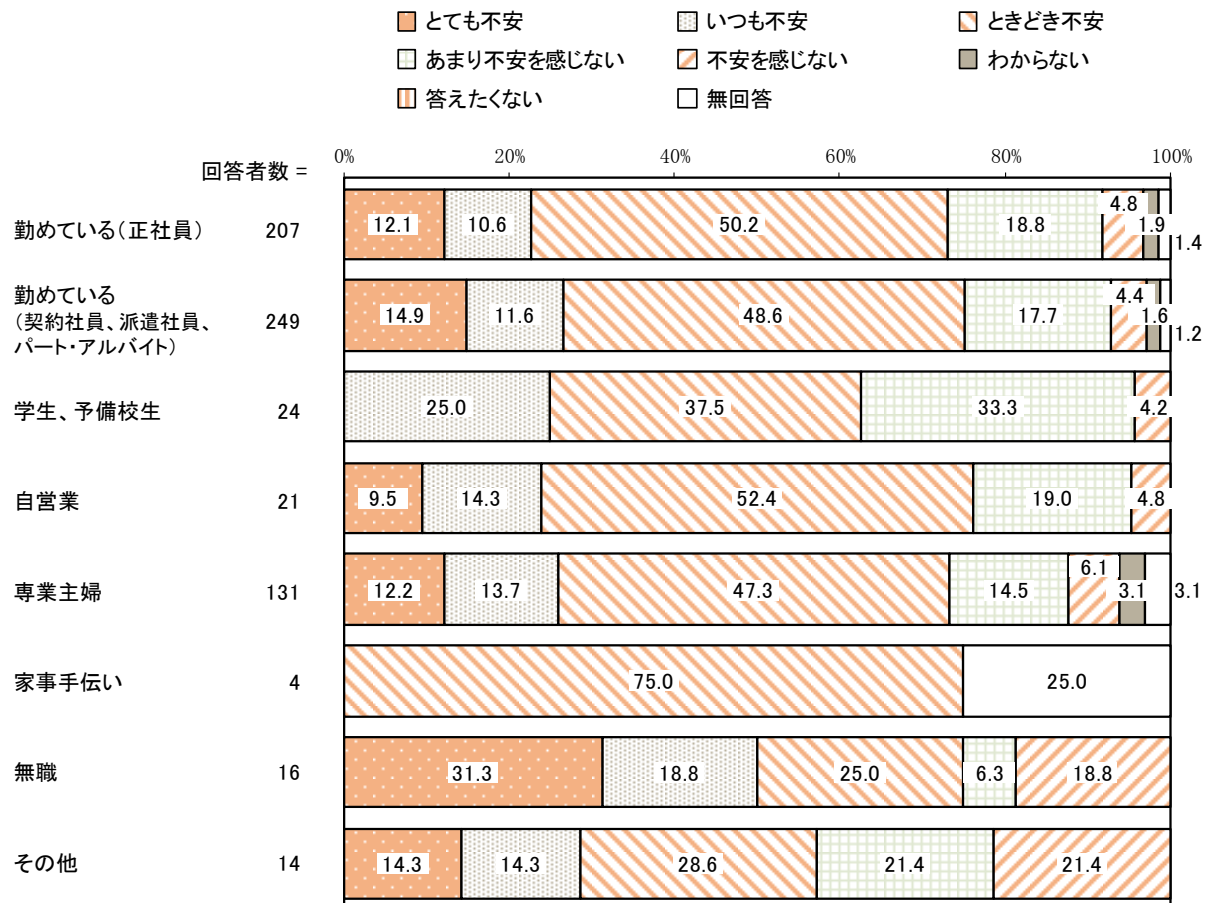
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『祖父母』と同居している人で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また、『配偶者』と同居している人、『ひとり暮らし』の人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



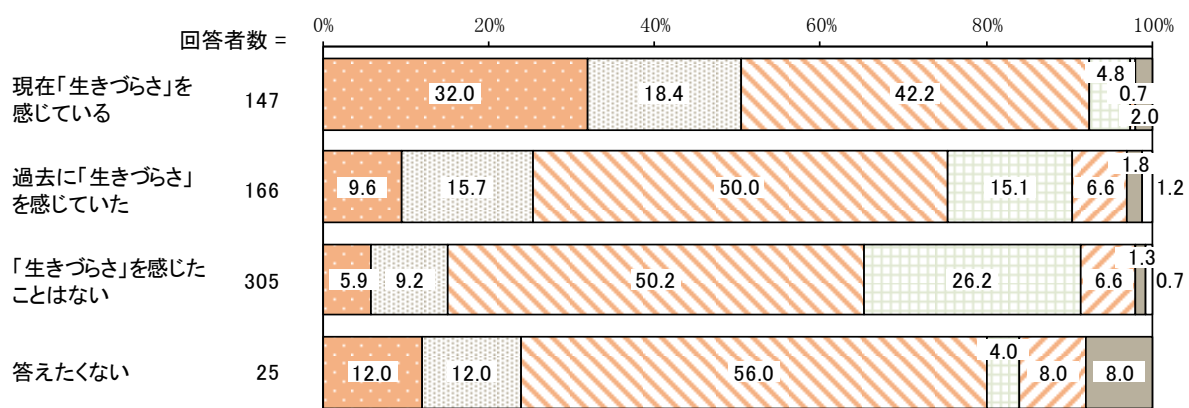
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『自営業』『無職』の人で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また『学生、予備校生』の人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

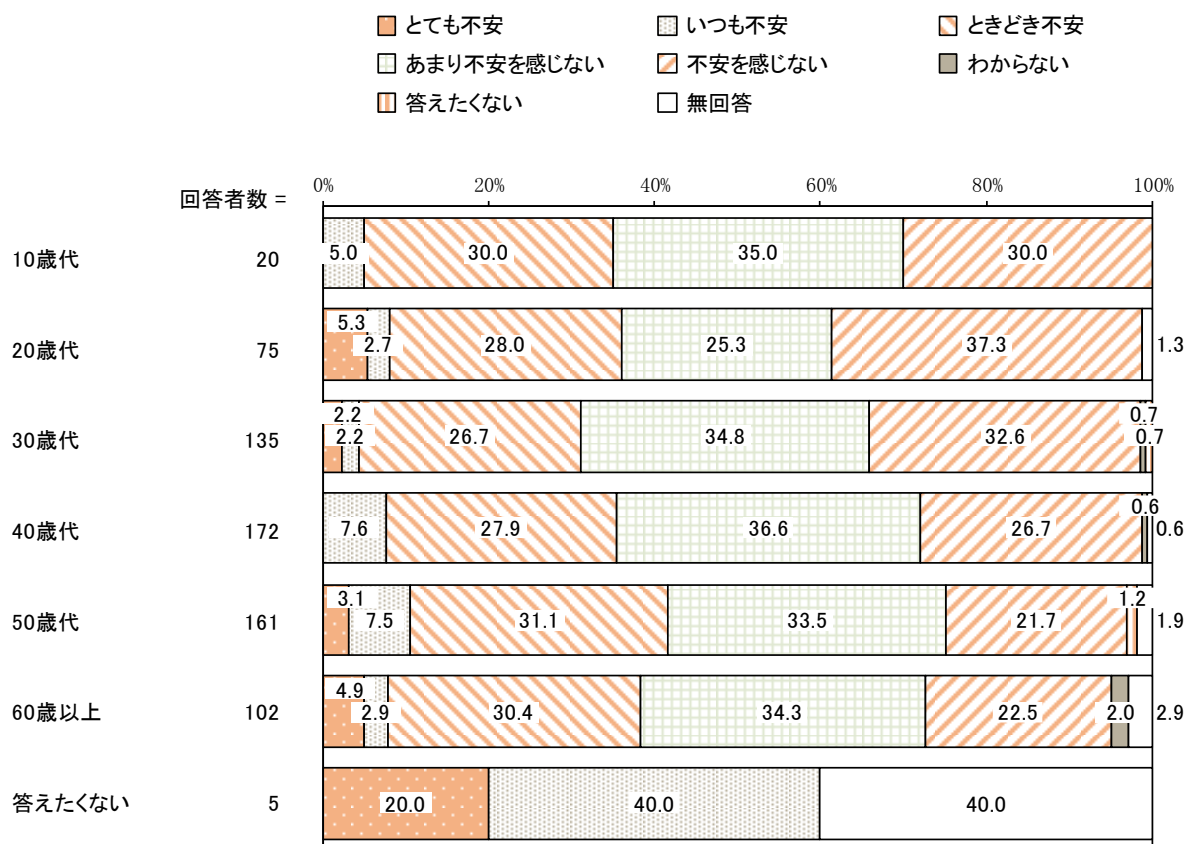
「生きづらさ」別でみると、他に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人で”不安”と答えた人の割合が高く、92.6%となっています。また、他に比べ、『過去に「生きづらさ」を感じていた』『「生きづらさ」を感じたことはない』人で”不安を感じない”と答えた人の割合が高く、6.6%となっています。



7 家族関係

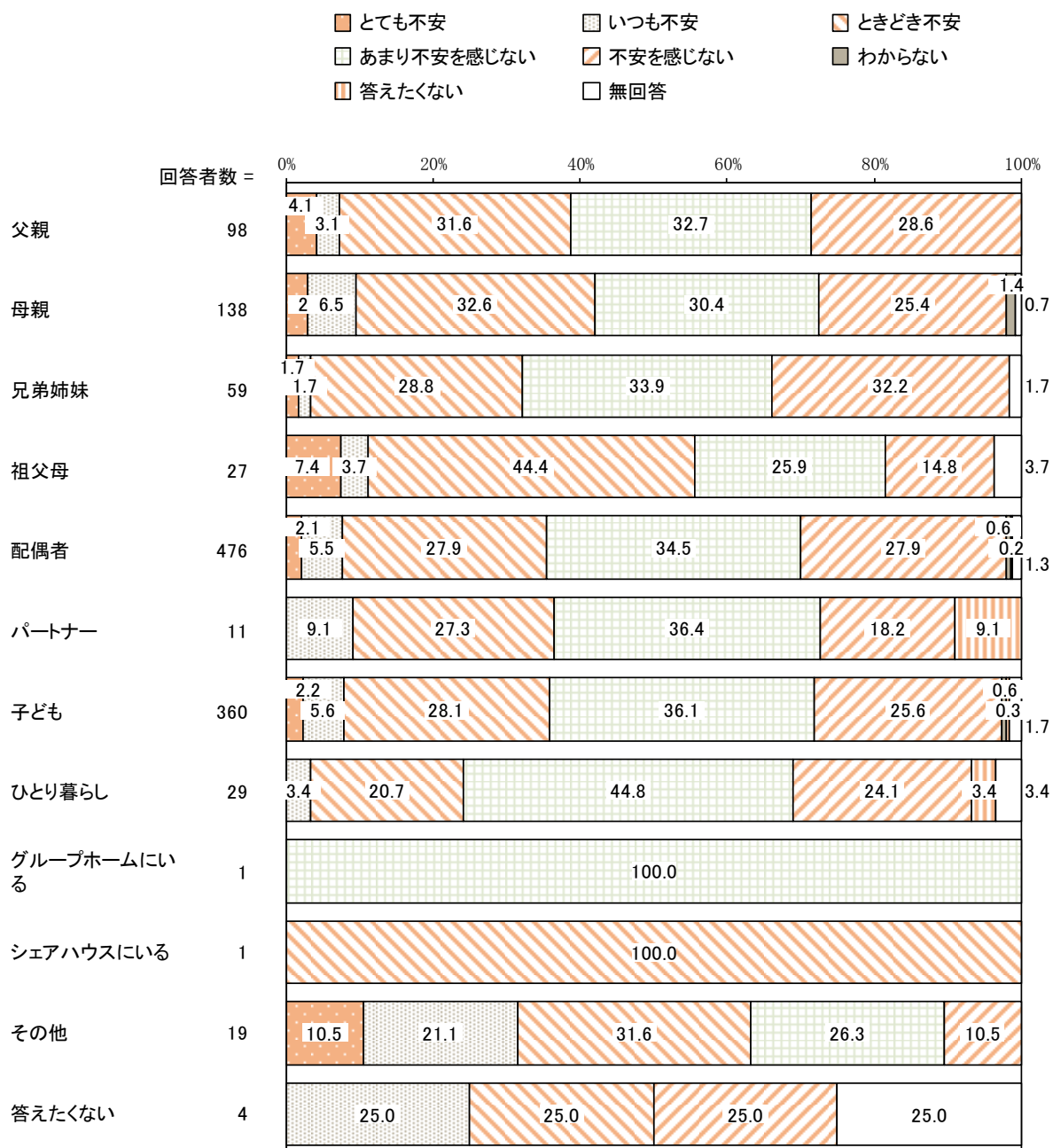
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『50 歳代』『60 歳以上』で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また、『30 歳代』で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



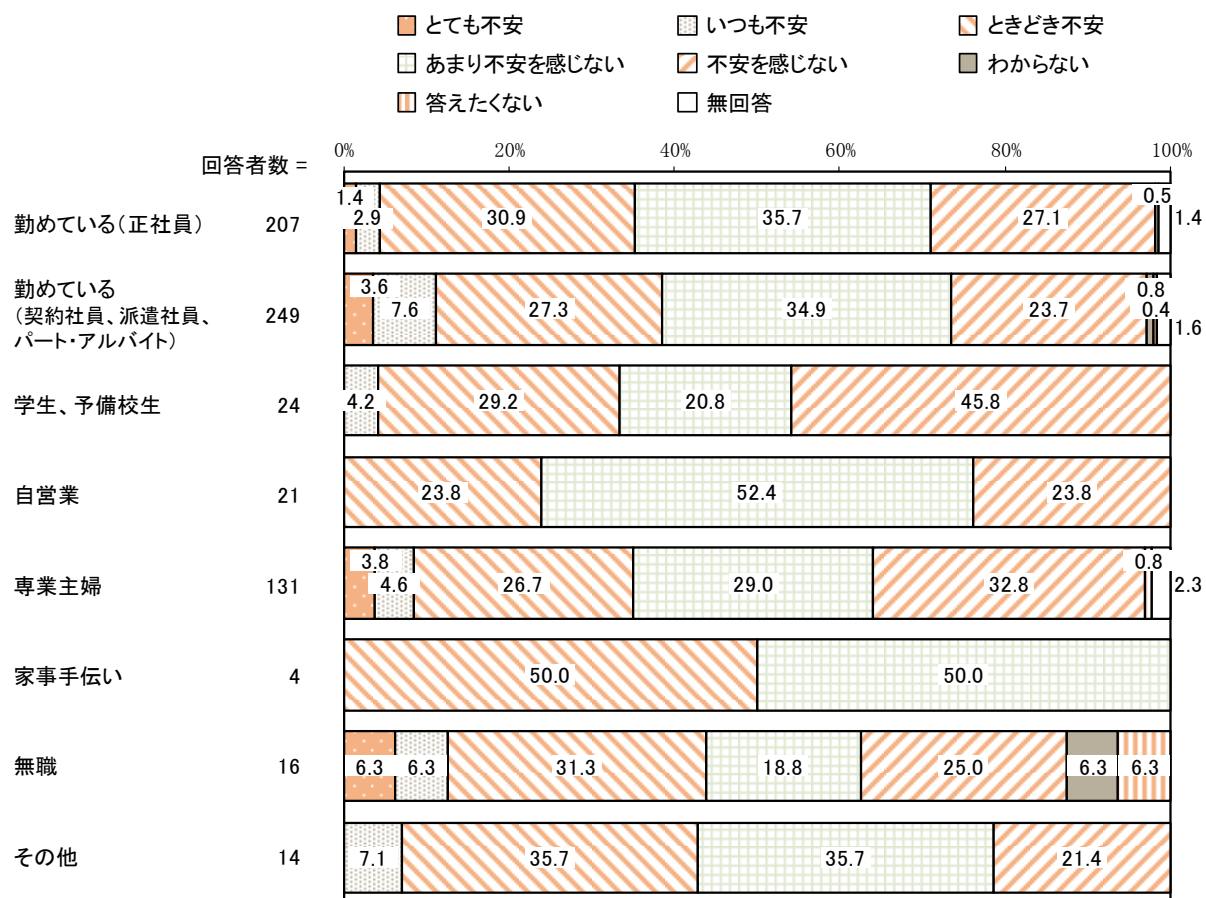
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『祖父母』と同居している人で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また、『ひとり暮らし』の人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



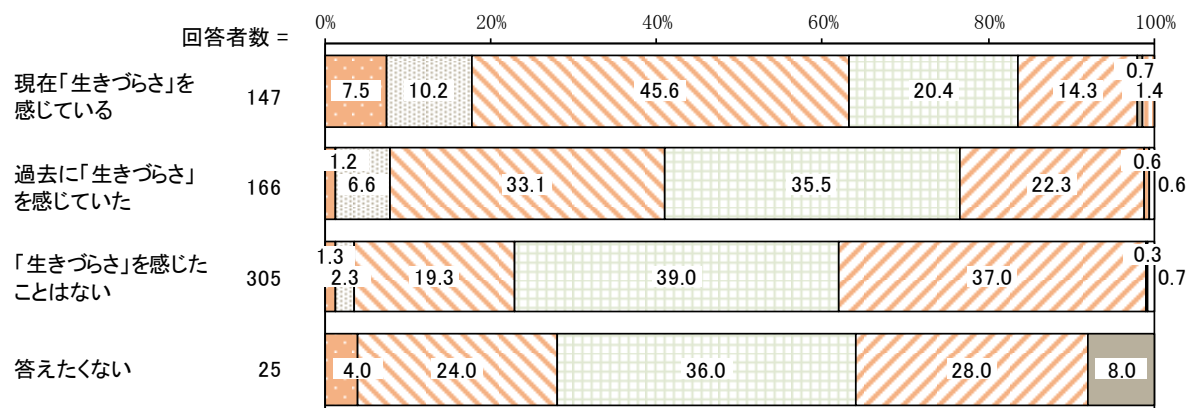
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『無職』で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また、『自営業』で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

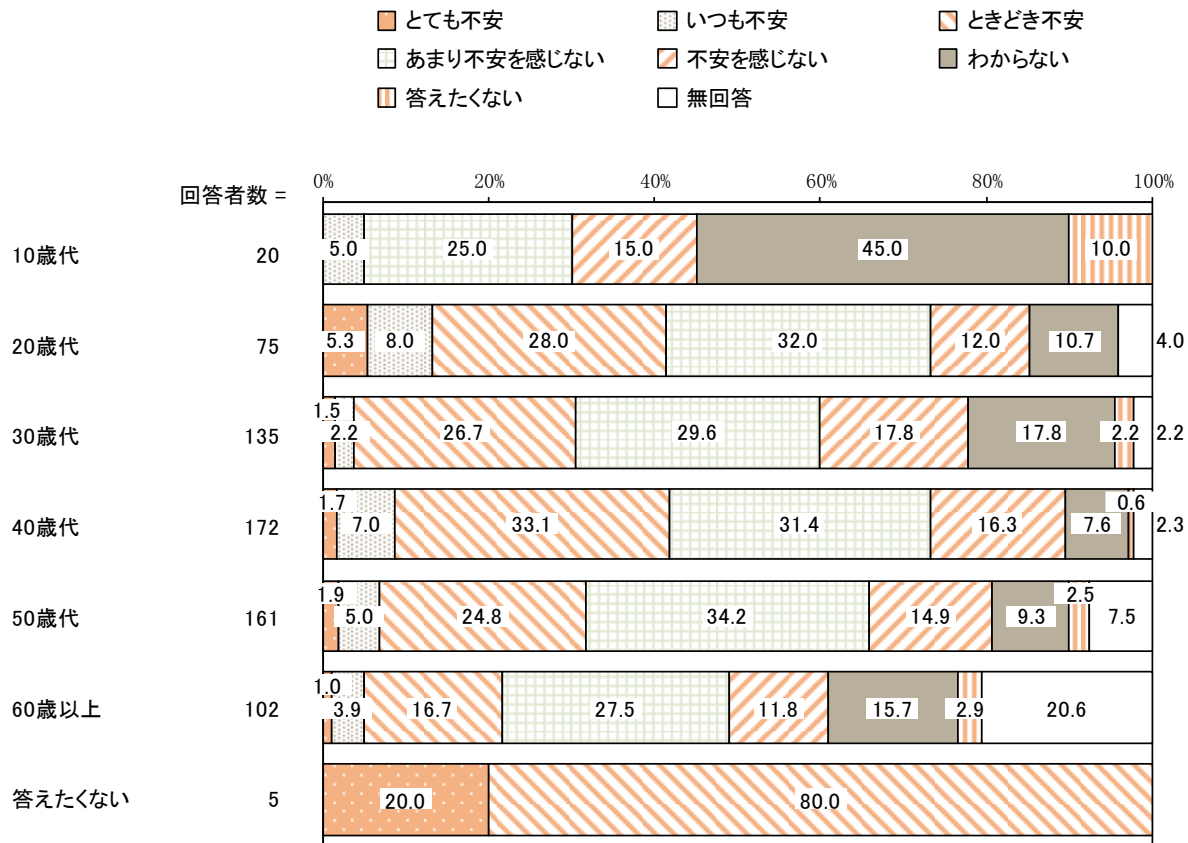
「生きづらさ」別でみると、他に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人で“不安”と答えた人の割合が高く、63.3%となっています。また、『「生きづらさ」を感じたことはない』人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高く、37.0%となっています。



8 職場の人間関係

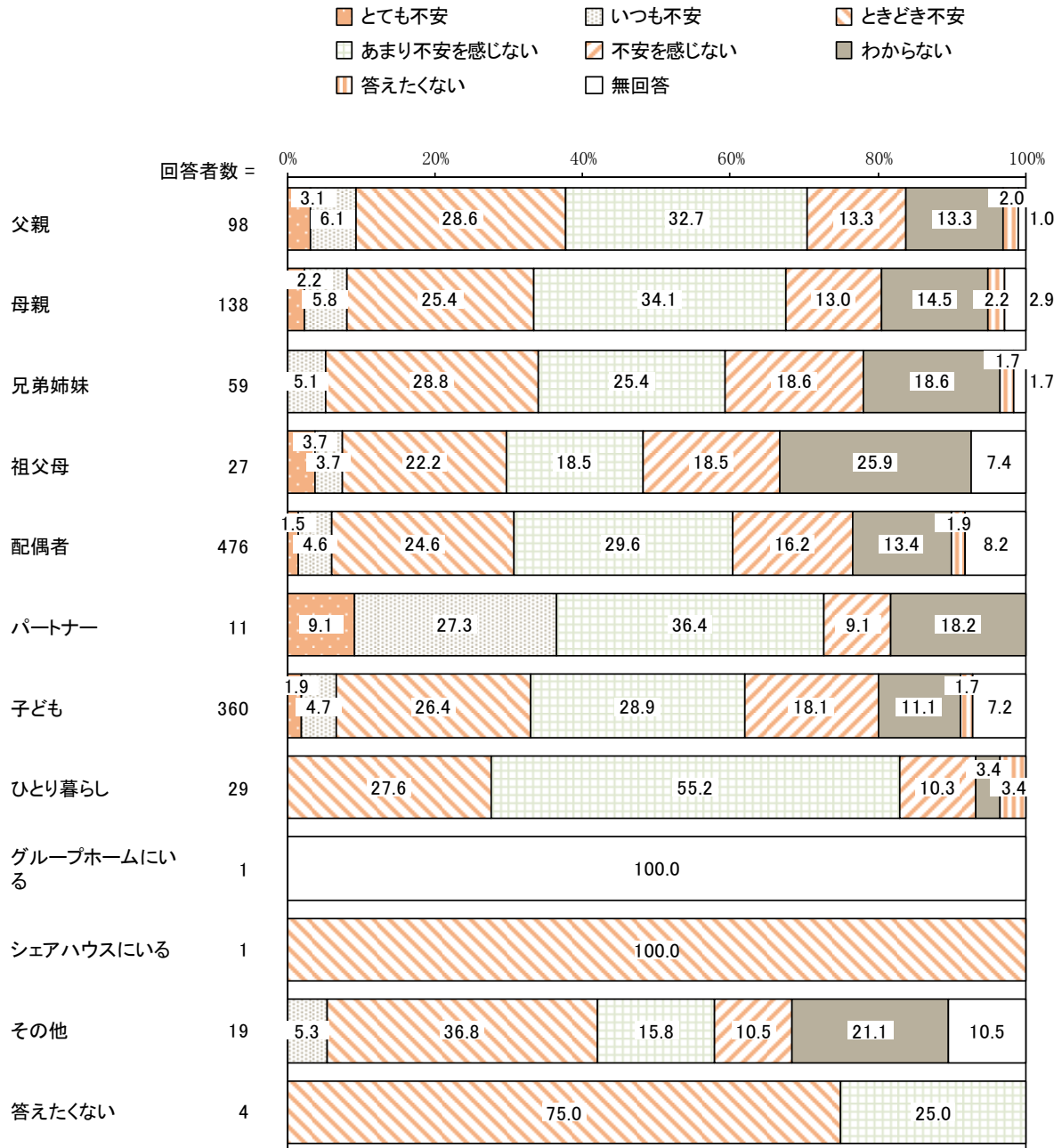
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『20 歳代』『40 歳代』で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また、『30 歳代』から『50 歳代』で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



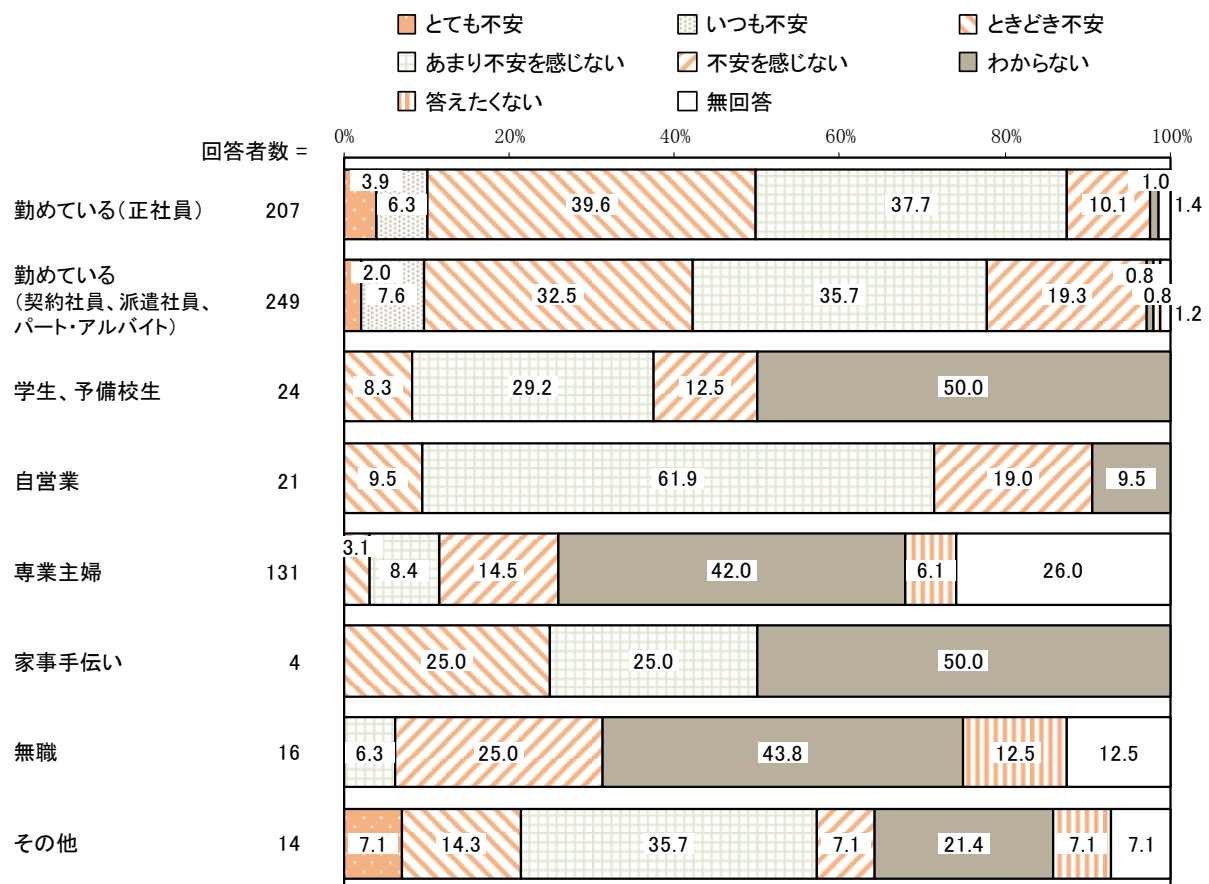
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『父親』と同居している人で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また、『ひとり暮らし』の人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



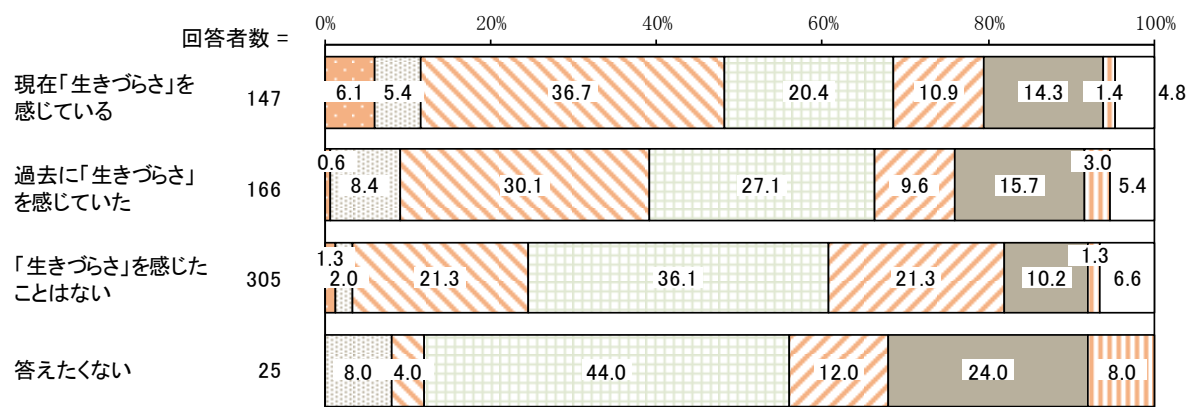
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『勤めている（正社員）』『勤めている（契約社員、派遣社員、パート・アルバイト）』の人で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また、『自営業』の人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

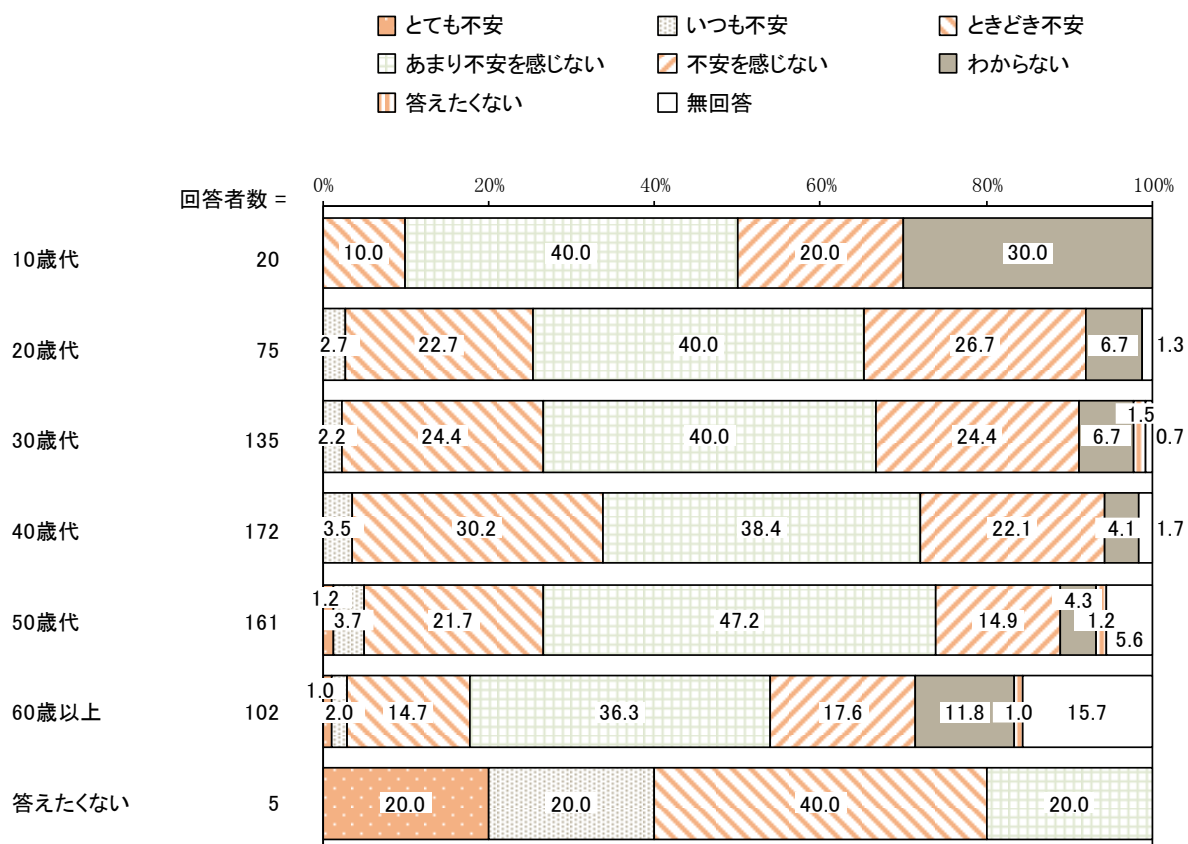
「生きづらさ」別でみると、他に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人で”不安”と答えた人の割合が高く、48.2%となっています。また、他に比べ、『「生きづらさ」を感じたことはない』人で”不安を感じない”と答えた人の割合が高く、21.3%となっています。



9 職場以外の人間関係

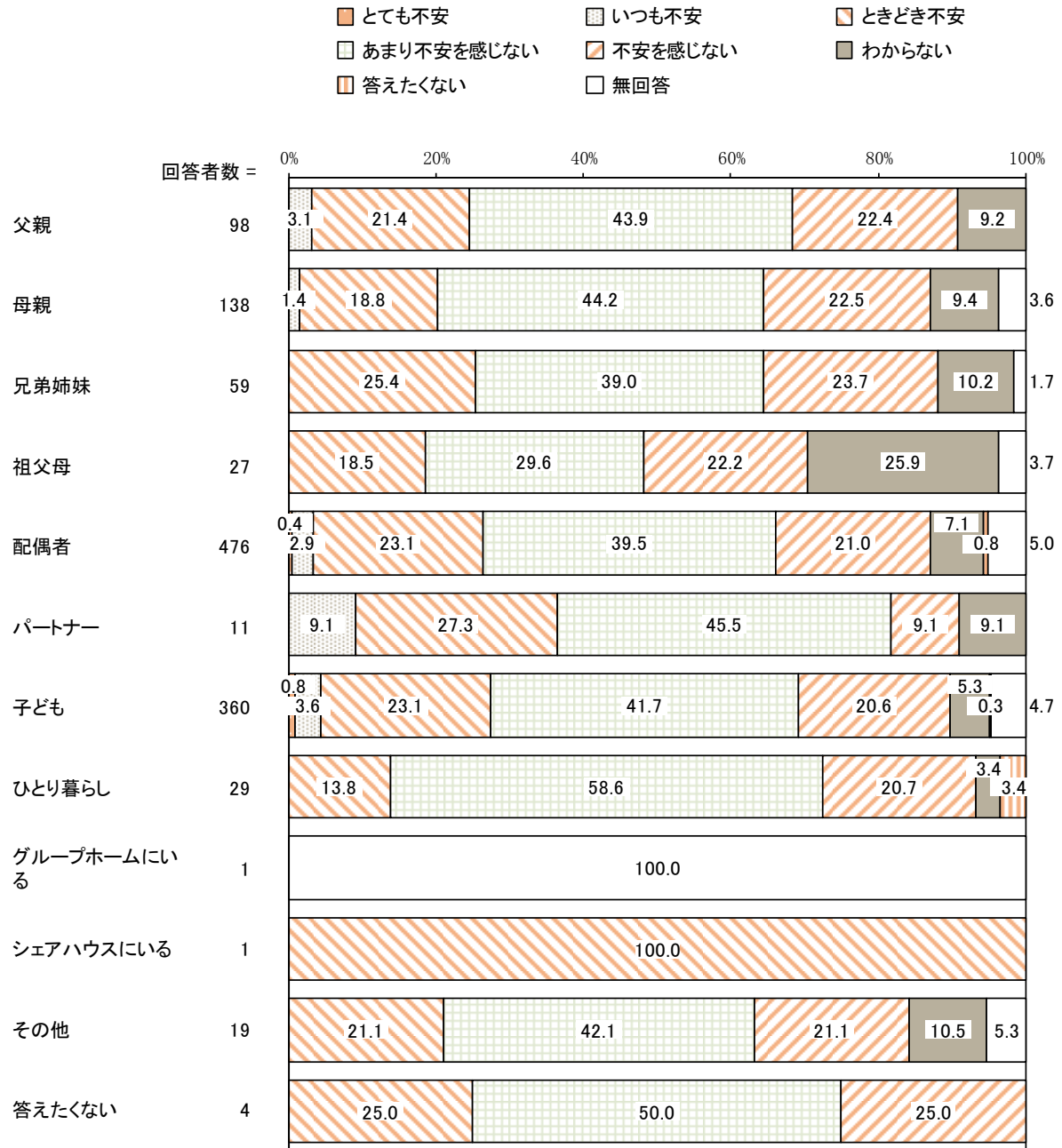
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『40 歳代』で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また、『20 歳代』『30 歳代』で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



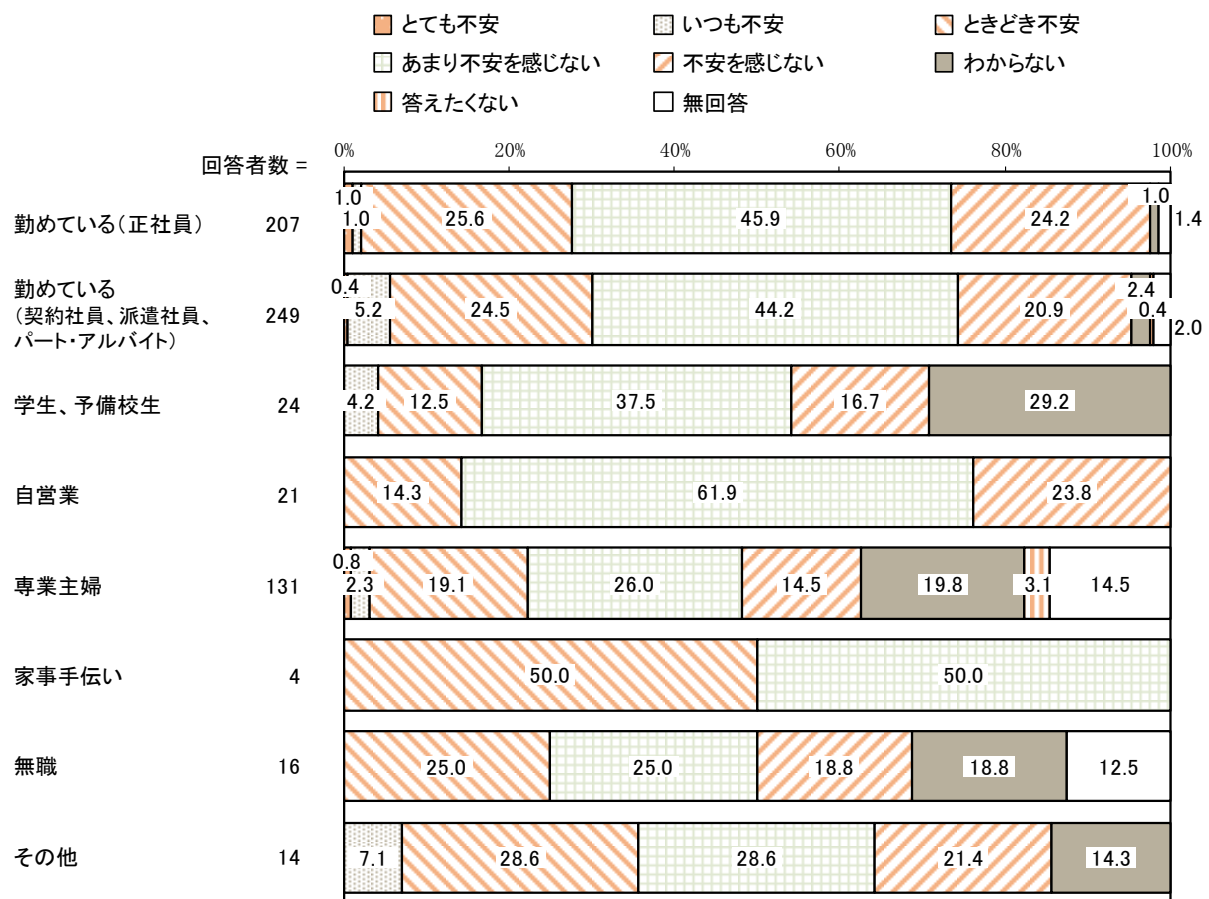
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『パートナー』と同居している人で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また、『ひとり暮らし』の人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



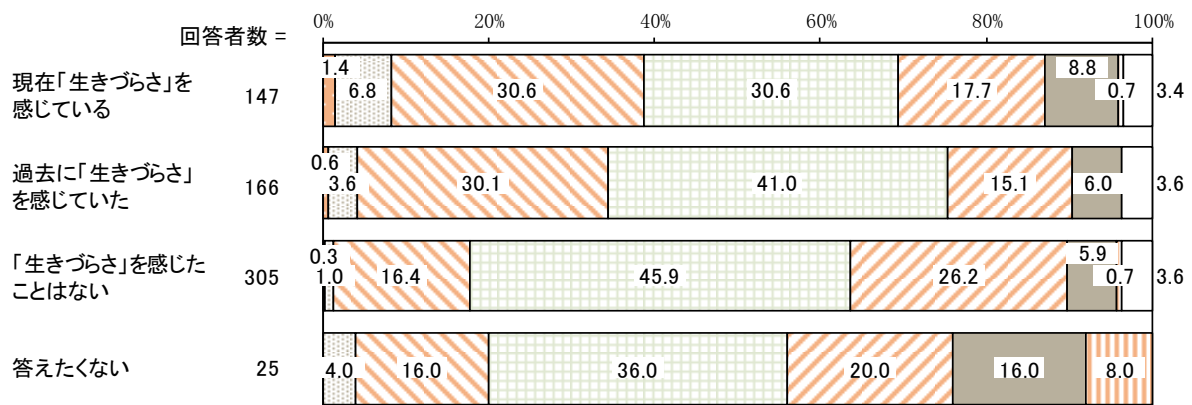
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『勤めている（契約社員、派遣社員、パート・アルバイト）』の人で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また、『自営業』の人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

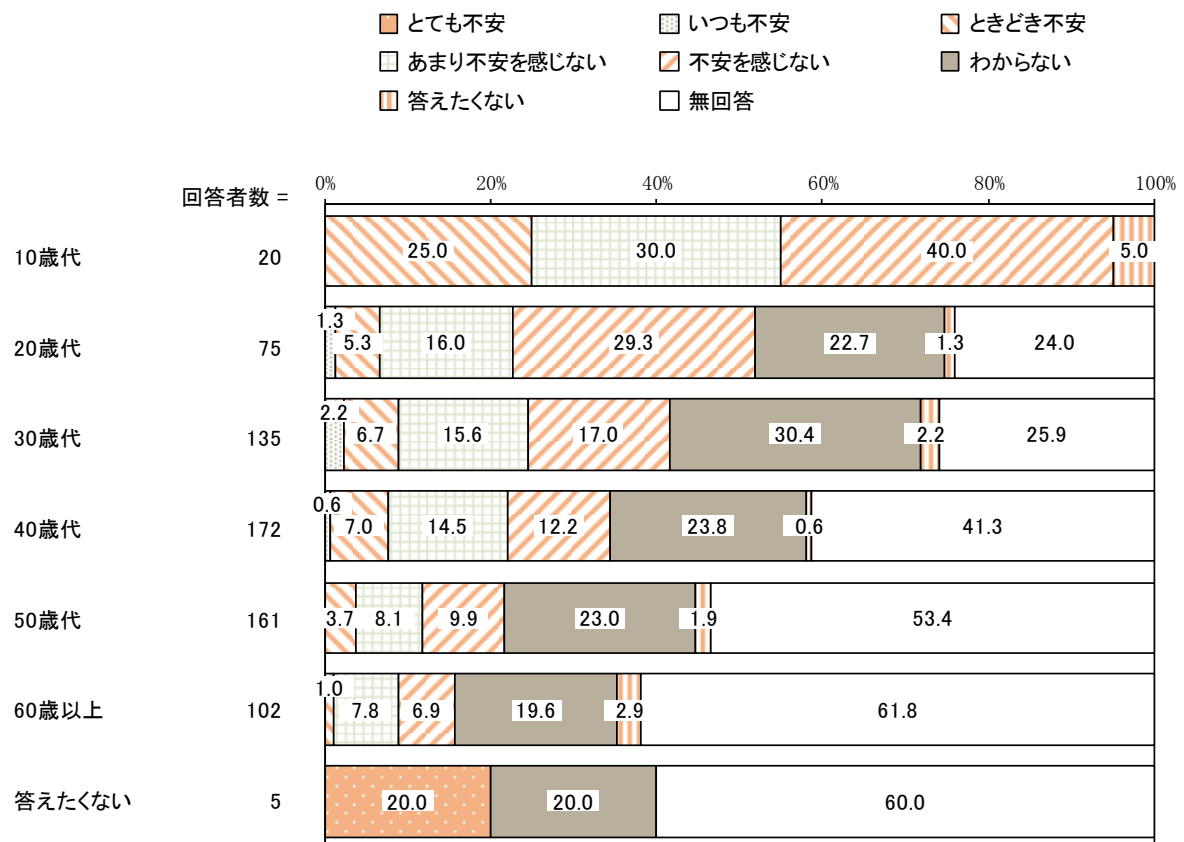
「生きづらさ」別でみると、『「生きづらさ」を感じたことはない』人に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人、『過去に「生きづらさ」を感じていた』人で“不安”と答えた人の割合が高く、それぞれ 38.8%、34.3%となっています。



10 学校での人間関係

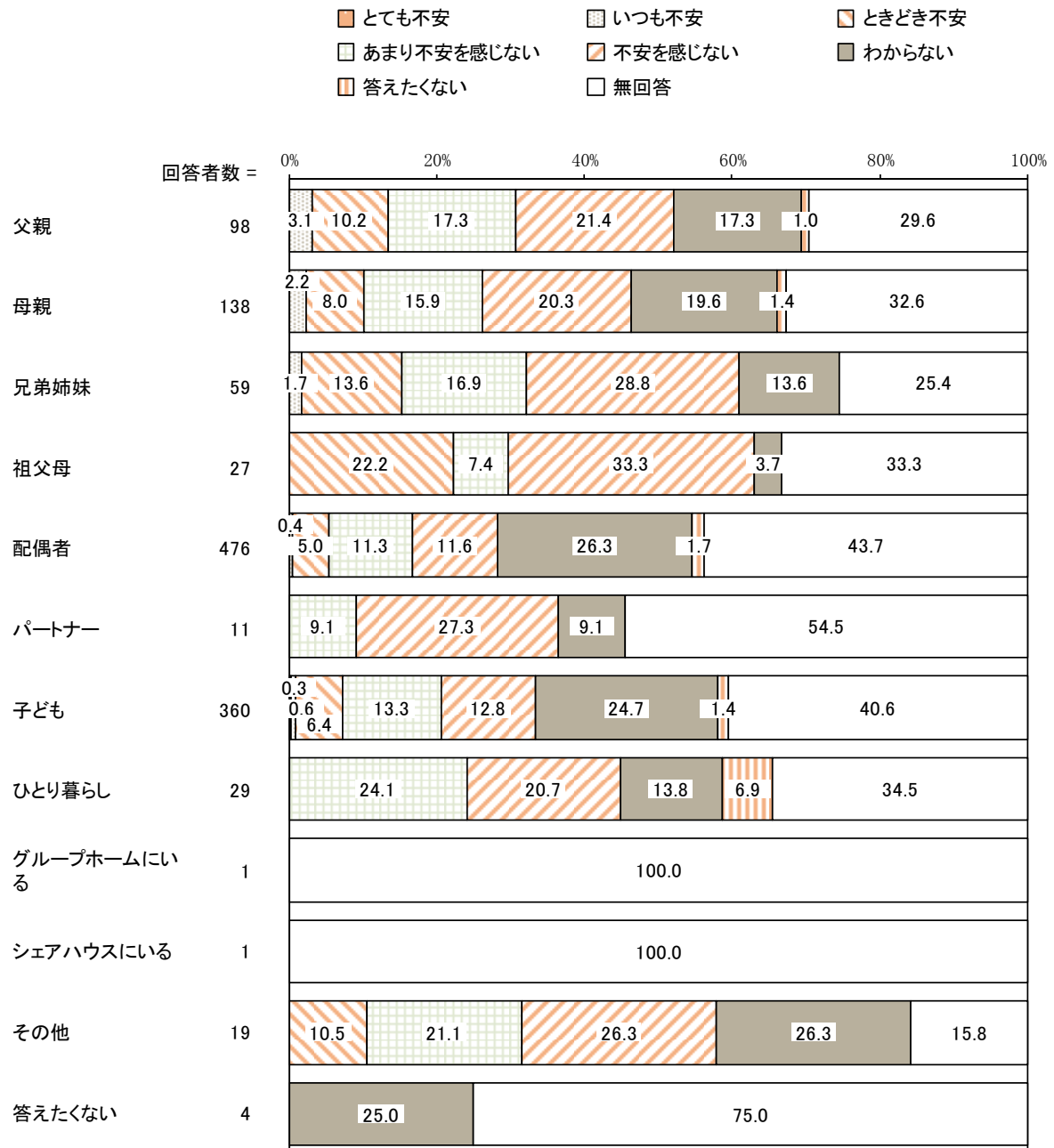
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『10 歳代』で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。



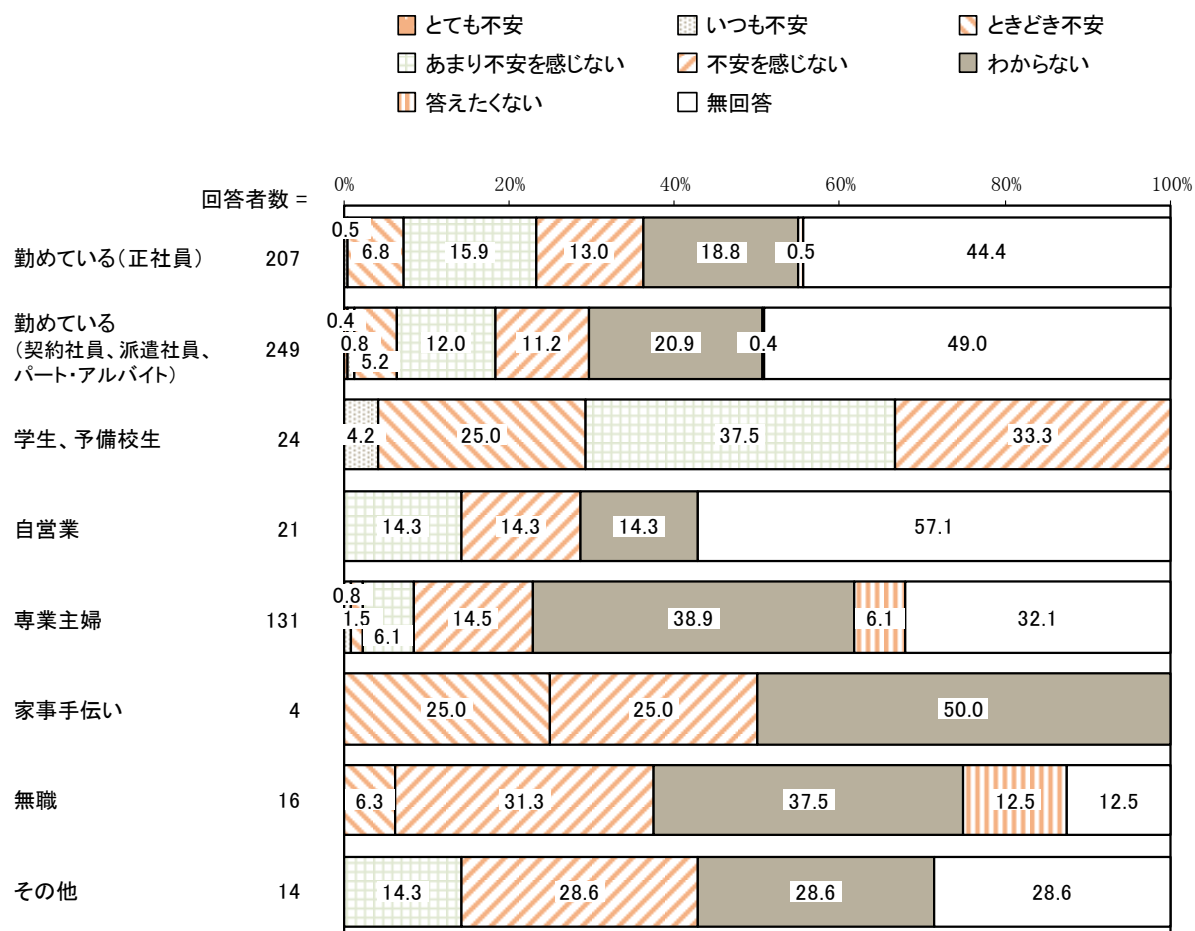
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『祖父母』と同居している人で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。また、『兄弟姉妹』と同居している人、『ひとり暮らし』の人で“不安を感じない”と答えた人の割合が高くなっています。



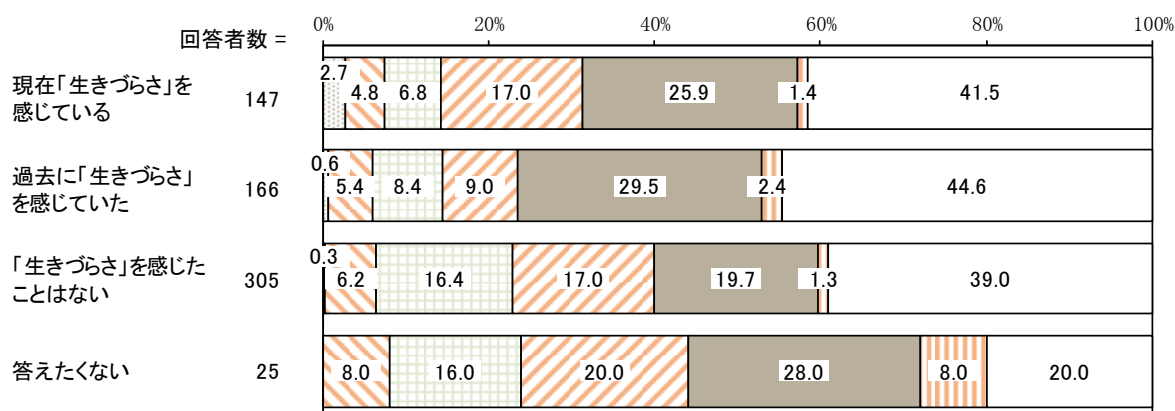
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『学生、予備校生』の人で“不安”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

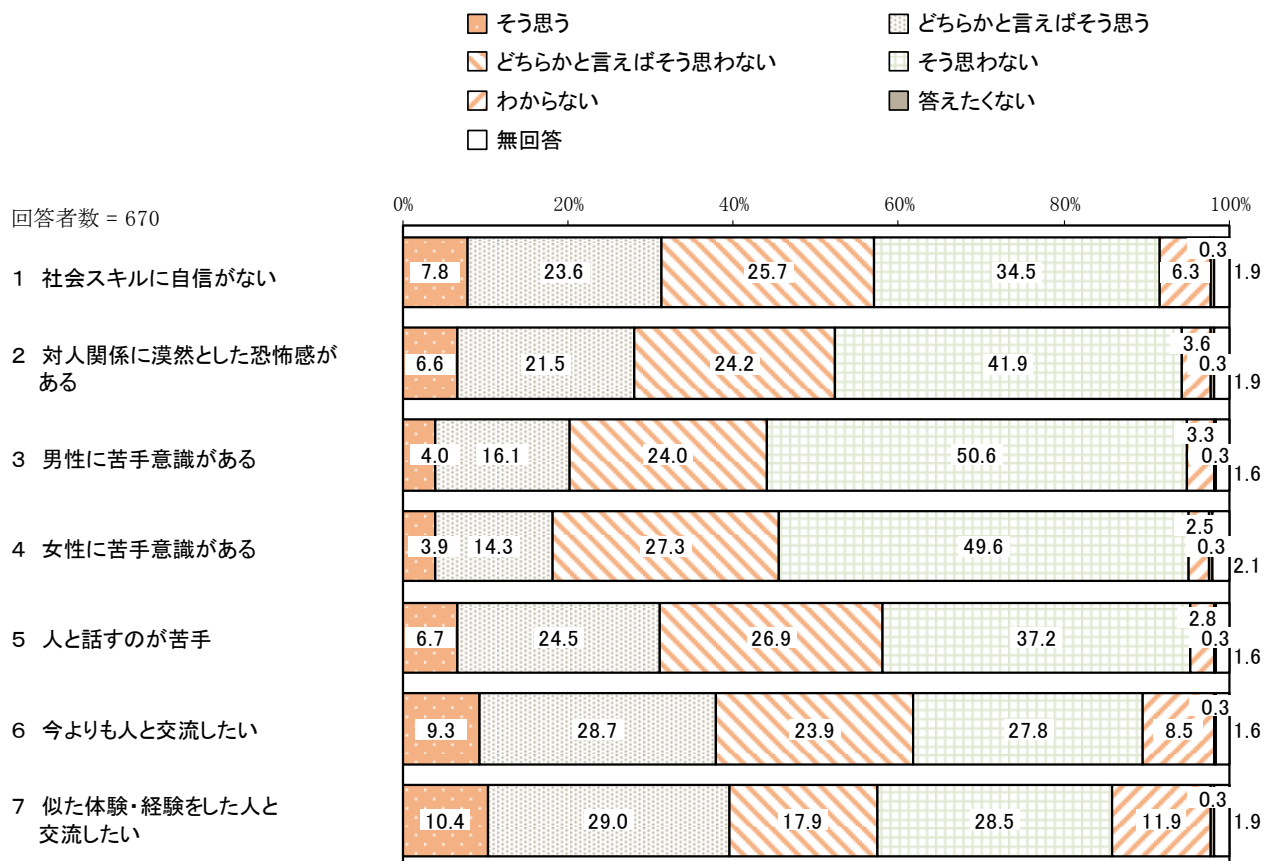
「生きづらさ」別でみると、他に比べ、『「生きづらさ」を感じたことはない』人で”不安を感じない”と答えた人の割合が高く、16.4%となっています。



問 15 あなたが人間関係やコミュニケーションで感じることについて選んでください。
(それぞれの項目で○は1つだけ)

『6 今よりも人と交流したい』『7 似た体験・経験をした人と交流したい』人で「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」をあわせた“そう思う”と答えた人の割合が高く、それぞれ 38.0%、39.4%となっています。

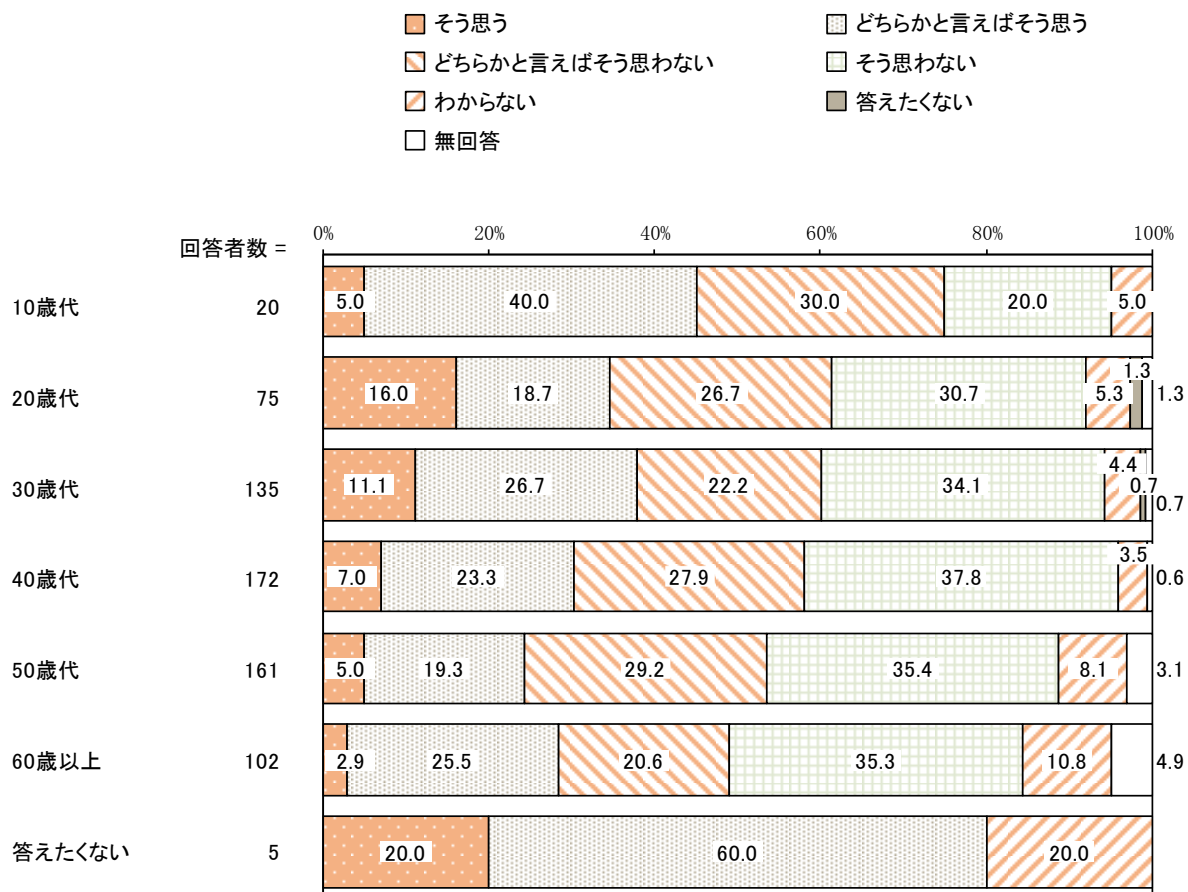
一方、『3 男性に苦手意識がある』『4 女性に苦手意識がある』人で「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”と答えた人の割合が高く、それぞれ 74.6%、76.9%となっています。



1 社会スキルに自信がない

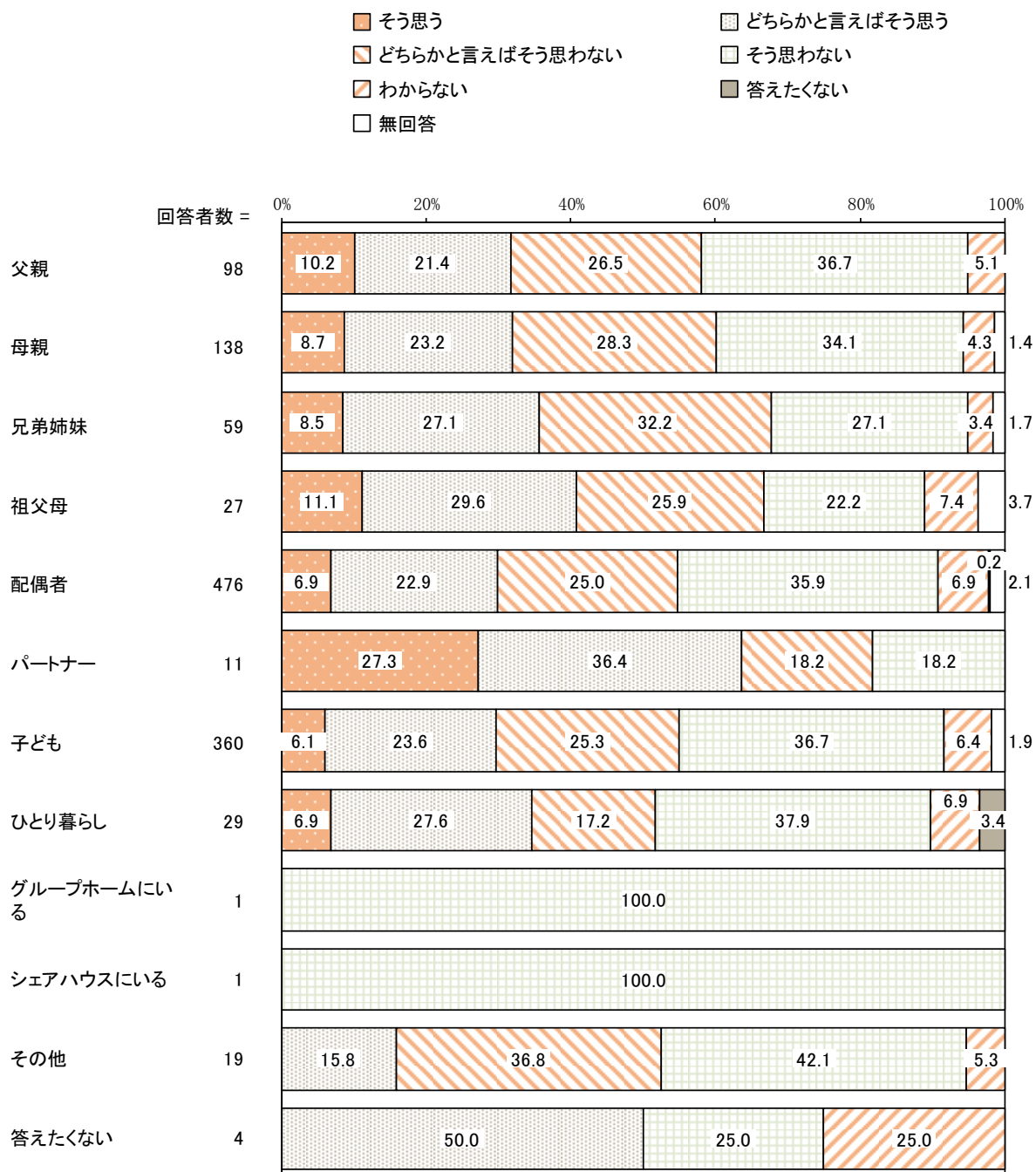
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、年代が低くなるにつれ“そう思う”と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、『40 歳代』『50 歳代』で“そう思わない”と答えた人の割合が高くなっています。



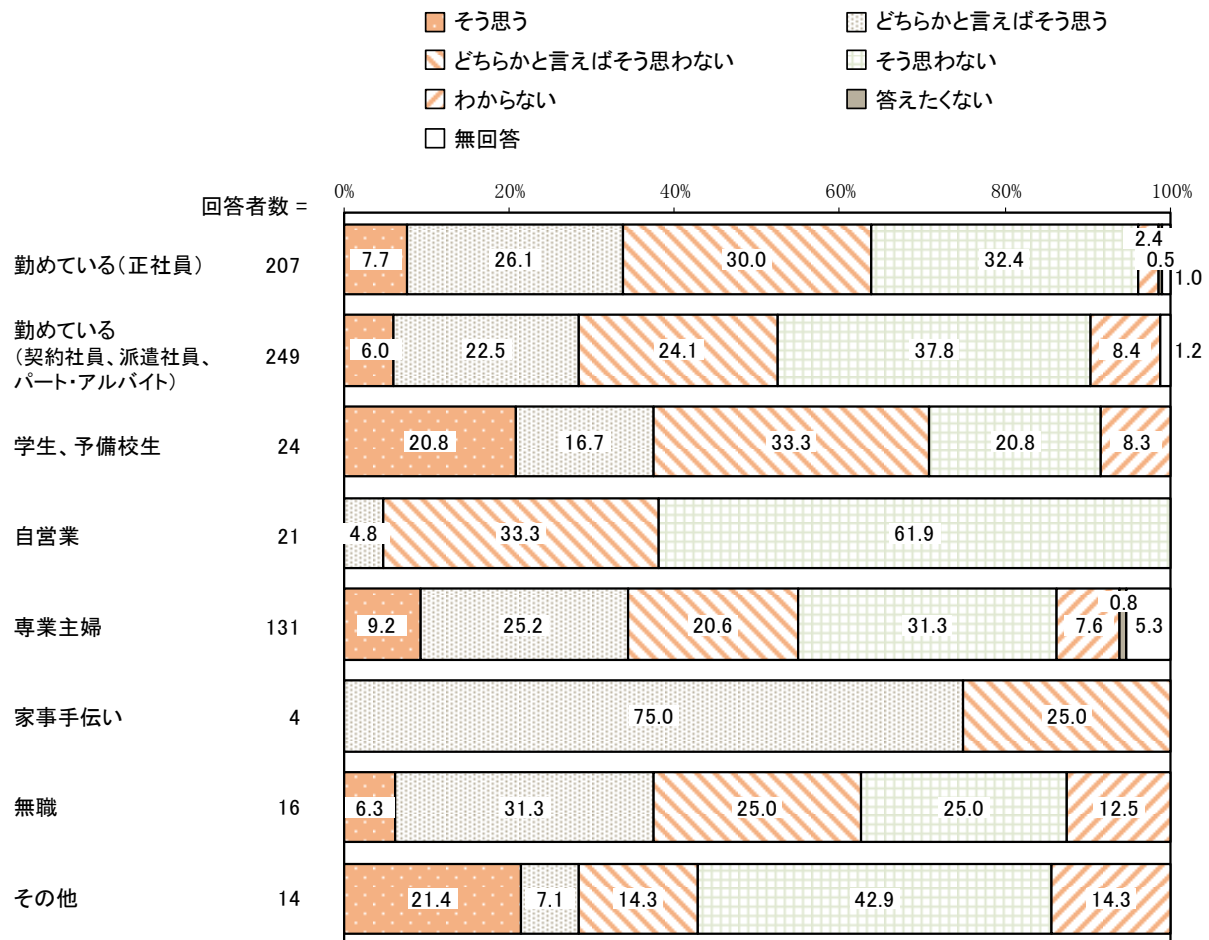
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『パートナー』と同居している人で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。



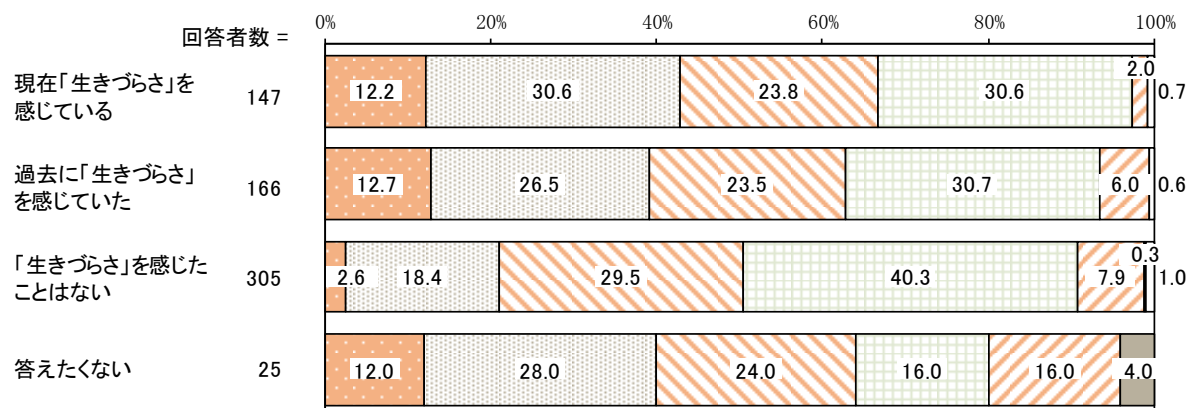
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『学生、予備校生』『無職』の人で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。また、『自営業』の人で“そう思わない”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

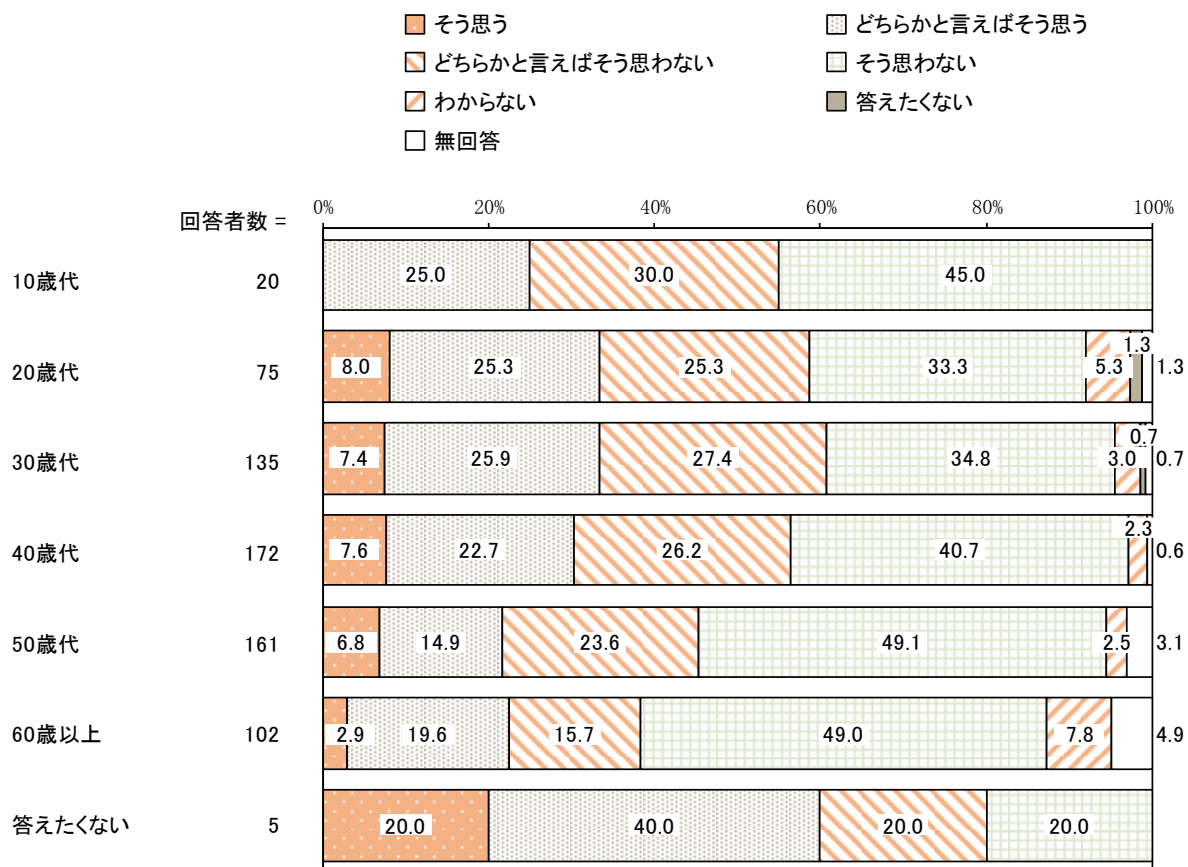
「生きづらさ」別でみると、『「生きづらさ」を感じたことはない』人に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人、『過去に「生きづらさ」を感じていた』人で“そう思う”と答えた人の割合が高く、それぞれ 42.8%、39.2%となっています。



2 対人関係に漠然とした恐怖感がある

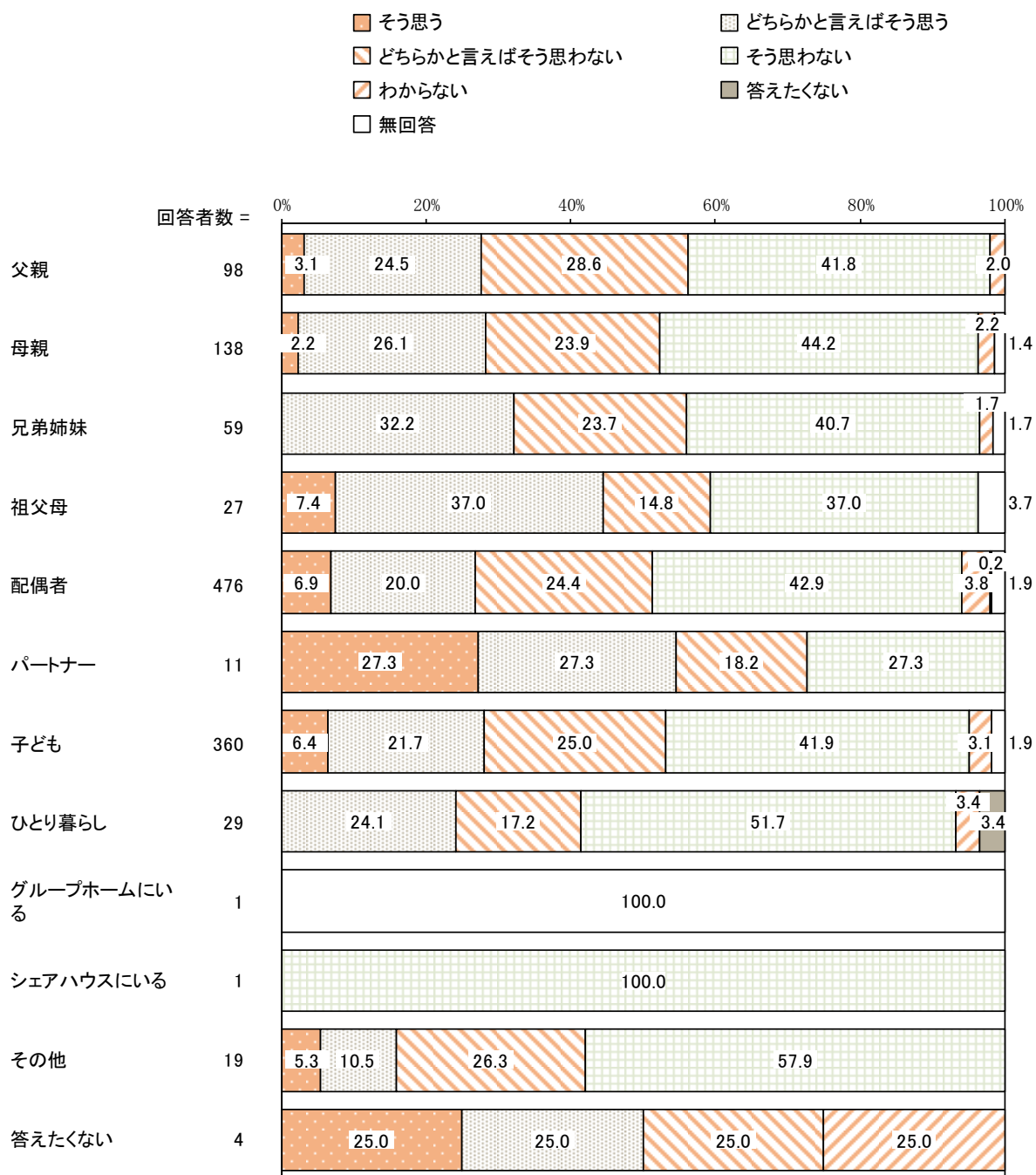
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『20 歳代』から『40 歳代』で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。また、『10 歳代』で“そう思わない”と答えた人の割合が高くなっています。



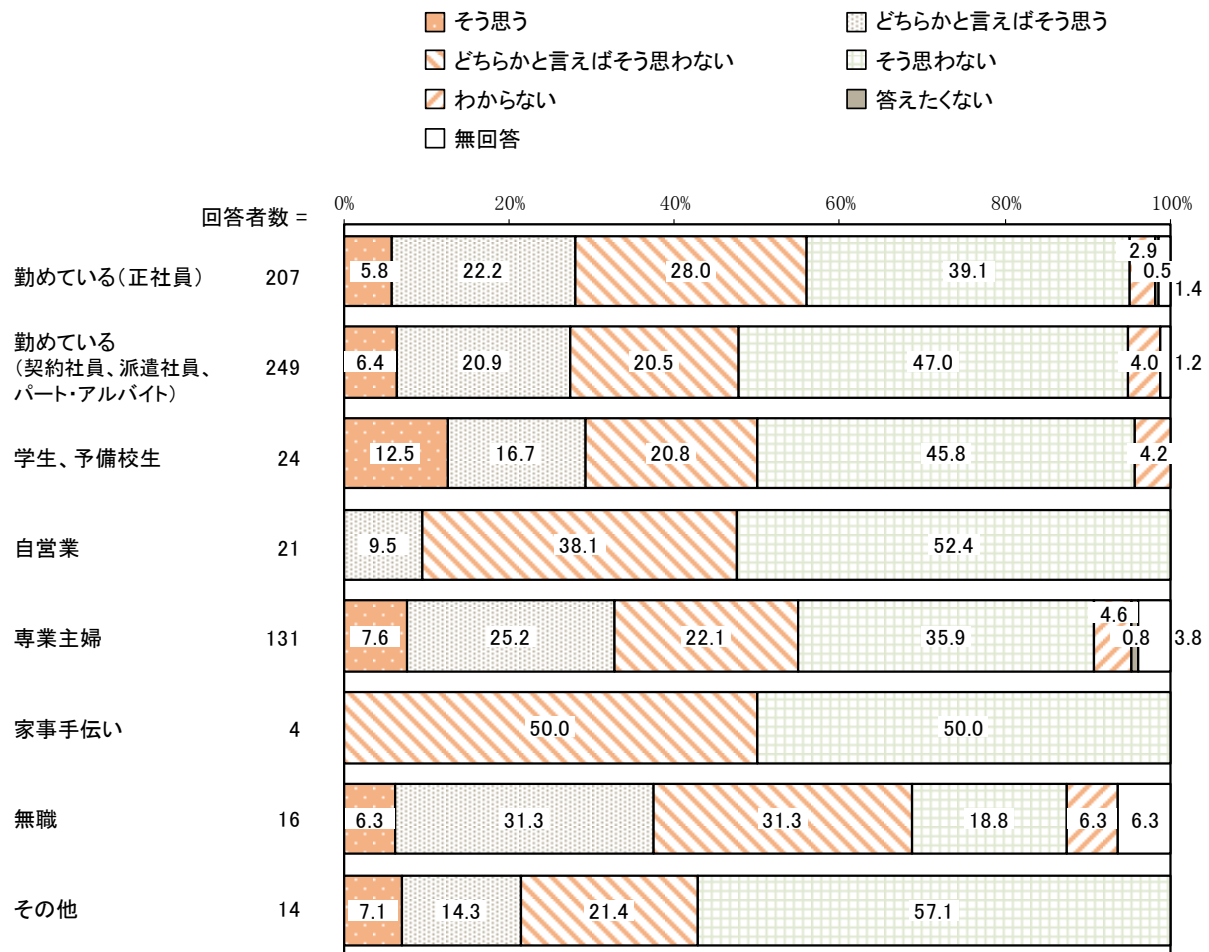
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『パートナー』と同居している人で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。また、『父親』『母親』『配偶者』と同居している人、『ひとり暮らし』の人で“そう思わない”と答えた人の割合が高くなっています。



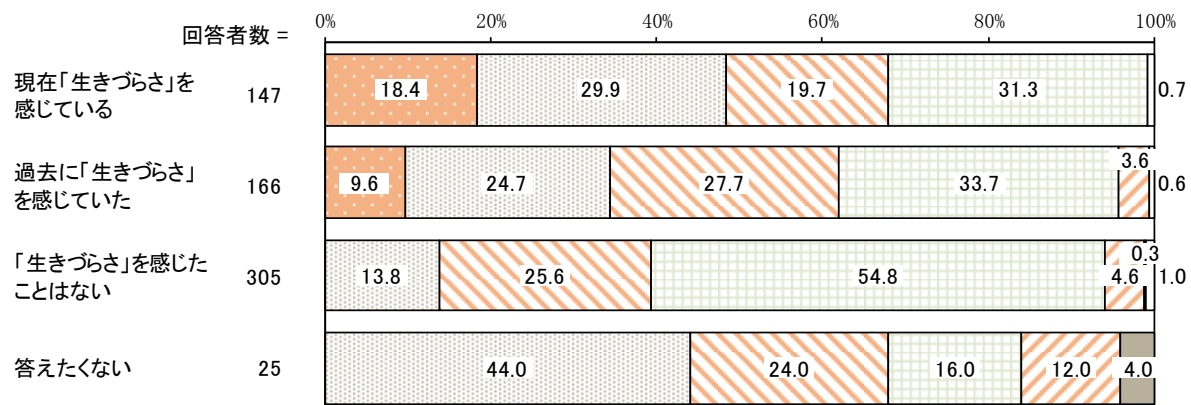
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『無職』の人で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。また、『自営業』の人で“そう思わない”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

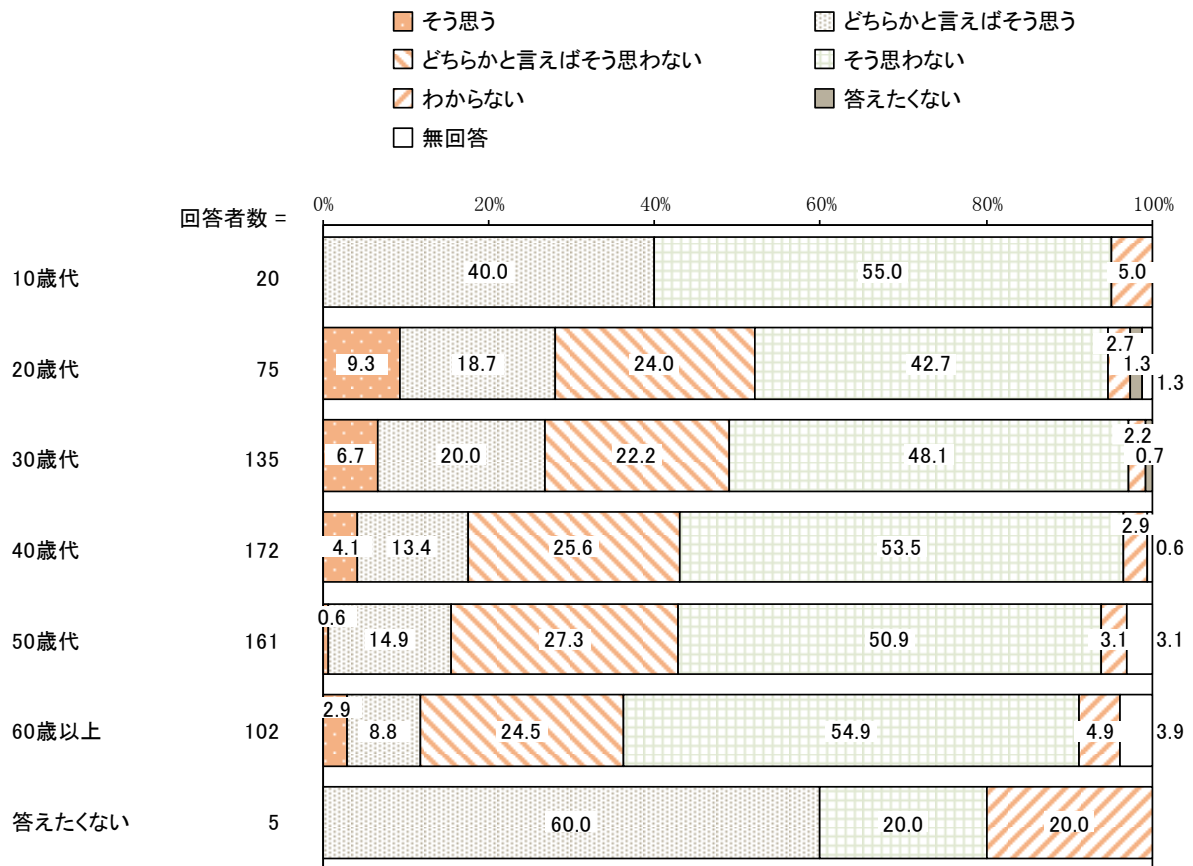
「生きづらさ」別でみると、『「生きづらさ」を感じたことはない』人に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人、『過去に「生きづらさ」を感じていた』人で“そう思う”と答えた人の割合が高く、それぞれ 48.3%、34.3%となっています。



3 男性に苦手意識がある

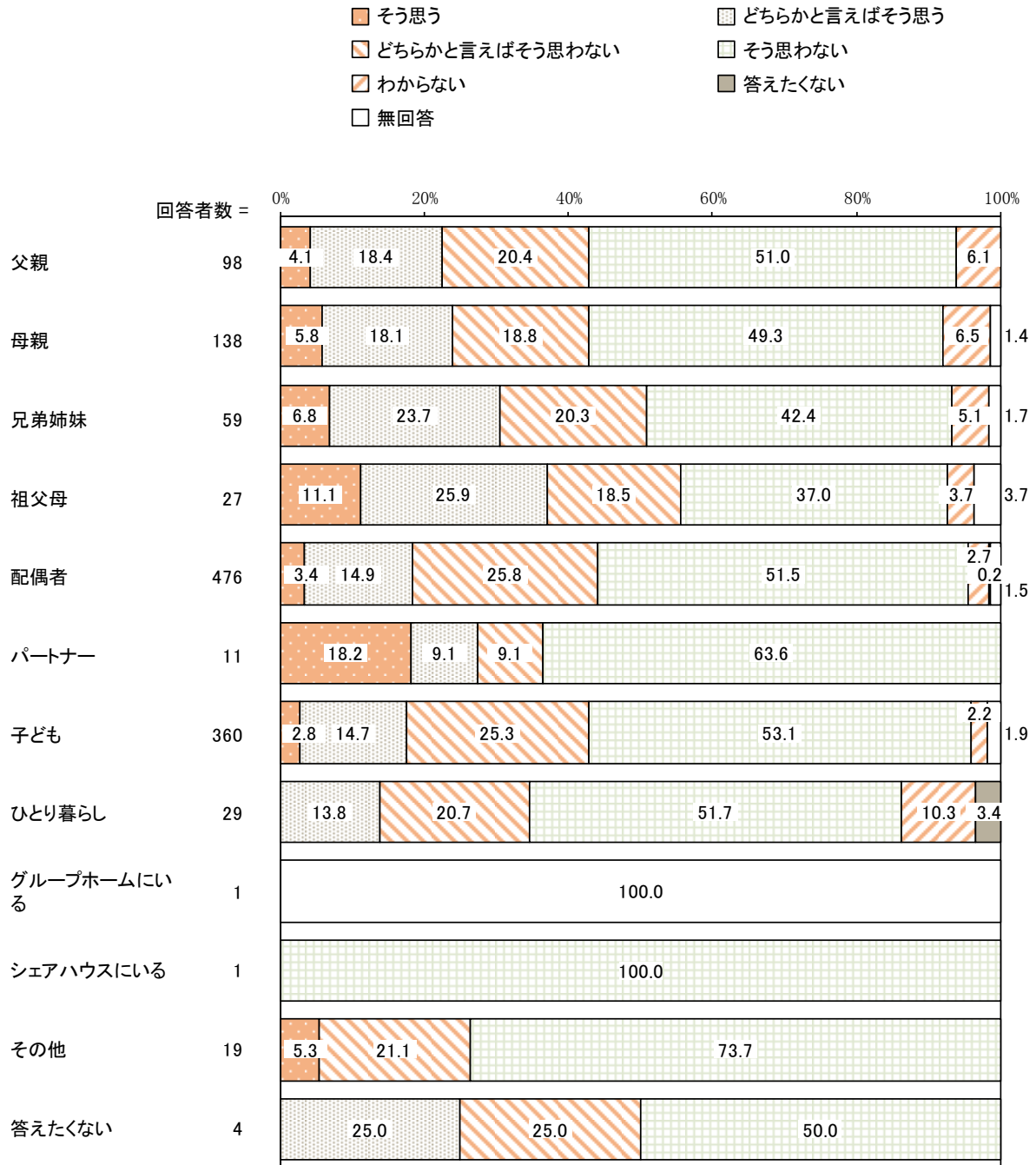
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ“そう思う”と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、『30 歳代』以下に比べ、『40 歳代』以上で“そう思わない”と答えた人の割合が高くなっています。



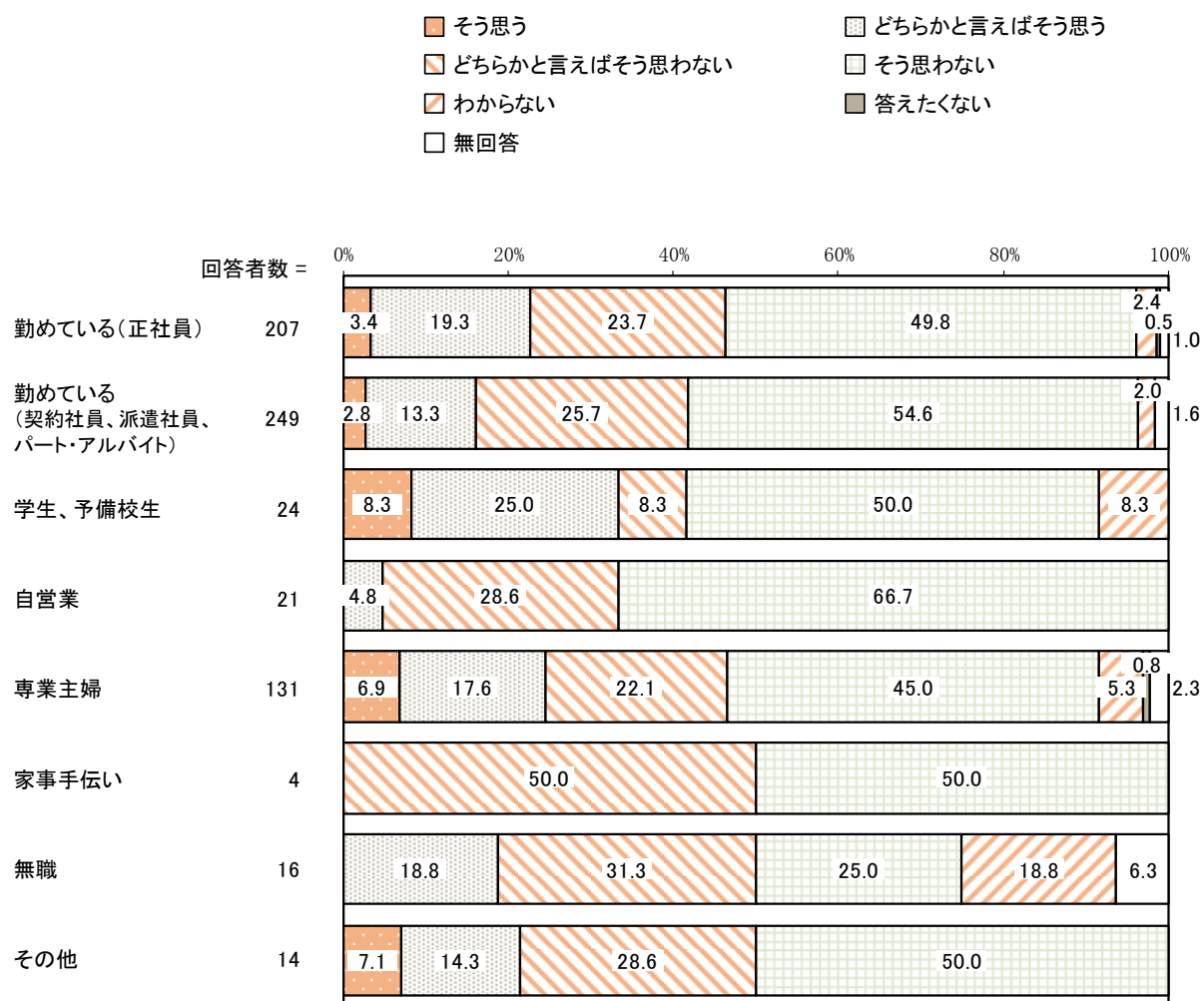
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『祖父母』と同居している人で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。また、『子ども』と同居している人で“そう思わない”と答えた人の割合が高くなっています。



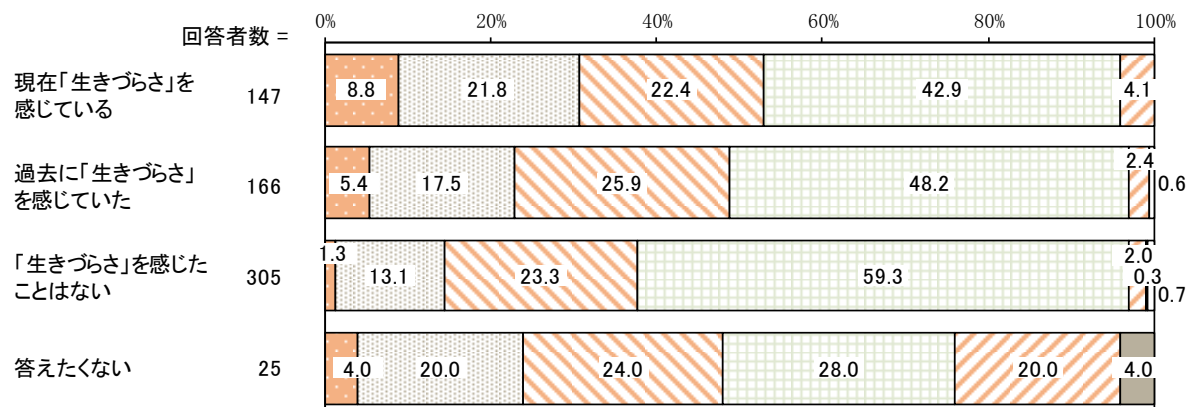
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『学生、予備校生』の人で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。また、『自営業』の人で“そう思わない”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

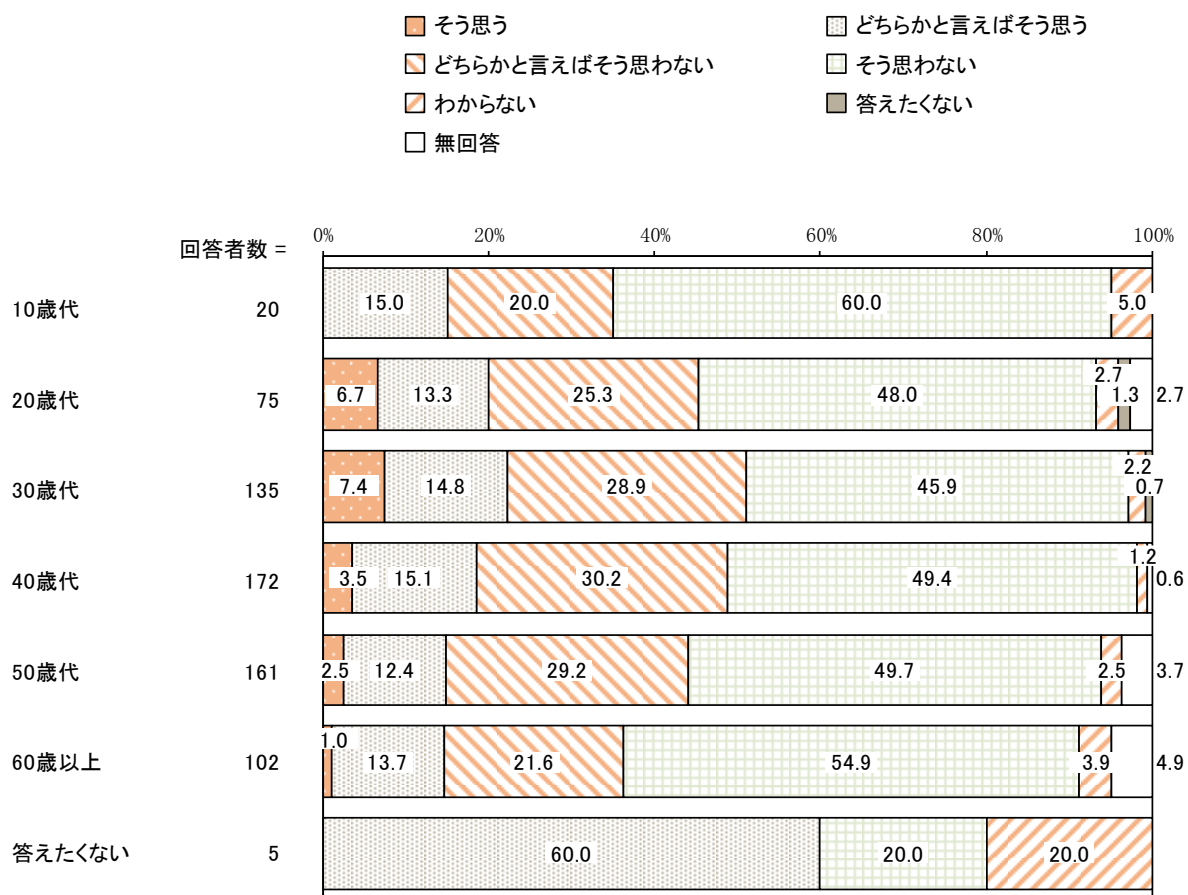
「生きづらさ」別でみると、『「生きづらさ」を感じたことはない』人に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人、『過去に「生きづらさ」を感じていた』人で“そう思う”と答えた人の割合が高く、それぞれ 30.6%、22.9%となっています。



4 女性に苦手意識がある

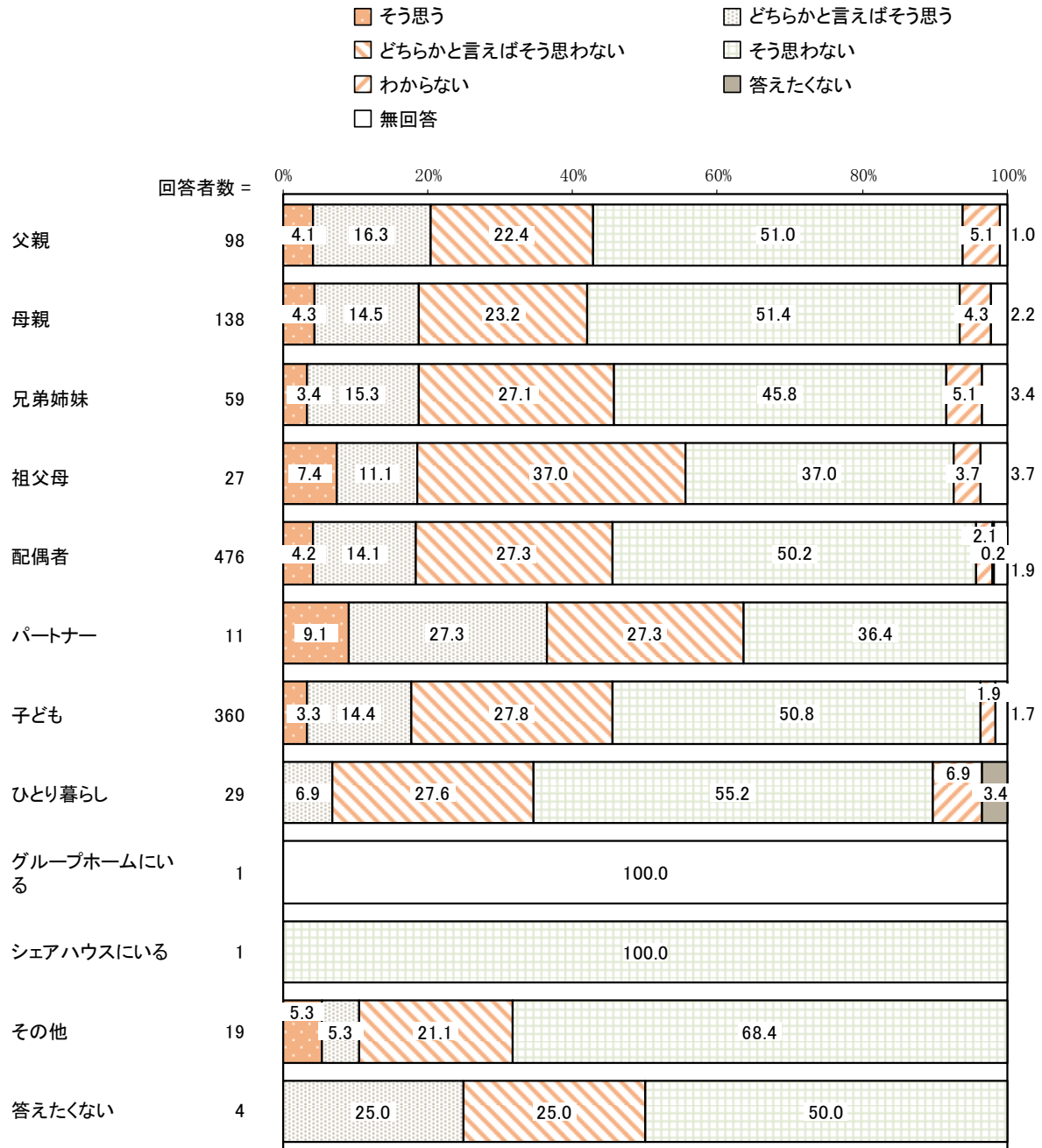
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『20 歳代』から『40 歳代』で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。



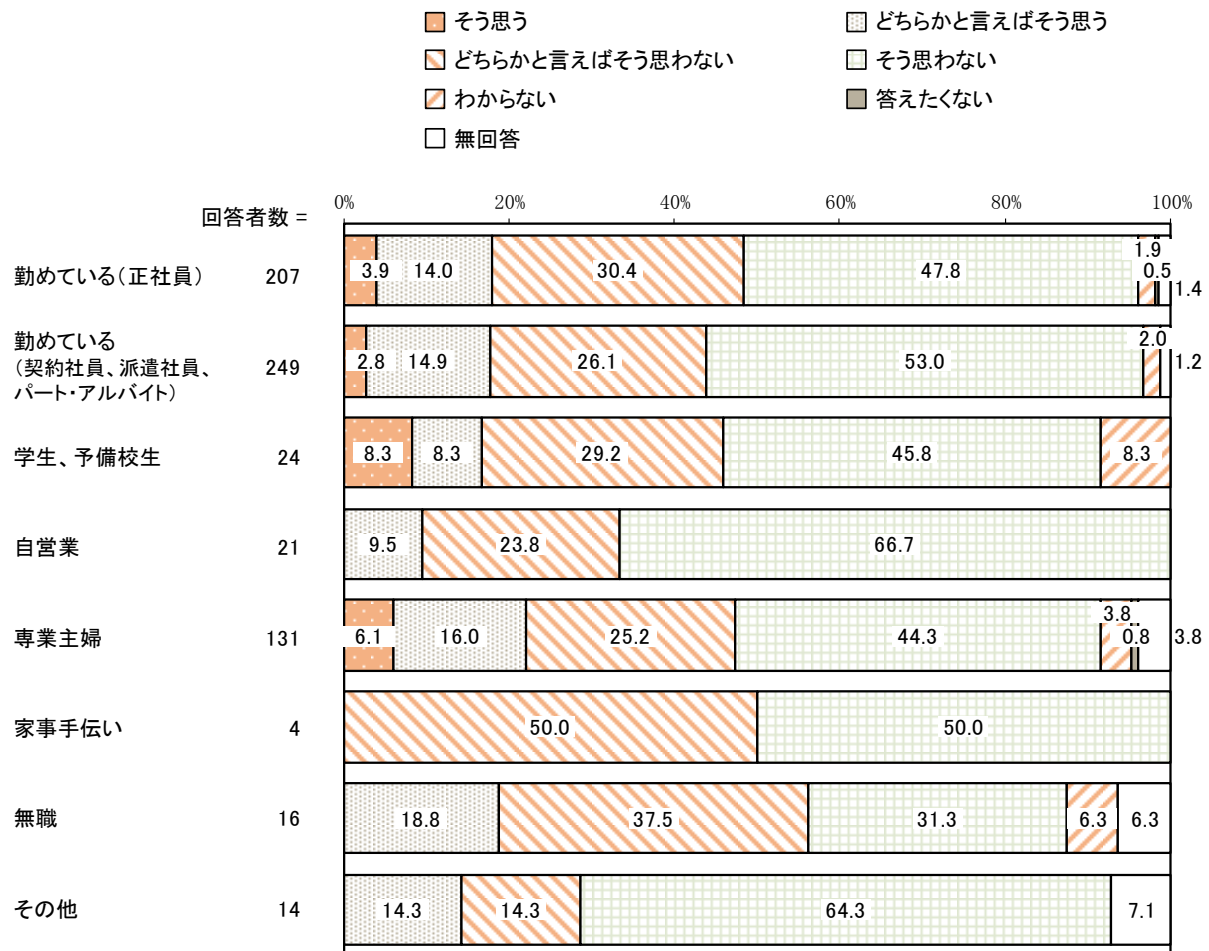
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『パートナー』と同居している人で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。また、『ひとり暮らし』の人で“そう思わない”と答えた人の割合が高くなっています。



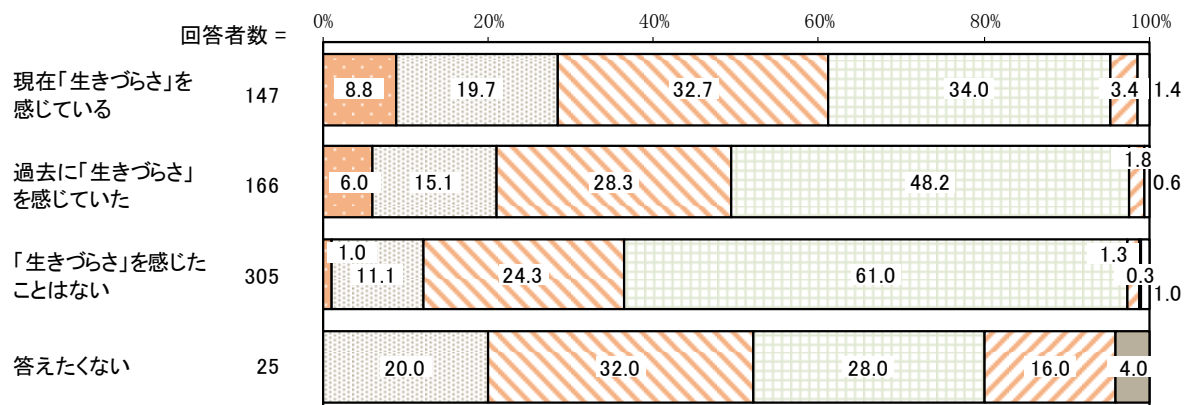
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『専業主婦』の人で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。また、『自営業』の人で“そう思わない”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

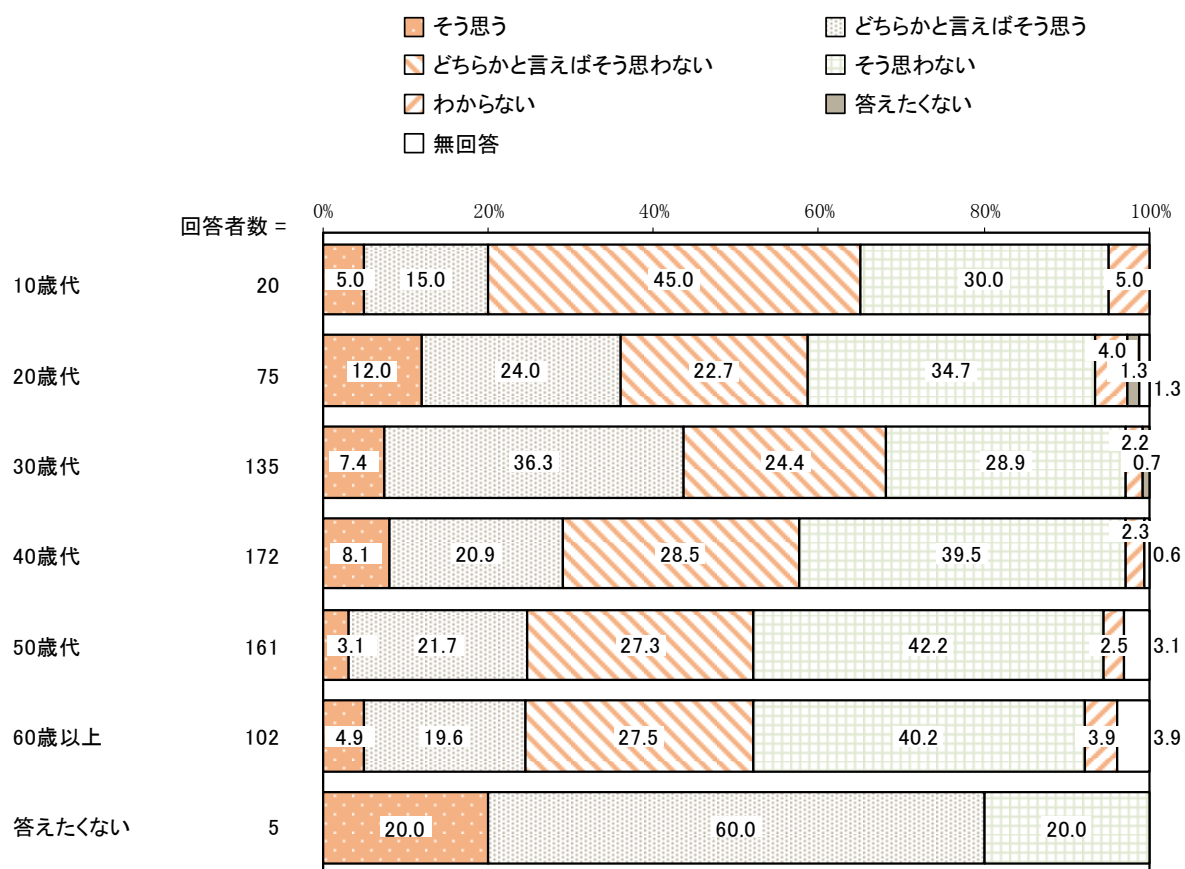
「生きづらさ」別でみると、『「生きづらさ」を感じたことはない』人に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人、『過去に「生きづらさ」を感じていた』人で“そう思う”と答えた人の割合が高く、それぞれ 28.5%、21.1%となっています。



5 人と話すのが苦手

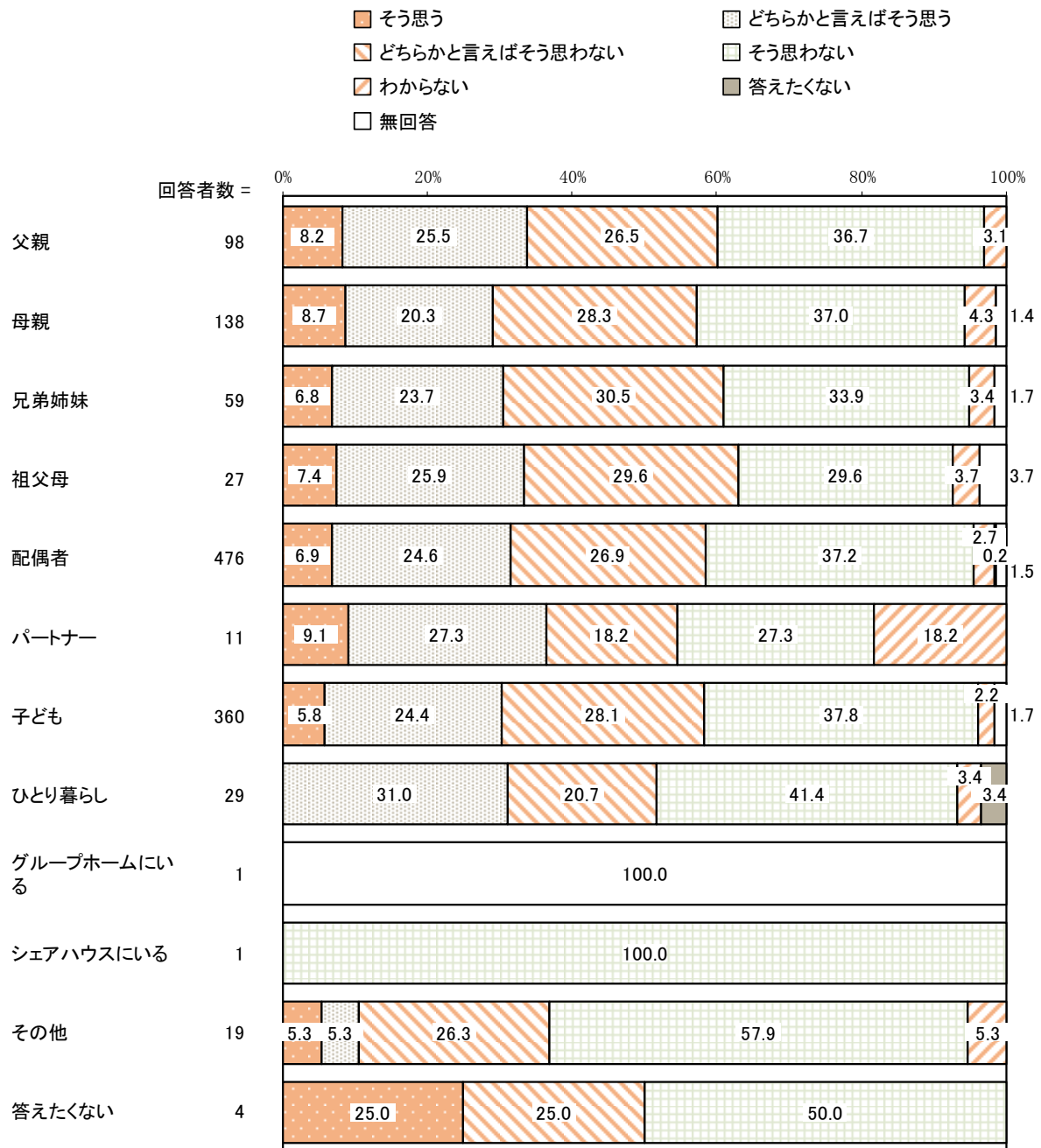
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『30 歳代』で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。
また、『10 歳代』で“そう思わない”と答えた人の割合が高くなっています。



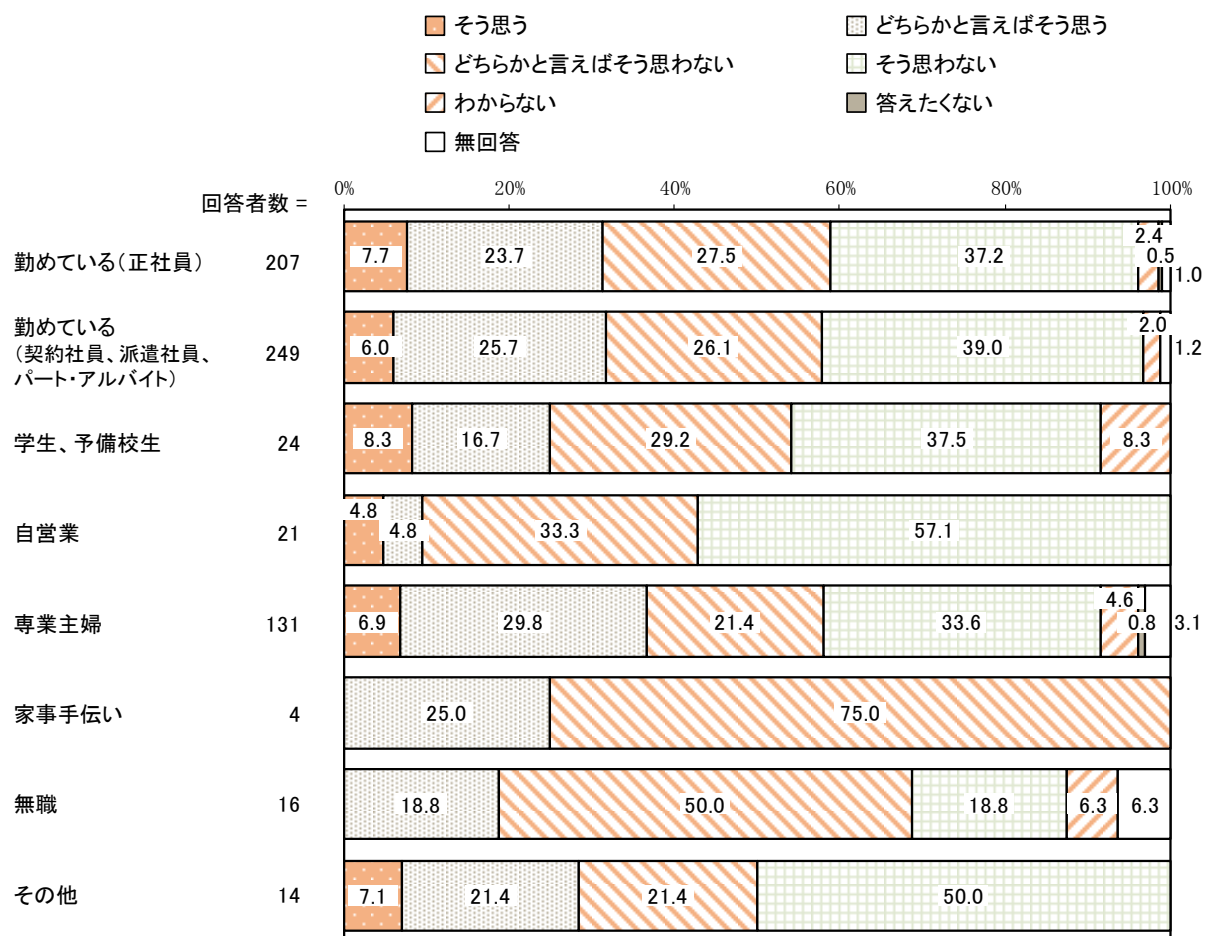
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『パートナー』と同居している人で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。



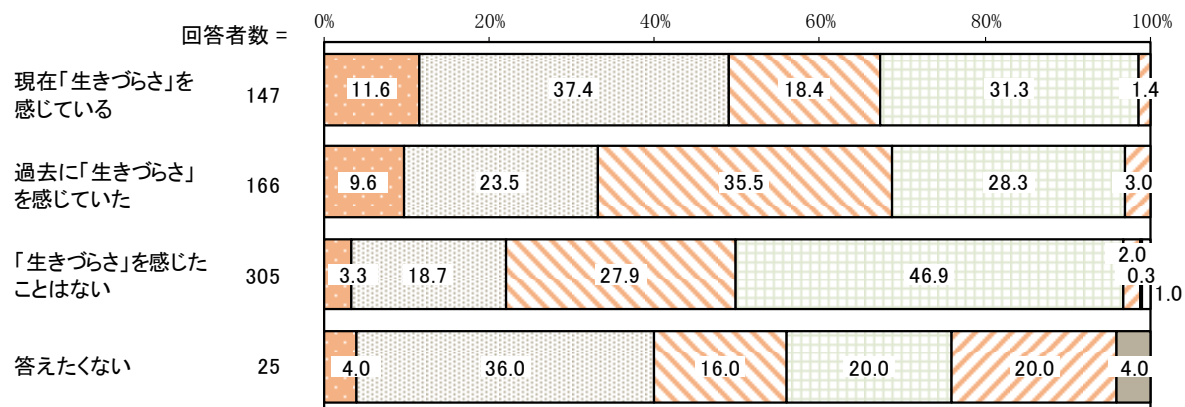
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『専業主婦』の人で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。また、『自営業』の人で“そう思わない”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

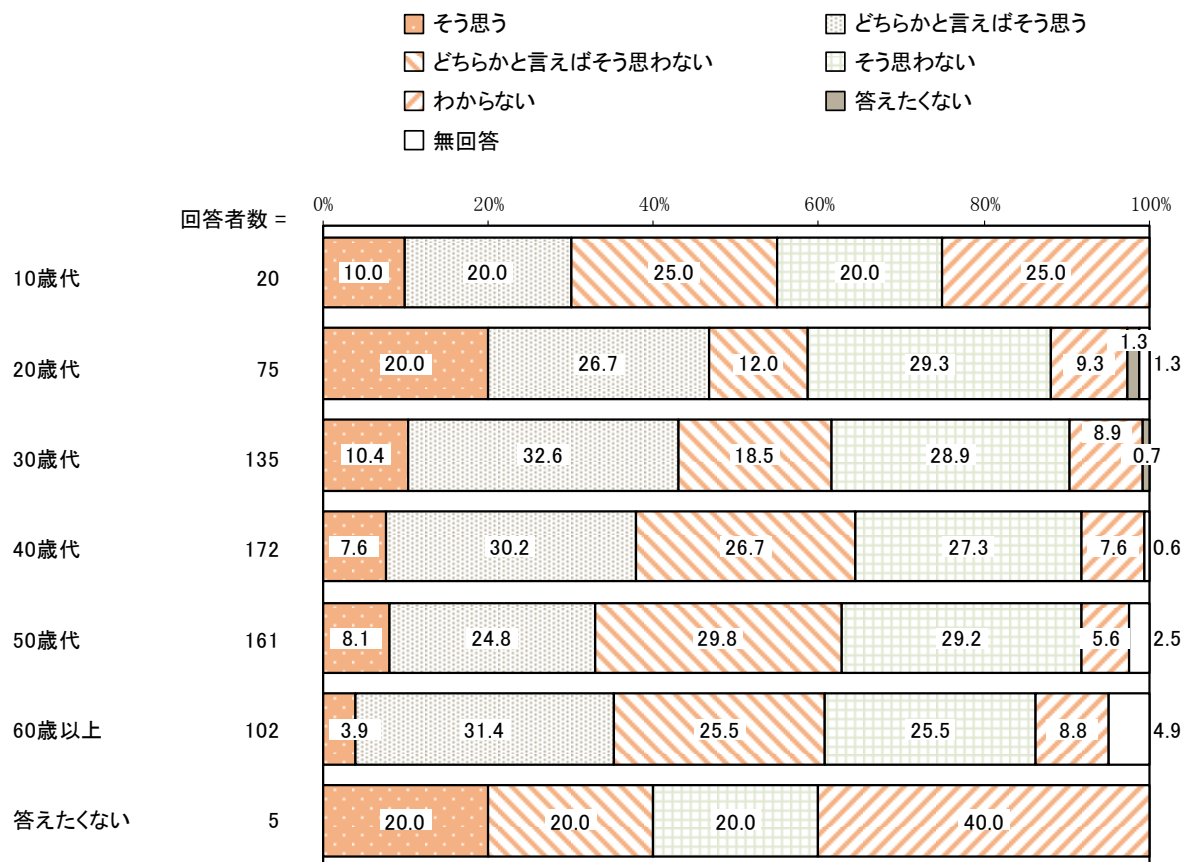
「生きづらさ」別でみると、『「生きづらさ」を感じたことはない』人に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人、『過去に「生きづらさ」を感じていた』人で“そう思う”と答えた人の割合が高く、それぞれ 49.0%、33.1%となっています。



6 今よりも人と交流したい

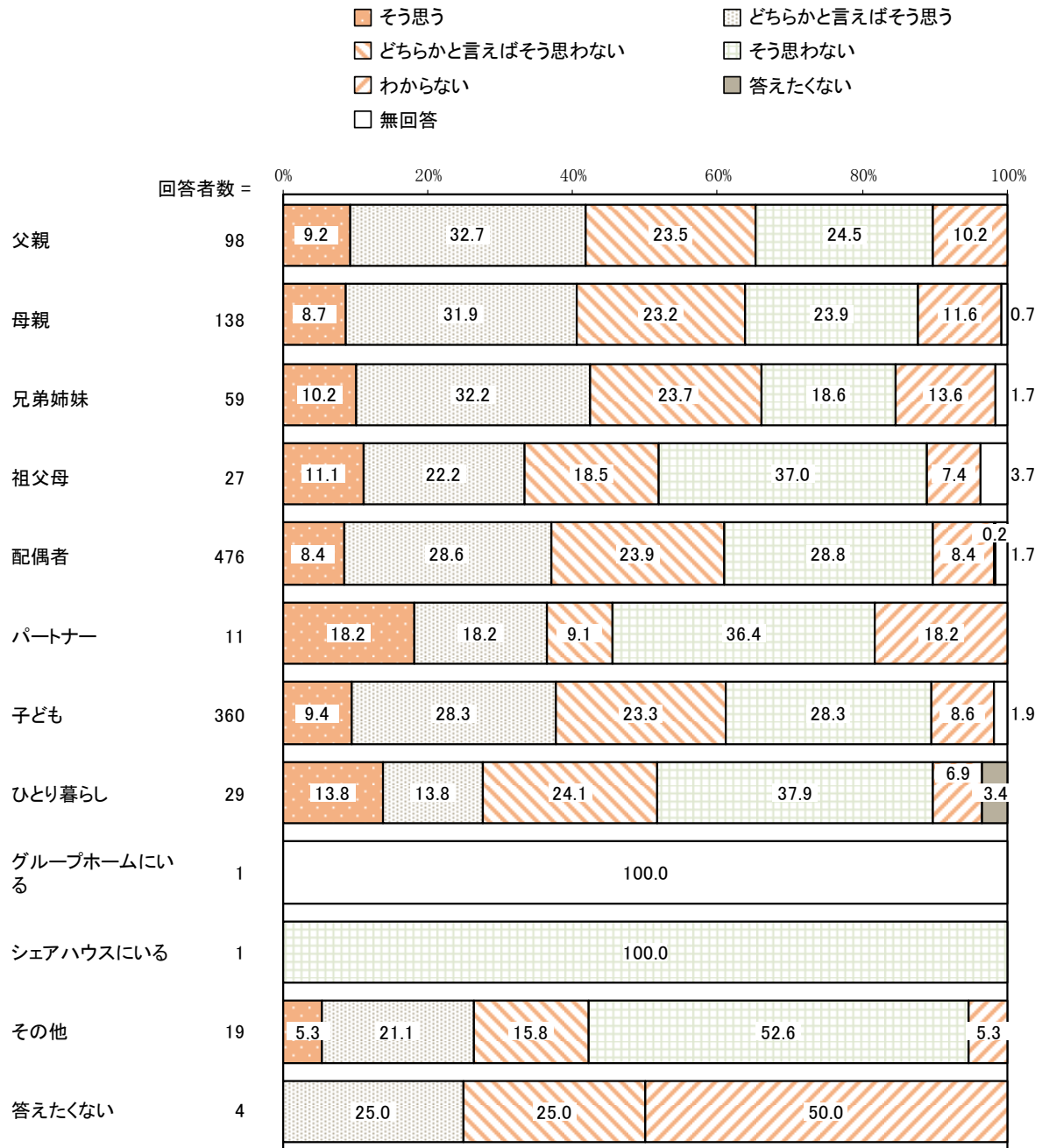
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『20 歳代』で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。
また、『50 歳代』で“そう思わない”と答えた人の割合が高くなっています。



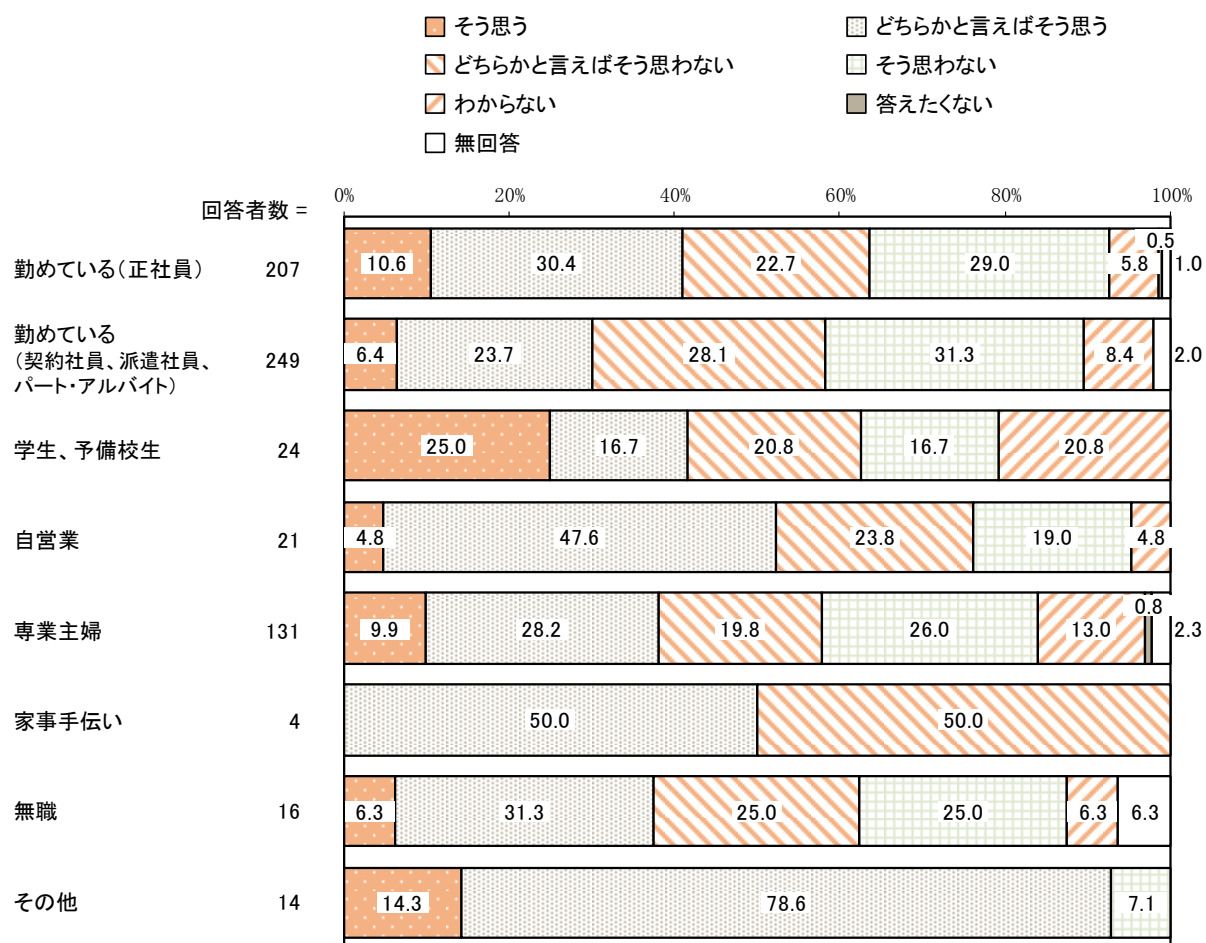
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『父親』『母親』『兄弟姉妹』と同居している人で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。また、『ひとり暮らし』の人で“そう思わない”と答えた人の割合が高くなっています。



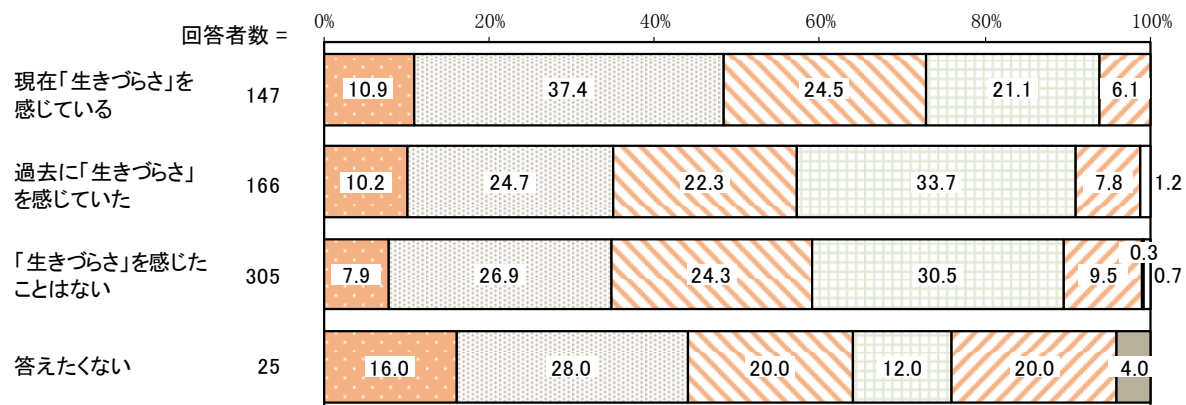
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『自営業』の人で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。また、『勤めている（契約社員、派遣社員、パート・アルバイト）』の人で“そう思わない”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

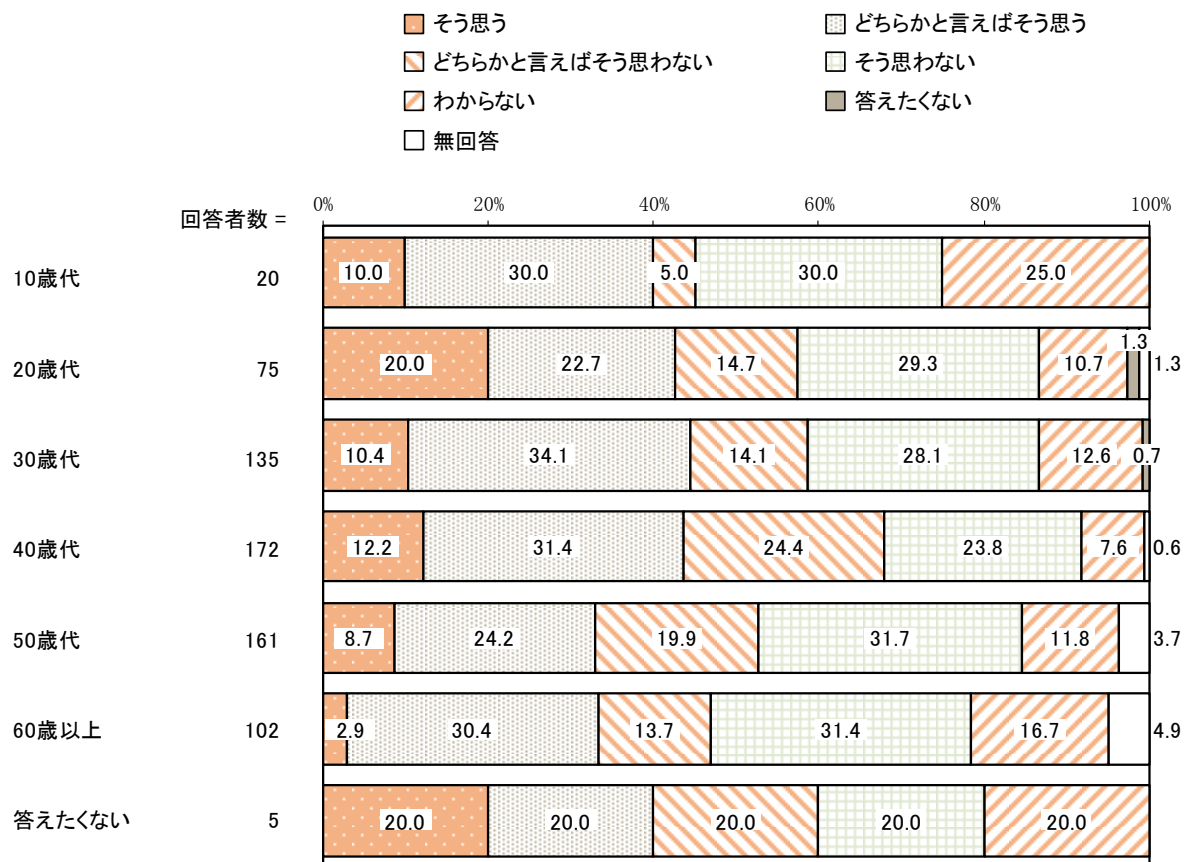
「生きづらさ」別でみると、他に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人で“そう思う”と答えた人の割合が高く、48.3%となっています。



7 似た体験・経験をした人と交流したい

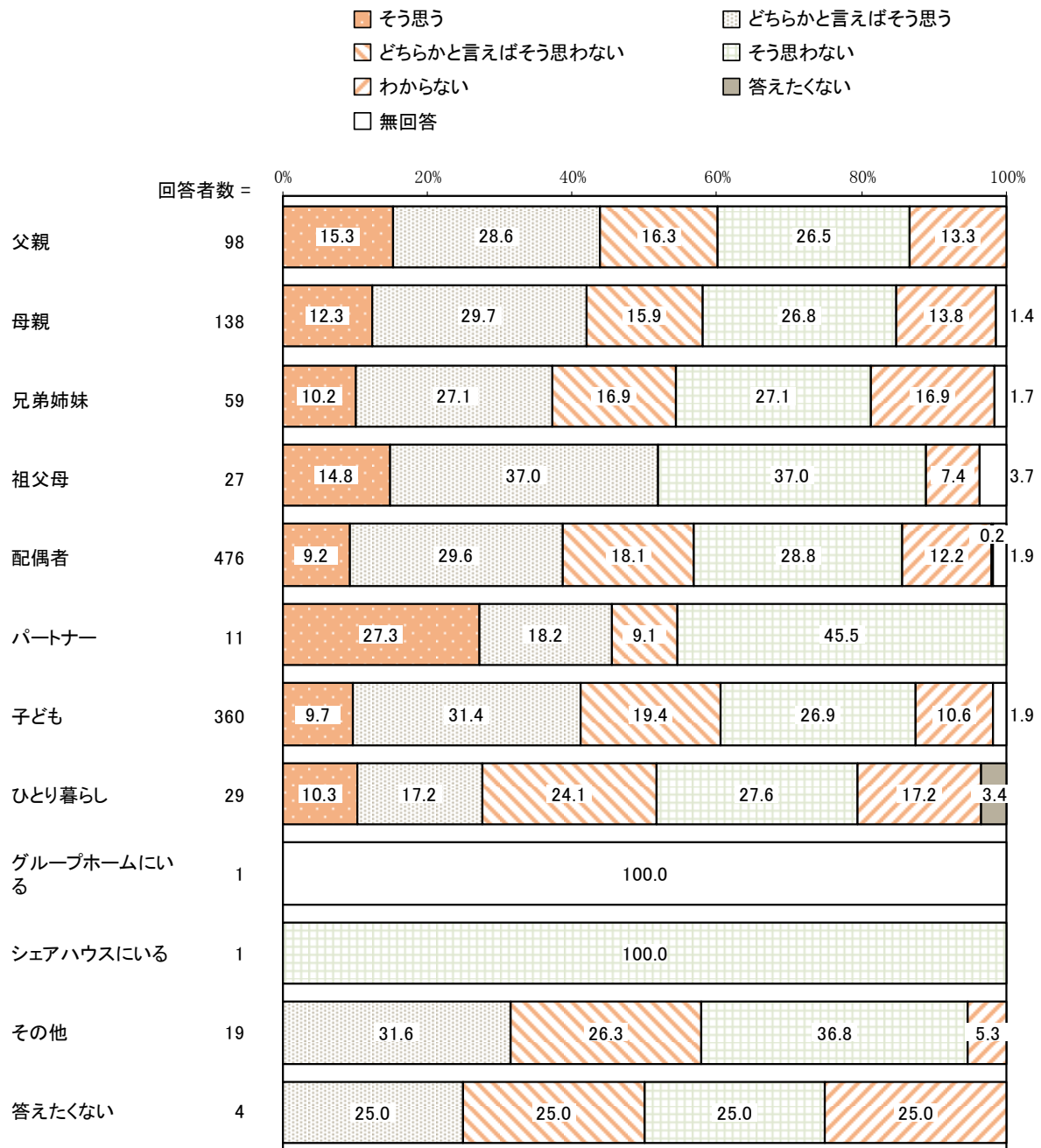
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『30 歳代』『40 歳代』で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。また、『50 歳代』で“そう思わない”と答えた人の割合が高くなっています。



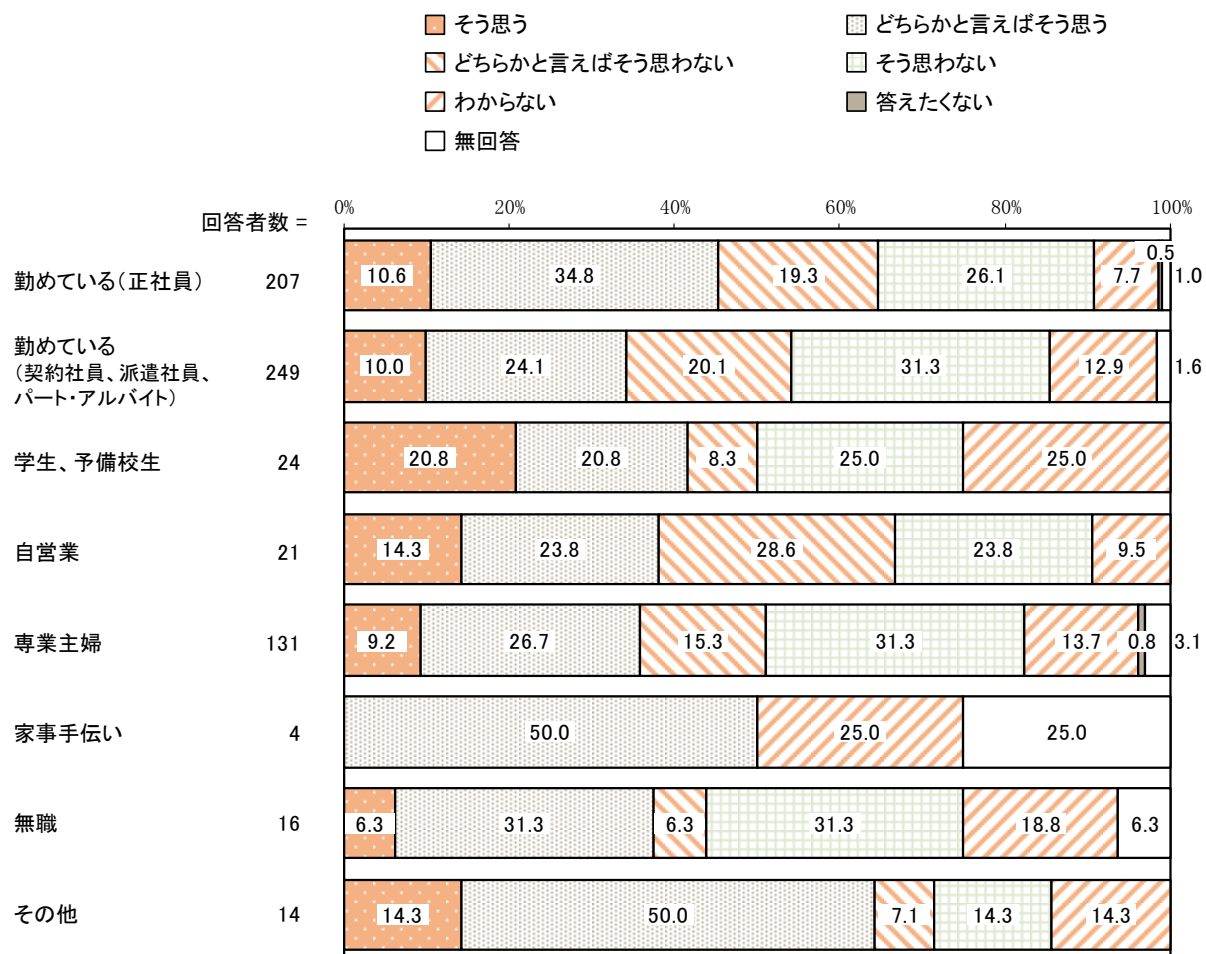
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『祖父母』と同居している人で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。



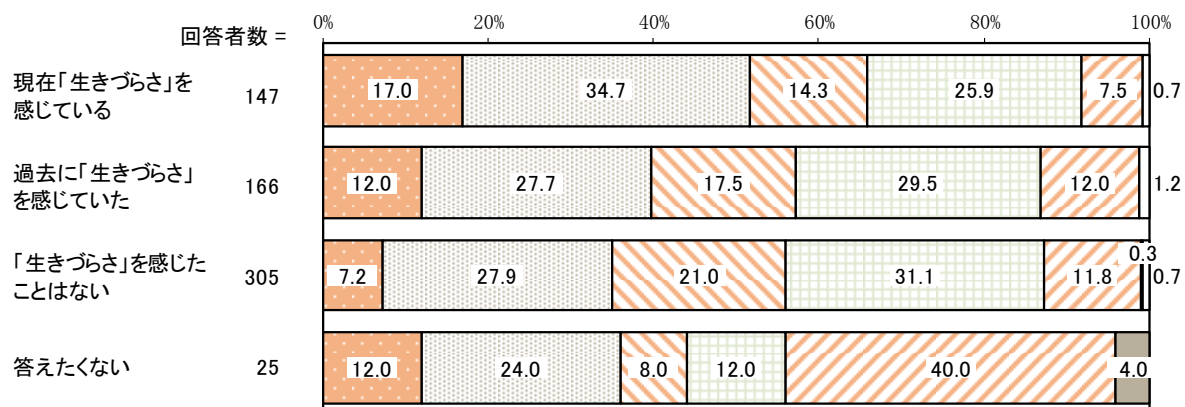
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『勤めている（正社員）』の人で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。また、『勤めている（契約社員、派遣社員、パート・アルバイト）』の人で“そう思わない”と答えた人の割合が高くなっています。



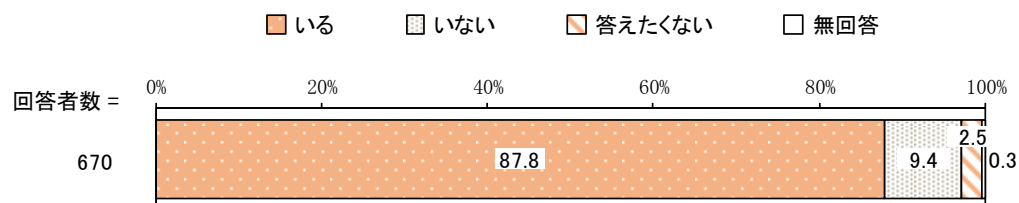
【「生きづらさ」別】

「生きづらさ」別でみると、他に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人で“そう思う”と答えた人の割合が高く、51.7%となっています。



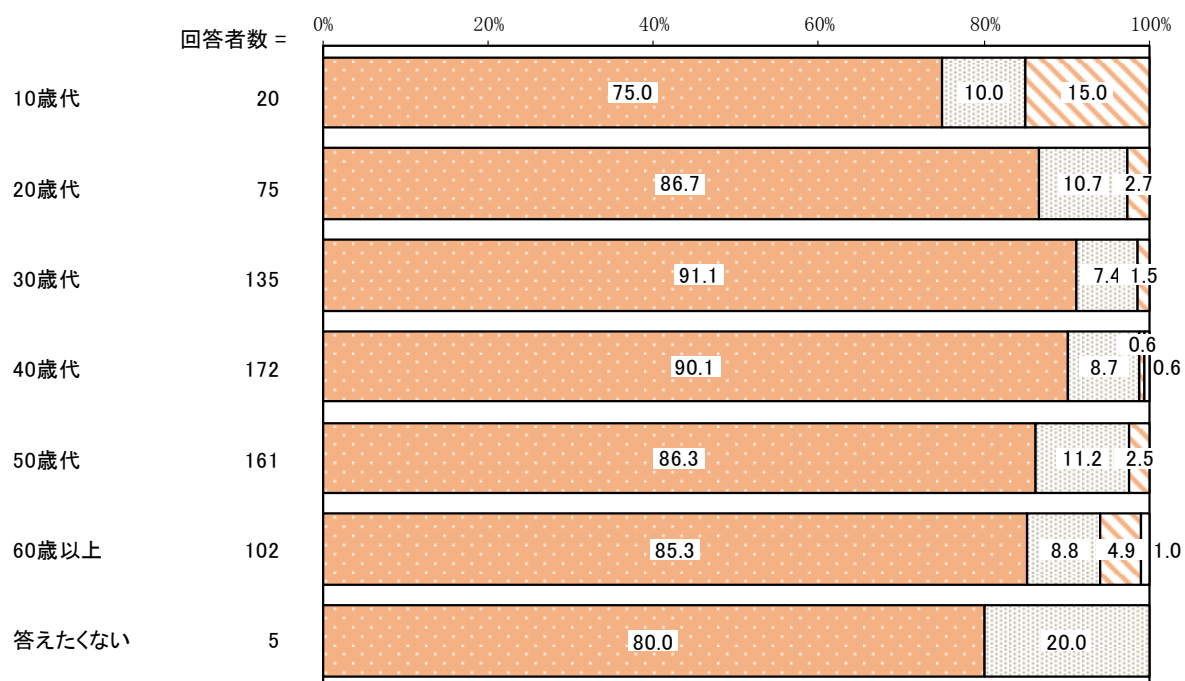
問 16－1 あなたには、重要なことや悩みを相談できる相手はいますか。
(○は1つだけ)

「いる」と答えた人の割合が 87.8%と最も高くなっています。



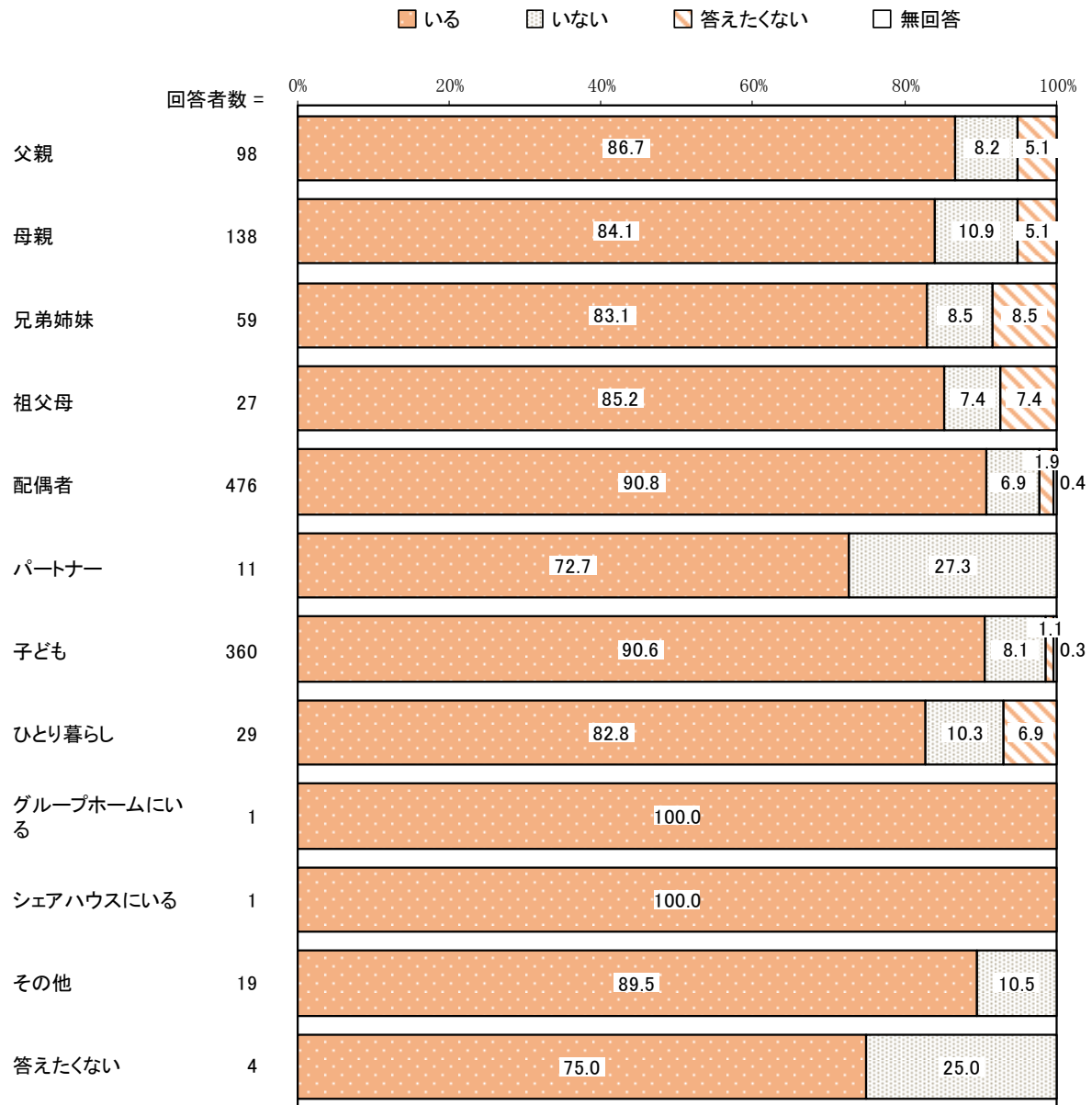
【年代別】

年代別でみると、『30 歳代』まで年代が高くなるにつれ「いる」と答えた人の割合が高く、以後年代が高くなるにつれ「いる」と答えた人の割合が低くなる傾向がみられます。



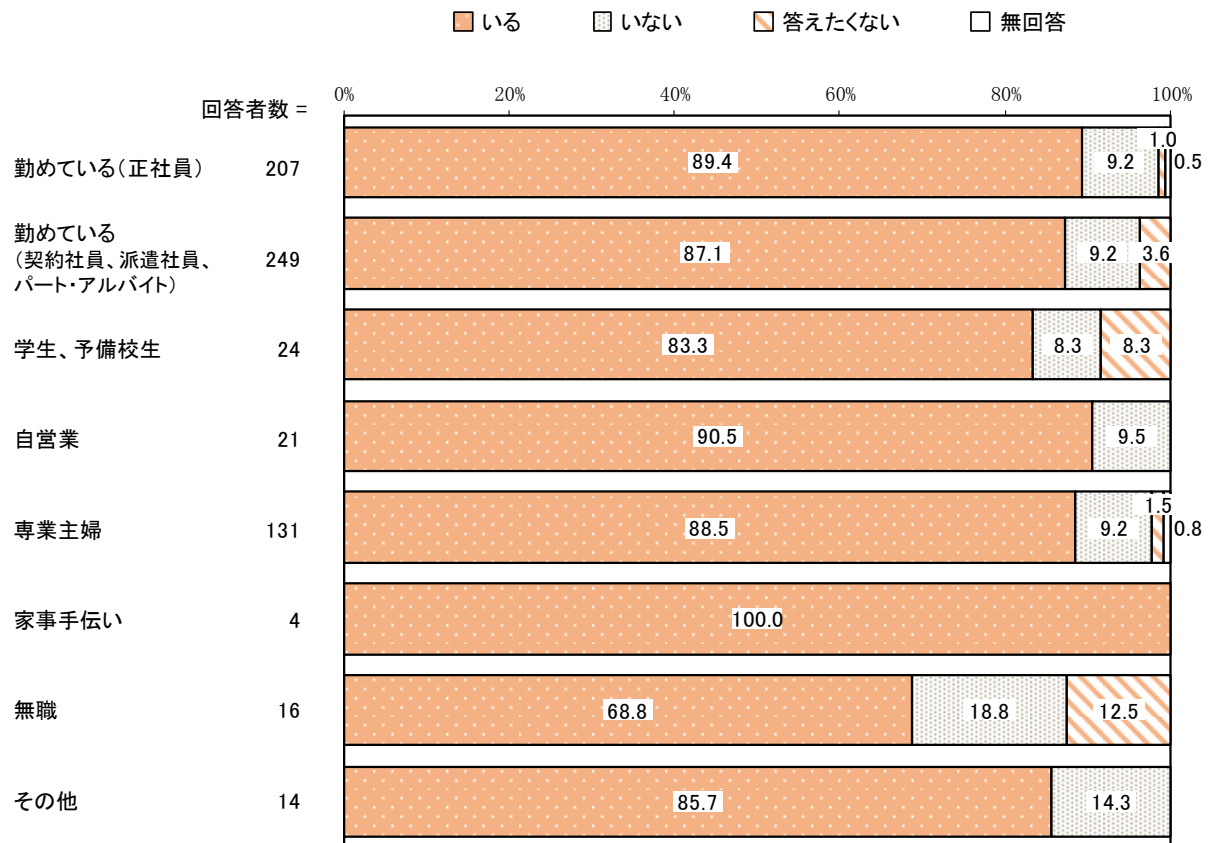
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『配偶者』『子ども』と同居している人で「いる」と答えた人の割合が高くなっています。また、『パートナー』と同居している人で「いない」と答えた人の割合が高くなっています。



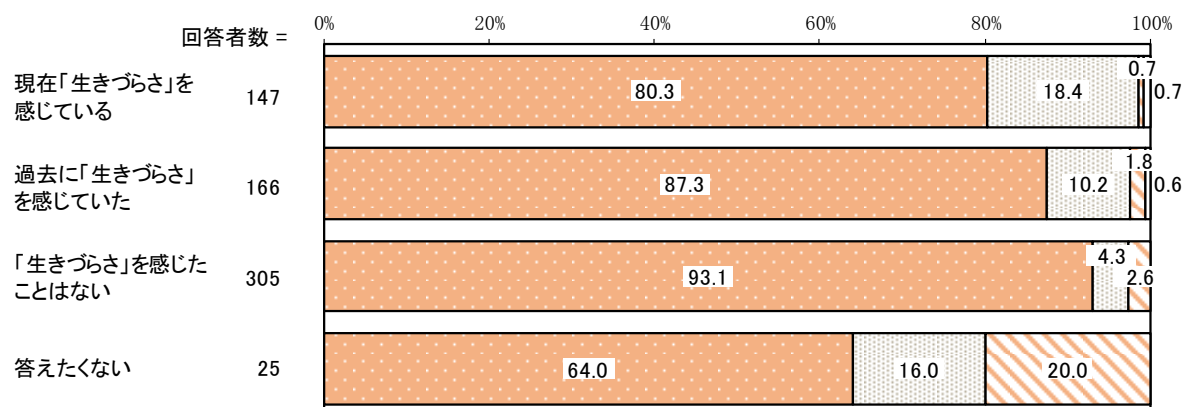
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『無職』の人で「いない」と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

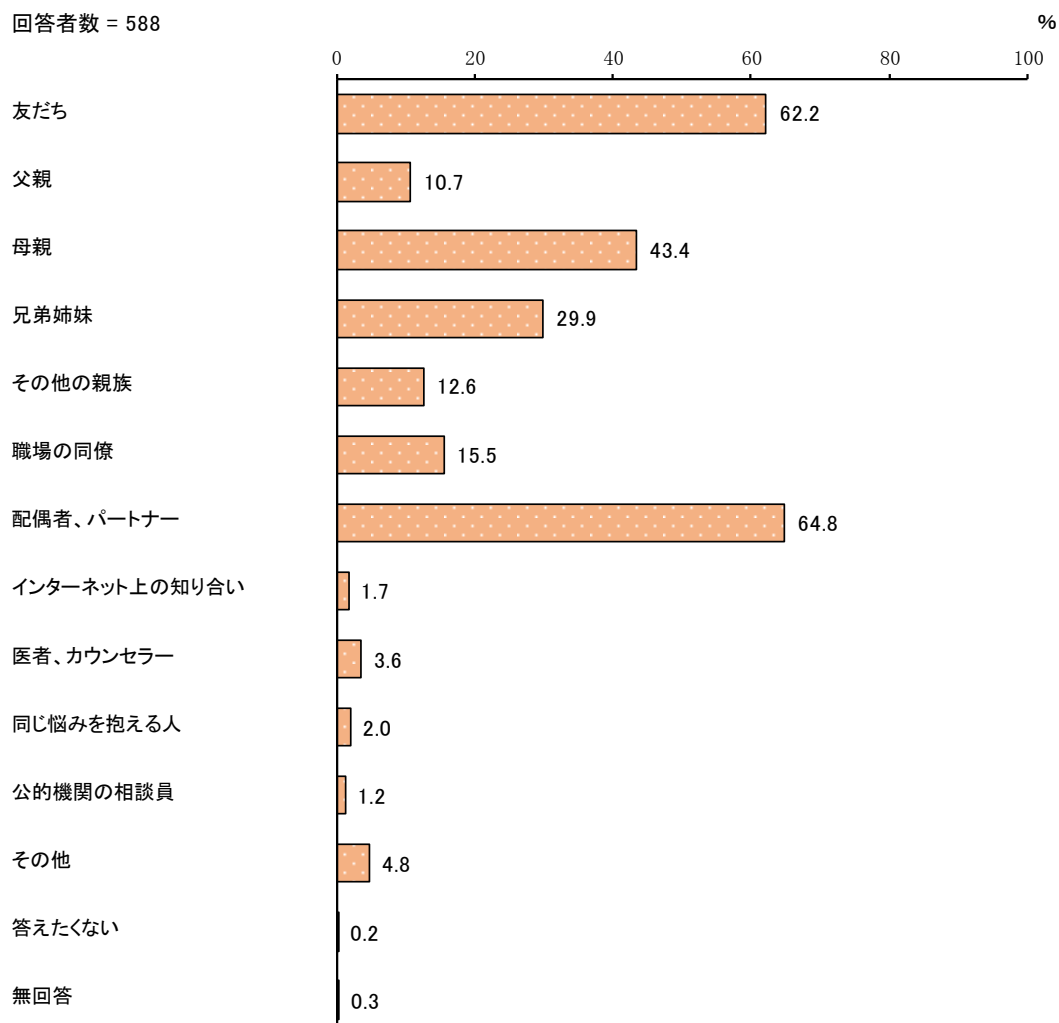
「生きづらさ」別でみると、他に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人で「いない」と答えた人の割合が高くなっています。



問 16－ 1 で「いる」を選んだ方にお聞きします。

問 16－ 2 あなたが相談できる相手はあなたとどのような関係にありますか。
(○はいくつでも可)

「配偶者、パートナー」と答えた人の割合が 64.8%と最も高く、次いで「友だち」と答えた人の割合が 62.2%、「母親」と答えた人の割合が 43.4%となっています。



【年代別】

年代別でみると、『20 歳代』以上で年代が下がるにつれ「母親」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、『40 歳代』で「職場の同僚」と答えた人の割合が、『30 歳代』『40 歳代』『60 歳以上』で「配偶者、パートナー」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	友だち	父親	母親	兄弟姉妹	その他の親族	職場の同僚	配偶者、 パートナー	知り合い インターネット上の	医者、 カウンセラー	同じ悩みを抱える人	公的機関の 相談員	その他	答えたくない	無回答
10 歳代	15	66.7	13.3	60.0	26.7	—	—	6.7	6.7	6.7	—	—	—	—	—
20 歳代	65	72.3	15.4	70.8	24.6	6.2	12.3	43.1	1.5	4.6	1.5	1.5	7.7	—	—
30 歳代	123	63.4	15.4	61.8	34.1	8.1	13.8	70.7	2.4	2.4	1.6	1.6	2.4	—	—
40 歳代	155	60.6	14.8	49.7	21.3	6.5	28.4	71.6	1.3	2.6	1.9	1.3	2.6	—	—
50 歳代	139	58.3	6.5	28.8	33.8	18.0	13.7	66.2	2.2	2.9	2.9	0.7	6.5	0.7	1.4
60 歳以上	87	59.8	—	6.9	37.9	27.6	3.4	69.0	—	6.9	2.3	1.1	8.0	—	—
答えたくない	4	100.0	—	25.0	25.0	25.0	—	50.0	—	—	—	—	—	—	—

【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『配偶者』と同居している人で「配偶者、パートナー」と答えた人の割合が高くなっています。また、『兄弟姉妹』と同居している人で「母親」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	友だち	父親	母親	兄弟姉妹	その他の親族	職場の同僚	配偶者、 パートナー	知り合い インターネット上の	医者、 カウンセラー	同じ悩みを抱える人	公的機関の 相談員	その他	答えたくない	無回答
父親	85	71.8	12.9	58.8	24.7	4.7	18.8	21.2	—	4.7	1.2	1.2	3.5	—	—
母親	116	65.5	9.5	55.2	26.7	7.8	15.5	25.0	2.6	4.3	2.6	1.7	6.9	—	—
兄弟姉妹	49	65.3	10.2	65.3	32.7	10.2	14.3	14.3	4.1	2.0	—	—	10.2	—	—
祖父母	23	60.9	17.4	60.9	17.4	17.4	17.4	39.1	8.7	—	4.3	—	4.3	—	—
配偶者	432	60.6	9.3	40.5	29.6	12.7	16.0	81.5	1.2	2.3	1.9	0.7	3.5	0.2	0.5
パートナー	8	50.0	12.5	50.0	25.0	12.5	12.5	100.0	—	25.0	—	—	—	—	—
子ども	326	61.3	10.4	44.5	27.9	12.9	19.0	71.5	1.5	0.9	1.8	1.2	4.3	0.3	0.6
ひとり暮らし	24	70.8	25.0	41.7	33.3	25.0	12.5	20.8	—	12.5	4.2	—	8.3	—	—
グループホームにいる	1	—	100.0	100.0	100.0	—	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—
シェアハウスにいる	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	17	52.9	5.9	35.3	29.4	11.8	11.8	47.1	—	—	—	—	—	5.9	5.9
答えたくない	3	66.7	—	66.7	66.7	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—

【就学・就労状況別】

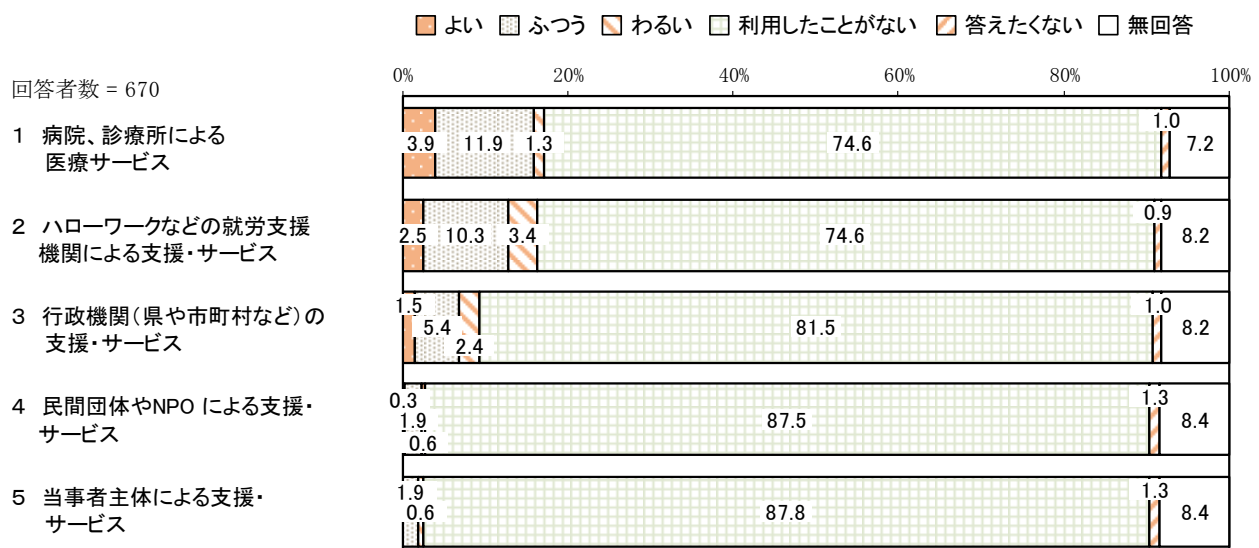
就学・就労状況別でみると、他に比べ、『専業主婦』で「配偶者、パートナー」と答えた人の割合が高くなっています。また、『勤めている（正社員）』で「父親」「母親」と答えた人の割合が、『無職』で「医者、カウンセラー」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	友だち	父親	母親	兄弟姉妹	その他の親族	職場の同僚	配偶者、 パートナー	知り合い インターネット上の	医者、 カウンセラー	同じ悩みを抱える人	公的機関の 相談員	その他	答えたくない	無回答
勤めている(正社員)	185	67.6	17.3	57.8	31.4	11.4	21.1	57.8	1.1	1.6	1.6	—	4.9	—	—
勤めている(契約社員、 派遣社員、パート・アルバイト)	217	60.8	6.9	32.7	29.5	14.7	19.8	67.3	1.8	3.7	2.3	0.9	4.1	—	0.5
学生、予備校生	20	75.0	15.0	50.0	15.0	—	—	10.0	5.0	—	—	5.0	10.0	—	—
自営業	19	73.7	15.8	52.6	26.3	26.3	15.8	73.7	—	—	5.3	—	5.3	—	5.3
専業主婦	116	52.6	6.9	37.1	29.3	10.3	1.7	87.9	1.7	3.4	0.9	0.9	4.3	0.9	—
家事手伝い	4	75.0	—	25.0	50.0	—	—	25.0	—	—	—	—	—	—	—
無職	11	54.5	18.2	36.4	45.5	18.2	9.1	18.2	—	27.3	—	9.1	—	—	—
その他	12	66.7	—	41.7	25.0	16.7	8.3	41.7	8.3	25.0	16.7	16.7	16.7	—	—

問 17－1 あなたが「ひきこもり」や「生きづらさ」に関して、これまでに利用した支援・サービスについてどう思いますか（それぞれの項目で○は1つだけ）

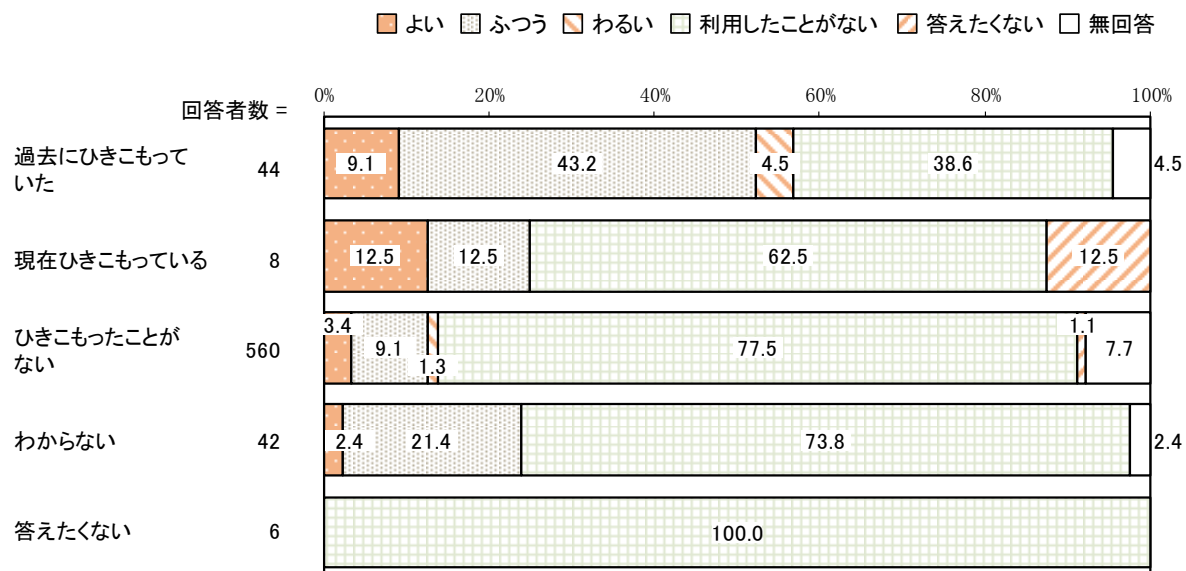
すべての項目で「利用したことがない」と答えた人の割合が最も高くなっており、特に『4 民間団体やNPO による支援・サービス』『5 当事者主体による支援・サービス』で、それぞれ 87.5%、87.8%となっています。また、『1 病院、診療所による医療サービス』『2 ハローワークなどの就労支援機関による支援・サービス』で「ふつう」と答えた人の割合が高く、それぞれ 11.9%、10.3%となっています。



1 病院、診療所による医療サービス

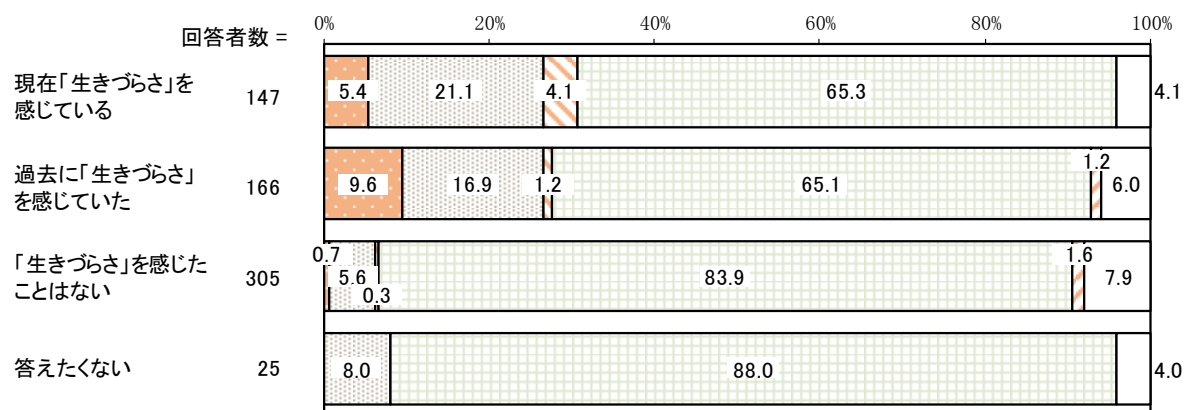
【ひきこもり経験別】

ひきこもり経験別でみると、『ひきこもったことがない』人に比べ、『過去にひきこもっていた』人で「よい」と答えた人の割合が高く、9.1%となっています。また、他に比べ、『現在ひきこもっている』人で「わるい」と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

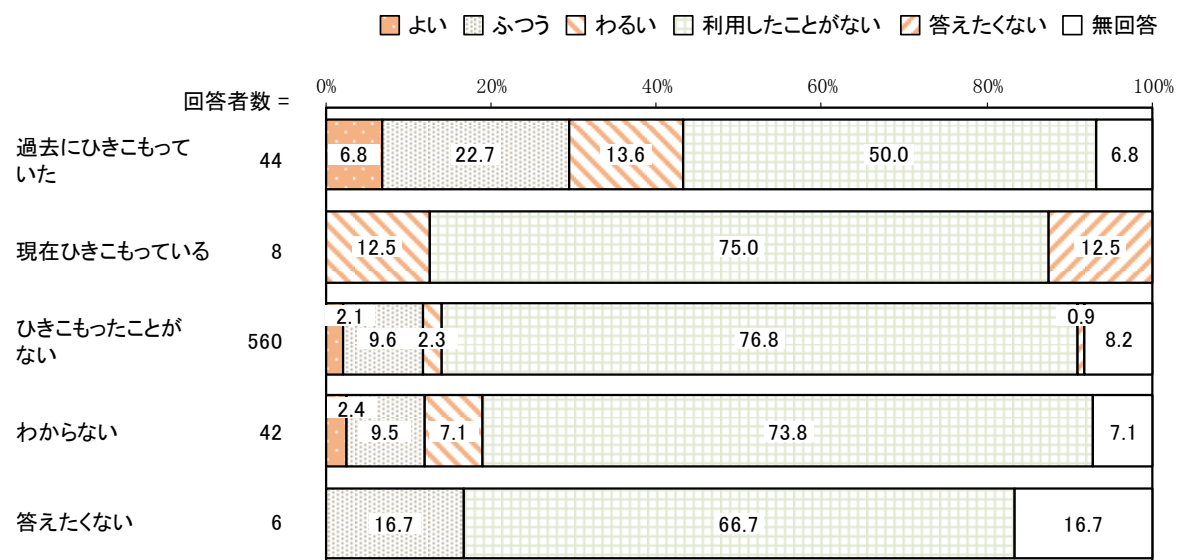
「生きづらさ」別でみると、『「生きづらさ」を感じたことはない』人に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人、『過去に「生きづらさ」を感じていた』人で「よい」と答えた人の割合が高く、それぞれ 5.4%、9.5%となっています。また、他に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人で「わるい」と答えた人の割合が高くなっています。



2 ハローワークなどの就労支援機関による支援・サービス

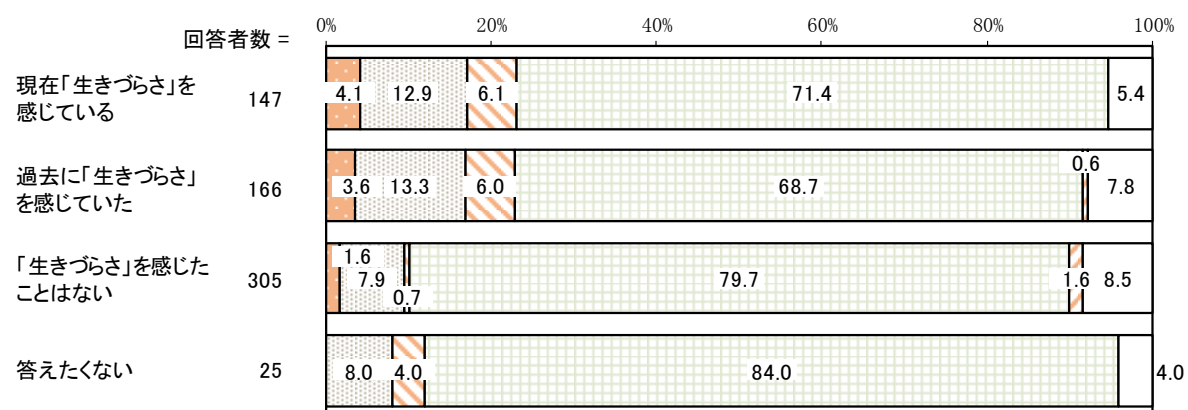
【ひきこもり経験別】

ひきこもり経験別でみると、他に比べ、『過去にひきこもっていた』人で「ふつう」「わるい」と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

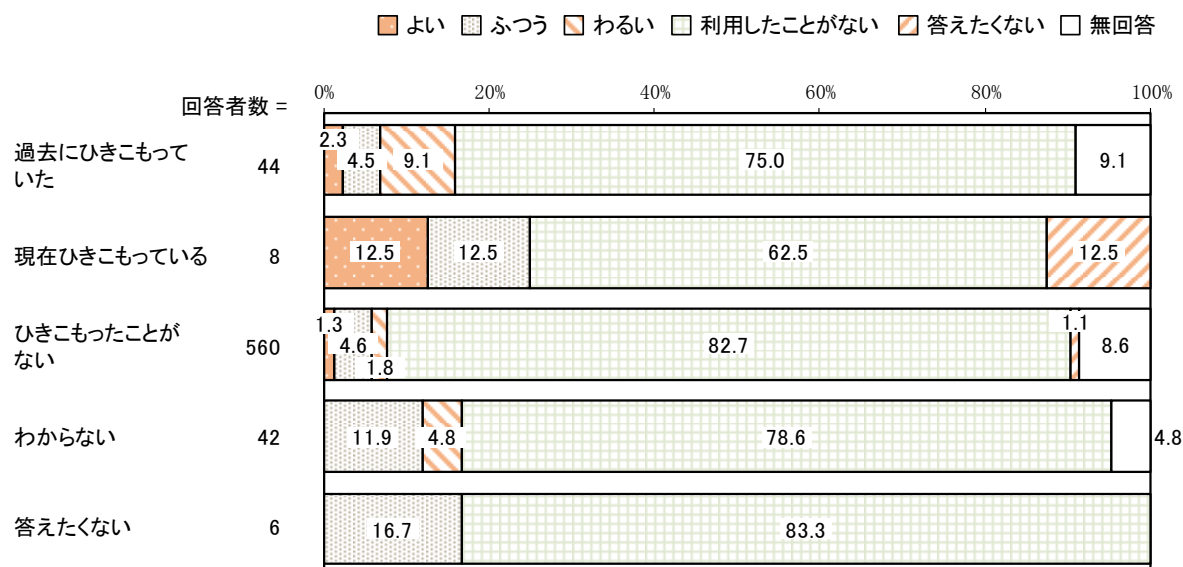
「生きづらさ」別でみると、『「生きづらさ」を感じたことはない』人に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人、『過去に「生きづらさ」を感じていた』人で「よい」と答えた人の割合が高くなっています。



3 行政機関（県や市町村など）の支援・サービス

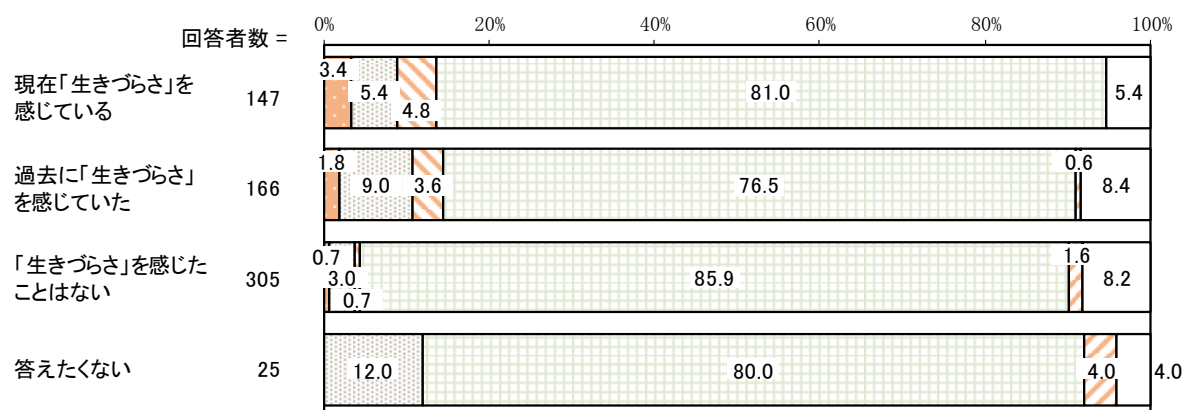
【ひきこもり経験別】

ひきこもり経験別でみると、他に比べ、『過去にひきこもっていた』人で「わるい」と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

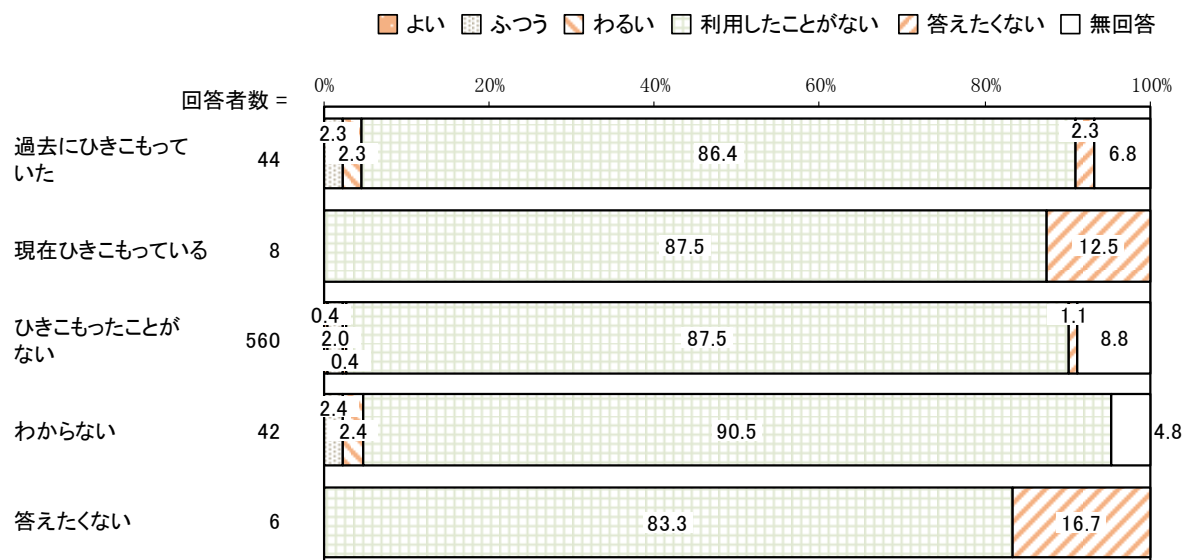
「生きづらさ」別でみると、他に比べ、『過去に「生きづらさ」を感じていた』人で「よい」と答えた人の割合が高くなっています。



4 民間団体やNPO による支援・サービス

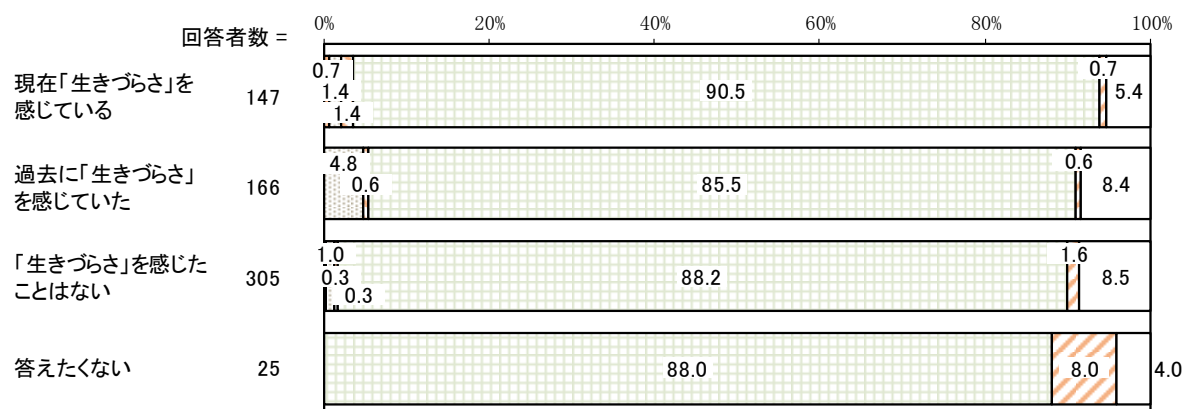
【ひきこもり経験別】

ひきこもり経験別でみると、大きな差異はみられません。



【「生きづらさ」別】

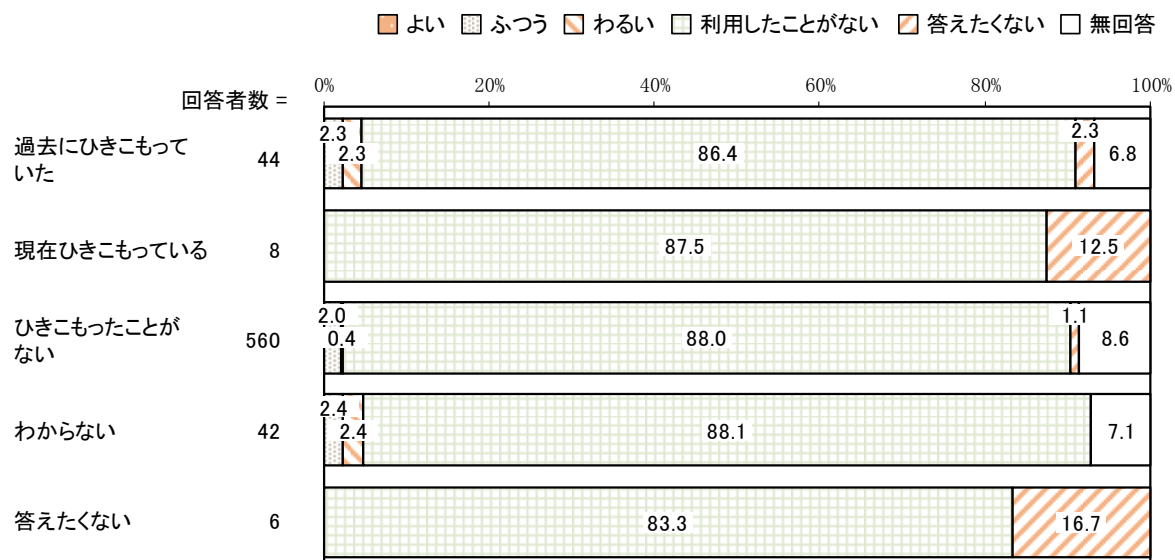
「生きづらさ」別でみると、大きな差異はみられません。



5 当事者主体による支援・サービス

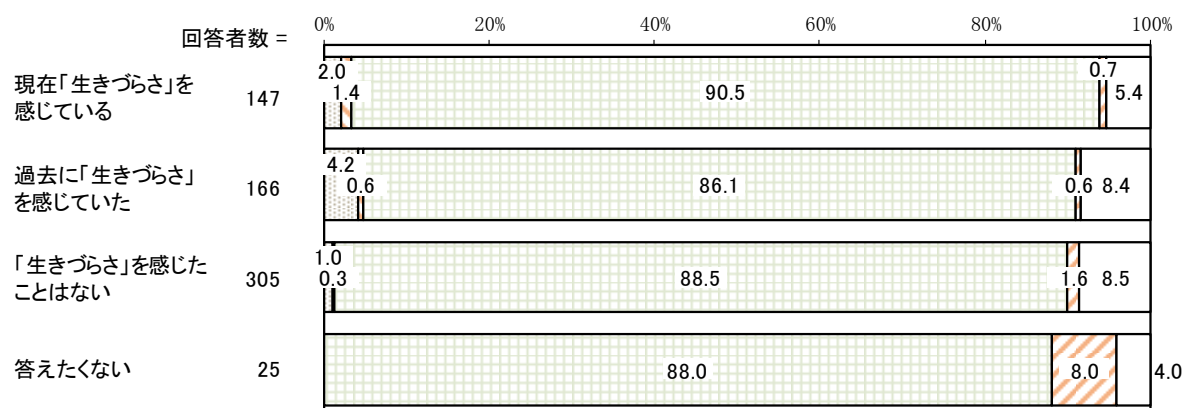
【ひきこもり経験別】

ひきこもり経験別でみると、大きな差異はみられません。



【「生きづらさ」別】

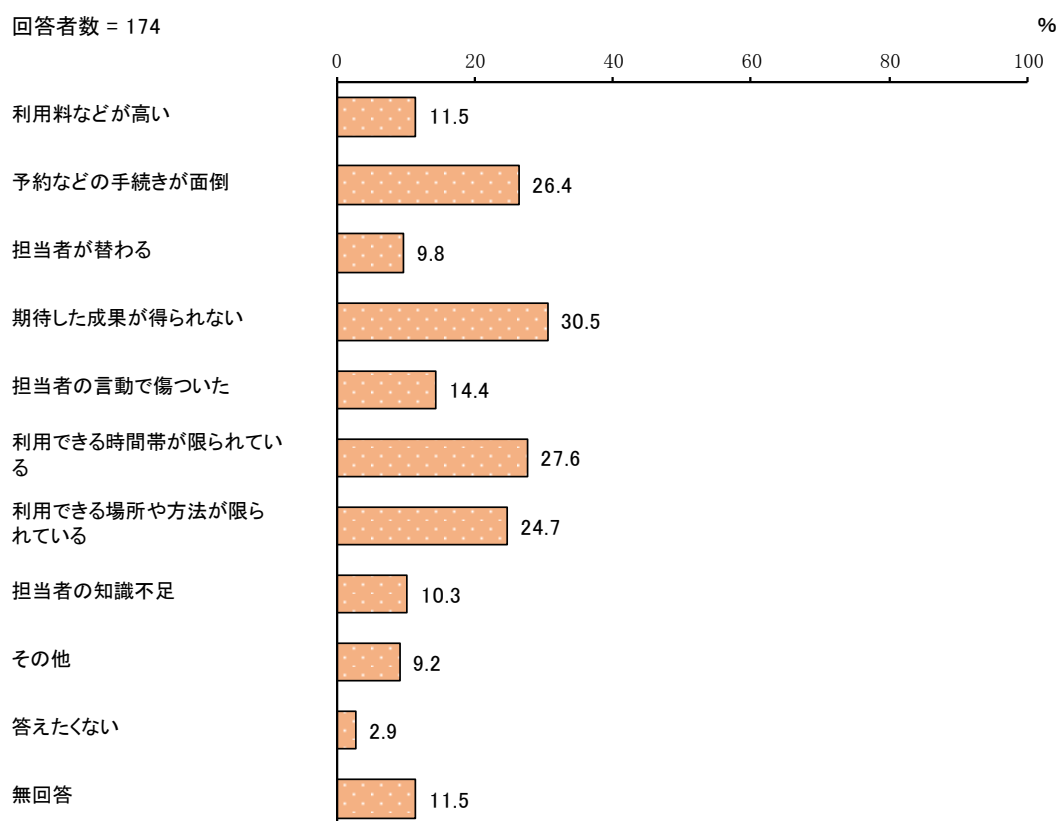
「生きづらさ」別でみると、大きな差異はみられません。



問 17－ 1 でいずれかの項目で「よい」から「わるい」を選んだ方にお聞きます。

問 17－ 2 これまでに利用した支援・サービスの課題について教えてください。
(〇はいくつでも可)

「期待した成果が得られない」と答えた人の割合が 30.5%と最も高く、次いで「利用できる時間帯が限られている」と答えた人の割合が 27.6%、「予約などの手続きが面倒」と答えた人の割合が 26.4%となっています。



【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「期待した成果が得られない」と答えた人の割合が、年代が低くなるにつれ「利用できる場所や方法が限られている」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、『60 歳以上』で「期待した成果が得られない」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	利用料 などが 高い	予約 などの 手続き が面倒	担当 者が 替わる	期待 した 成果 が 得 ら れ な い	担当 者の 言動 で傷 ついた	利用 できる 時間 帯が 限 ら れ て い る	利用 できる 場所 や方法 が 限 ら れ て い る	担当 者の 知識 不足	その他	答え たく ない	無 回 答
10 歳代	6	—	33.3	—	16.7	—	16.7	16.7	—	—	16.7	33.3
20 歳代	23	4.3	39.1	17.4	26.1	13.0	26.1	34.8	4.3	17.4	—	4.3
30 歳代	39	15.4	15.4	5.1	30.8	23.1	33.3	28.2	17.9	7.7	2.6	5.1
40 歳代	47	14.9	27.7	6.4	27.7	8.5	34.0	29.8	8.5	10.6	6.4	12.8
50 歳代	35	14.3	31.4	17.1	34.3	17.1	17.1	17.1	5.7	5.7	—	8.6
60 歳以上	23	4.3	21.7	8.7	39.1	13.0	26.1	13.0	13.0	8.7	—	26.1
答えたくない	1	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—

【ひきこもり経験別】

ひきこもり経験別でみると、『ひきこもったことがない』人に比べ、『過去にひきこもっていた』人で「利用料などが高い」「予約などの手続きが面倒」「担当者が替わる」「期待した成果が得られない」「担当者の言動で傷ついた」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	利用料 などが 高い	予約 などの 手続き が面倒	担当 者が 替わる	期待 した 成果 が 得 ら れ な い	担当 者の 言動 で傷 ついた	利用 できる 時間 帯が 限 ら れ て い る	利用 できる 場所 や方法 が 限 ら れ て い る	担当 者の 知識 不足	その他	答え たく ない	無 回 答
過去にひきこもっていた	31	16.1	38.7	19.4	32.3	19.4	32.3	29.0	6.5	16.1	—	6.5
現在ひきこもっている	3	—	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	—	66.7	—	—
ひきこもったことがない	122	10.7	22.1	6.6	27.0	13.9	27.9	24.6	12.3	5.7	3.3	13.1
わからない	15	6.7	26.7	13.3	60.0	6.7	20.0	20.0	6.7	13.3	6.7	13.3
答えたくない	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【「生きづらさ」別】

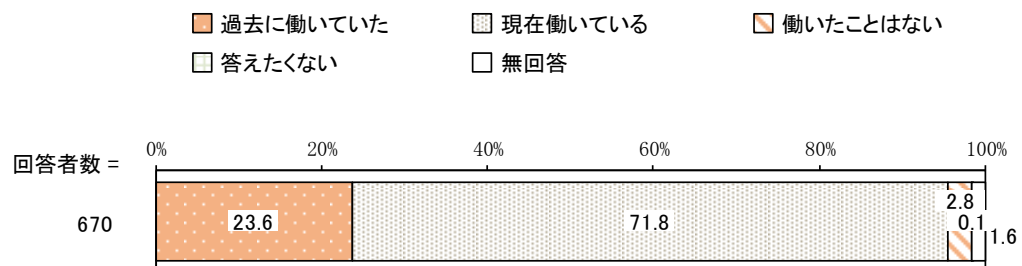
「生きづらさ」別でみると、『「生きづらさ」を感じたことはない』人に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人、『過去に「生きづらさ」を感じていた』人で「期待した成果が得られない」「担当者の言動で傷ついた」「利用できる時間帯が限られている」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	利用料 などが高い	予約などの 手続きが面倒	担当者が 替わる	期待した 成果が 得られない	担当者の 言動で傷 ついた	利用で きる時 間帯が 限られて いる	利用で きる場 所や方 法が 限られて いる	担当 者の 知識 不足	その他	答 え た く な い	無 回 答
現在「生きづらさ」を感じている	55	9.1	29.1	12.7	40.0	21.8	32.7	27.3	10.9	9.1	—	3.6
過去に「生きづらさ」を感じていた	68	14.7	33.8	11.8	29.4	16.2	27.9	22.1	10.3	10.3	2.9	8.8
「生きづらさ」を感じたことはない	43	7.0	14.0	2.3	16.3	4.7	20.9	27.9	9.3	9.3	7.0	23.3
答えたくない	3	33.3	—	33.3	33.3	—	—	—	33.3	—	—	—

問 18－1 あなたの就業経験について教えてください。(○は1つだけ)

「現在働いている」と答えた人の割合が 71.8％と最も高く、次いで「過去に働いていた」と答えた人の割合が 23.6％となっています。

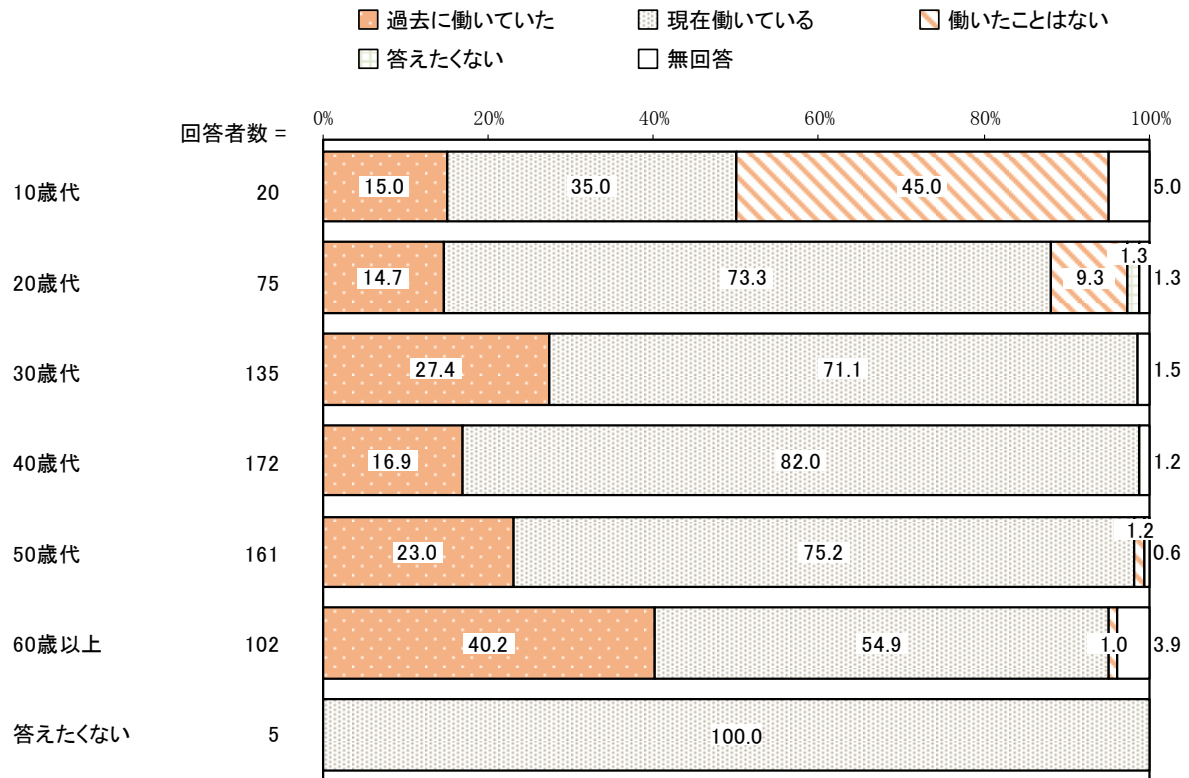


※以下【就業経験の有無別（ひきこもり経験のある人のみ）】は、この設問と問 10－1（ひきこもり経験のある人のみ）の結果とのクロス集計のことを言います。

※以下【就業経験の有無別（「生きづらさ」を感じたことがある人のみ）】は、この設問と問 11－1（「生きづらさ」を感じたことがある人のみ）の結果とのクロス集計のことを言います。

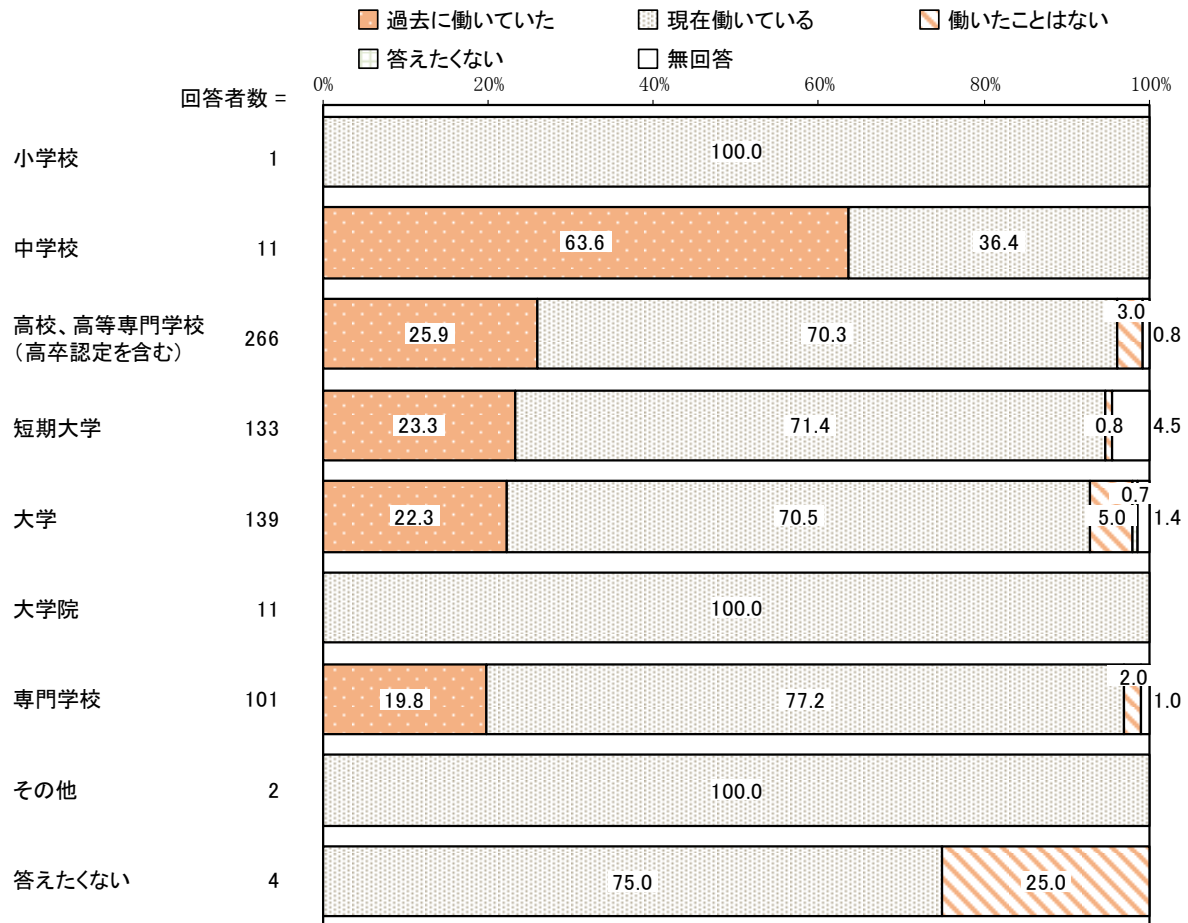
【年代別】

年代別でみると、『40 歳代』以下で年代が高くなるにつれ「現在働いている」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられ、以後「現在働いている」と答えた人の割合が低くなる傾向がみられます。また、他に比べ、『60 歳以上』で「過去に働いていた」と答えた人の割合が、『10 歳代』で「働いたことはない」と答えた人の割合が高くなっています。



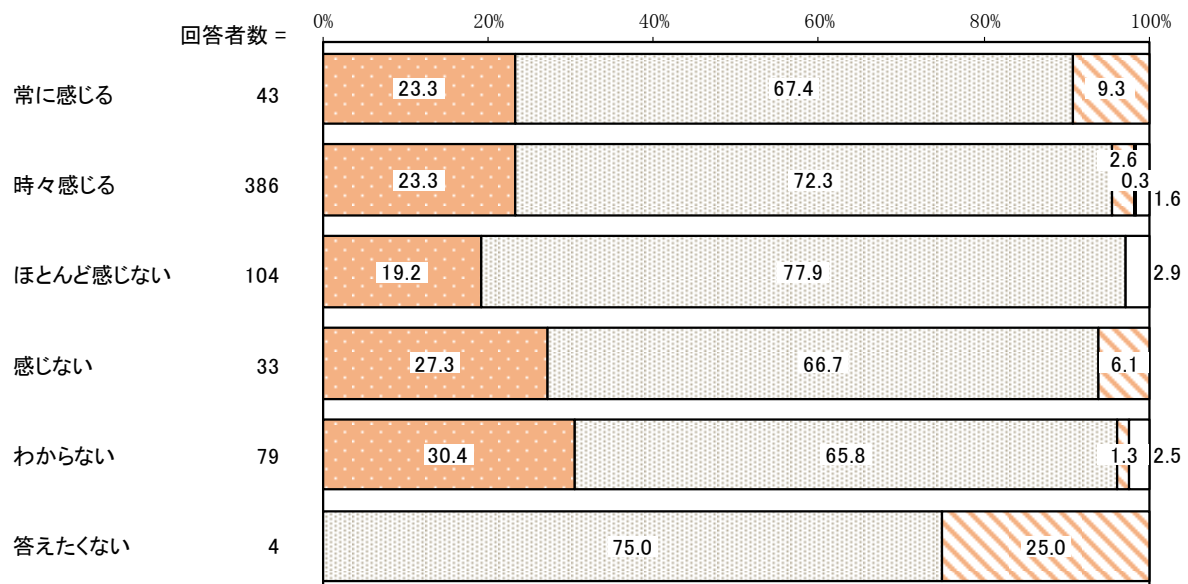
【最終学歴別】

最終学歴別でみると、他に比べ、『中学校』卒業で「過去に働いていた」と答えた人の割合が高くなっています。また、『大学院』修了で「現在働いている」と答えた人の割合が高くなっています。



【自分のことを嫌いと感じる頻度別】

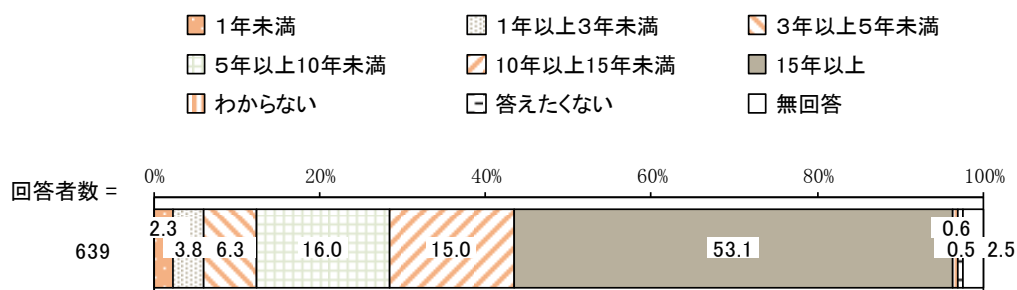
自分のことを嫌いと感じる頻度別でみると、他に比べ、『ほとんど感じない』人で「現在働いている」と答えた人の割合が高くなっています。



問 18－1 で「過去に働いていた」「現在働いている」を選んだ方にお聞きします。

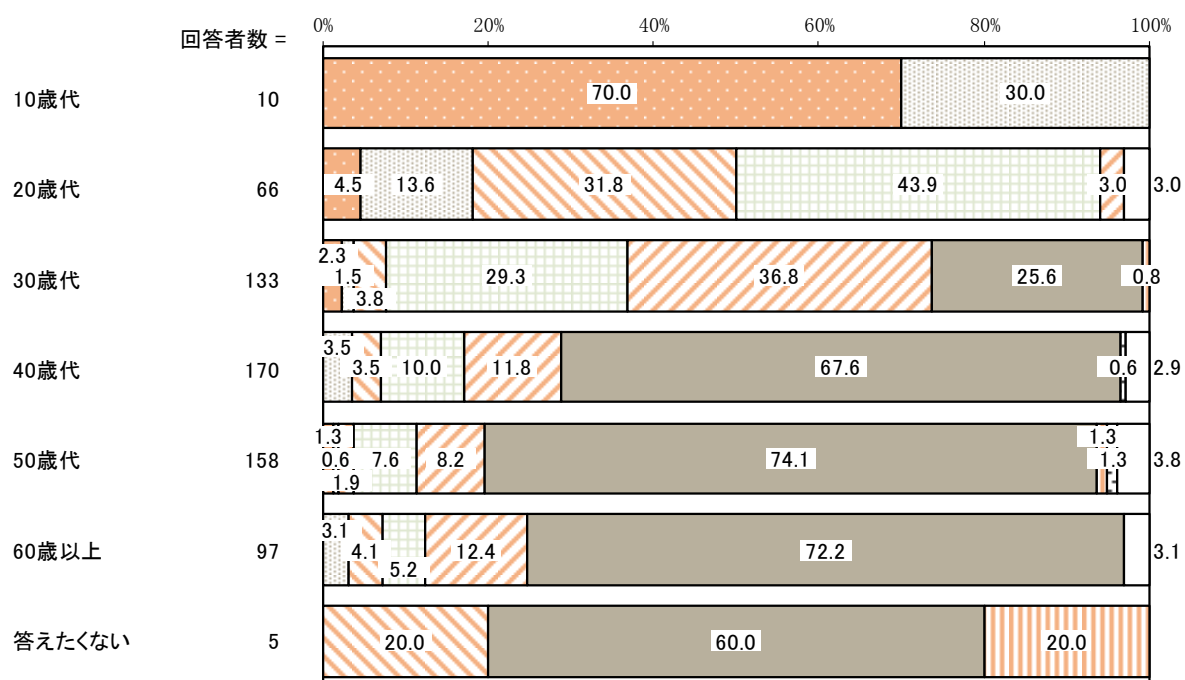
問 18－2 あなたが働いた期間をすべて足すとどのくらいになりますか。
(○は1つだけ)

「15 年以上」と答えた人の割合が 53.1%と最も高く、次いで「5 年以上 10 年未満」と答えた人の割合が 16.0%、「10 年以上 15 年未満」と答えた人の割合が 15.0%となっています。



【年代別】

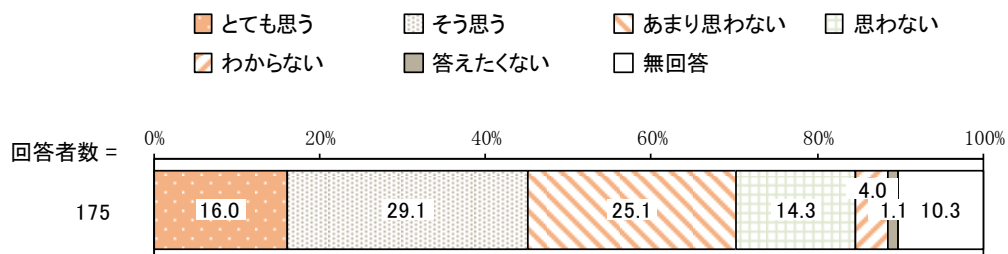
年代別でみると、年代が低くなるにつれ「1 年以上 3 年未満」と答えた人の割合が、年代が高くなるにつれ「15 年以上」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、『10 歳代』で「1 年未満」と答えた人の割合が、『20 歳代』で「3 年以上 5 年未満」「5 年以上 10 年未満」と答えた人の割合が、『30 歳代』で「10 年以上 15 年未満」と答えた人の割合が高くなっています。



現在働いていない方にお聞きします。

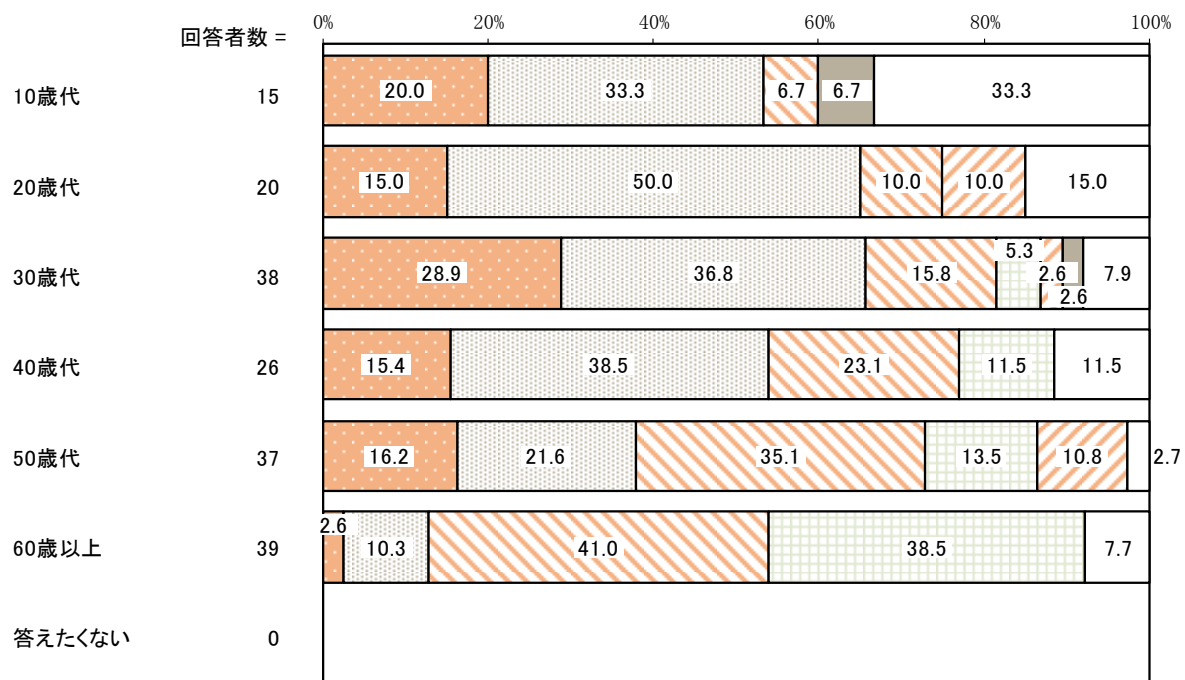
問 18－3 あなたは働きたいと思いますか。(○は1つだけ)

「とても思う」と「そう思う」を合わせた“思う”と答えた人の割合が 45.1%、「あまり思わない」と「思わない」を合わせた“思わない”と答えた人の割合が 39.4%となっています。



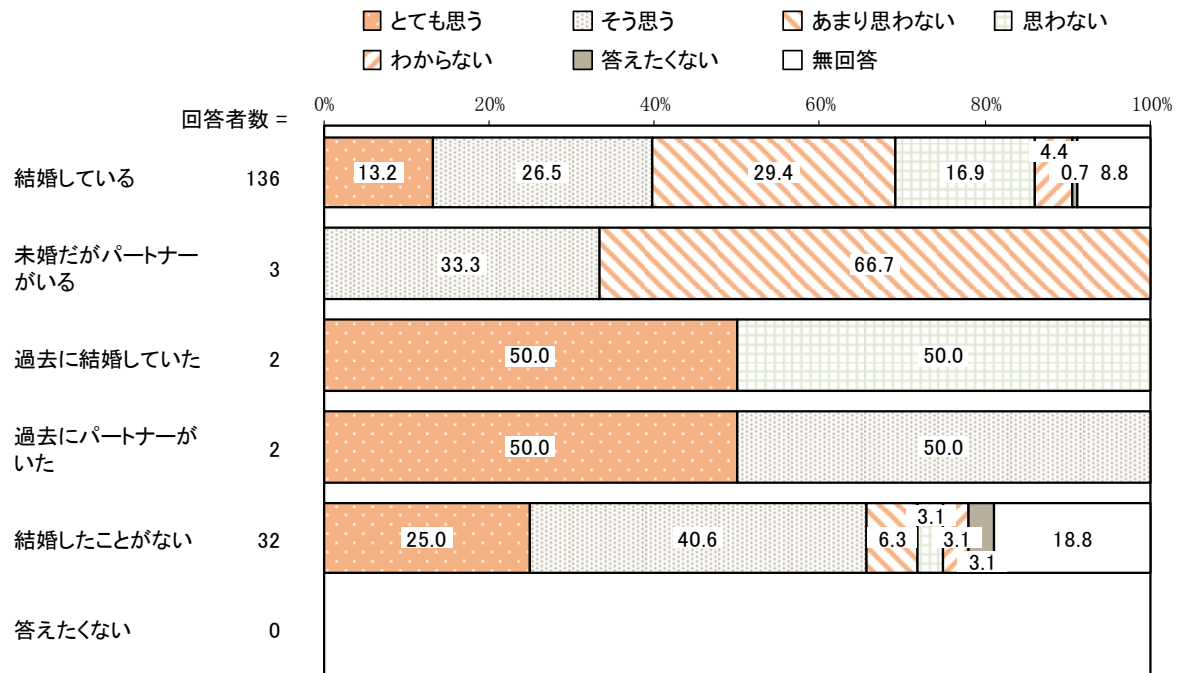
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“思わない”と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、『20 歳代』『30 歳代』で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。



【婚姻状況別】

婚姻状況別でみると、『結婚している』人に比べ、『結婚したことがない』人で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。

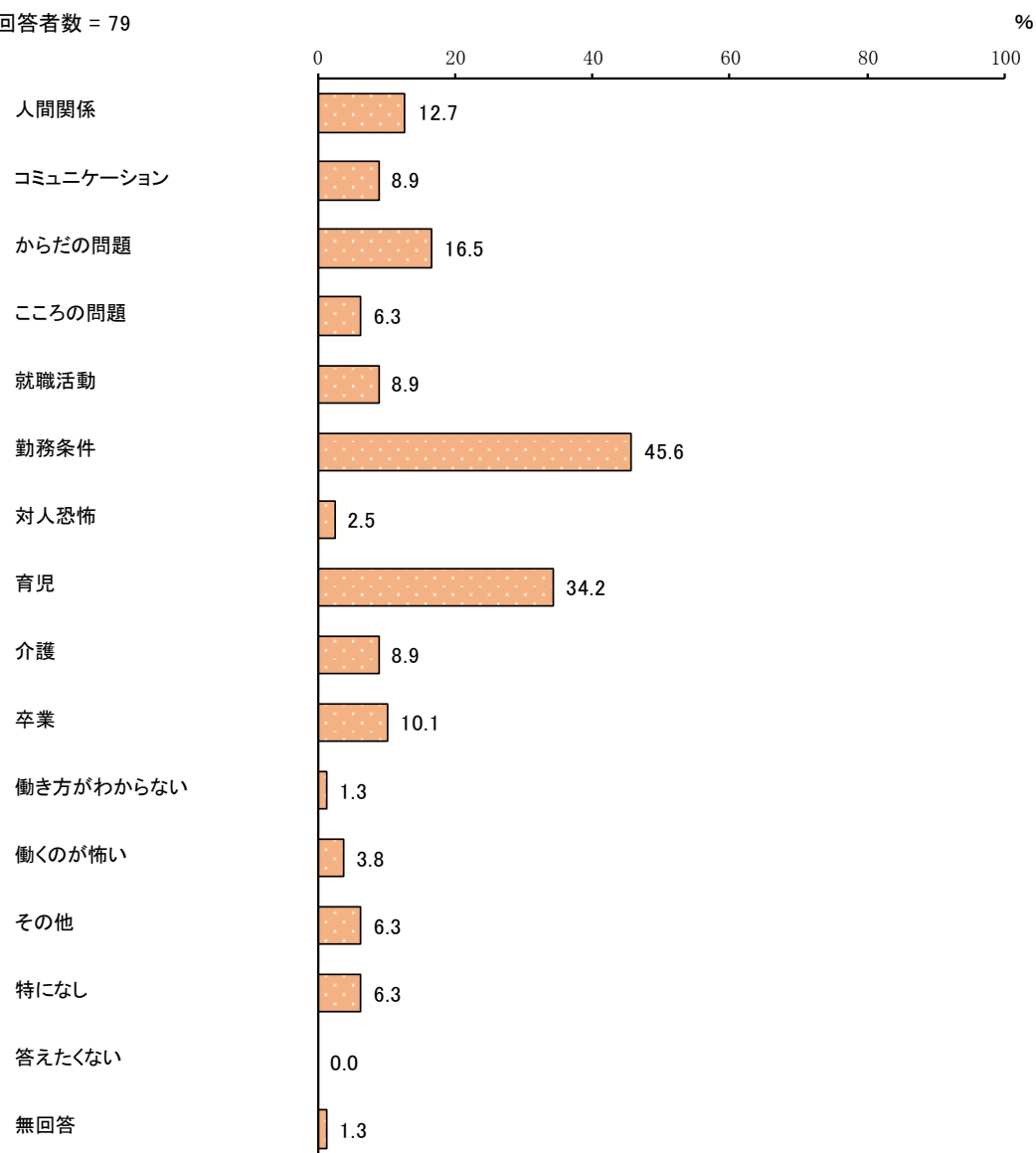


問 18－3 で「とても思う」「そう思う」を選んだ方にお聞きします。

問 18－4 あなたはどのような問題が解決したら働きたいと思いますか。
(○はいくつでも可)

「勤務条件」と答えた人の割合が 45.6% と最も高く、次いで「育児」と答えた人の割合が 34.2%、
「からだの問題」と答えた人の割合が 16.5% となっています。

回答者数 = 79



【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『30 歳代』『40 歳代』で「育児」と答えた人の割合が高くなっています。また、『20 歳代』で「人間関係」「卒業」と答えた人の割合が、『50 歳代』で「からだの問題」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	人間関係	コミュニケーション	からだの問題	こころの問題	就職活動	勤務条件	対人恐怖	育児	介護	卒業	働き方がわからない	働くのが怖い	その他	特になし	答えたくない	無回答
10 歳代	8	12.5	25.0	—	12.5	—	25.0	12.5	—	—	37.5	—	—	—	25.0	—	—
20 歳代	13	38.5	23.1	—	15.4	7.7	46.2	7.7	15.4	—	38.5	—	—	7.7	7.7	—	7.7
30 歳代	25	8.0	4.0	8.0	4.0	8.0	40.0	—	60.0	4.0	—	—	4.0	4.0	4.0	—	—
40 歳代	14	7.1	—	7.1	—	21.4	64.3	—	64.3	7.1	—	—	—	7.1	—	—	—
50 歳代	14	—	7.1	50.0	—	7.1	42.9	—	7.1	14.3	—	—	14.3	14.3	7.1	—	—
60 歳以上	5	20.0	—	60.0	20.0	—	60.0	—	—	60.0	—	20.0	—	—	—	—	—
答えたくない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【世帯構成別】

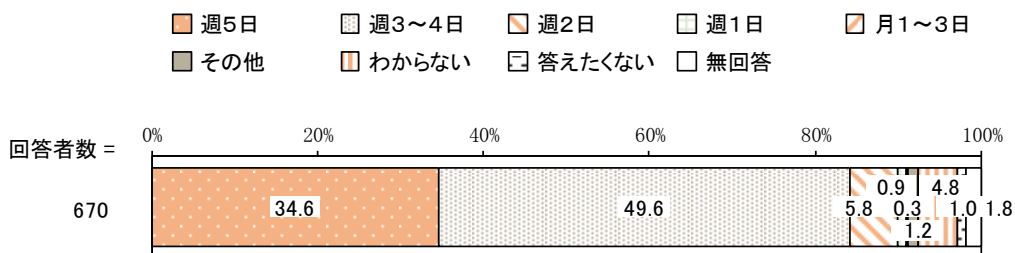
世帯構成別でみると、他に比べ、『配偶者』『子ども』と同居している人で「育児」と答えた人の割合が高くなっています。また、『父親』『兄弟姉妹』と同居している人で「卒業」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	人間関係	コミュニケーション	からだの問題	こころの問題	就職活動	勤務条件	対人恐怖	育児	介護	卒業	働き方がわからない	働くのが怖い	その他	特になし	答えたくない	無回答
父親	15	20.0	20.0	6.7	13.3	—	33.3	6.7	13.3	—	40.0	—	—	6.7	20.0	—	—
母親	22	18.2	13.6	13.6	4.5	4.5	31.8	—	9.1	13.6	31.8	4.5	—	4.5	13.6	—	—
兄弟姉妹	11	18.2	—	—	—	—	45.5	—	9.1	9.1	45.5	—	—	9.1	18.2	—	—
祖父母	5	20.0	20.0	—	20.0	—	40.0	20.0	—	—	60.0	—	—	—	—	—	—
配偶者	53	7.5	1.9	18.9	3.8	9.4	49.1	—	49.1	7.5	—	1.9	3.8	5.7	3.8	—	1.9
パートナー	1	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
子ども	40	10.0	2.5	12.5	2.5	12.5	55.0	—	65.0	5.0	—	2.5	5.0	7.5	—	—	2.5
ひとり暮らし	2	50.0	—	—	—	50.0	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
グループホームにいる	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
シェアハウスにいる	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	2	—	—	50.0	—	—	50.0	—	—	50.0	—	50.0	—	—	—	—	—
答えたくない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

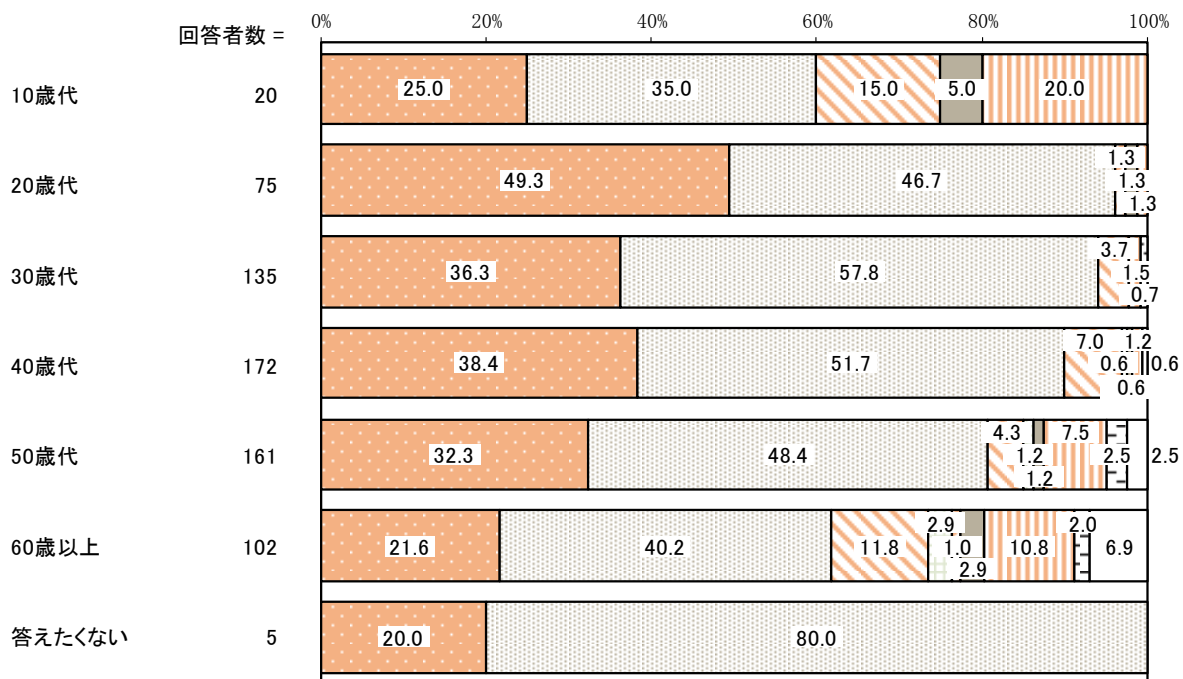
問 19 あなたは1週間にどの程度働きたいと思いますか。(○は1つだけ)

「週3～4日」と答えた人の割合が49.6%と最も高く、次いで「週5日」と答えた人の割合が34.6%となっています。



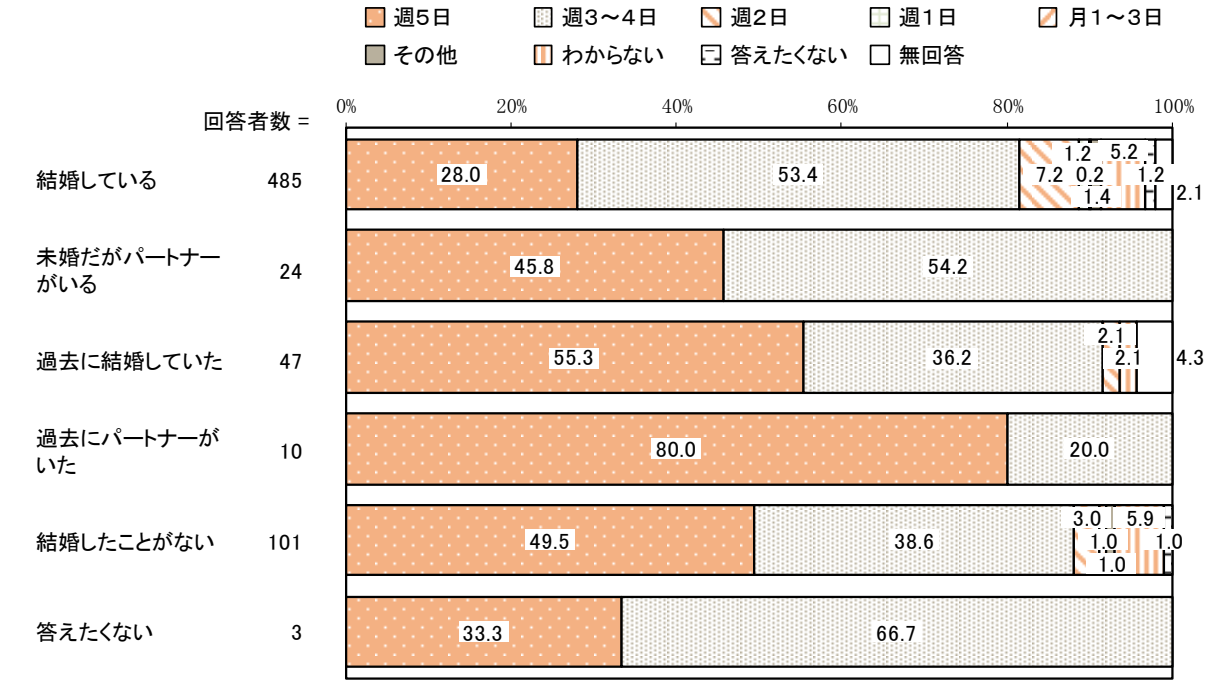
【年代別】

年代別でみると、『20 歳代』以上で年代が低くなるにつれ「週5日」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、『30 歳代』で「週3～4日」と答えた人の割合が高くなっています。



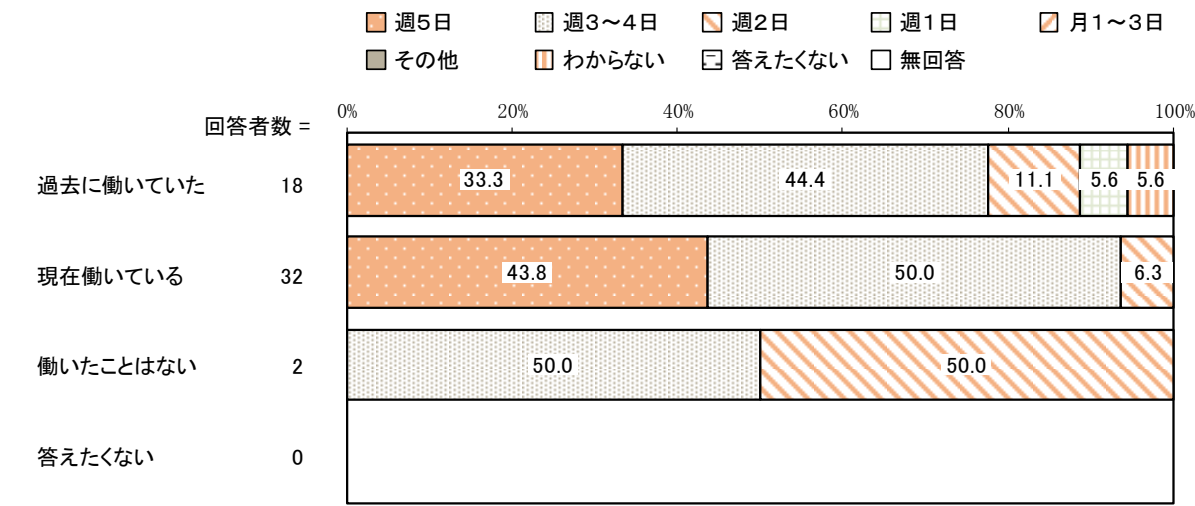
【婚姻状況別】

婚姻状況別でみると、他に比べ、『過去にパートナーがいた』人で「週5日」と答えた人の割合が高くなっています。また、『結婚している』人、『未婚だがパートナーがいる』人で「週3～4日」と答えた人の割合が高くなっています。



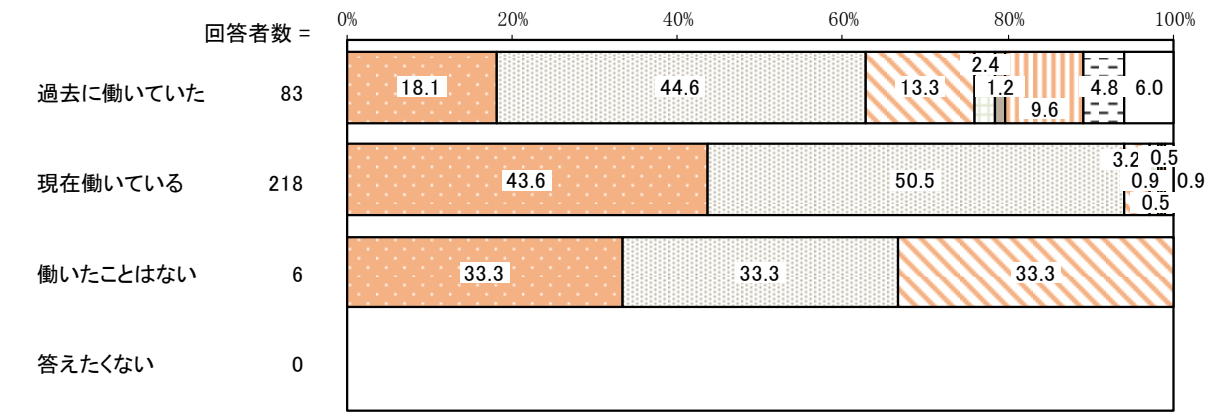
【就業経験の有無別（ひきこもり経験のある人のみ）】

ひきこもり経験のある人のみで就業経験の有無別でみると、『過去に働いていた』人に比べ、『現在働いている』人で「週5日」「週3～4日」と答えた人の割合が高く、希望就労日数が多くなっています。



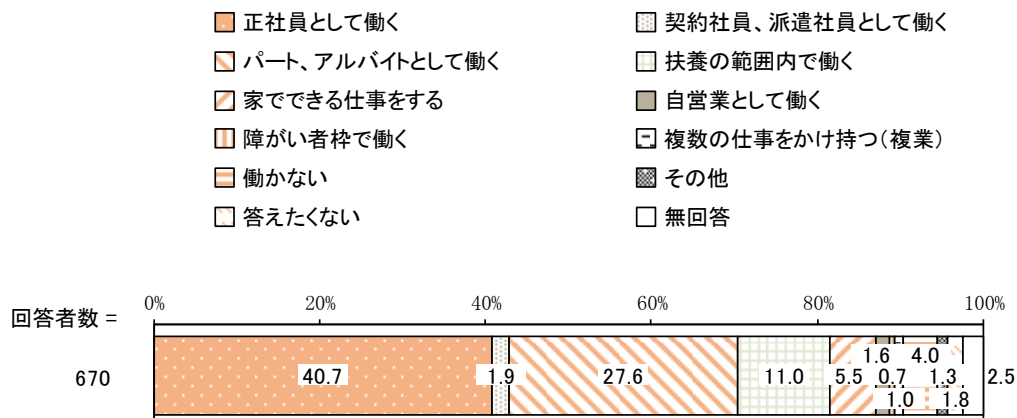
【就業経験の有無別（「生きづらさ」を感じたことがある人のみ）】

「生きづらさ」を感じたことがある人のみで就業経験の有無別でみると、『過去に働いていた』人に比べ、『現在働いている』人で「週5日」「週3～4日」と答えた人の割合が高く、希望就労日数が多くなっています。



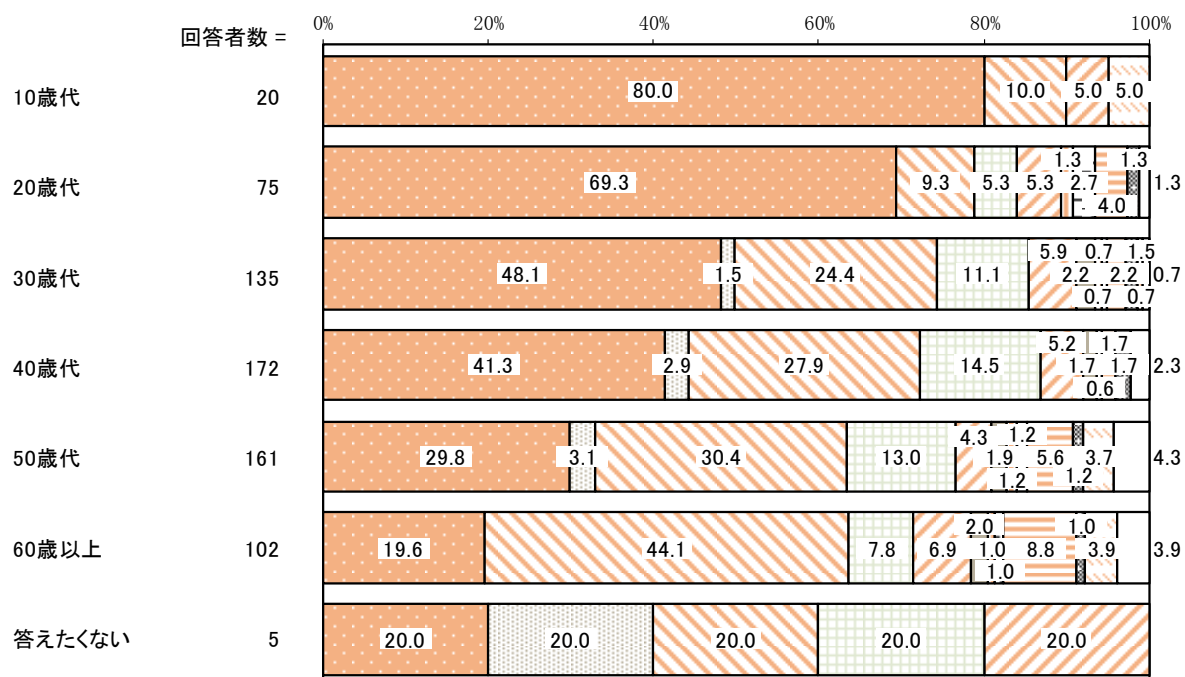
問 20 あなたにとっての理想の働き方はどれですか。(○は1つだけ)

「正社員として働く」と答えた人の割合が40.7%と最も高く、次いで「パート、アルバイトとして働く」と答えた人の割合が27.6%、「扶養の範囲内で働く」と答えた人の割合が11.0%となっています。



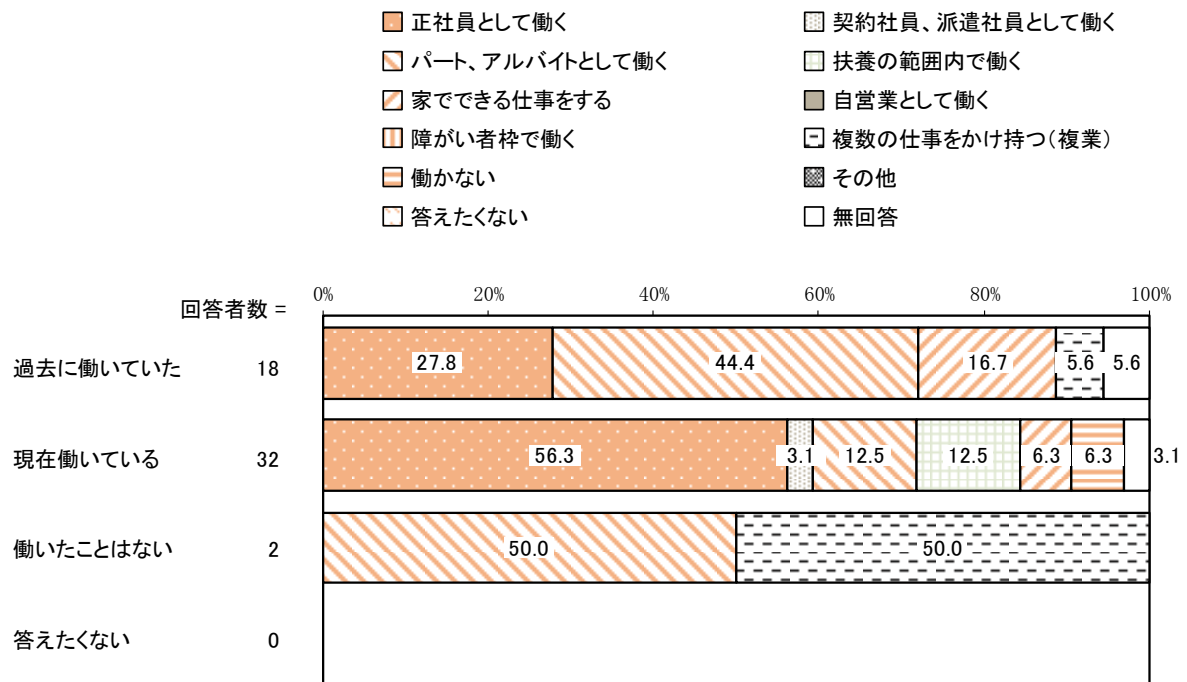
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ「正社員として働く」と答えた人の割合が、年代が高くなるにつれ「パート、アルバイトとして働く」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。



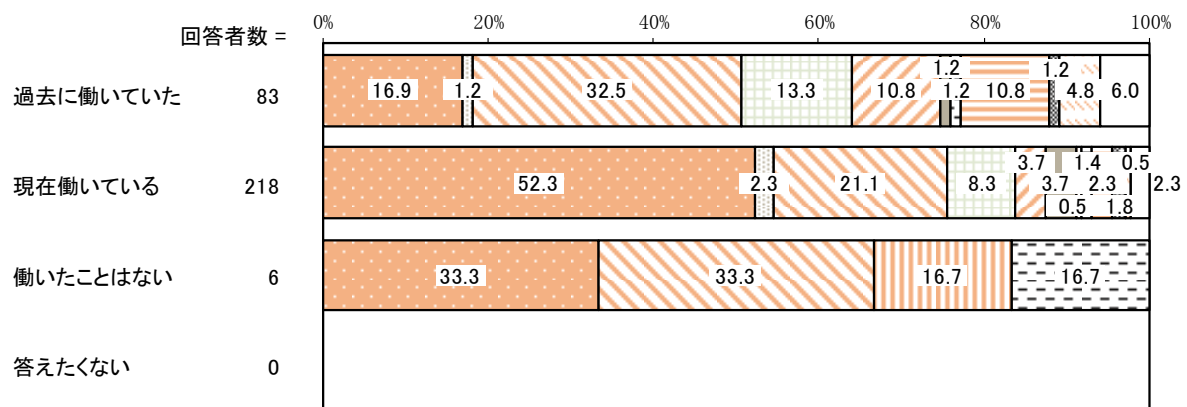
【就業経験の有無別（ひきこもり経験のある人のみ）】

ひきこもり経験のある人のみで就業経験の有無別でみると、『現在働いている』人に比べ、『過去に働いていた』人で「パート、アルバイトとして働く」「家でできる仕事をする」と答えた人の割合が高くなっています。また、『過去に働いていた』人に比べ、『現在働いている』人で「正社員として働く」と答えた人の割合が高くなっています。



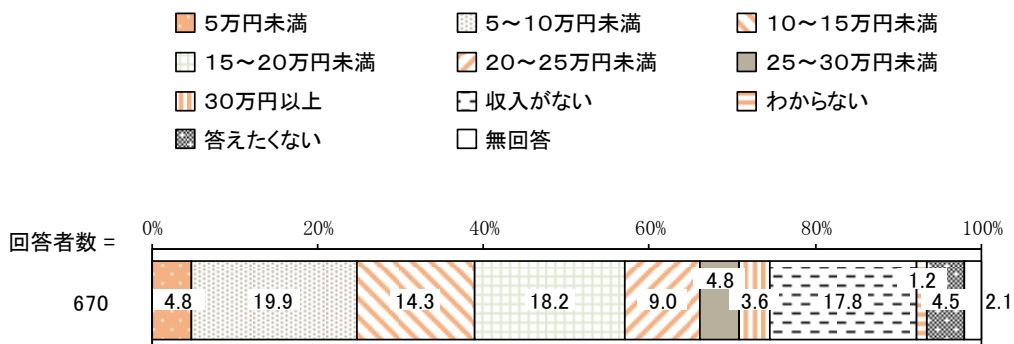
【就業経験の有無別（「生きづらさ」を感じたことがある人のみ）】

「生きづらさ」を感じたことがある人のみで就業経験の有無別でみると、『現在働いている』人に比べ、『過去に働いていた』人で「パート、アルバイトとして働く」「扶養の範囲内で働く」「家でできる仕事をする」「働かない」と答えた人の割合が高くなっています。また、『過去に働いていた』人に比べ、『現在働いている』人で「正社員として働く」と答えた人の割合が高くなっています。



問 21 ご自身の手取り月収についてあてはまるものを選んでください。
(○は1つだけ)

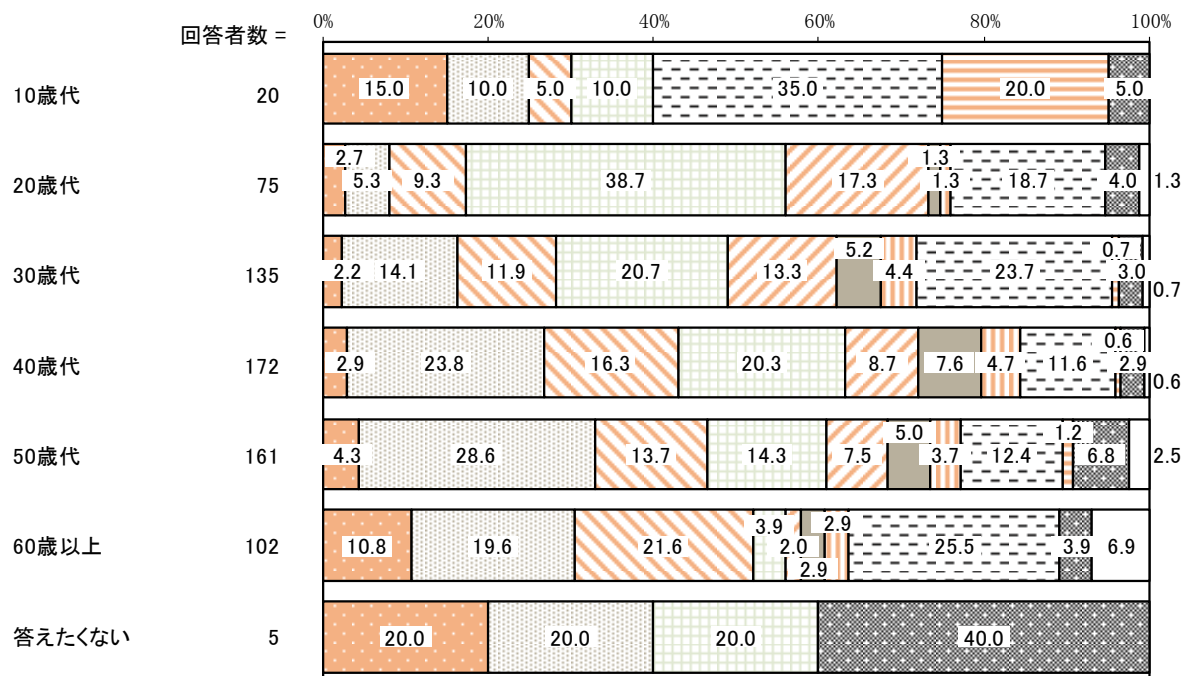
「5～10万円未満」と答えた人の割合が19.9%と最も高く、次いで「15～20万円未満」と答えた人の割合が18.2%、「収入がない」と答えた人の割合が17.8%となっています。



※以下【手取り月収額別】は、この設問の結果とのクロス集計のことを言います。

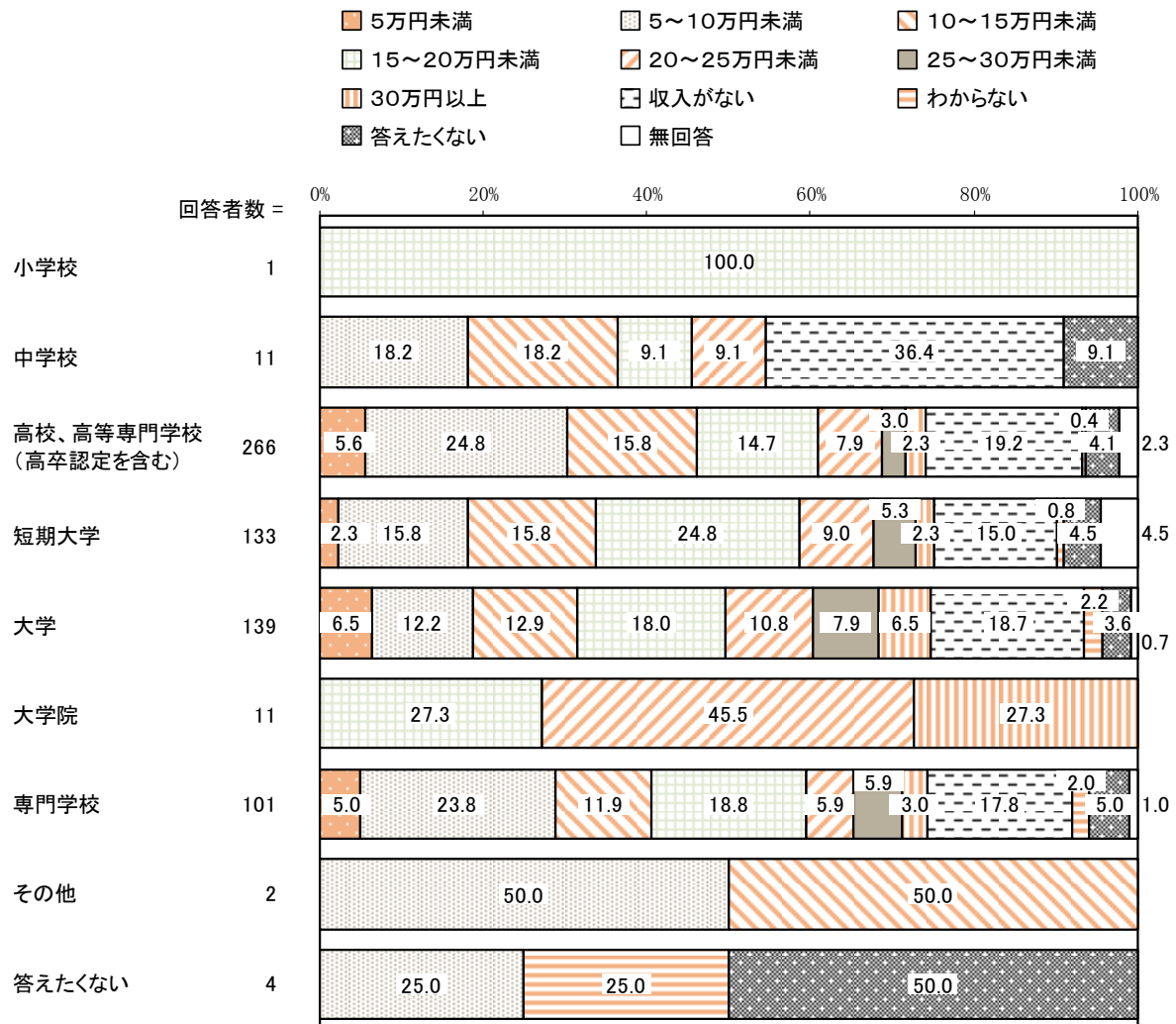
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ「5～10万円未満」「10～15万円未満」と答えた人の割合が、年代が低くなるにつれ「15～20万円未満」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、『10歳代』で「収入がない」と答えた人の割合が高くなっています。



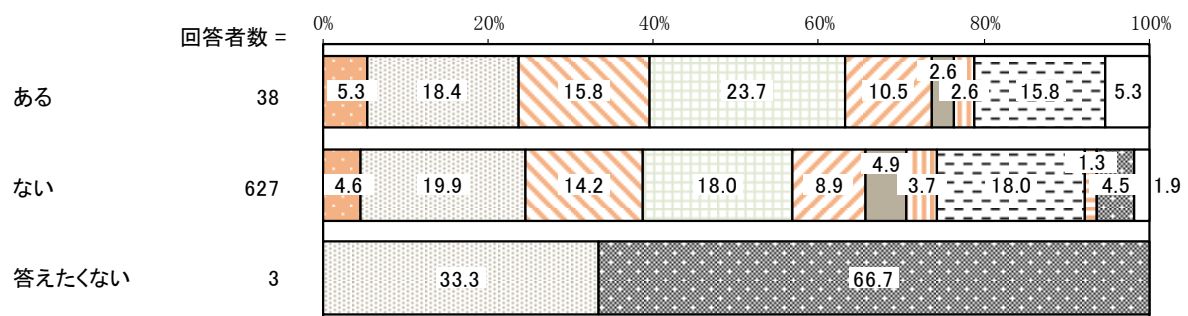
【最終学歴別】

最終学歴別でみると、他に比べ、『中学校』卒業で「収入がない」と答えた人の割合が高くなっています。また、『高校、高等専門学校（高卒認定を含む）』卒業で「5～10万円未満」と答えた人の割合が、『短期大学』卒業で「15～20万円未満」と答えた人の割合が、『大学院』修了で「20～25万円未満」「30万円以上」と答えた人の割合が高くなっています。



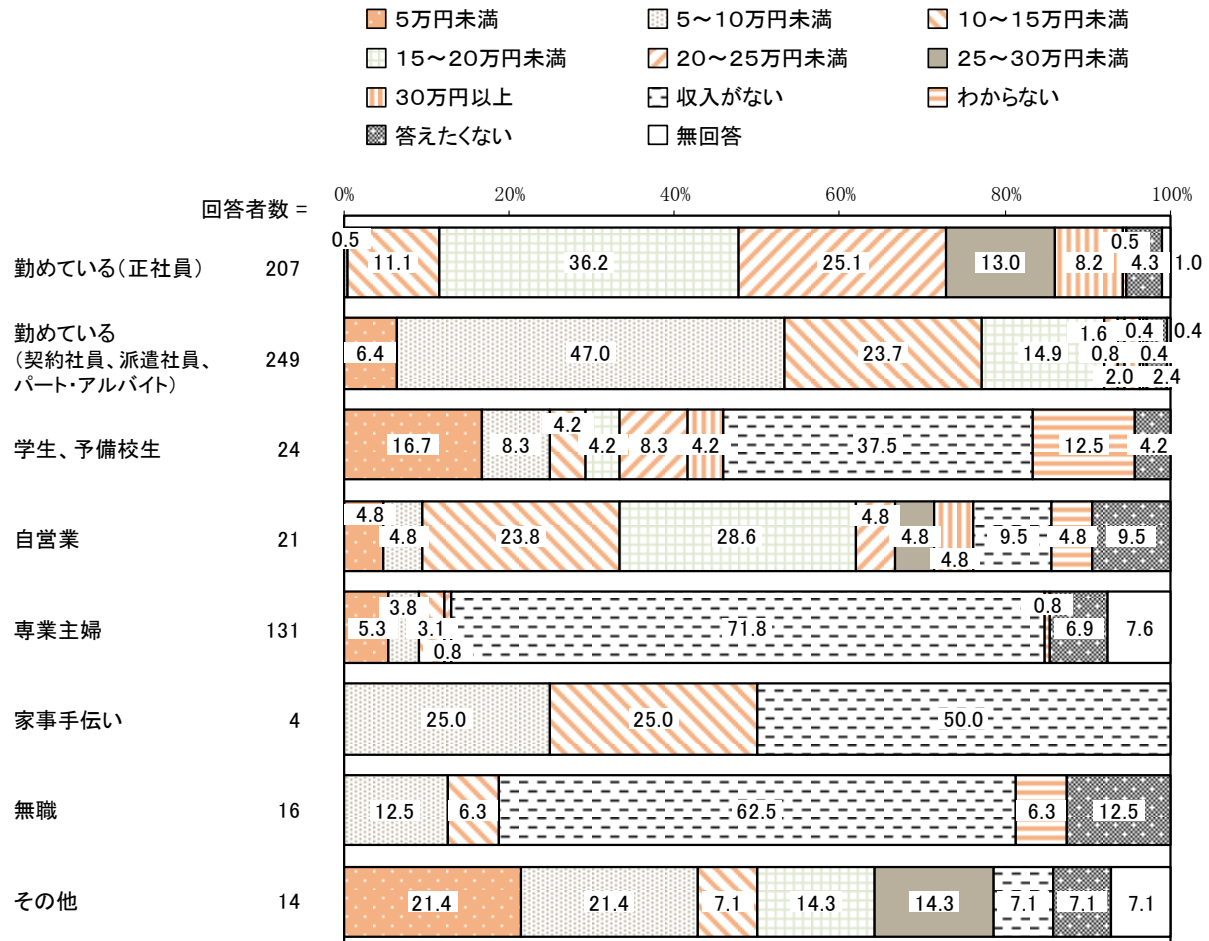
【学校の中退経験の有無別】

学校の中退経験の有無別でみると、中退経験が『ない』人に比べ、『ある』人で「15～20万円未満」と答えた人の割合が高くなっています。



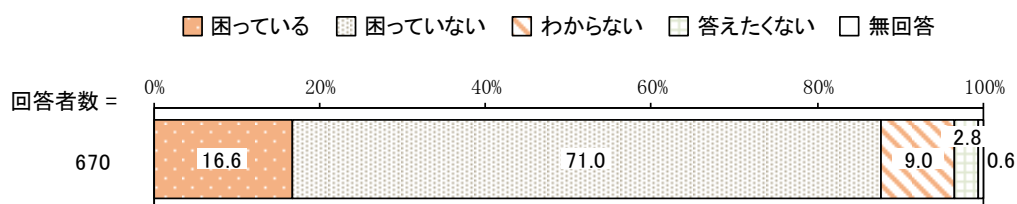
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『勤めている（契約社員、派遣社員、パート・アルバイト）』の人で「5～10万円未満」と答えた人の割合が高くなっています。また、『勤めている（正社員）』の人で「15～20万円未満」「20～25万円未満」「25～30万円未満」と答えた人の割合が高くなっています。



問 22 現在あなたは生活費に困っていますか。(○は1つだけ)

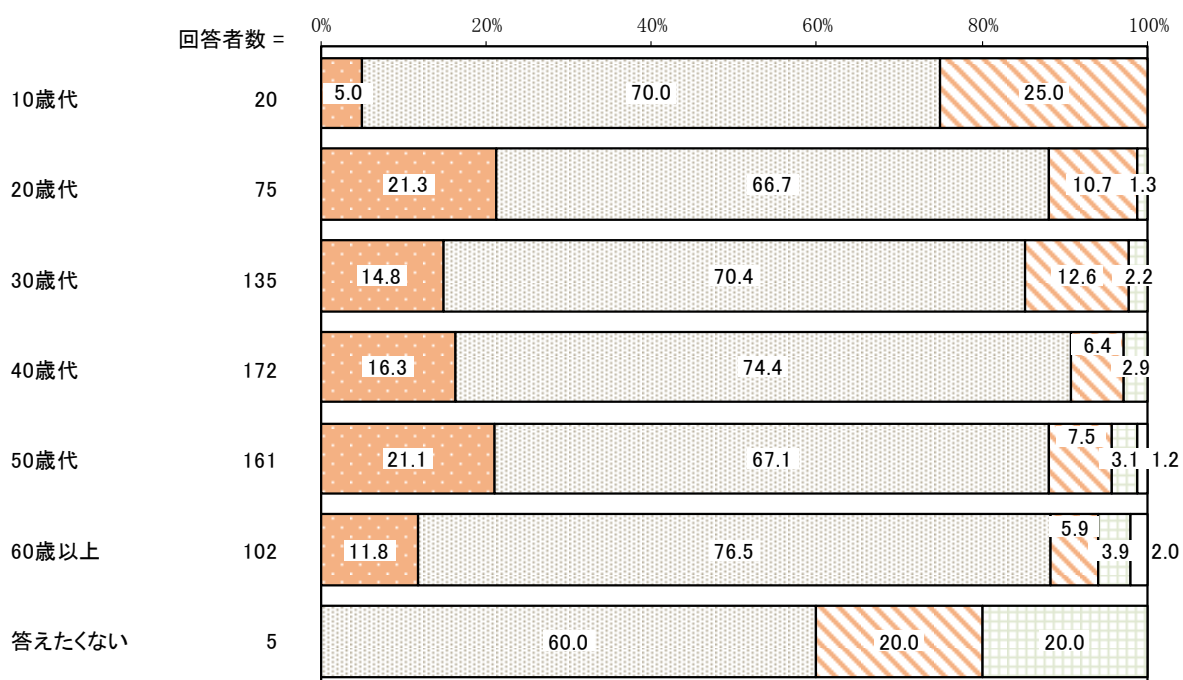
「困っていない」と答えた人の割合が 71.0%と最も高く、次いで「困っている」と答えた人の割合が 16.6%となっています。



※以下【生活困窮別】は、この設問の結果とのクロス集計のことを言います。

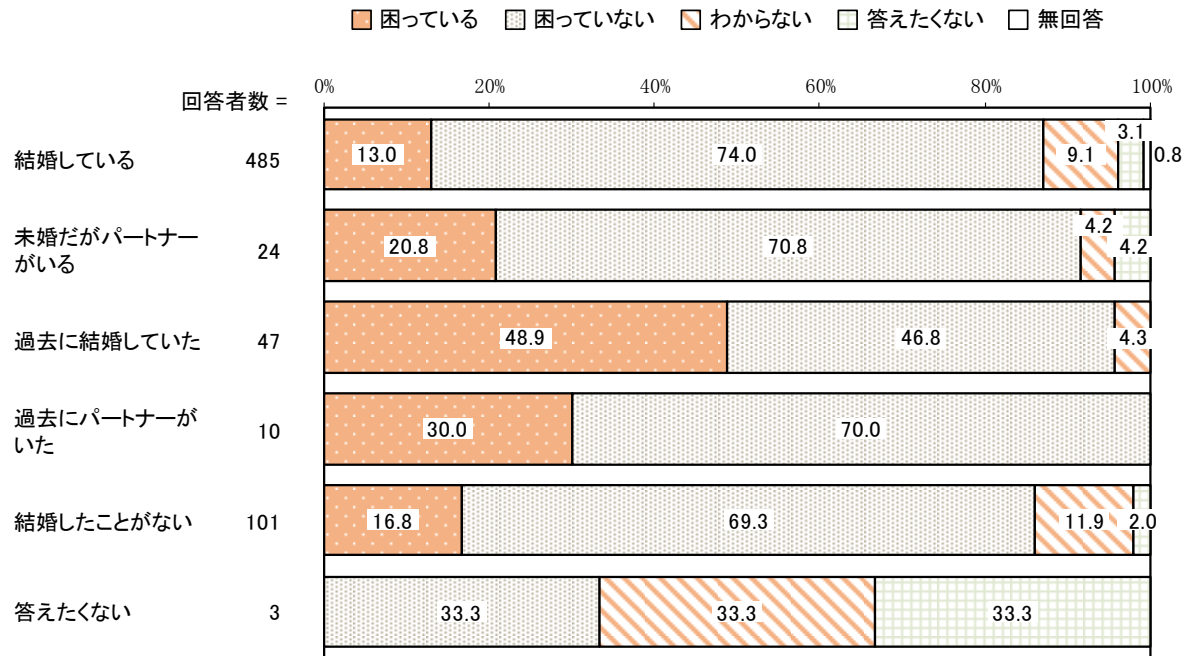
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『20 歳代』『50 歳代』で「困っている」と答えた人の割合が高くなっています。



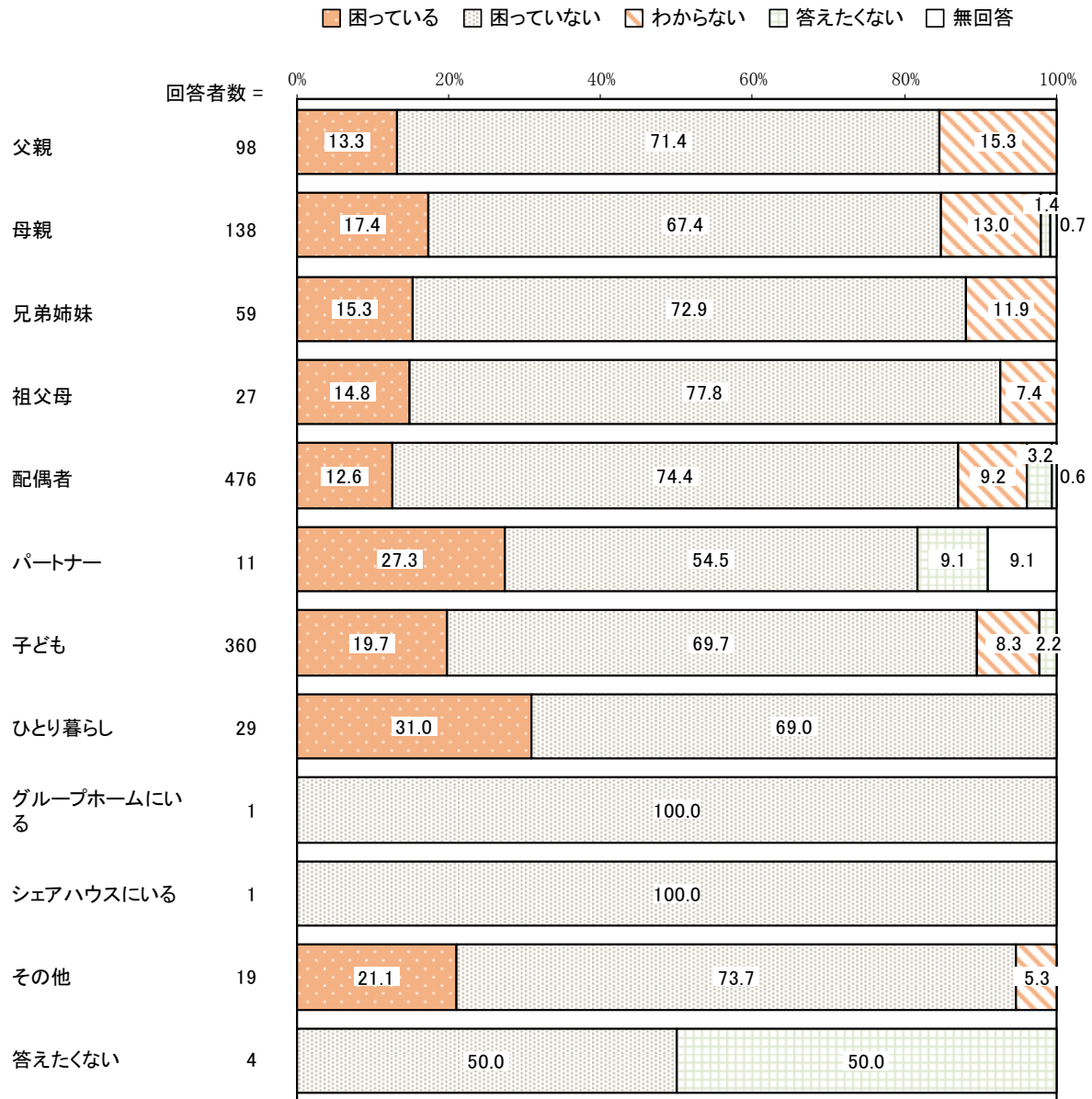
【婚姻状況別】

婚姻状況別でみると、他に比べ、『過去に結婚していた』人で「困っている」と答えた人の割合が高くなっています。また、『結婚している』人で「困っていない」と答えた人の割合が高くなっています。



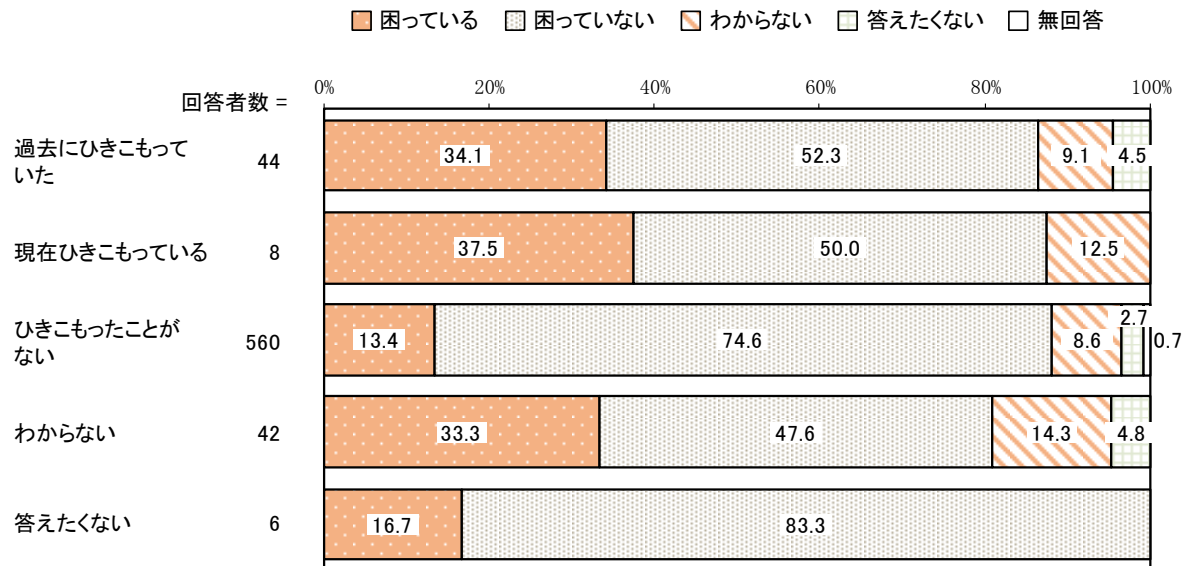
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、『パートナー』と同居している人、『ひとり暮らし』の人で「困っている」と答えた人の割合が高くなっています。また、『祖父母』と同居している人で「困っていない」と答えた人の割合が高くなっています。



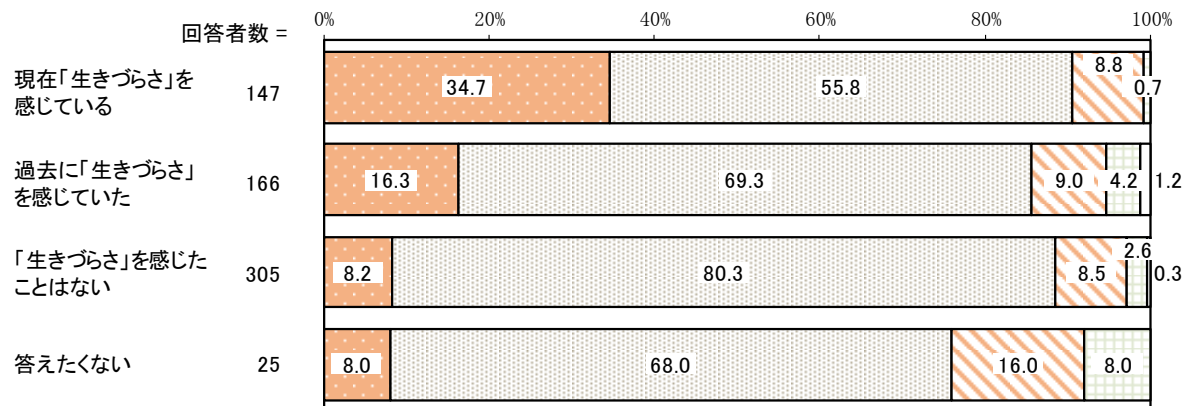
【ひきこもり経験別】

ひきこもり経験別でみると、『ひきこもったことがない』人に比べ、『過去にひきこもっていた』人で「困っている」と答えた人の割合が高くなっています。



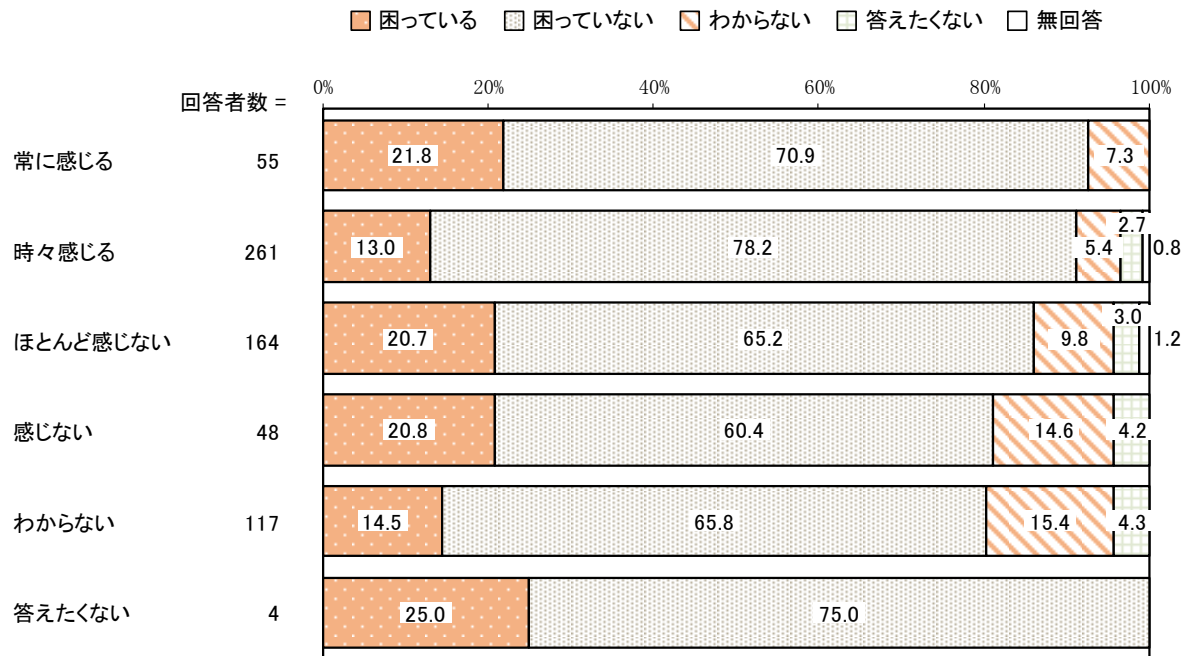
【「生きづらさ」別】

「生きづらさ」別でみると、他に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人で「困っている」と答えた人の割合が高くなっています。また、『「生きづらさ」を感じたことはない』人で「困っていない」と答えた人の割合が高くなっています。



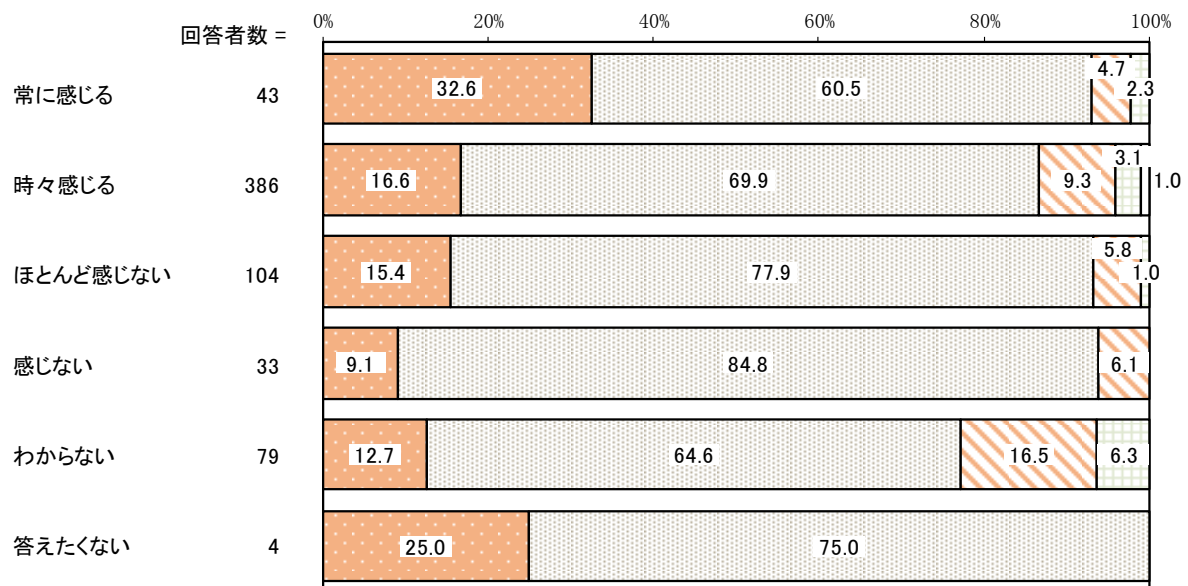
【自分のことを好きと感じる頻度別】

自分のことを好きと感じる頻度別でみると、自分を好きと感じない人に比べ、感じる人で「困っていない」と答えた人の割合が高くなっています。



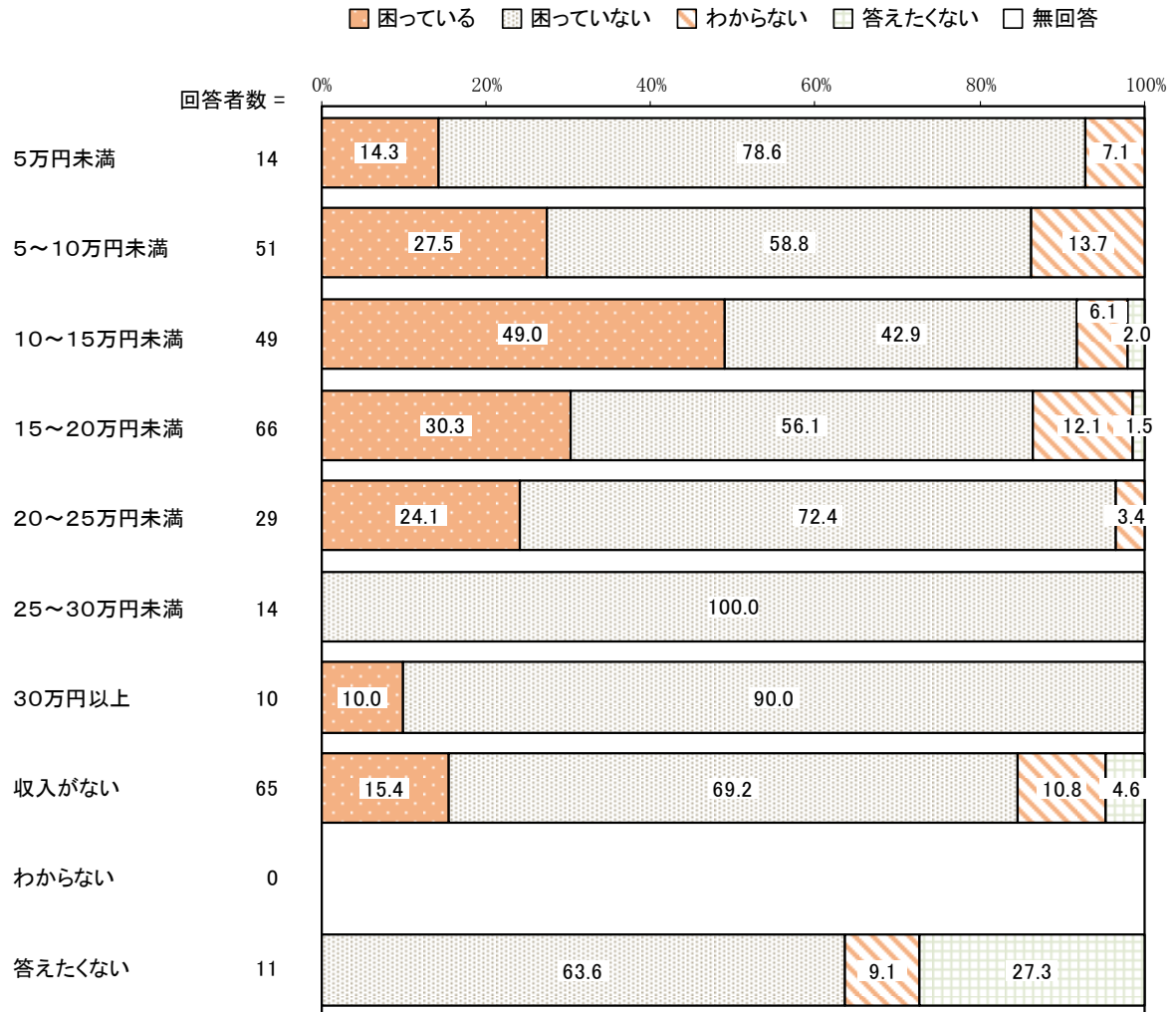
【自分のことが嫌いと感じる頻度別】

自分のことが嫌いと感じる頻度別でみると、自分を嫌いと感じる頻度が高くなるにつれ「困っている」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。



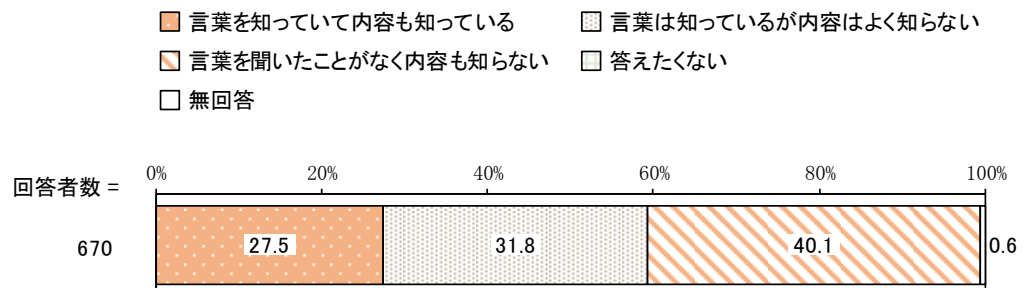
【手取り月収額別】

手取り月収額別でみると、他に比べ、『10～15万円未満』の人で「困っている」と答えた人の割合が高くなっています。



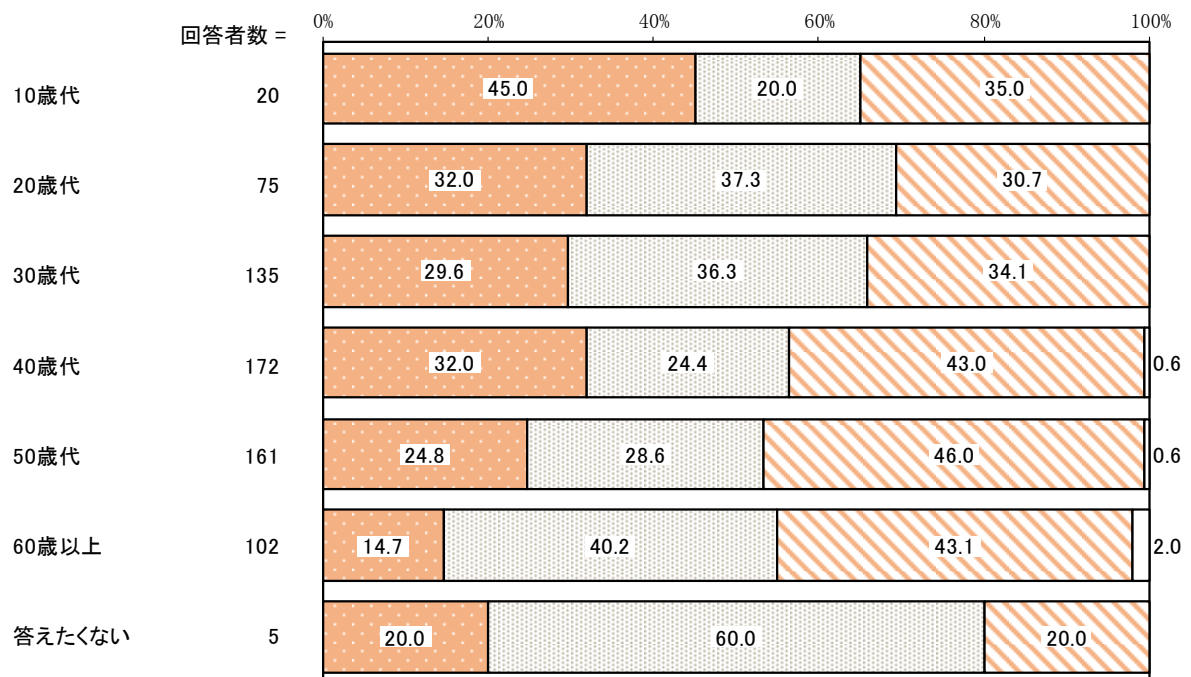
問 23 あなたはワーク・ライフ・バランスという言葉についてご存知ですか。
(○は1つだけ)

「言葉を聞いたことがなく内容も知らない」と答えた人の割合が 40.1%と最も高く、次いで「言葉は知っているが内容はよく知らない」と答えた人の割合が 31.8%、「言葉を知っていて内容も知っている」と答えた人の割合が 27.5%となっています。



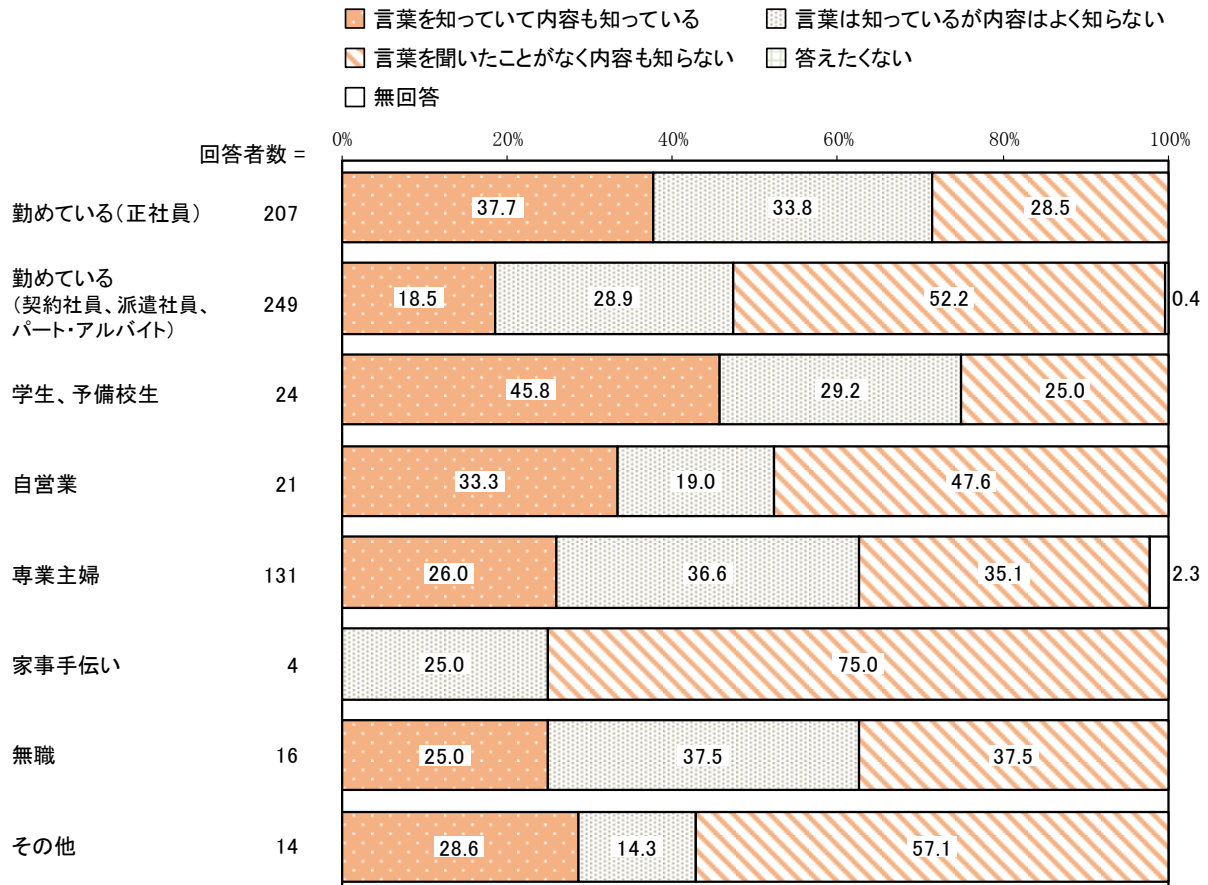
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、『10 歳代』で「言葉を知っていて内容も知っている」と答えた人の割合が高くなっています。また、『30 歳代』以下に比べ、『40 歳代』以上で「言葉を聞いたことがなく内容も知らない」と答えた人の割合が高くなっています。



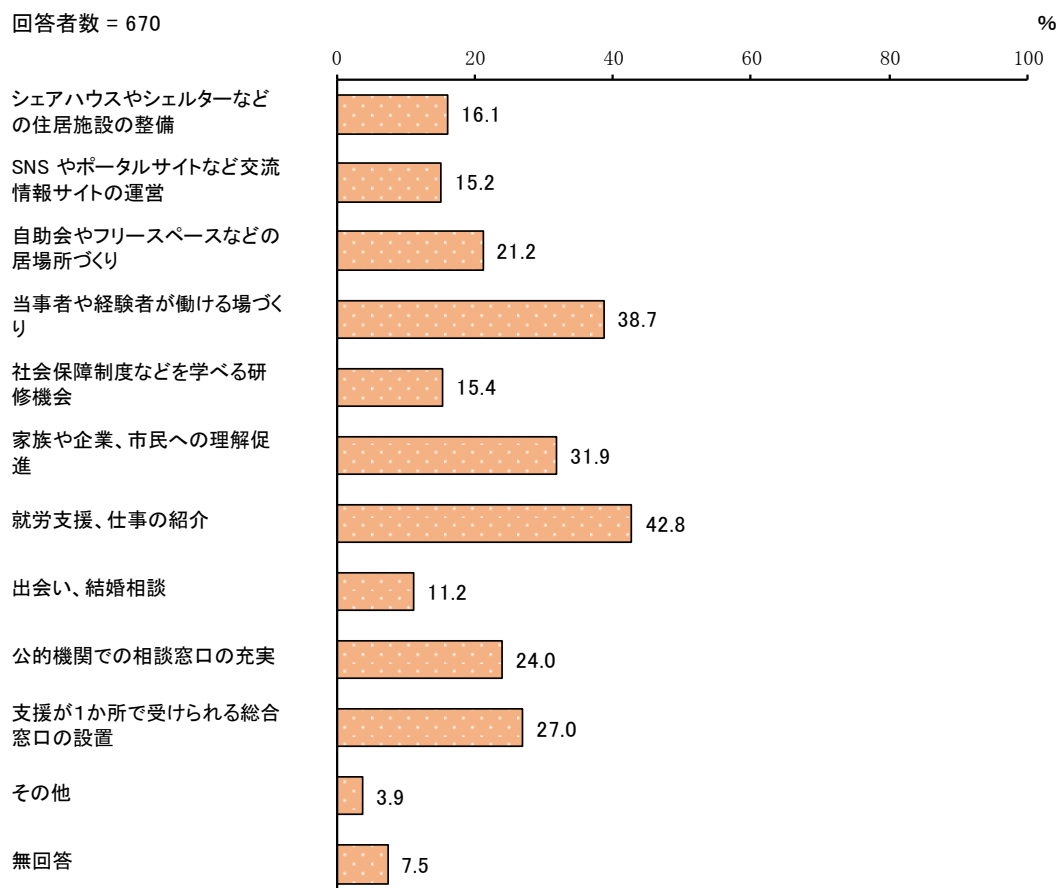
【就学・就労状況別】

就学・就労状況別でみると、他に比べ、『勤めている（正社員）』『学生、予備校生』の人で「言葉を知っていて内容も知っている」と答えた人の割合が高くなっています。また、『勤めている（契約社員、派遣社員、パート・アルバイト）』の人で「言葉を聞いたことがなく内容も知らない」と答えた人の割合が高くなっています。



問 24 「生きづらさ」を解決するために期待する事業や取組はなんですか。(〇はいくつでも可)

「就労支援、仕事の紹介」と答えた人の割合が 42.8%と最も高く、次いで「当事者や経験者が働ける場づくり」と答えた人の割合が 38.7%、「家族や企業、市民への理解促進」と答えた人の割合が 31.9%となっています。



【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ「家族や企業、市民への理解促進」と答えた人の割合が、年代が高くなるにつれ「支援が1か所で受けられる総合窓口の設置」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、『40 歳代』で「当事者や経験者が働ける場づくり」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	シェアハウスやシェルターなどの住居施設の整備	SNSやポータルサイトの運営	交流会やフリースペースなどの居場所づくり	当事者や経験者が働ける場づくり	研修機会	社会保障制度などを学べる	家族や企業、市民への理解促進	就労支援、仕事の紹介	出会い、結婚相談	公的機関での相談窓口の充実	総合窓口の設置	支援が1か所で受けられる	その他	無回答
10 歳代	20	15.0	20.0	10.0	35.0	5.0	25.0	30.0	15.0	10.0	10.0	10.0	5.0	15.0	
20 歳代	75	16.0	17.3	24.0	32.0	18.7	38.7	42.7	14.7	18.7	13.3	4.0	5.3		
30 歳代	135	12.6	19.3	20.7	40.0	17.8	34.8	47.4	15.6	20.0	28.1	5.9	3.7		
40 歳代	172	18.6	18.6	19.8	47.7	15.7	33.7	47.7	12.2	24.4	31.4	3.5	5.8		
50 歳代	161	19.3	13.7	23.0	34.8	14.3	28.0	45.3	9.3	30.4	31.7	3.7	8.1		
60 歳以上	102	12.7	4.9	22.5	33.3	11.8	27.5	28.4	3.9	26.5	22.5	2.0	13.7		
答えたくない	5	—	—	—	40.0	40.0	40.0	20.0	—	—	60.0	—	20.0		

【「生きづらさ」別】

「生きづらさ」別でみると、他に比べ、『過去に「生きづらさ」を感じていた』人で「SNS やポータルサイトなど交流情報サイトの運営」と答えた人の割合が高くなっています。また、『過去に「生きづらさ」を感じていた』人、『「生きづらさ」を感じたことはない』人で「当事者や経験者が働ける場づくり」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

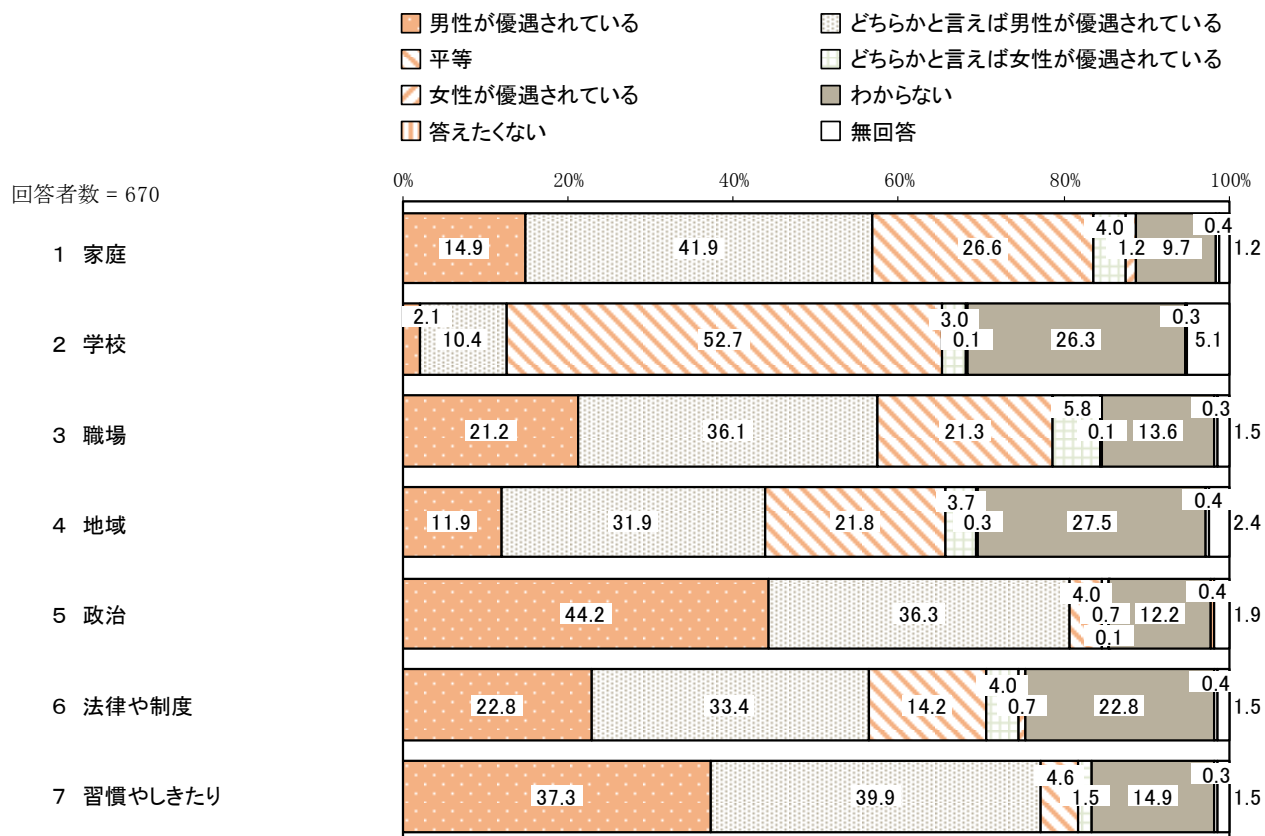
区分	回答者数（件）	シェアハウスやシェルターなどの住居施設の整備	SNSやポータルサイトの運営	交流会やフリースペースなどの居場所づくり	当事者や経験者が働ける場づくり	研修機会	社会保障制度などを学べる	家族や企業、市民への理解促進	就労支援、仕事の紹介	出会い、結婚相談	公的機関での相談窓口の充実	総合窓口の設置	支援が1か所で受けられる	その他	無回答
現在「生きづらさ」を感じている	147	15.6	12.9	21.8	29.3	19.0	29.3	44.9	17.0	25.9	26.5	7.5	5.4		
過去に「生きづらさ」を感じていた	166	21.1	21.7	22.9	40.4	16.9	35.5	41.0	8.4	27.1	24.7	4.8	9.6		
「生きづらさ」を感じたことはない	305	14.4	13.8	20.0	42.6	13.8	31.8	44.6	11.1	23.3	26.2	2.0	6.2		
答えたくない	25	16.0	8.0	20.0	24.0	12.0	12.0	24.0	—	12.0	32.0	—	24.0		

(3) 男女共同参画について

問 25 各場面で男女は平等になっていると思いますか。

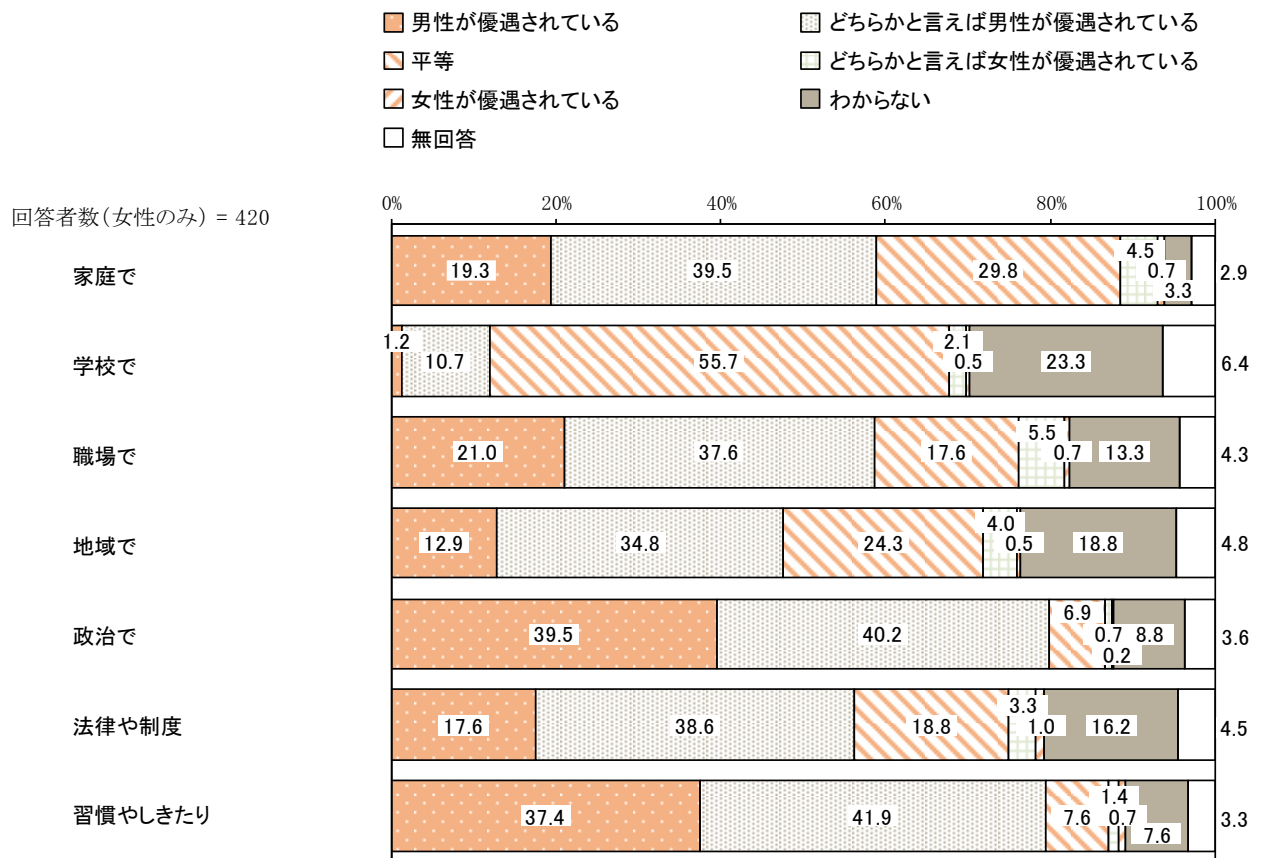
『5 政治』『7 習慣やしきたり』で「男性が優遇されている」と「どちらかと言えば男性が優遇されている」をあわせた“男性が優遇されている”と答えた人の割合が高く、約8割となっています。

また、『2 学校』で「平等」と答えた人の割合が高く、約5割となっています。



【参考：平成 27 年度調査（女性のみ）との比較】

平成 27 年度調査（女性のみ）と比較すると、『法律や制度』で「男性が優遇されている」と答えた人の割合が増えています。

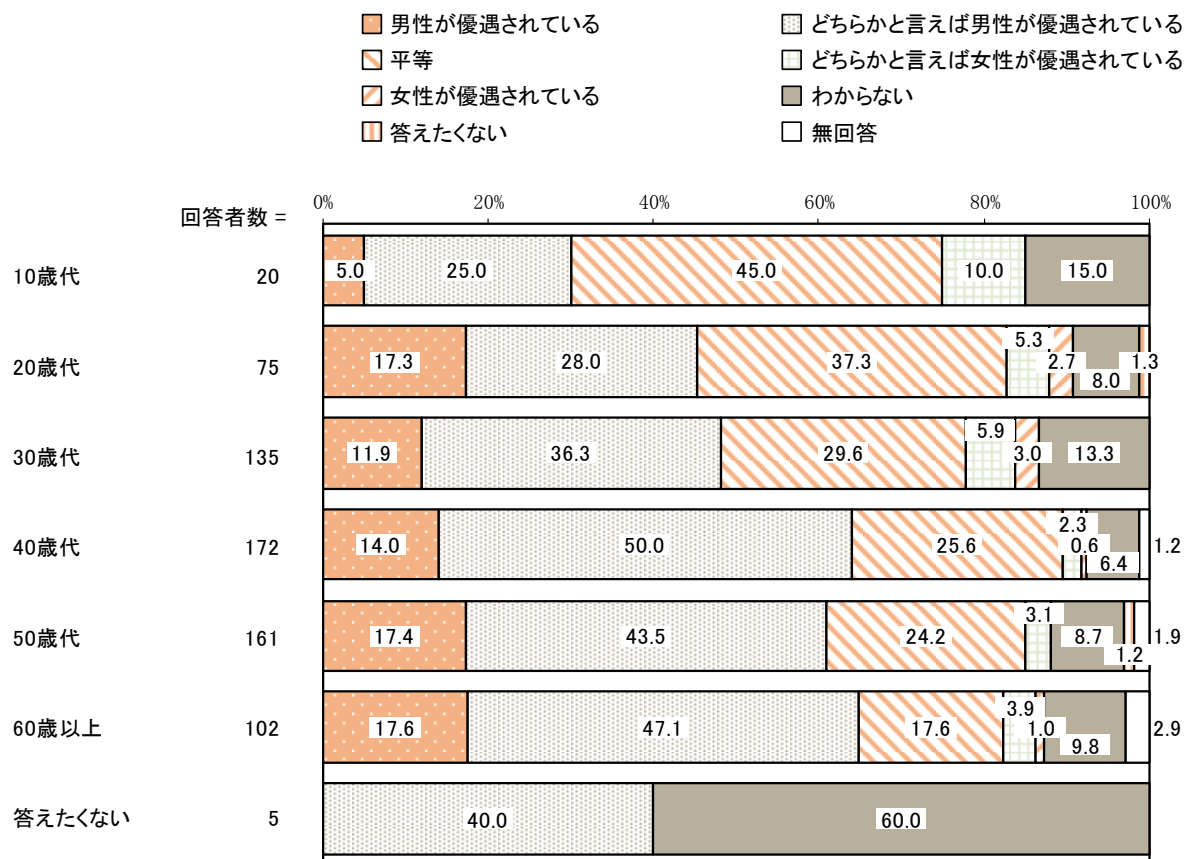


※平成 27 年度調査は「答えたくない」の選択肢がありません。

1 家庭

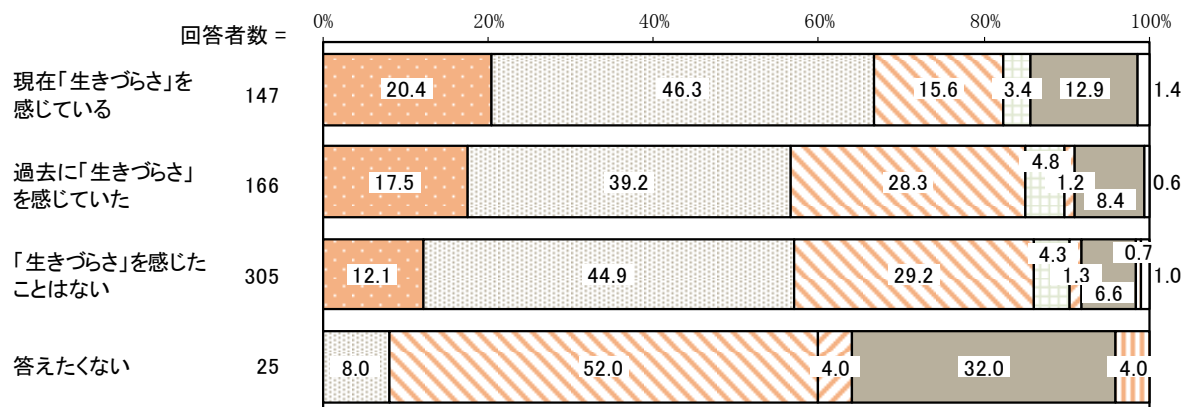
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ「平等」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、30 歳代以下に比べ、40 歳代以上で“男性が優遇されている”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

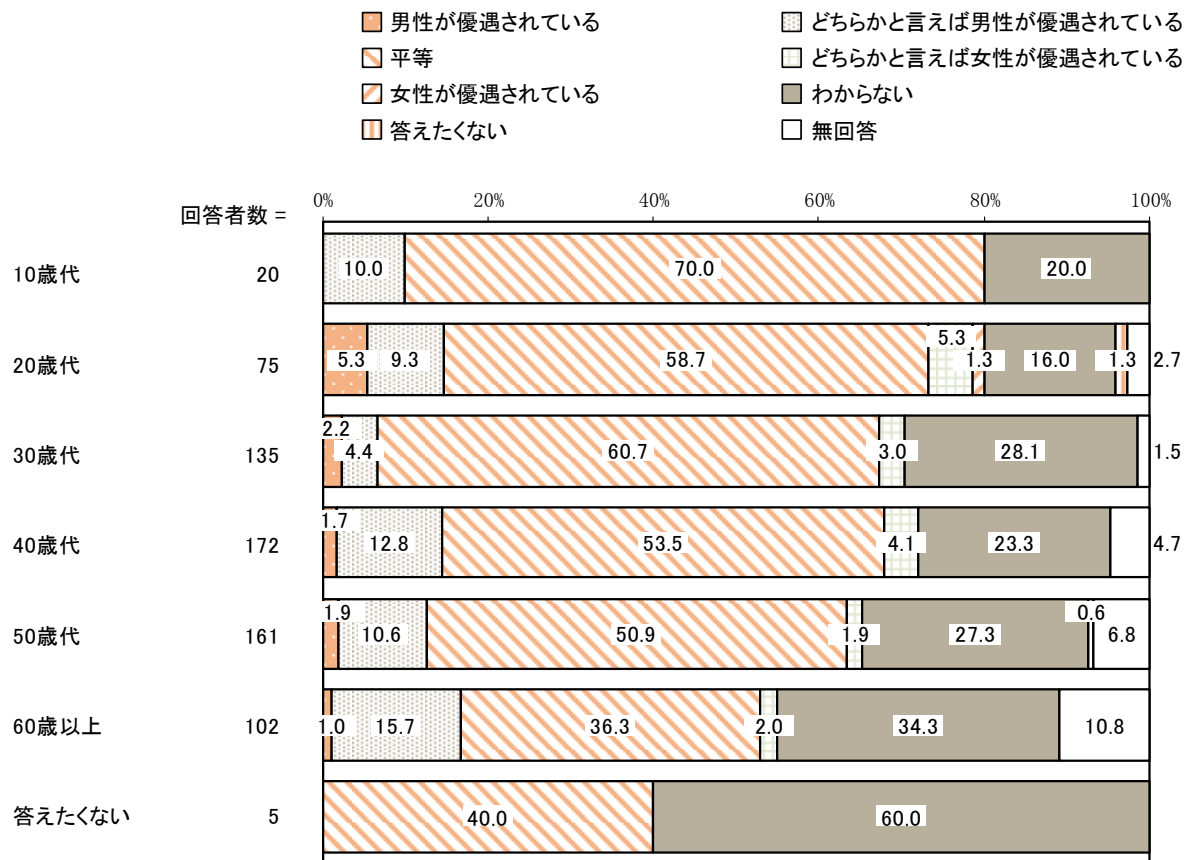
「生きづらさ」別でみると、他に比べ、現在「生きづらさ」を感じている人で“男性が優遇されている”と答えた人の割合が高く、「平等」と答えた人の割合が低くなっています。



2 学校

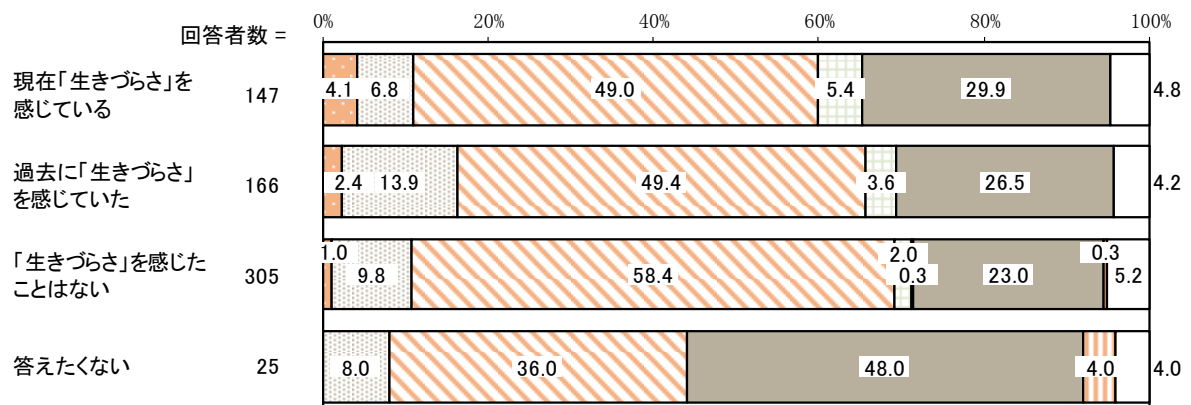
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、10歳代で「平等」と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

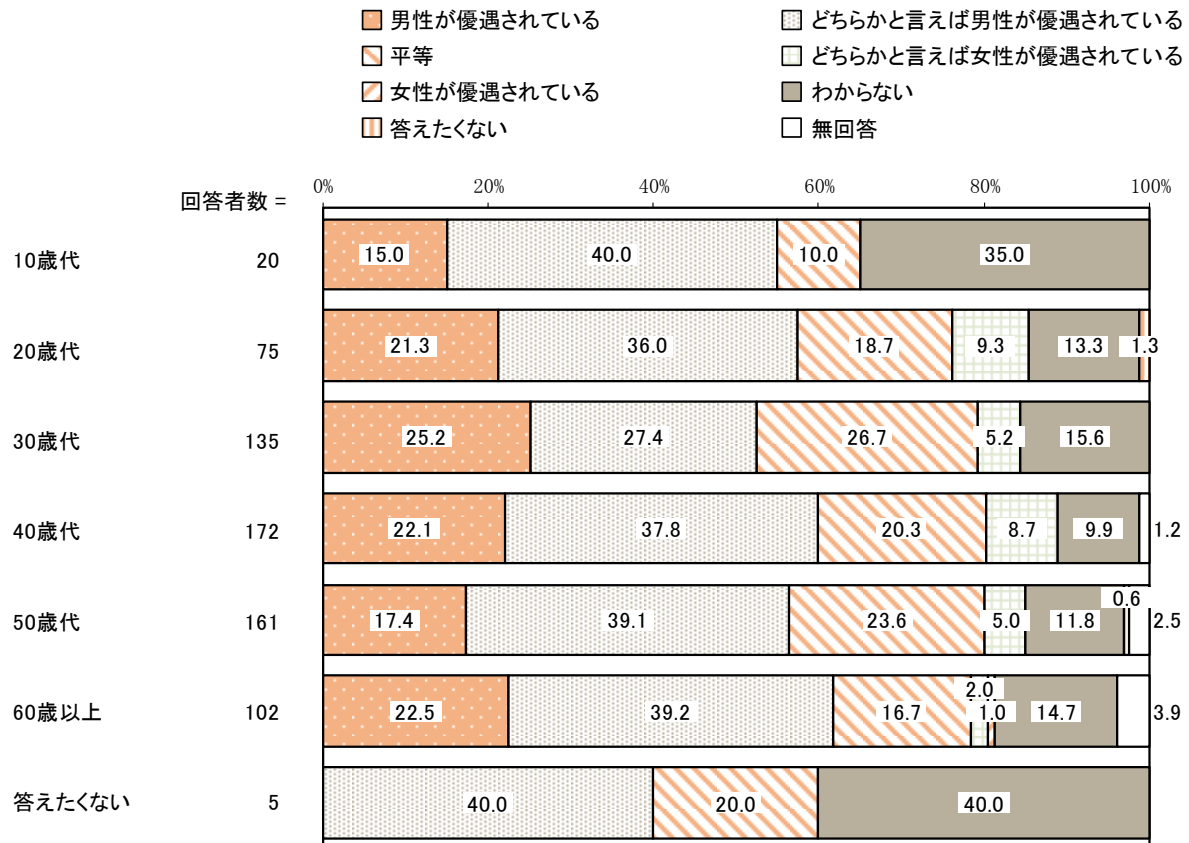
「生きづらさ」別でみると、他に比べ、過去に「生きづらさ」を感じていた人で“男性が優遇されている”と答えた人の割合が高くなっています。また、「生きづらさ」を感じたことのない人で「平等」と答えた人の割合が高くなっています。



3 職場

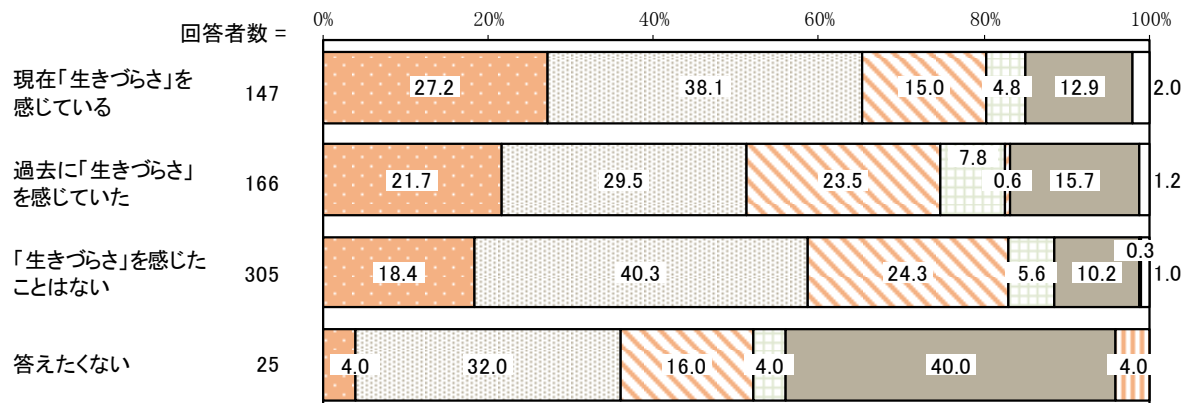
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20歳代、40歳代、60歳以上で“男性が優遇されている”と答えた人の割合が高くなっています。また、30歳代で「平等」と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

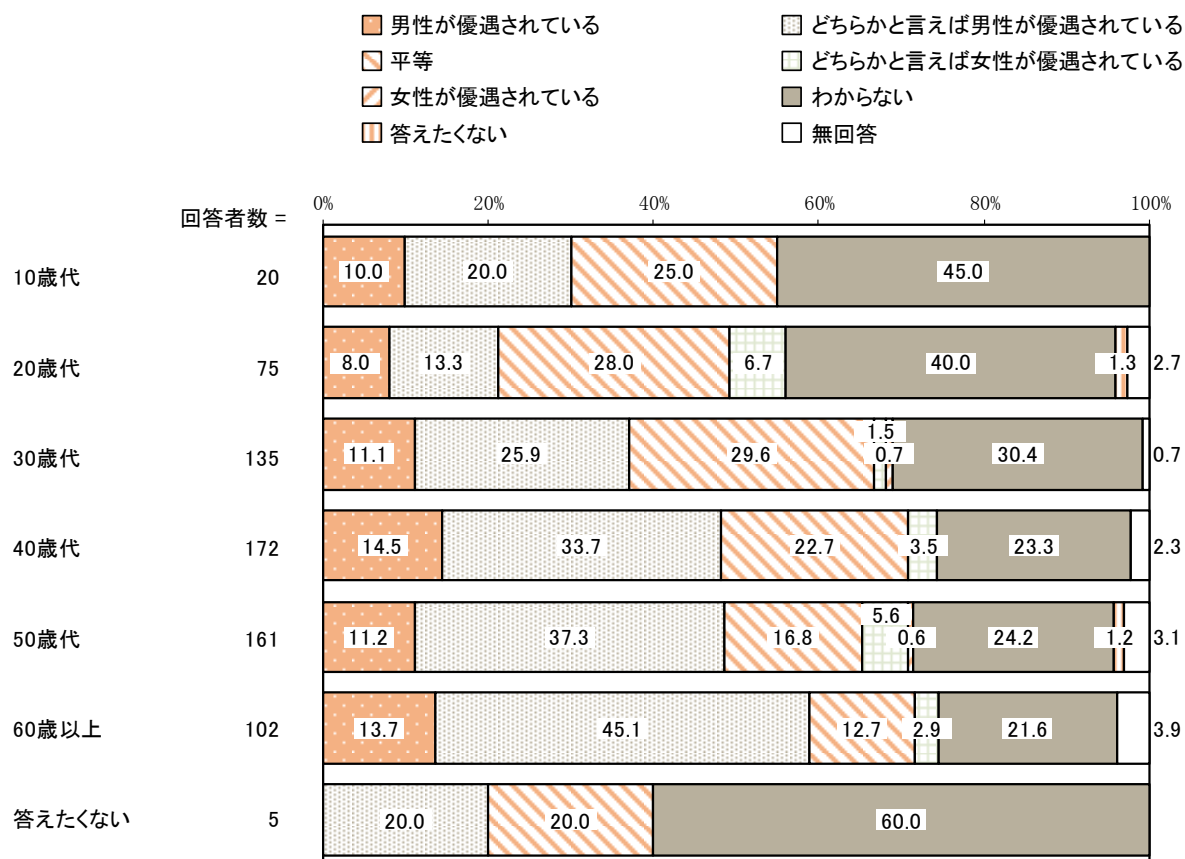
「生きづらさ」別でみると、他に比べ、現在「生きづらさ」を感じている人で“男性が優遇されている”と答えた人の割合が高く、「平等」と答えた人の割合が低くなっています。



4 地域

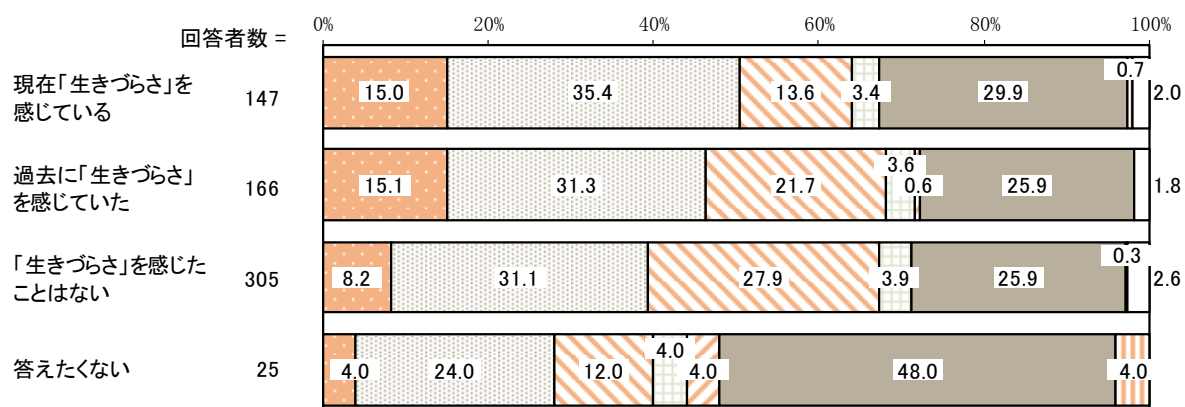
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“男性が優遇されている”と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、20歳代、30歳代で「平等」と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

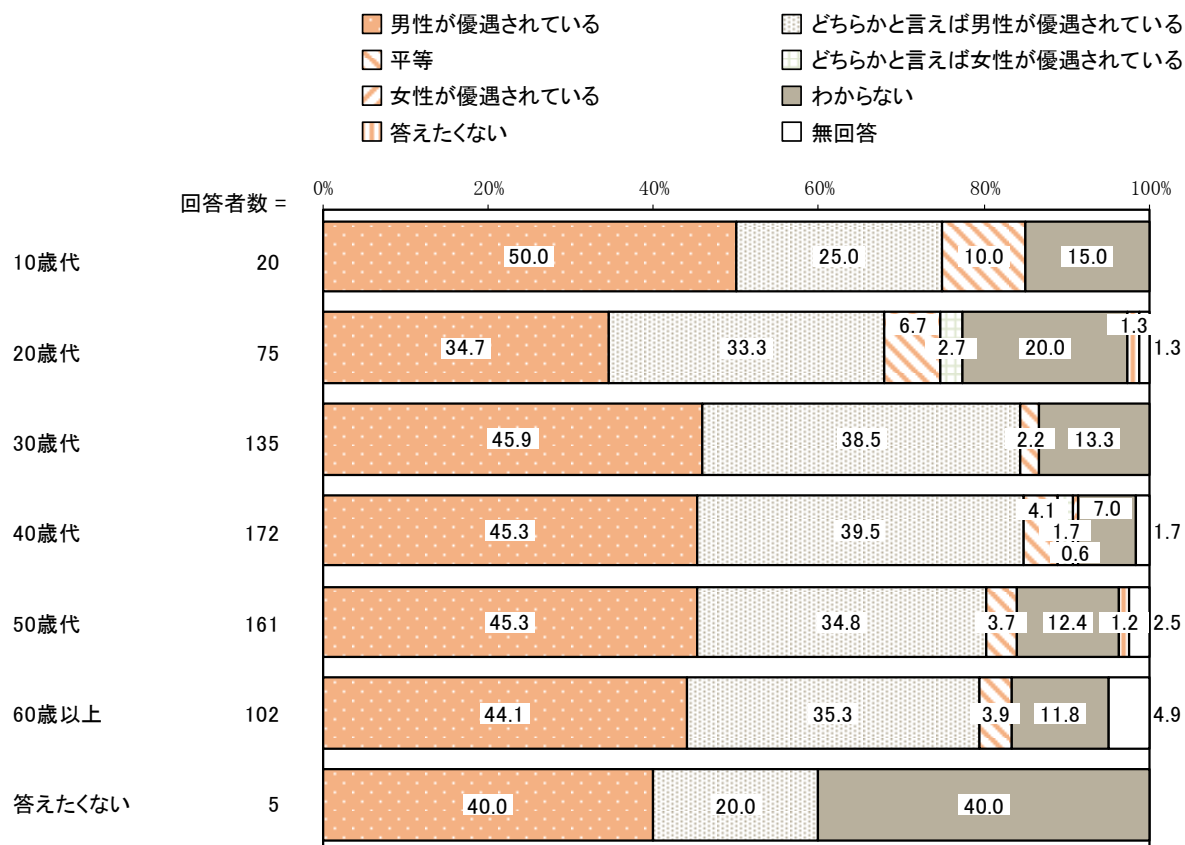
「生きづらさ」別でみると、「生きづらさ」を感じたことはない人に比べ、現在「生きづらさ」を感じている人、過去に「生きづらさ」を感じていた人で“男性が優遇されている”と答えた人の割合が高くなっています。また、他に比べ、「生きづらさ」を感じたことはない人で「平等」と答えた人の割合が高くなっています。



5 政治

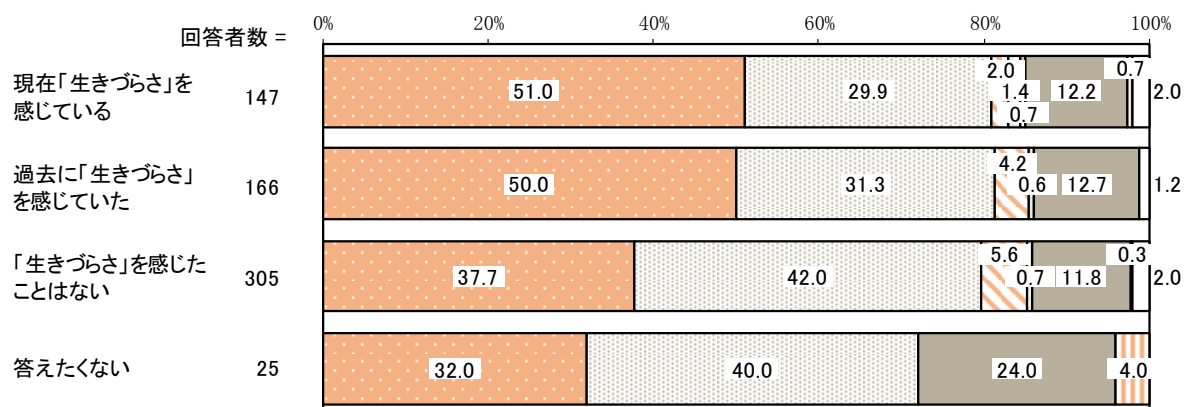
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、30 歳代、40 歳代で“男性が優遇されている”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

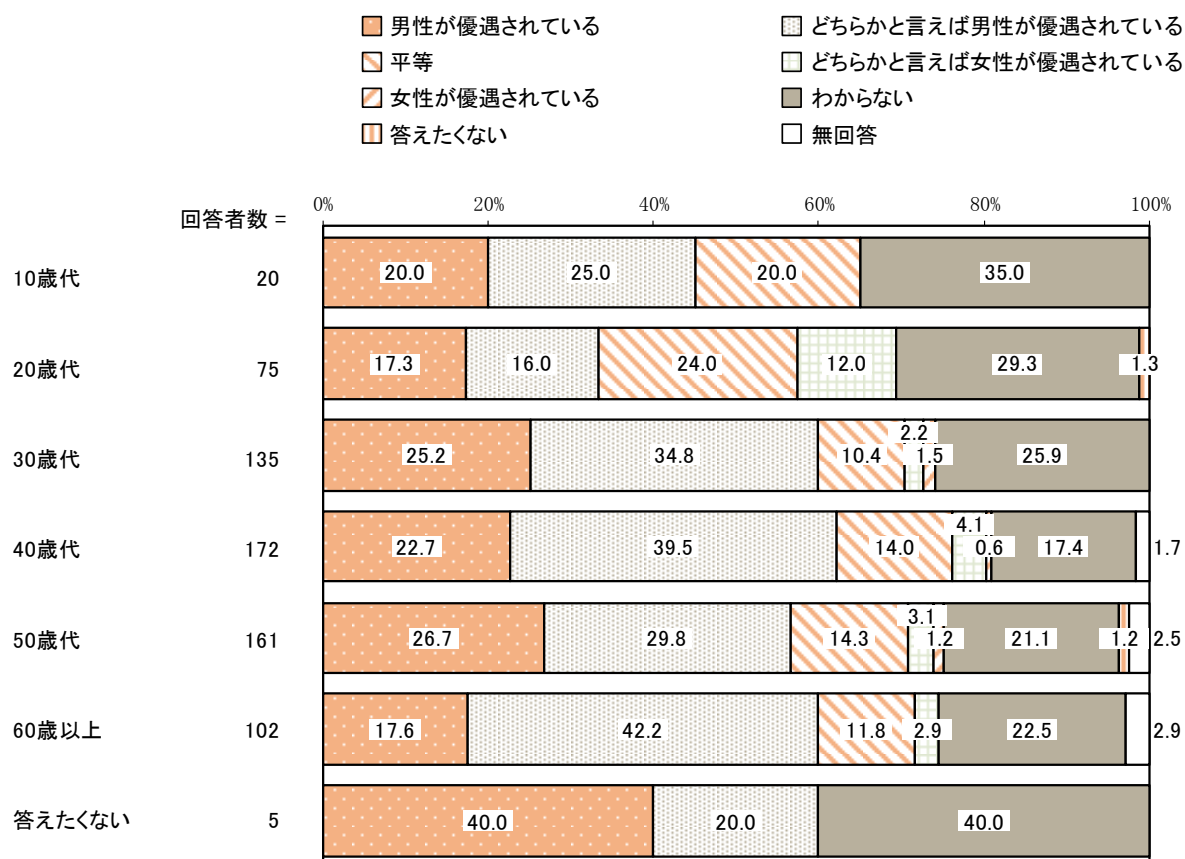
「生きづらさ」別でみると、大きな差異はみられません。



6 法律や制度

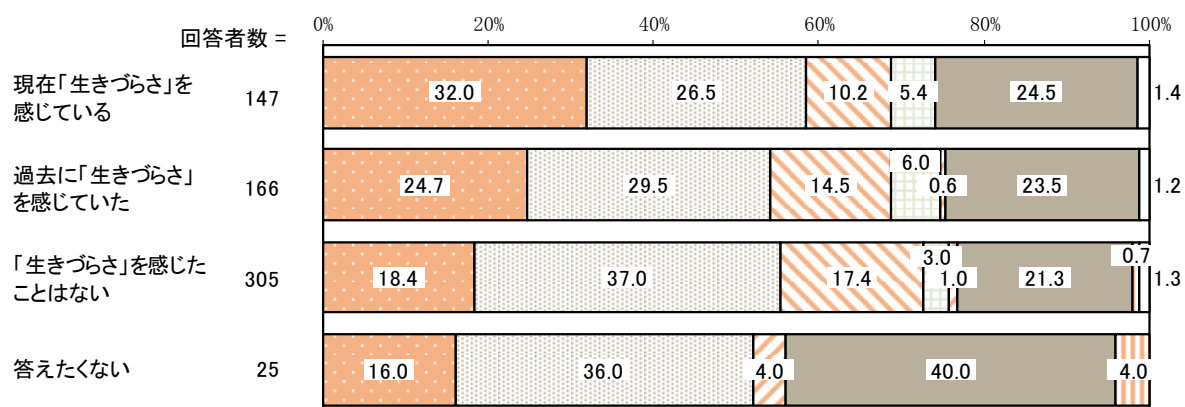
【年代別】

年代別でみると、20 歳代以下に比べ、30 歳代以上で“男性が優遇されている”と答えた人の割合が高くなっています。また、20 歳代で「平等」の割合とともに、「どちらかと言えば女性が優遇されている」と「女性が優遇されている」をあわせた“女性が優遇されている”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

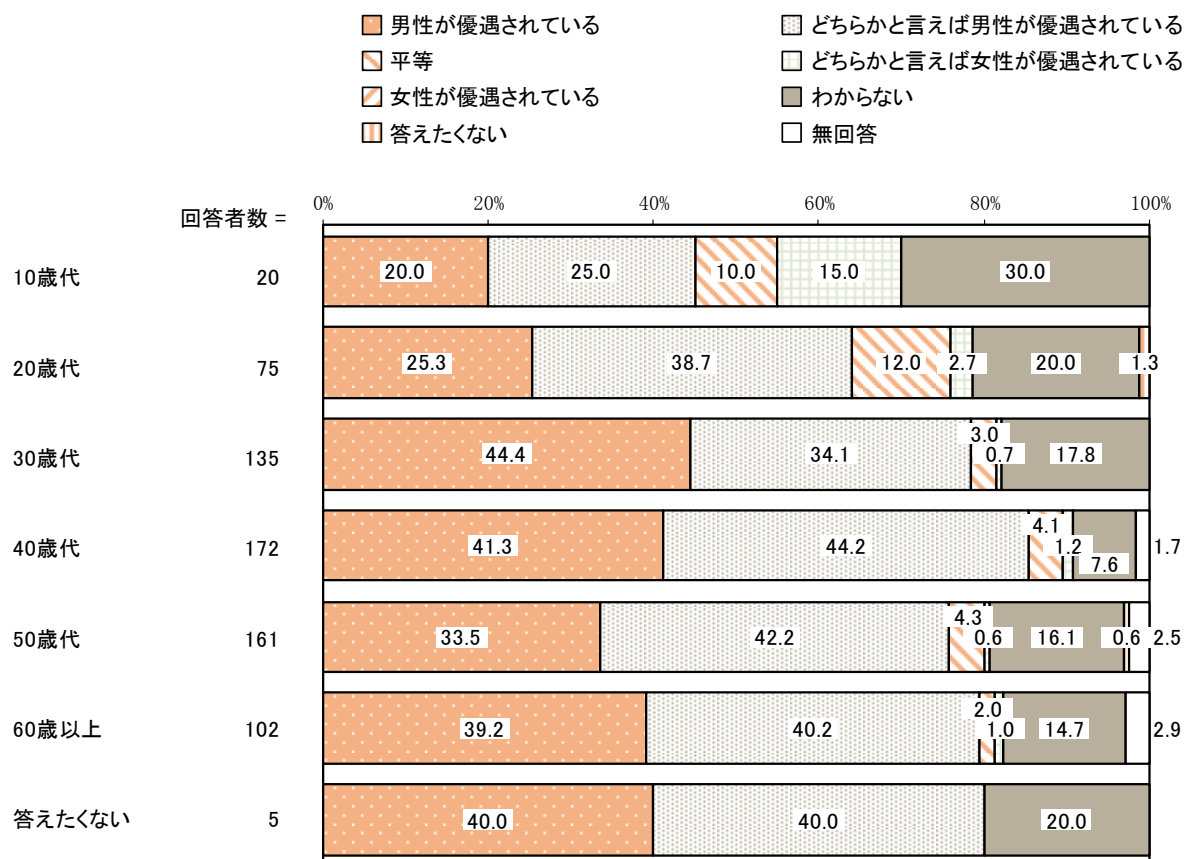
「生きづらさ」別でみると、他に比べ、「生きづらさ」を感じたことはない人で「平等」と答えた人の割合が高くなっています。



7 習慣やしきたり

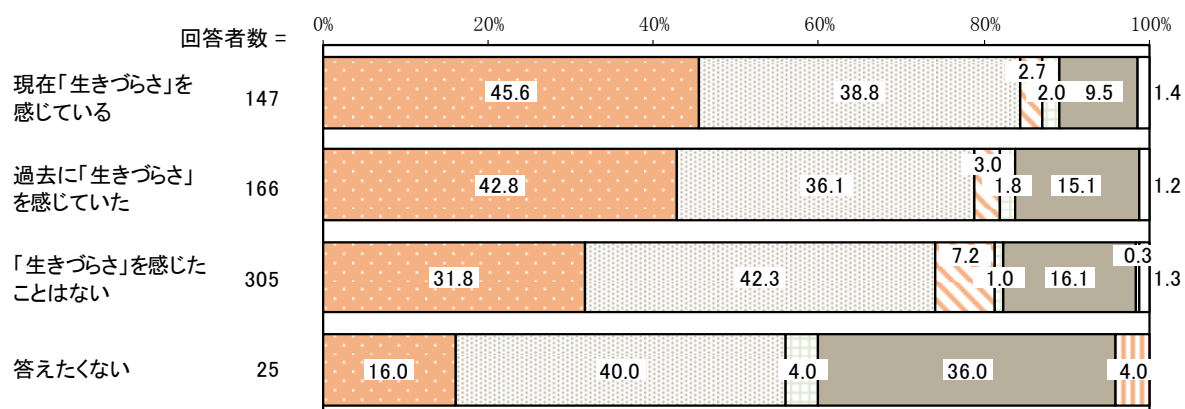
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、40歳代で“男性が優遇されている”と答えた人の割合が高くなっています。また、10歳代、20歳代で「平等」と答えた人の割合が、10歳代で“女性が優遇されている”と答えた人の割合が高くなっています。



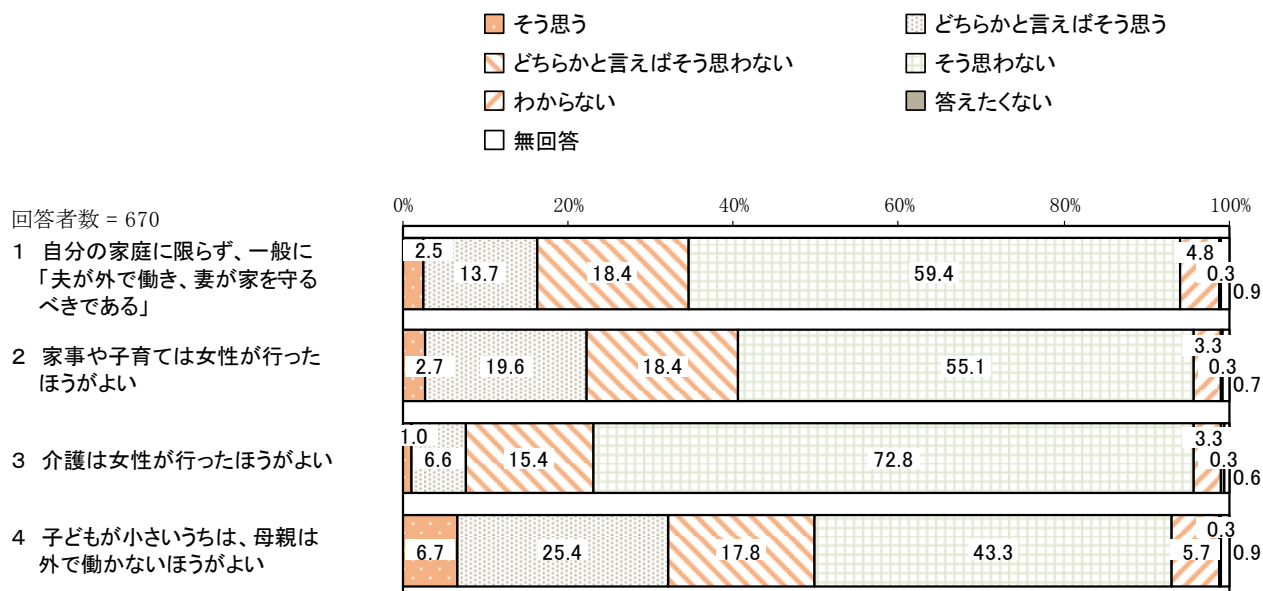
【「生きづらさ」別】

「生きづらさ」別でみると、他に比べ、現在「生きづらさ」を感じている人で“男性が優遇されている”と答えた人の割合が高くなっています。

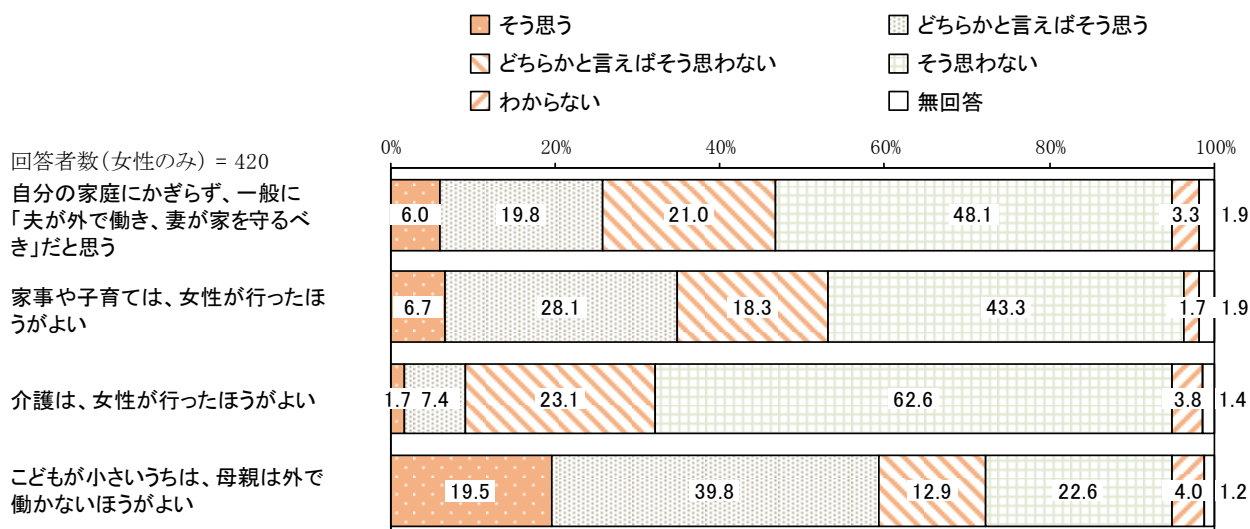


問 26 次のような意見についてどう思いますか。（それぞれの項目では○は1つだけ）

『4 子どもが小さいうちは、母親は外で働かないほうがよい』で「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた「そう思う」と答えた人の割合が高く、約3割となっています。一方、『3 介護は女性が行ったほうがよい』で「どちらかと言えばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた「そう思わない」と答えた人の割合が高く、88.2%となっています。



【参考：平成 27 年度調査（女性のみ）との比較】

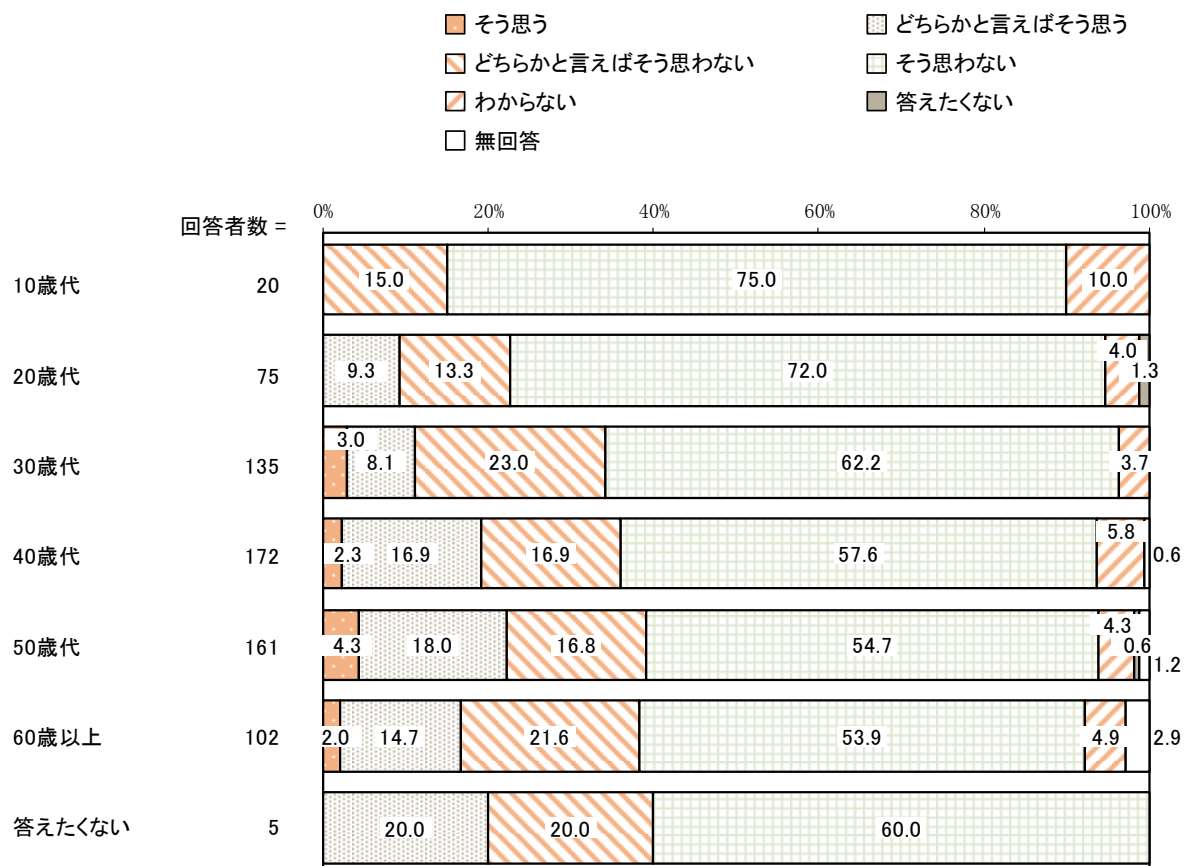


※平成 27 年度調査は「答えたくない」の選択肢がありません。

1 自分の家庭に限らず、一般に「夫が外で働き、妻が家を守るべきである」

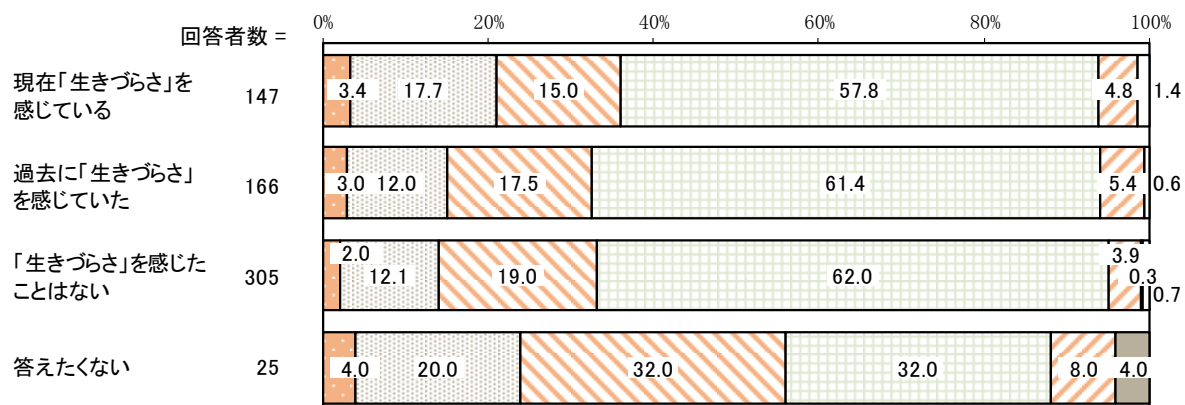
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ“そう思わない”と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、40歳代、50歳代で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

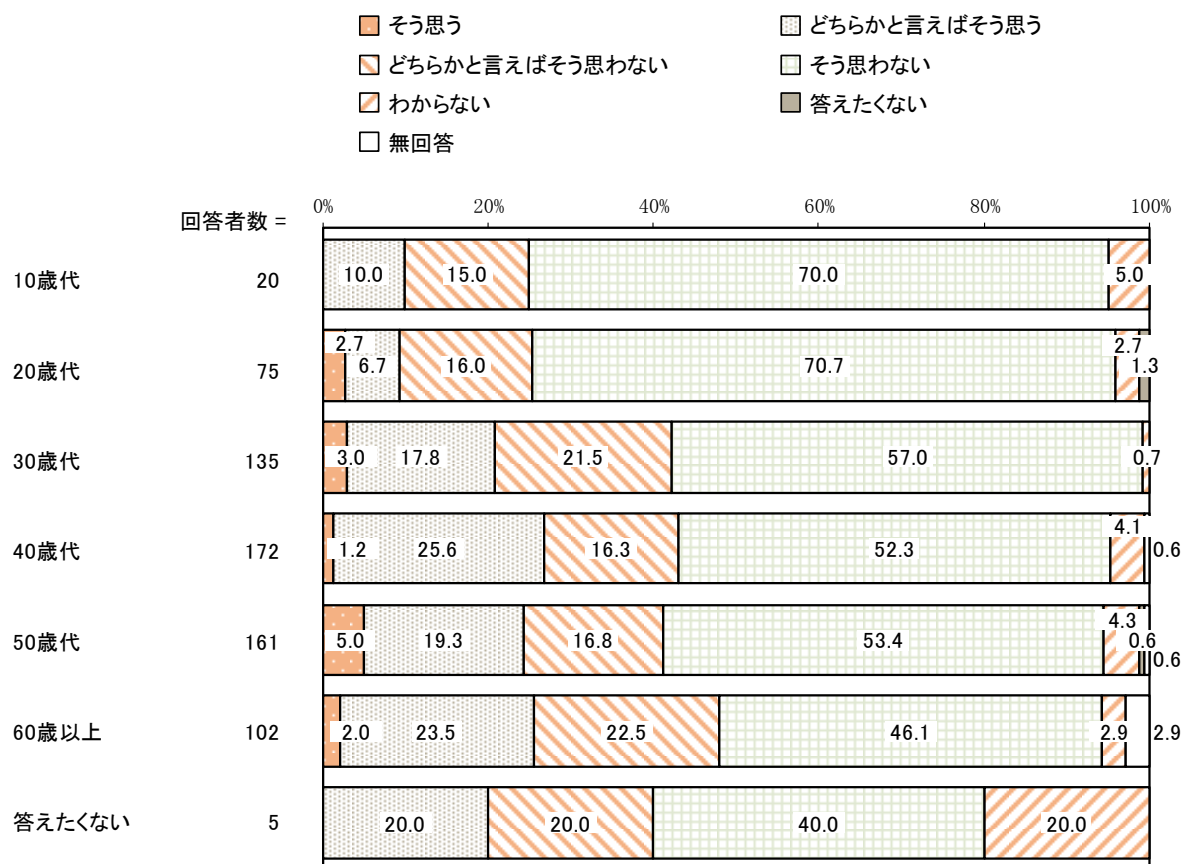
「生きづらさ」別でみると、他に比べ、現在「生きづらさ」を感じている人で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。



2 家事や子育ては女性が行ったほうがよい

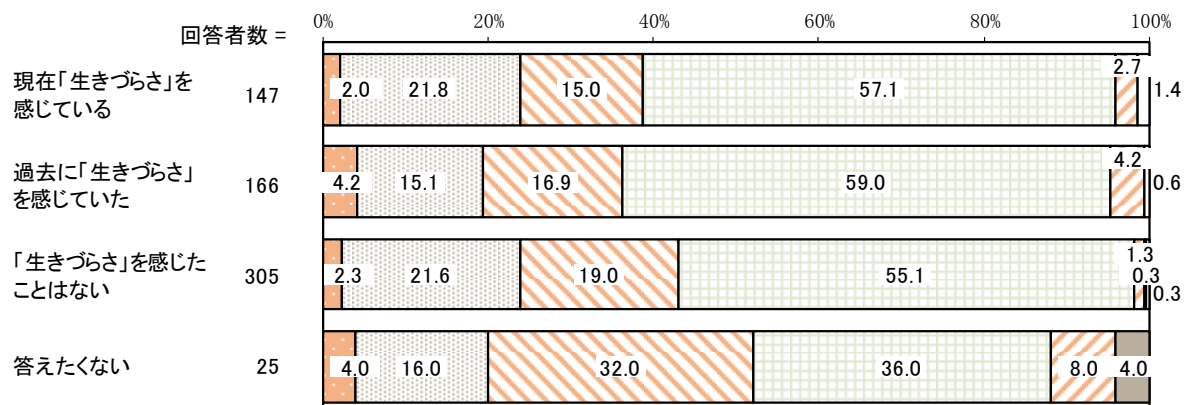
【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ“そう思わない”と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、20歳代以下に比べ、30歳代以上で“そう思う”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

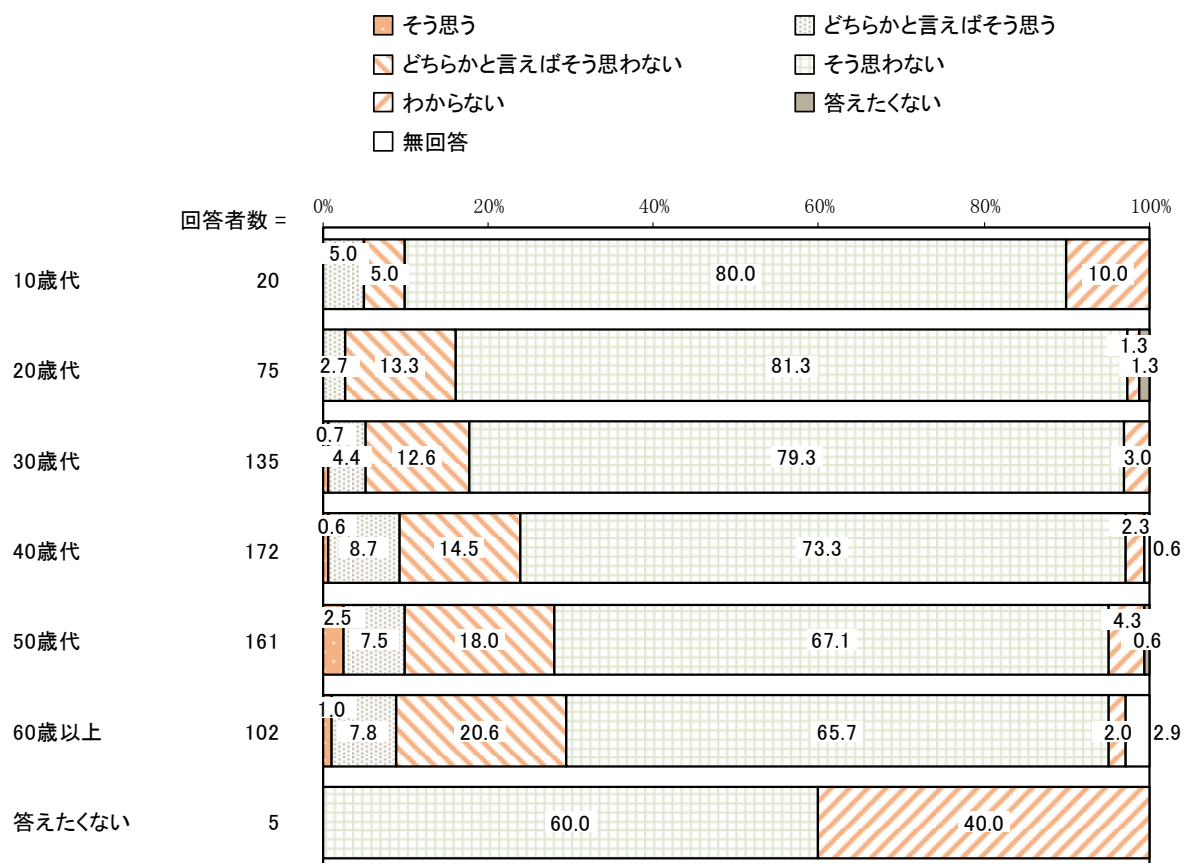
「生きづらさ」別でみると、大きな差異はみられません。



3 介護は女性が行ったほうがよい

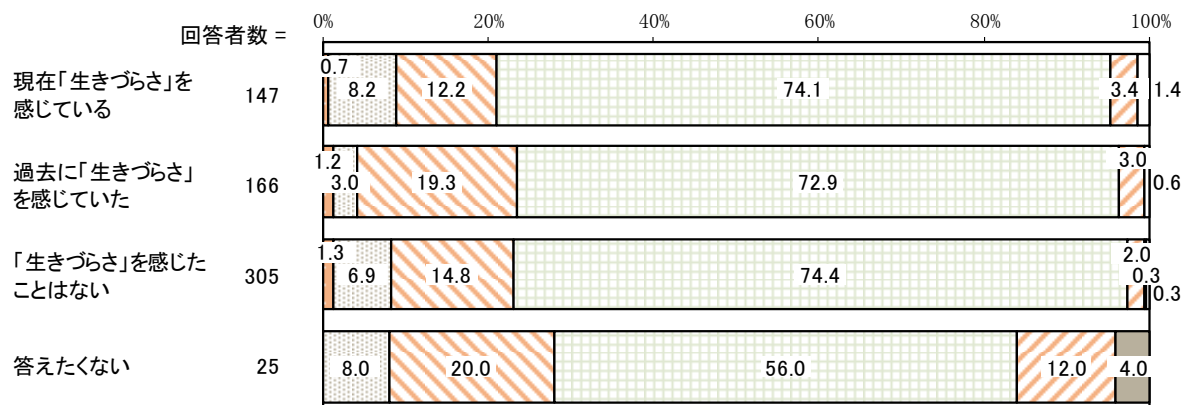
【年代別】

年代別でみると、他に比べ、20歳代、30歳代で“そう思わない”と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

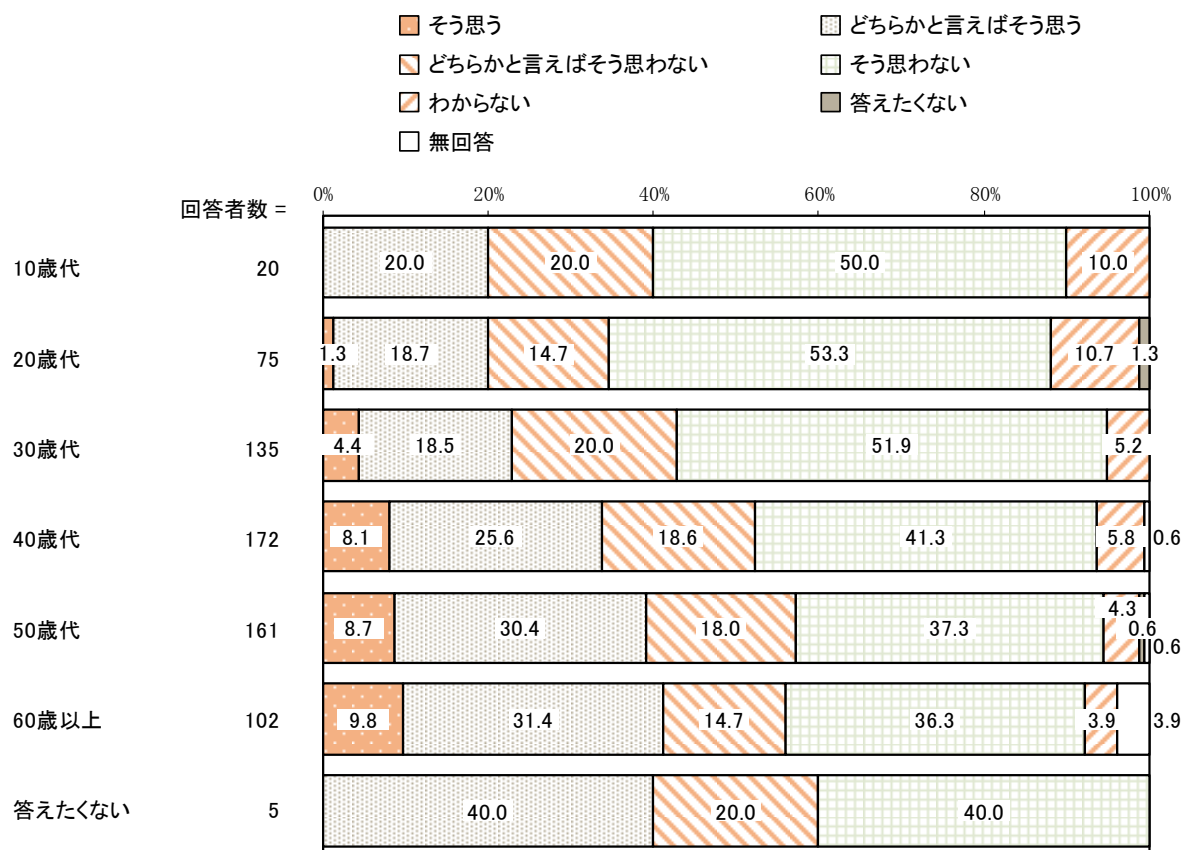
「生きづらさ」別でみると、他に比べ、過去に「生きづらさ」を感じていた人で“そう思わない”と答えた人の割合が高くなっています。



4 子どもが小さいうちは、母親は外で働かないほうがよい

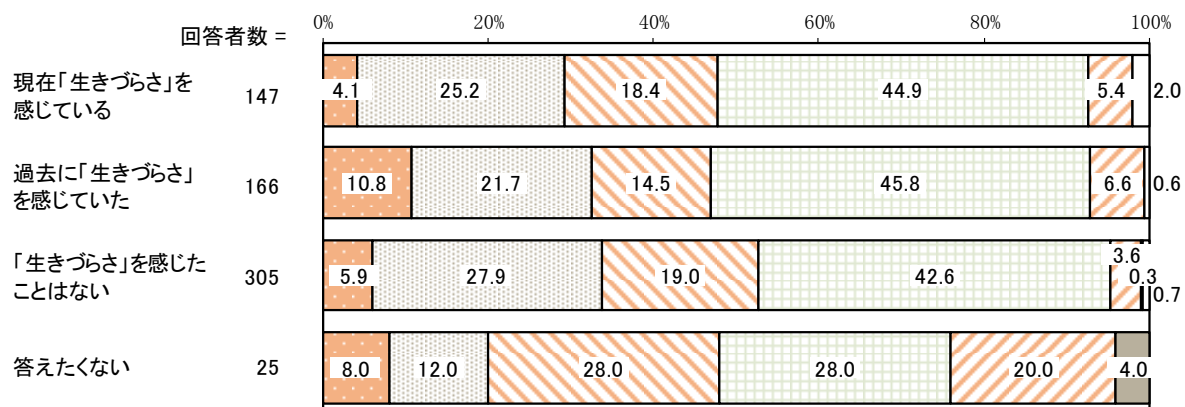
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれ“そう思う”と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。



【「生きづらさ」別】

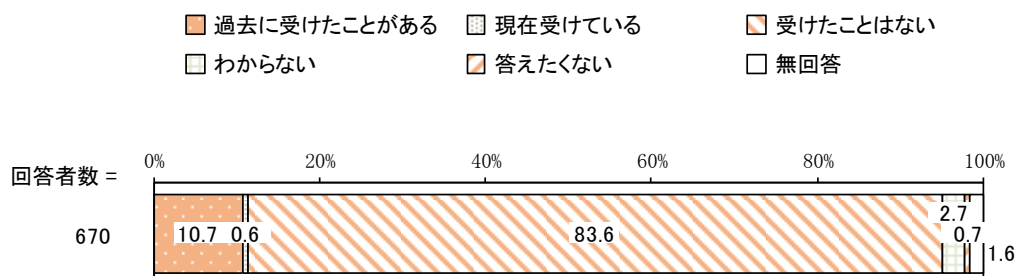
「生きづらさ」別でみると、大きな差異はみられません。



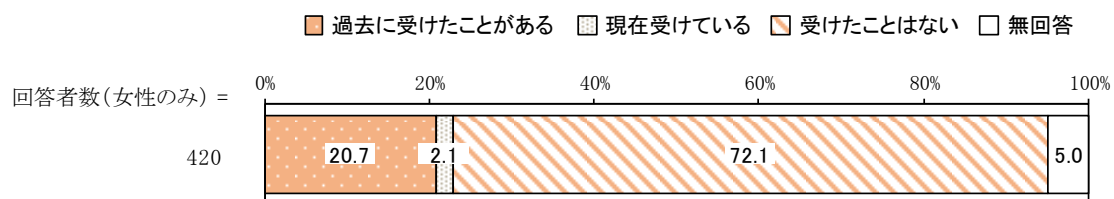
問 27ー1 DVを受けた経験はありますか。(○は1つだけ)

「受けたことはない」と答えた人の割合が83.6%と最も高く、次いで「過去に受けたことがある」と答えた人の割合が10.7%となっています。

「過去に受けたことがある」と「現在受けている」をあわせた“DVを受けたことがある”人の割合は11.3%となっています。



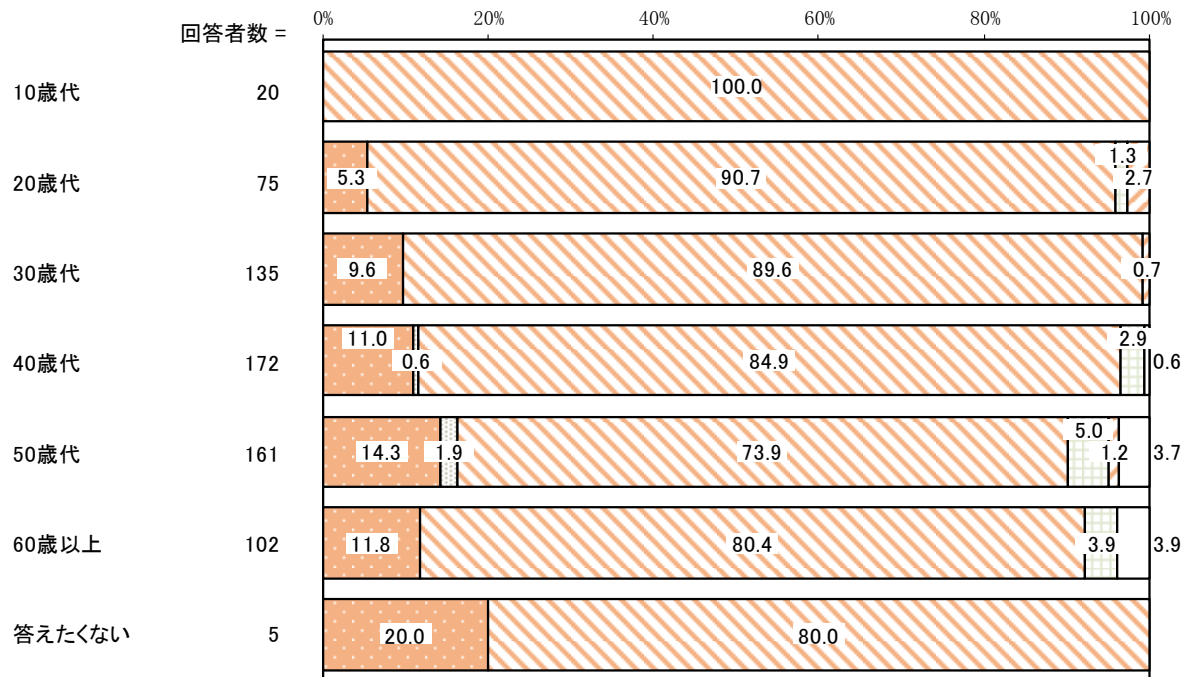
【参考：平成27年度調査（女性のみ）との比較】



※平成27年度調査は「わからない」「答えたくない」の選択肢がありません。

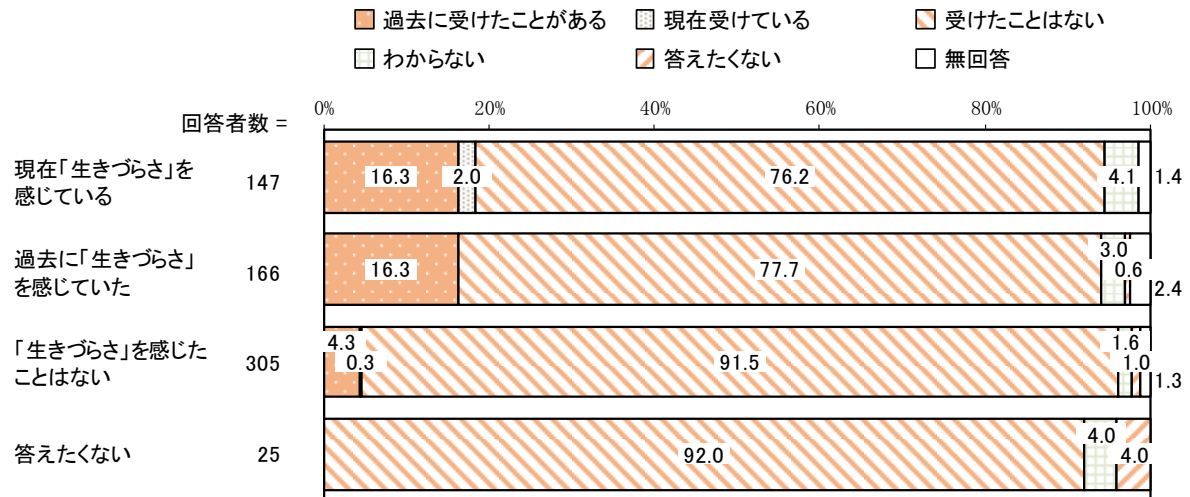
【年代別】

年代別でみると、30 歳代以下に比べ、40 歳代以上で“DVを受けたことがある”人と答えた人の割合が高くなっています。



【「生きづらさ」別】

「生きづらさ」別でみると、「生きづらさ」を感じたことはない人に比べ、現在「生きづらさ」を感じている人、過去に「生きづらさ」を感じていた人で“DVを受けたことがある”人と答えた人の割合が高くなっています。

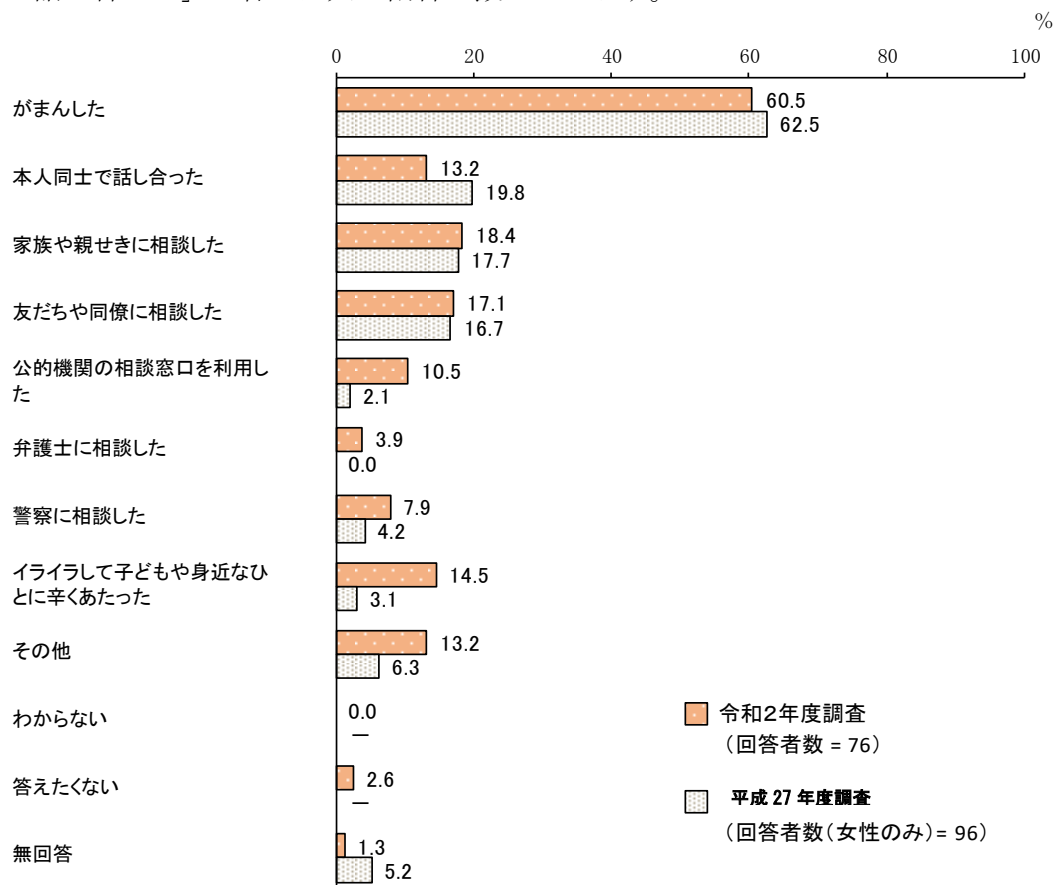


問 27－1 で「過去に受けたことがある」「現在受けている」を選んだ方にお聞きします。

問 27－2 DVを受けたときの対処について教えてください。(〇はいくつでも可)

「がまんした」と答えた人の割合が 60.5%と最も高く、次いで「家族や親せきに相談した」と答えた人の割合が 18.4%、「友だちや同僚に相談した」と答えた人の割合が 17.1%となっています。

平成 27 年度調査（女性のみ）と比較すると、「公的機関の相談窓口を利用した」「イライラして子どもや身近なひとに辛くあたった」「その他」と答えた人の割合が増えています。一方、「本人同士で話し合った」と答えた人の割合が減っています。



※平成 27 年度調査は「わからない」「答えたくない」の選択肢がありません。

【年代別】

年代別でみると、年代が低くなるにつれ「友だちや同僚に相談した」と答えた人の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、『60歳以上』で「がまんした」「イライラして子どもや身近なひとに辛くあたった」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	がまんした	本人同士で話し合った	家族や親せきに相談した	友だちや同僚に相談した	公的機関の相談窓口を利用した	弁護士に相談した	警察に相談した	イライラして子どもや身近なひとに辛くあたった	その他	わからない	答えたくない	無回答
10 歳代	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20 歳代	4	25.0	—	—	—	25.0	—	—	—	50.0	—	—	—
30 歳代	13	69.2	15.4	15.4	23.1	7.7	—	—	15.4	15.4	—	—	7.7
40 歳代	20	50.0	15.0	30.0	20.0	5.0	5.0	10.0	5.0	10.0	—	5.0	—
50 歳代	26	61.5	19.2	15.4	15.4	11.5	7.7	11.5	11.5	11.5	—	3.8	—
60 歳以上	12	75.0	—	16.7	16.7	16.7	—	8.3	33.3	8.3	—	—	—
答えたくない	1	100.0	—	—	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—

【「生きづらさ」別】

「生きづらさ」別でみると、他に比べ、『現在「生きづらさ」を感じている』人で「がまんした」「公的機関の相談窓口を利用した」と答えた人の割合が高くなっています。また、『過去に「生きづらさ」を感じていた』人で「本人同士で話し合った」「イライラして子どもや身近なひとに辛くあたった」と答えた人の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	がまんした	本人同士で話し合った	家族や親せきに相談した	友だちや同僚に相談した	公的機関の相談窓口を利用した	弁護士に相談した	警察に相談した	イライラして子どもや身近なひとに辛くあたった	その他	わからない	答えたくない	無回答
現在「生きづらさ」を感じている	27	63.0	7.4	22.2	18.5	22.2	3.7	11.1	11.1	11.1	—	3.7	3.7
過去に「生きづらさ」を感じていた	27	55.6	25.9	11.1	14.8	3.7	3.7	—	18.5	14.8	—	—	—
「生きづらさ」を感じたことはない	14	42.9	7.1	35.7	21.4	7.1	7.1	14.3	—	21.4	—	7.1	—
答えたくない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

4 自由意見

分類回答	件数
1. 家庭について	5
2. 地域について	56
3. 教育について	2
4. 職場や就労について	6
5. 男女の役割分担について	15
6. 経済的不安について	3

【分類別の主な内容】

1 家庭について

- ・ 親との関係について
- ・ 子育て環境について
- ・ 結婚について

2 地域について

- ・ 本調査についての意見
- ・ 子育てと環境づくりについて
- ・ 地域での支援・相談について
- ・ マイノリティについて
- ・ 行政や社会の対応について

3 教育について

- ・ 生きづらさと教育の必要性について

4 職場や就労について

- ・ 育児休暇について
- ・ 子育てと労働状況について
- ・ 就職活動について
- ・ 労働環境の改善について

5 男女の役割分担について

- ・ 家庭での男女平等について
- ・ 社会での男女平等、女性活躍について
- ・ 育児・介護と男女平等について

6 経済的不安について

- ・ 家事と仕事の両立と経済面の不安について
- ・ 今後の経済面の心配について

Ⅱ 男女共同参画社会づくりに関する事業所実態調査

1 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「湖南省男女共同参画アクション 2017 計画」を改定するにあたり、湖南省における多様な働き方への取組状況等について把握することを目的に実施したものです。

2 調査対象

市内事業所のうち、企業内同和問題研修窓口担当者設置事業所で、令和 2 年度に企業訪問を行う事業所（従業員数 10 人以上の事業所）

3 調査期間

令和 2 年（2020 年）12 月 25 日から令和 3 年（2021 年）1 月 20 日

4 調査方法

郵送による配付回収

5 回収状況

	配 付 数	回答者数	有効回答率
事業所調査	210 通	97 通	46.2%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の回答者数の合計と単純集計（全体）の回答者数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

2 調査結果のまとめ

（１）就労環境・人材育成について

事業所で実施している制度・取組における、「一律実施」の割合について、正社員と非正社員では非正社員における割合は正社員に比べて低い傾向にあり、その待遇に差がみられます。（問 6）また、事業所で実施している制度・取組のうち、仕事と育児の両立支援について、正社員では「一律実施」が 76.3%、非正社員では 55.7%となっています。（問 6）そのような中、育児休業を取得した女性従業員割合は 98.7%である一方、育児休業を取得した男性従業員割合は 9.2%となっており、女性とは 89.5 ポイント差があります。（問 12）

また、介護休業の取得状況について、介護休業を取得した女性従業員は 3 人となっている一方、介護休業を取得した男性従業員割合は 1 人となっています。（問 13）

その他、仕事と生活の調和「ワーク・ライフ・バランス」の取組が進んでいると思うかについて、「あまり進んでいない」と「進んでいない」を合わせた“進んでいない”が 37.1%となっており、平成 27 年度調査の 44.7%と比較して 7.6 ポイント減少しています。（問 14-1）しかし、ワーク・ライフ・バランスを推進するために、必要と思う取組について、「社長などがリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」が 24.7%と最も高く、次いで「業務や会議の無駄を見直し、労働時間を短縮する」が 18.6%、「管理職の意識改革を行う」が 14.4%となっています。（問 14-2）

このことから、ワーク・ライフ・バランスについての普及啓発だけでなく、社内のリーダーが中心となり、積極的にワーク・ライフ・バランスに取り組めるような環境づくりが必要です。

（２）ハラスメントなどの生きづらさについて

セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）防止のための取組における、「実施する予定はない」の割合について、『③ 企業外にセクハラの相談窓口を設けている（弁護士や社労士など第三者機関の相談窓口）』、『⑥ 従業員に対しアンケートを実施している』がいずれも 41.2%と、他の項目より高くなっています。（問 16）

また、パワーハラスメント（パワハラ）防止のための取組における、「実施する予定はない」の割合について、『③ 企業外にパワハラの相談窓口を設けている（弁護士や社労士など第三者機関の相談窓口）』が 39.2%、『⑥ 従業員に対しアンケートを実施している』が 37.1%となっています。（問 17）

ハラスメント防止に向けた既定の制定や、企業内のハラスメントの相談窓口の設置だけでは、ハラスメントを受けた方が直接相談することが難しい場合、本人が抱え込んでしまうことも考えられるため、防止に向けた取組だけでなく、被害にあった方本人の意思を第一に考えた相談体制や支援体制が必要です。

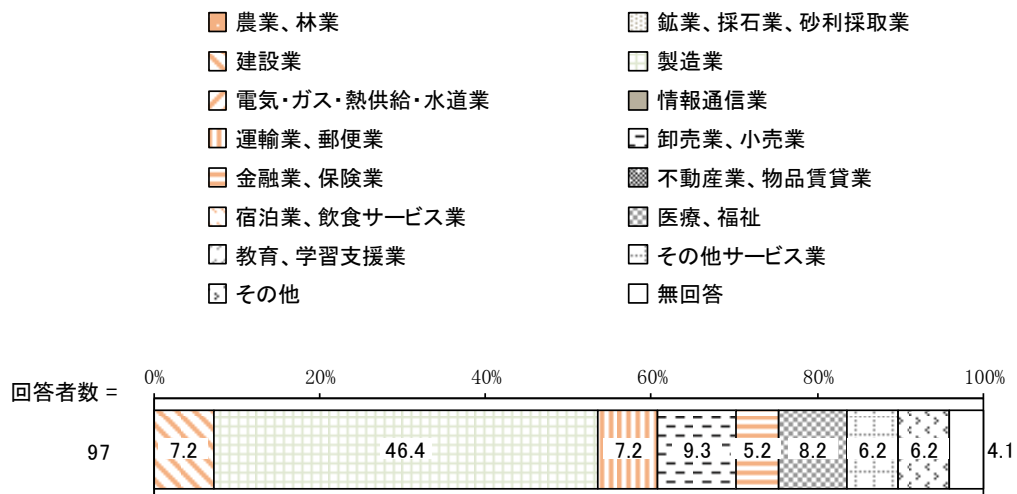
3 調査結果

(1) 事業所について

問1 事業所についてお答えください。

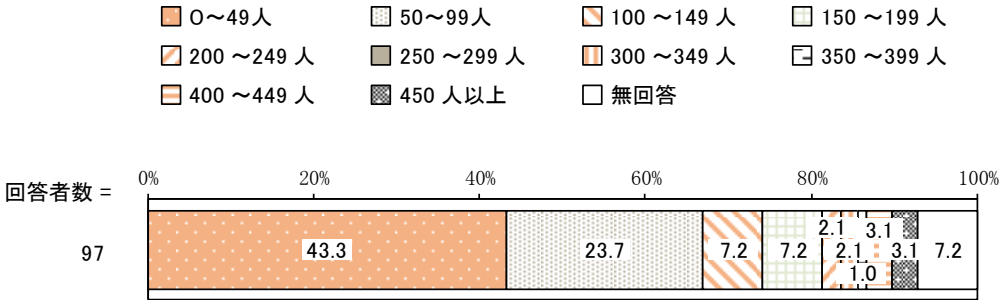
業種

「製造業」の割合が46.4%と最も高くなっています。



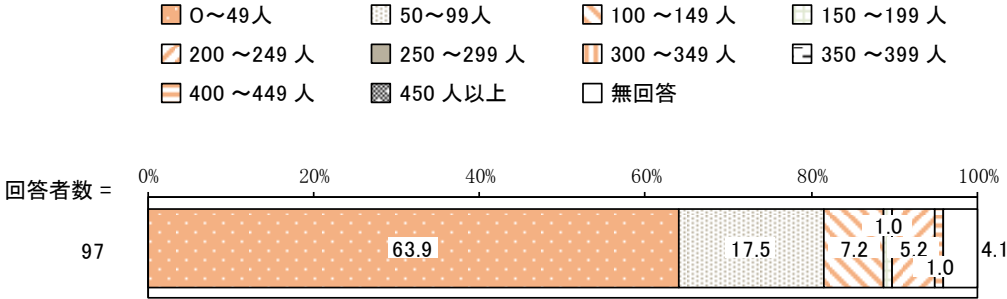
従業員 従業員数（派遣・請負社員を除く）

「0～49人」の割合が43.3%と最も高く、次いで「50～99人」の割合が23.7%となっています。



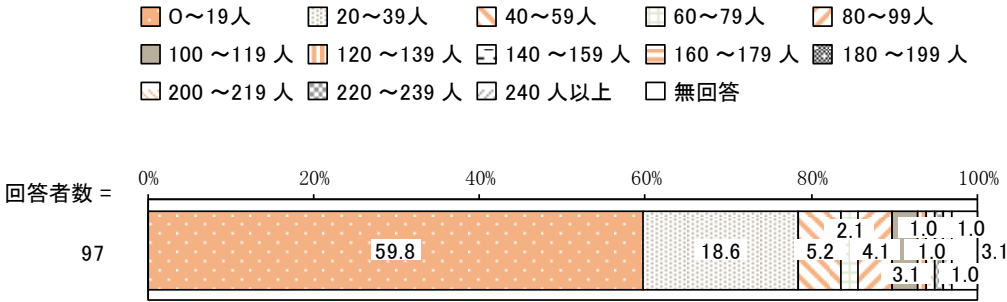
男性

「0～49人」の割合が63.9%と最も高く、次いで「50～99人」の割合が17.5%となっています。



女性

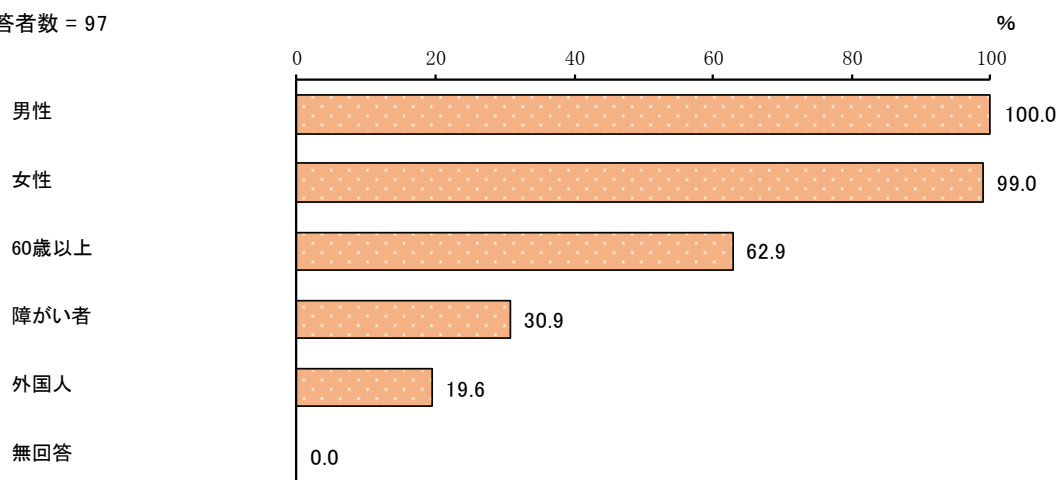
「0～19人」の割合が59.8%と最も高く、次いで「20～39人」の割合が18.6%となっています。



従業員 在籍する従業員すべてに○をしてください 正社員

「男性」の割合が 100.0%と最も高く、次いで「女性」の割合が 99.0%、「60 歳以上」の割合が 62.9%となっています。

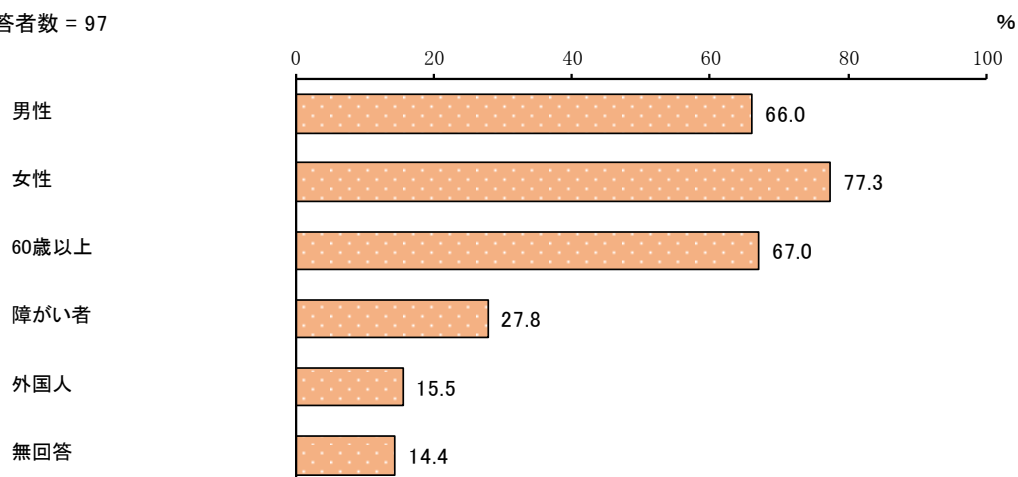
回答者数 = 97



従業員 在籍する従業員すべてに○をしてください 非正社員

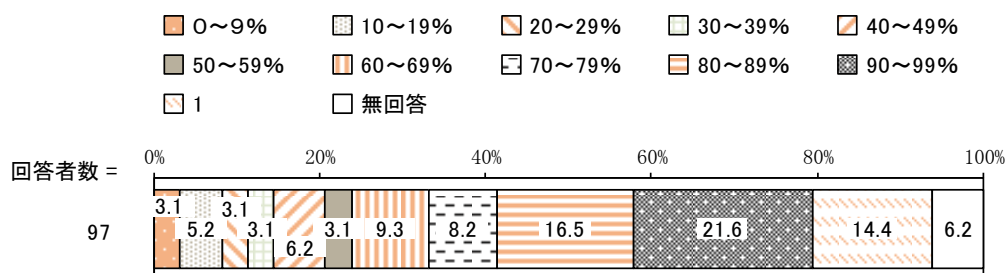
「女性」の割合が 77.3%と最も高く、次いで「60 歳以上」の割合が 67.0%、「男性」の割合が 66.0%となっています。

回答者数 = 97



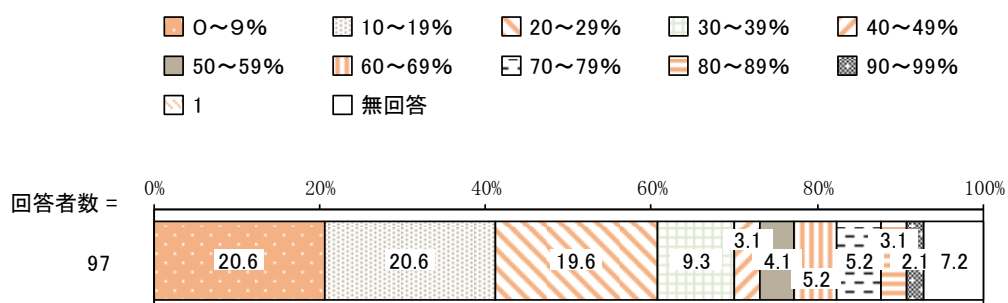
従業員 従業員に占める正社員比率

「90～99%」の割合が21.6%と最も高く、次いで「80～89%」の割合が16.5%、「1」の割合が14.4%となっています。



従業員 従業員に占める女性正社員比率

「0～9%」、「10～19%」の割合が20.6%と最も高く、次いで「20～29%」の割合が19.6%となっています。



従業員に占める正社員割合

女性従業員に占める女性正社員の割合は66.8%、男性従業員に占める男性正社員の割合は83.3%となっています。

女性	男性
66.8%	83.3%

※全従業員数に従業員に占める正社員比率を掛け、正社員の人数を算出。

全従業員数に従業員に占める女性正社員比率を掛け、女性正社員の人数を算出。

正社員の人数から女性正社員の人数を引き、男性正社員の人数を算出。

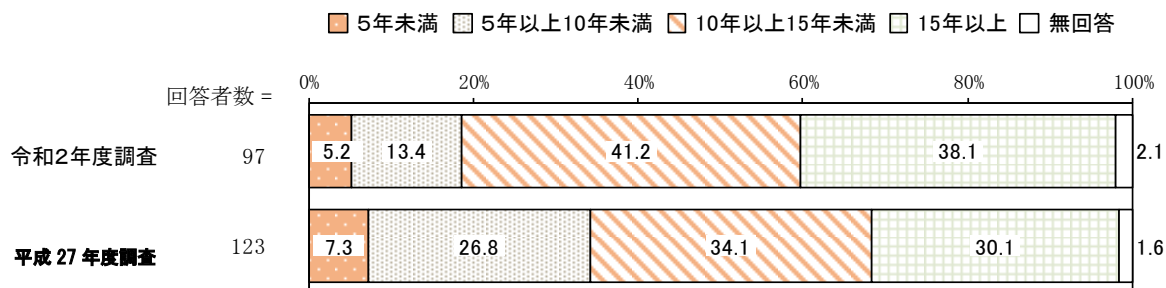
算出した女性正社員、男性正社員の人数を全女性従業員、全男性従業員数で割り、女性、男性の正社員割合を算出。

※従業員に占める正社員比率より従業員に占める女性正社員比率が高い回答については、除外しています。

従業員 従業員の平均勤続年数 男性

「10 年以上 15 年未満」の割合が 41.2%と最も高く、次いで「15 年以上」の割合が 38.1%、「5 年以上 10 年未満」の割合が 13.4%となっています。

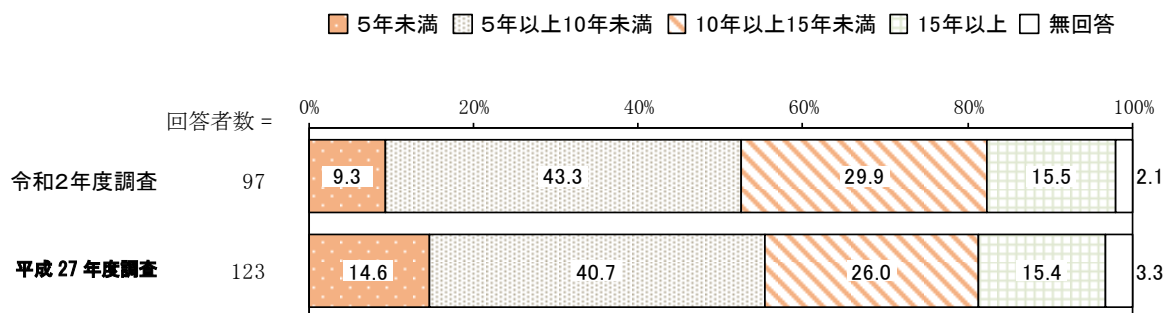
平成 27 年度調査と比較すると、「10 年以上 15 年未満」「15 年以上」の割合が増加しています。一方、「5 年以上 10 年未満」の割合が減少しています。



従業員 従業員の平均勤続年数 女性

「5 年以上 10 年未満」の割合が 43.3%と最も高く、次いで「10 年以上 15 年未満」の割合が 29.9%、「15 年以上」の割合が 15.5%となっています。

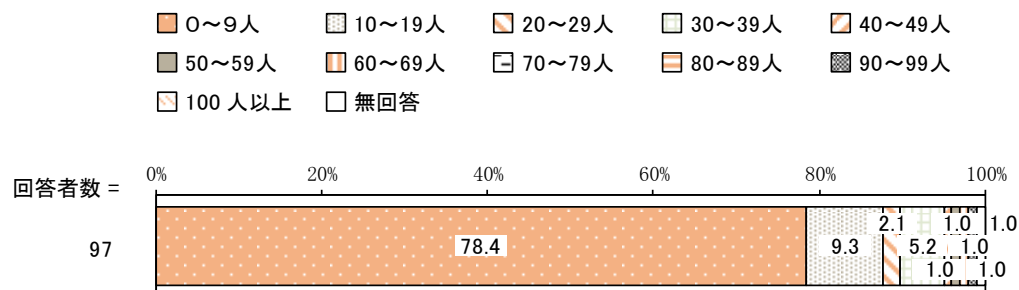
平成 27 年度調査と比較すると、「5 年未満」の割合が減少しています。



(2) 就労環境・人材育成について

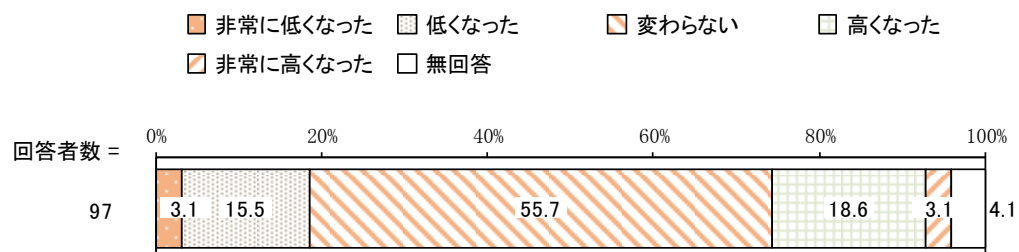
問2-1 貴事業所における昨年度（2019年4月1日～2020年3月31日）の間における従業員の離職者数を記入してください。

「0～9人」の割合が78.4%と最も高くなっています。



問2-2 一昨年度（2018年4月1日～2019年3月31日）と比べて、従業員の離職する程度はどのように変化していますか。（○は1つだけ）

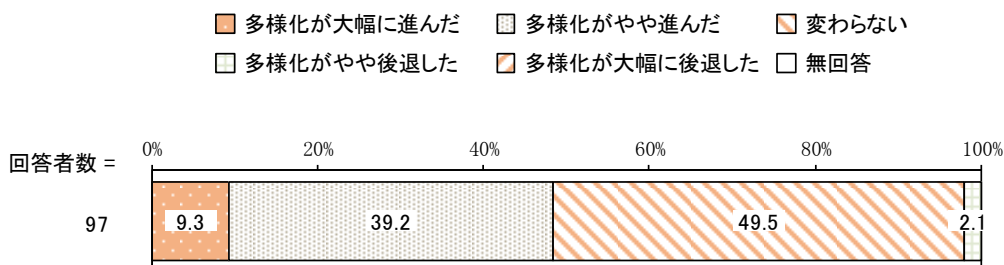
「非常に低くなった」と「低くなった」を合わせた“低くなった”の割合が18.6%、「高くなった」と「非常に高くなった」を合わせた“高くなった”の割合が21.7%、「変わらない」の割合が55.7%となっています。



問3 性別、年齢、国籍、雇用形態、職種といった様々な観点から5年前と現在を比較し、貴事業所の人材の多様化が進んだと思いますか。また、5年後の貴事業所では人材の多様化は現在と比較して進むと思いますか。（それぞれ○は1つだけ）

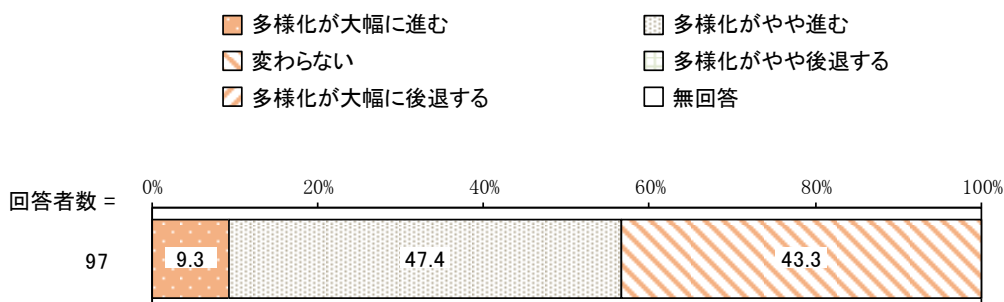
① 5年前と現在の比較

「多様化が大幅に進んだ」と「多様化がやや進んだ」を合わせた“進んだ”の割合が48.5%、「多様化がやや後退した」の割合が2.1%、「変わらない」の割合が49.5%となっています。



② 現在と5年後の比較

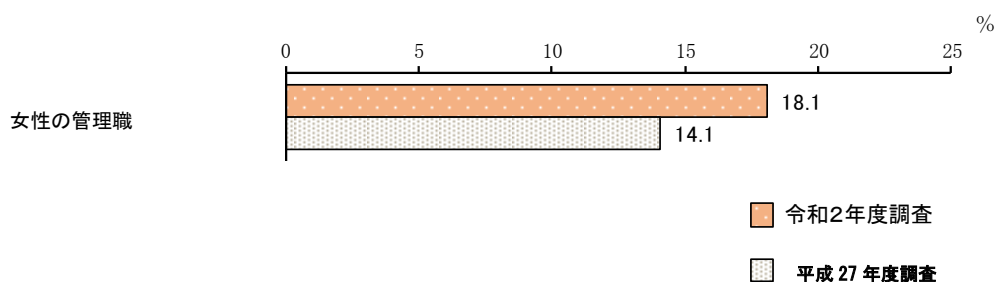
「多様化が大幅に進む」と「多様化がやや進む」を合わせた“進む”の割合が56.7%、「変わらない」の割合が43.3%となっています。



問4 従業員のうち、女性の管理職は何人おられますか。
該当者がおられない場合は0を記入してください。

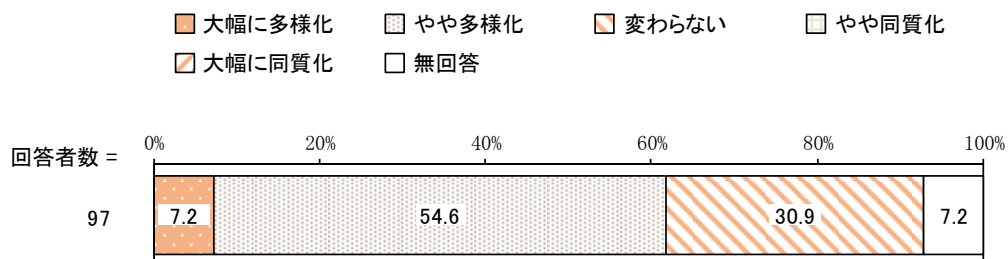
管理職全体のうち、女性の管理職の割合は18.1%となっています。平成27年度調査に比べ、4.0ポイント増加していますが、計画の目標値の20.0%までは届いていません。

	平成27年度調査			令和2年度調査		
	全体	女性	女性の 構成比	全体	女性	女性の 構成比
会社役員 (代表者、事業主を含める)	241 人	25 人	10.4%	222 人	22 人	9.9%
課長・部長相当職	849 人	41 人	4.8%	689 人	72 人	10.4%
係長(主任)相当職	1,046 人	236 人	22.6%	754 人	207 人	27.5%
合計	2,136 人	302 人	14.1%	1,665 人	301 人	18.1%



問5 貴事業所内の人材状況変化を踏まえ、5年前と比較し、従業員の雇用管理※3は多様化していると感じますか。(○は1つだけ)

「大幅に多様化」と「やや多様化」を合わせた“多様化”の割合が61.8%、「変わらない」の割合が30.9%となっています。

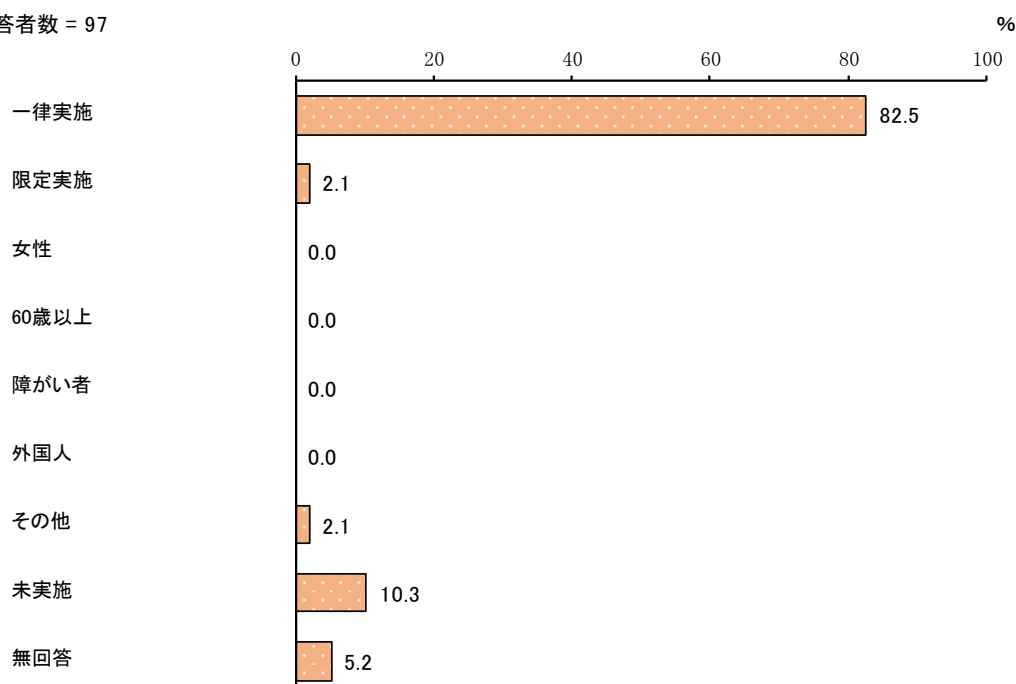


問6 貴事業所で実施している制度・取組はなんですか。正社員、非正社員それぞれにおいて、あてはまる取組内容を教えてください。
 ※各項目で該当すべてに○をしてください。実施しているが、対象者を限定している場合には「限定実施」とその従業員の属性に○をしてください。限定している対象が女性、60歳以上、障がい者、外国人以外の場合は「その他」に○をしてください。

【正社員】人事評価に関する公正性・納得性の向上

「一律実施」の割合が82.5%と最も高く、次いで「未実施」の割合が10.3%となっています。

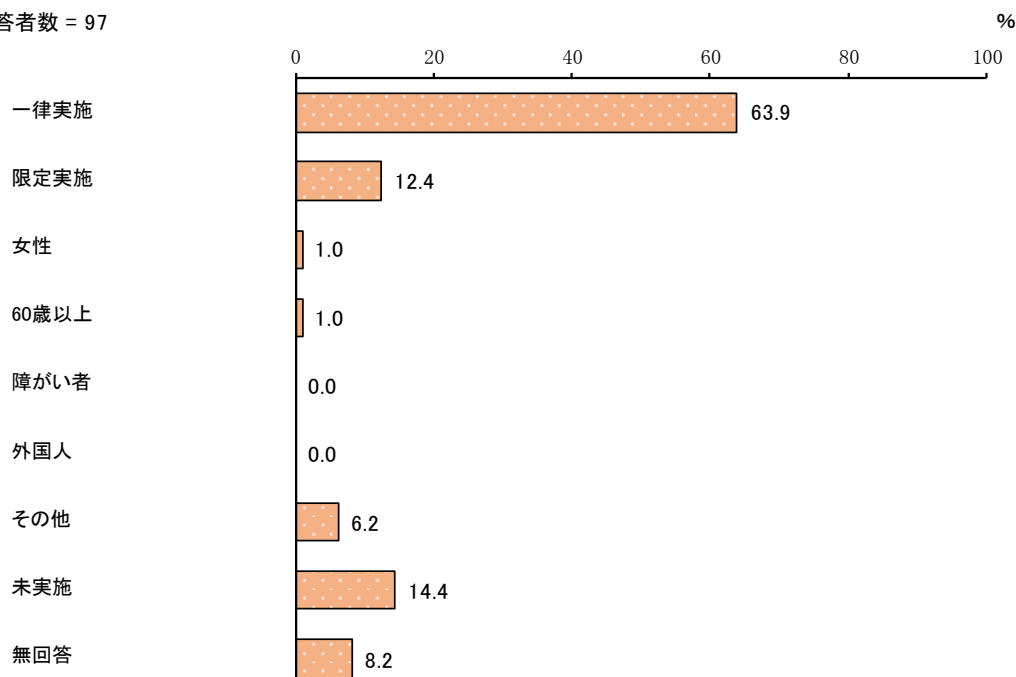
回答者数 = 97



【正社員】本人の希望を踏まえた配属、配置転換

「一律実施」の割合が63.9%と最も高く、次いで「未実施」の割合が14.4%、「限定実施」の割合が12.4%となっています。

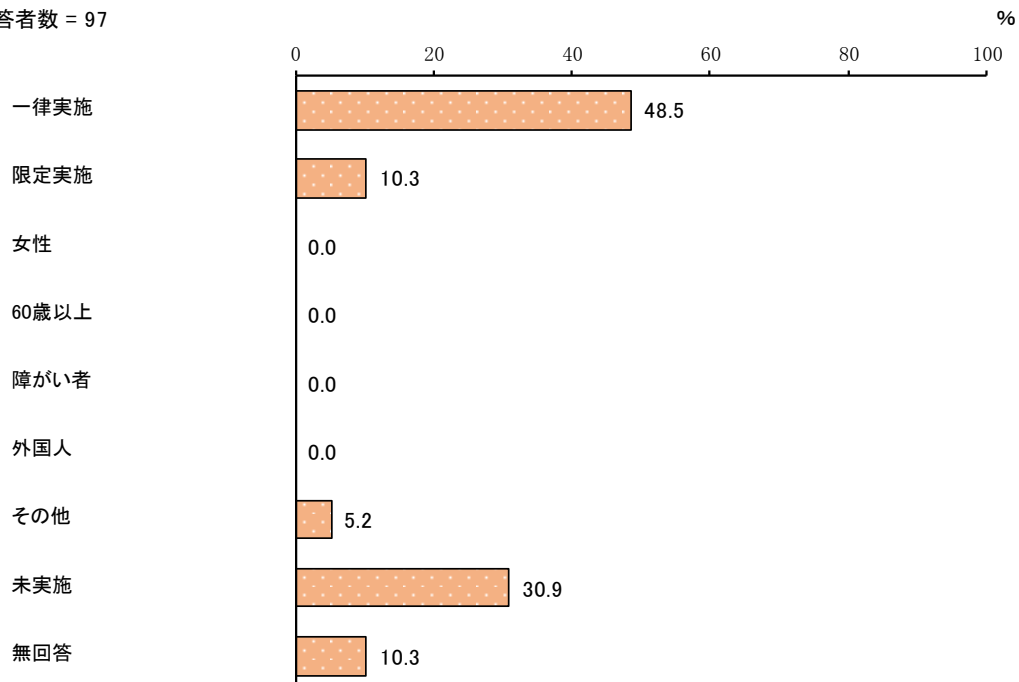
回答者数 = 97



【正社員】業務遂行に伴う裁量権の拡大

「一律実施」の割合が48.5%と最も高く、次いで「未実施」の割合が30.9%、「限定実施」の割合が10.3%となっています。

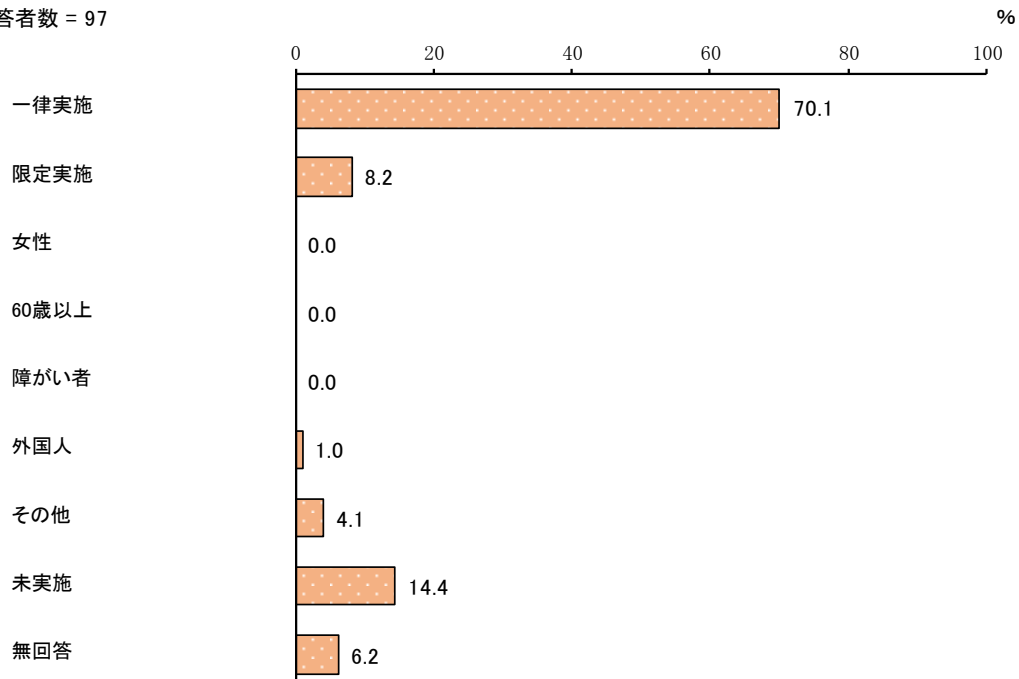
回答者数 = 97



【正社員】優秀な人材の抜擢・登用

「一律実施」の割合が70.1%と最も高く、次いで「未実施」の割合が14.4%となっています。

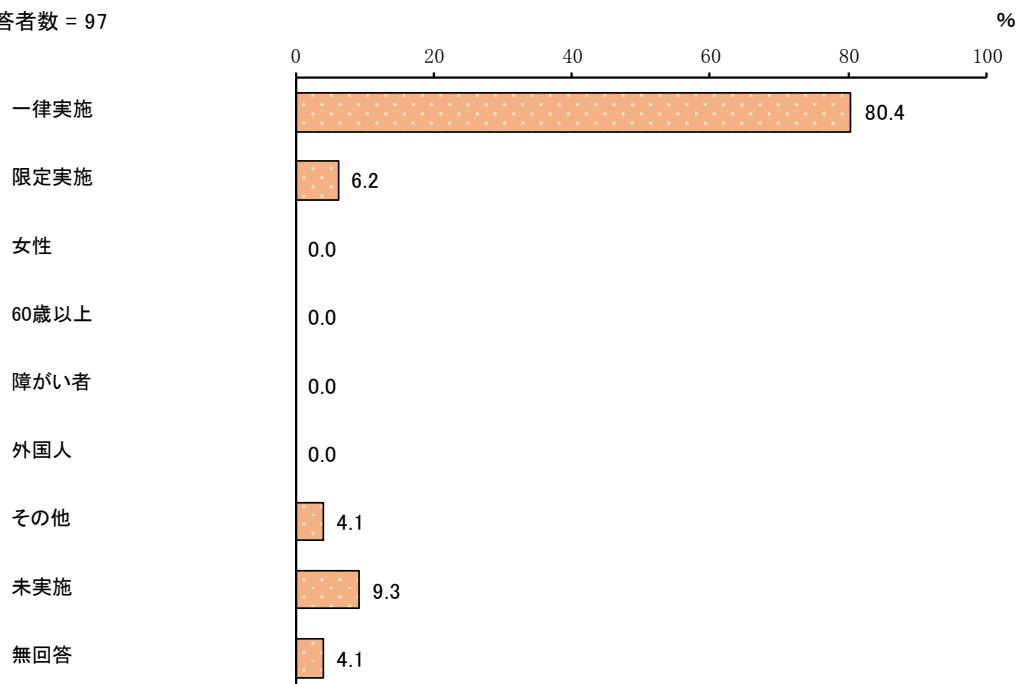
回答者数 = 97



【正社員】能力・成果等に見合った賃金や昇進・昇格

「一律実施」の割合が80.4%と最も高くなっています。

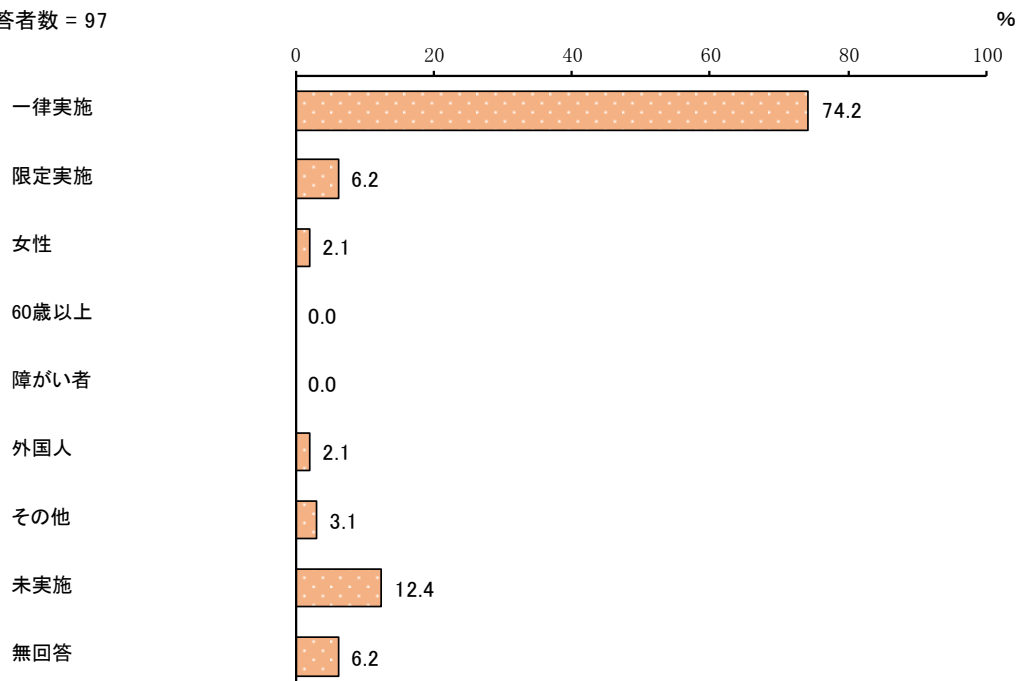
回答者数 = 97



【正社員】能力開発機会の提供・充実

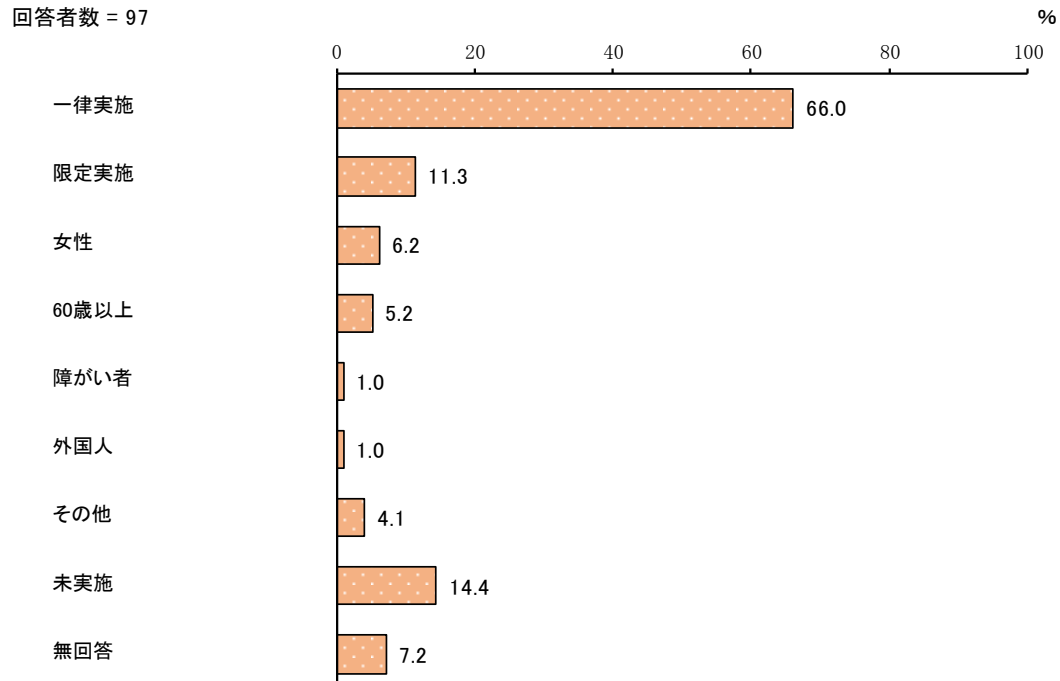
「一律実施」の割合が74.2%と最も高く、次いで「未実施」の割合が12.4%となっています。

回答者数 = 97



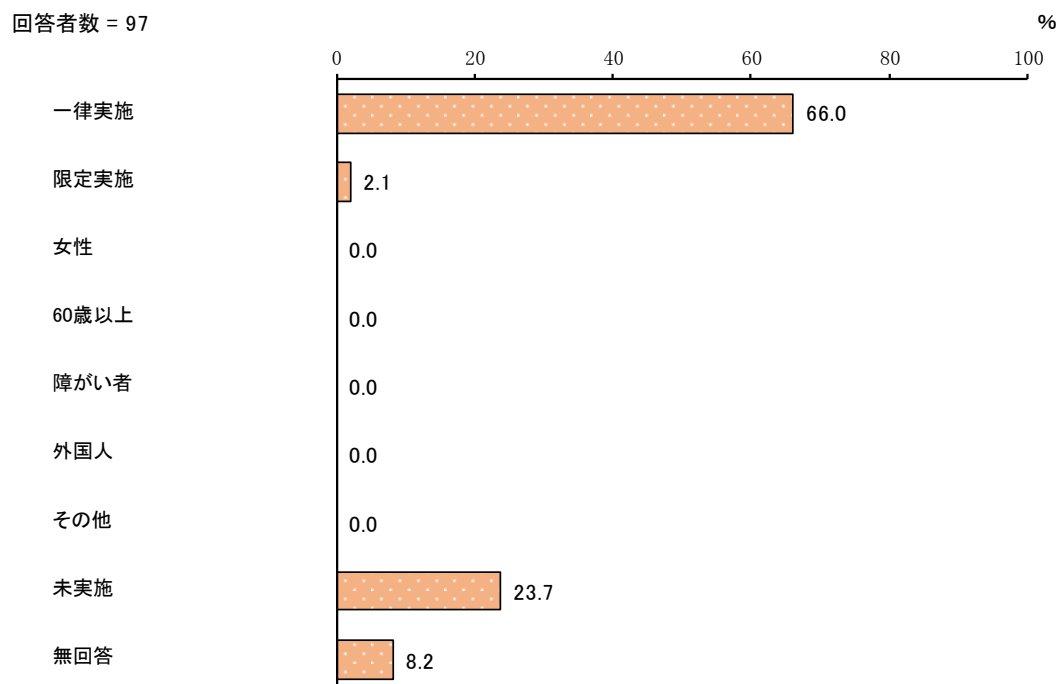
【正社員】労働時間の短縮や働き方の柔軟化

「一律実施」の割合が 66.0%と最も高く、次いで「未実施」の割合が 14.4%、「限定実施」の割合が 11.3%となっています。



【正社員】採用時に職務内容を文書で明確化

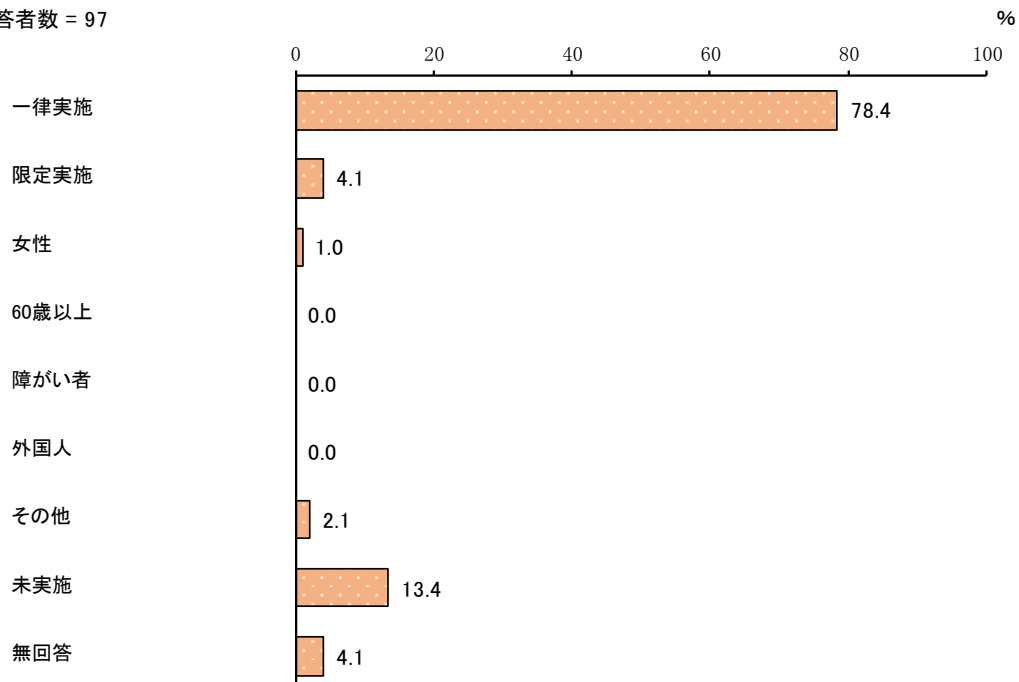
「一律実施」の割合が 66.0%と最も高く、次いで「未実施」の割合が 23.7%となっています。



【正社員】長時間労働対策やメンタルヘルス対策

「一律実施」の割合が78.4%と最も高く、次いで「未実施」の割合が13.4%となっています。

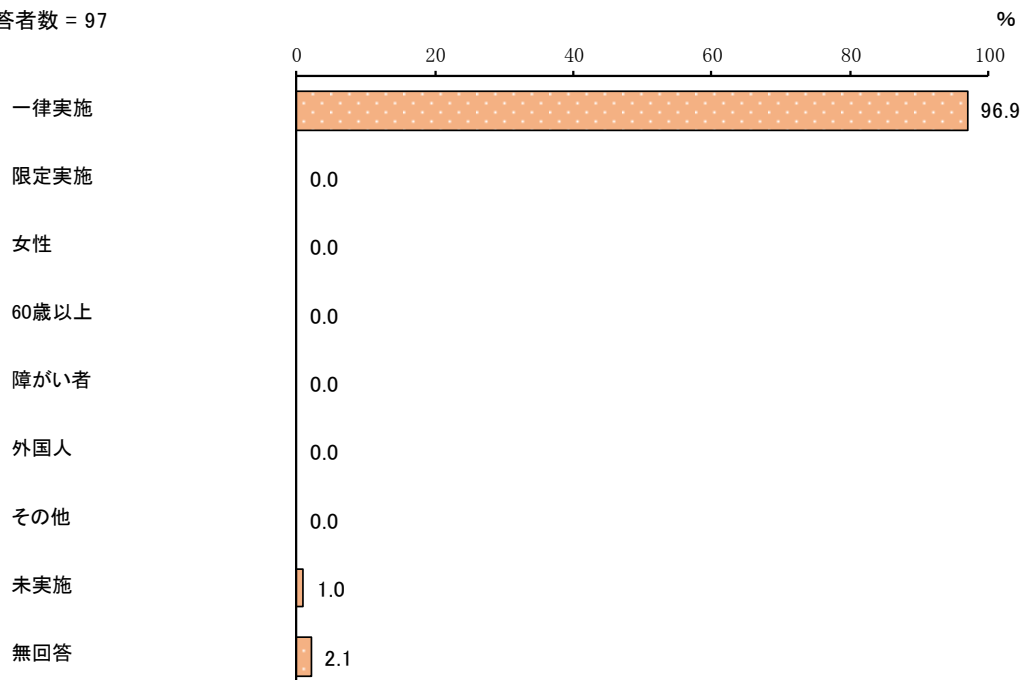
回答者数 = 97



【正社員】有給休暇の取得促進

「一律実施」の割合が96.9%と最も高くなっています。

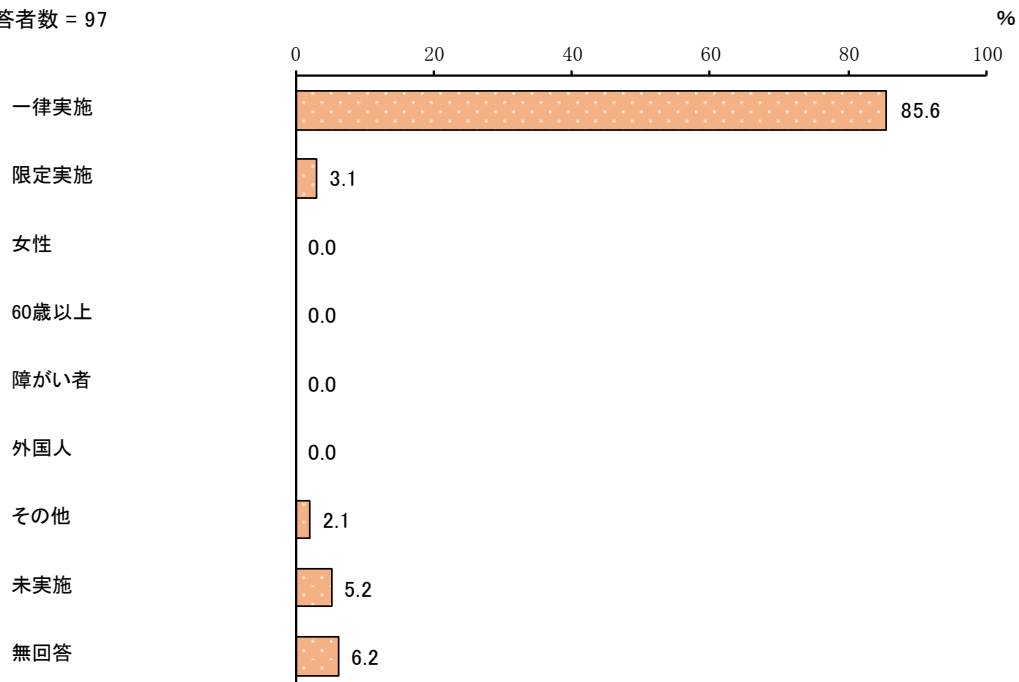
回答者数 = 97



【正社員】職場の人間関係やコミュニケーションの円滑化

「一律実施」の割合が85.6%と最も高くなっています。

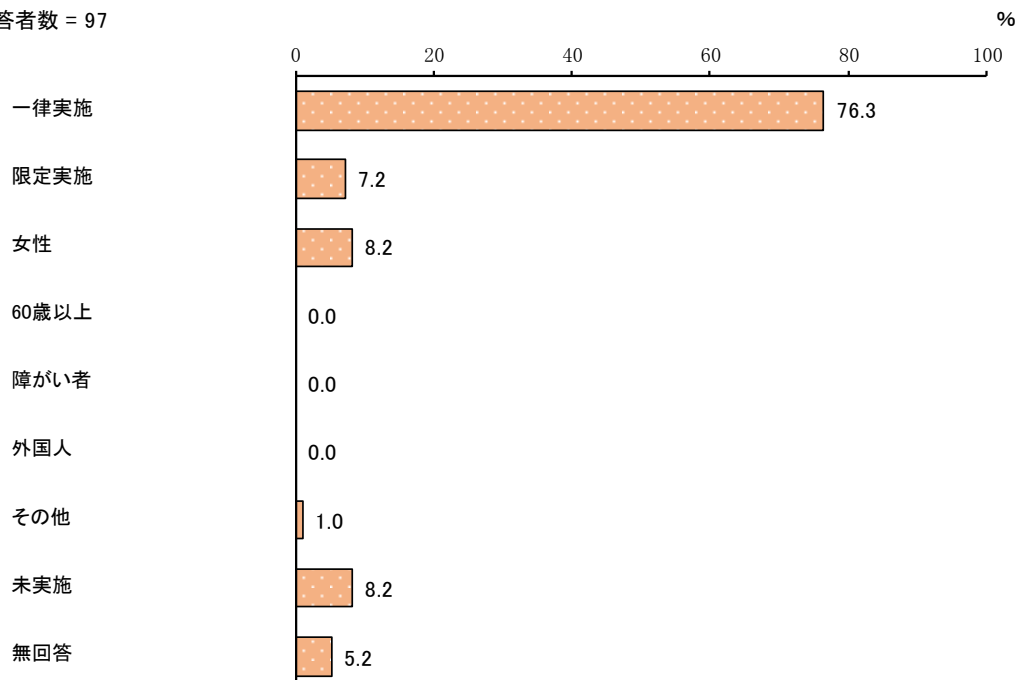
回答者数 = 97



【正社員】仕事と育児の両立支援

「一律実施」の割合が76.3%と最も高くなっています。

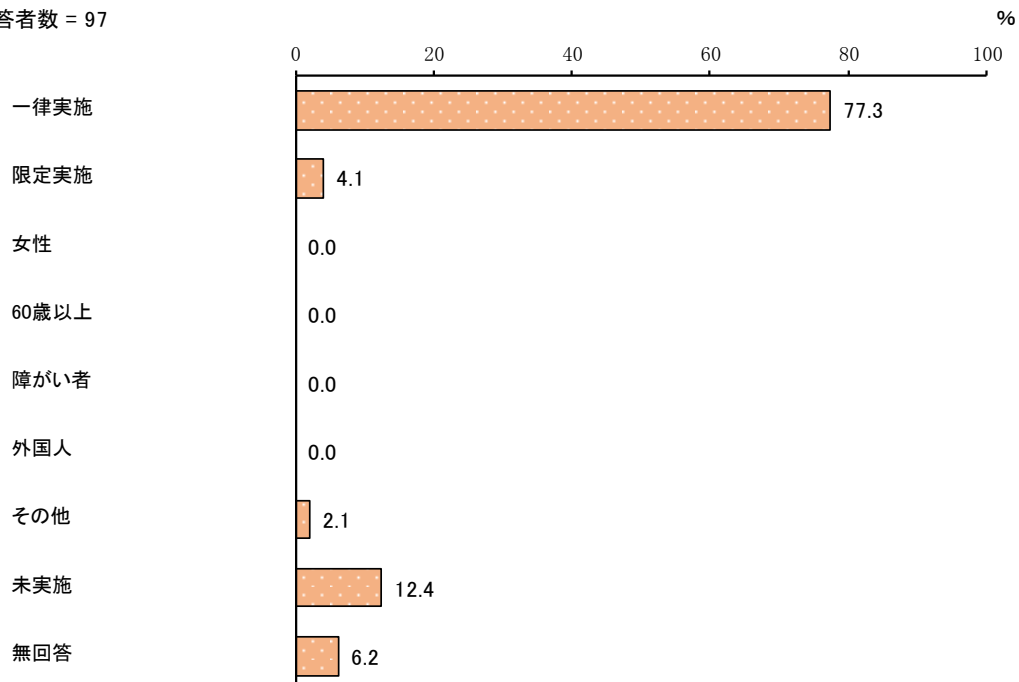
回答者数 = 97



【正社員】仕事と介護の両立支援

「一律実施」の割合が 77.3%と最も高く、次いで「未実施」の割合が 12.4%となっています。

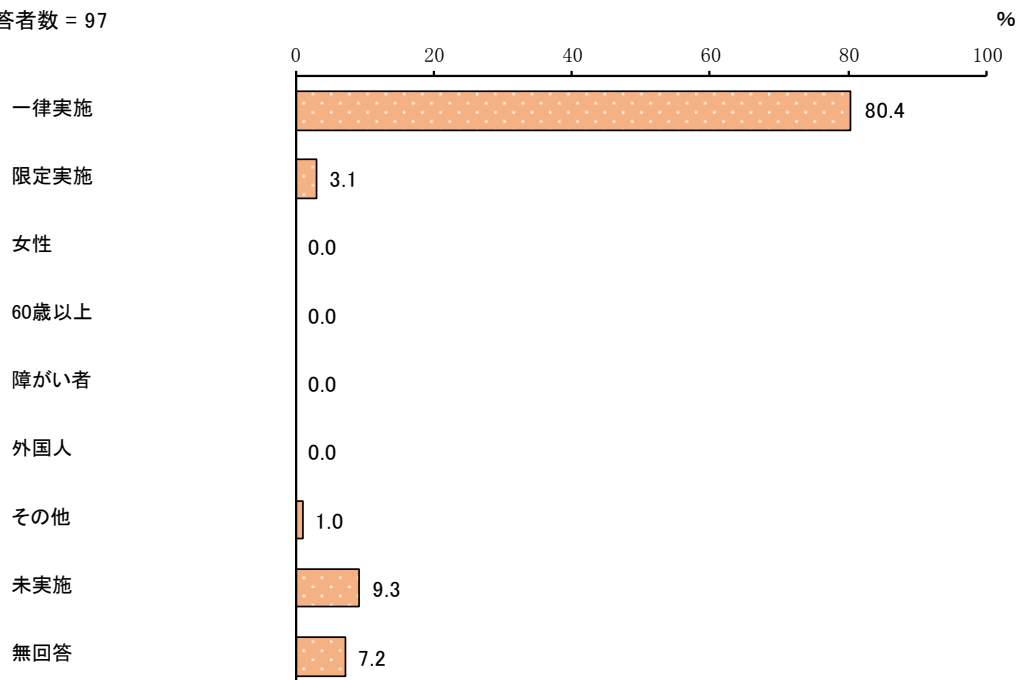
回答者数 = 97



【正社員】仕事と病気治療の両立支援

「一律実施」の割合が 80.4%と最も高くなっています。

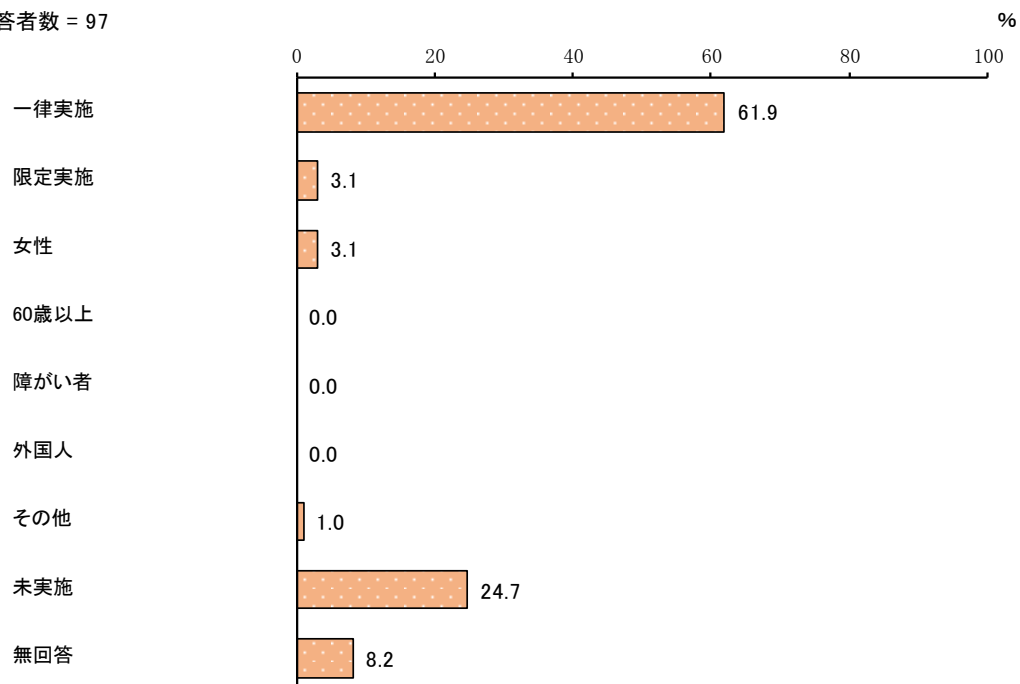
回答者数 = 97



【正社員】育児・介護・病気治療等により離職・休職された方への復職支援

「一律実施」の割合が61.9%と最も高く、次いで「未実施」の割合が24.7%となっています。

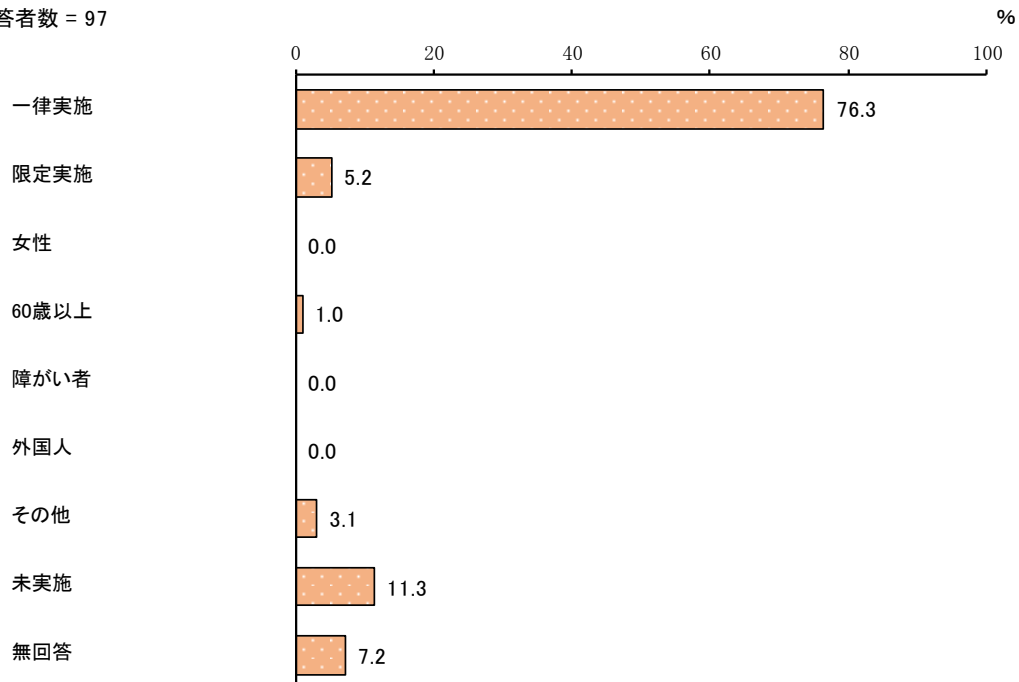
回答者数 = 97



【正社員】従業員間の不合理な待遇格差の解消（男女間、正社員・非正社員間など）

「一律実施」の割合が 76.3%と最も高く、次いで「未実施」の割合が 11.3%となっています。

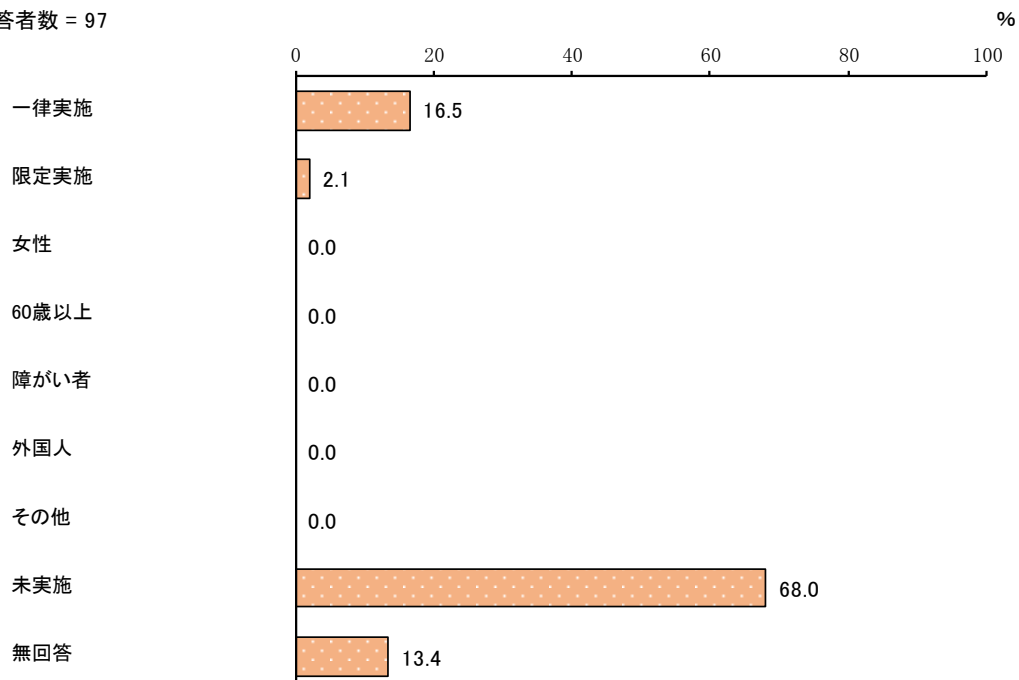
回答者数 = 97



【正社員】ワークシェアリングの推進

「未実施」の割合が 68.0%と最も高く、次いで「一律実施」の割合が 16.5%となっています。

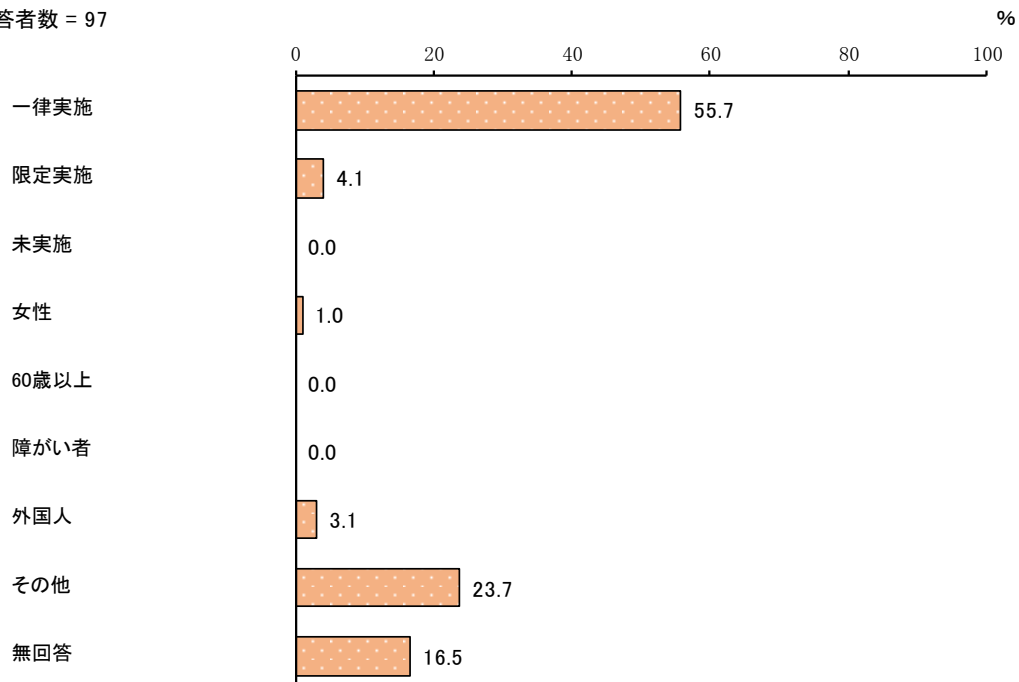
回答者数 = 97



【非正社員】人事評価に関する公正性・納得性の向上

「一律実施」の割合が 55.7%と最も高くなっています。

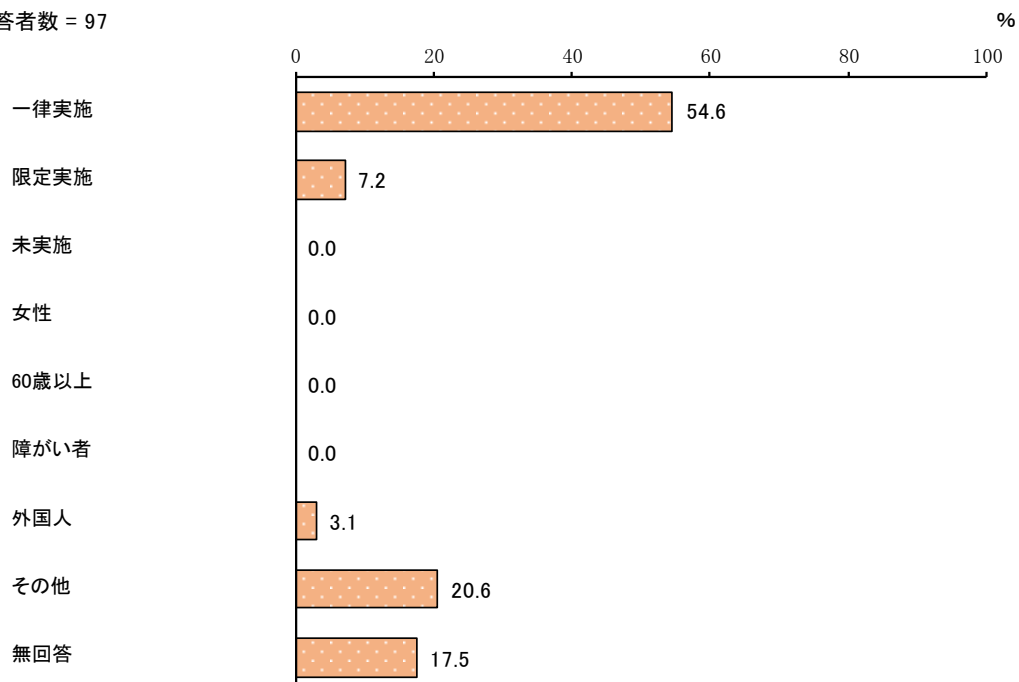
回答者数 = 97



【非正社員】本人の希望を踏まえた配属、配置転換

「一律実施」の割合が 54.6%と最も高くなっています。

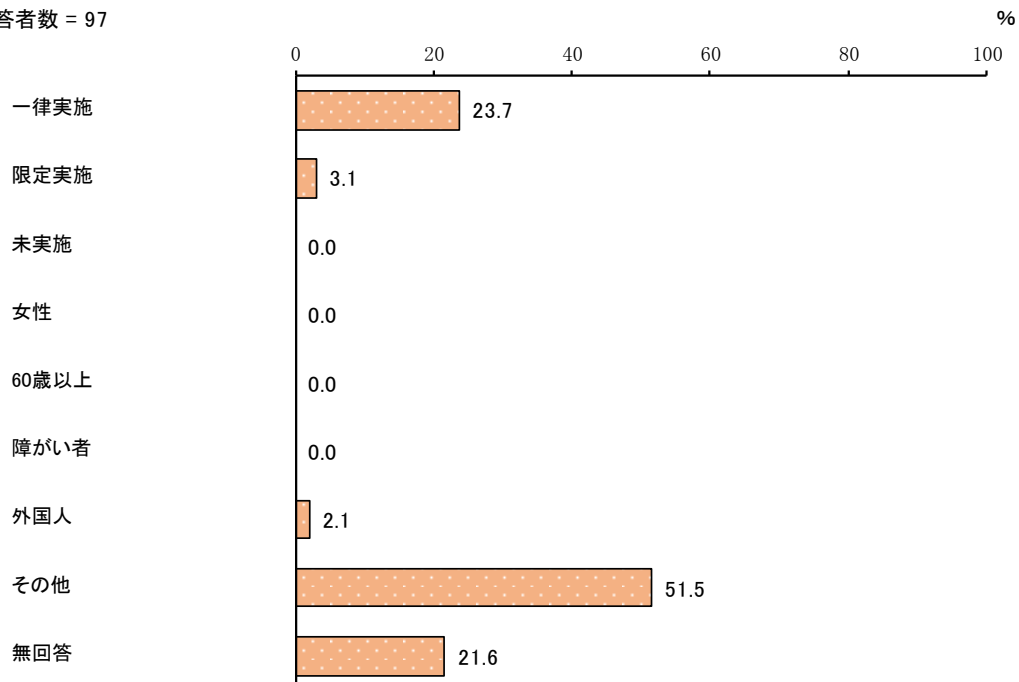
回答者数 = 97



【非正社員】業務遂行に伴う裁量権の拡大

「一律実施」の割合が 23.7%と最も高くなっています。

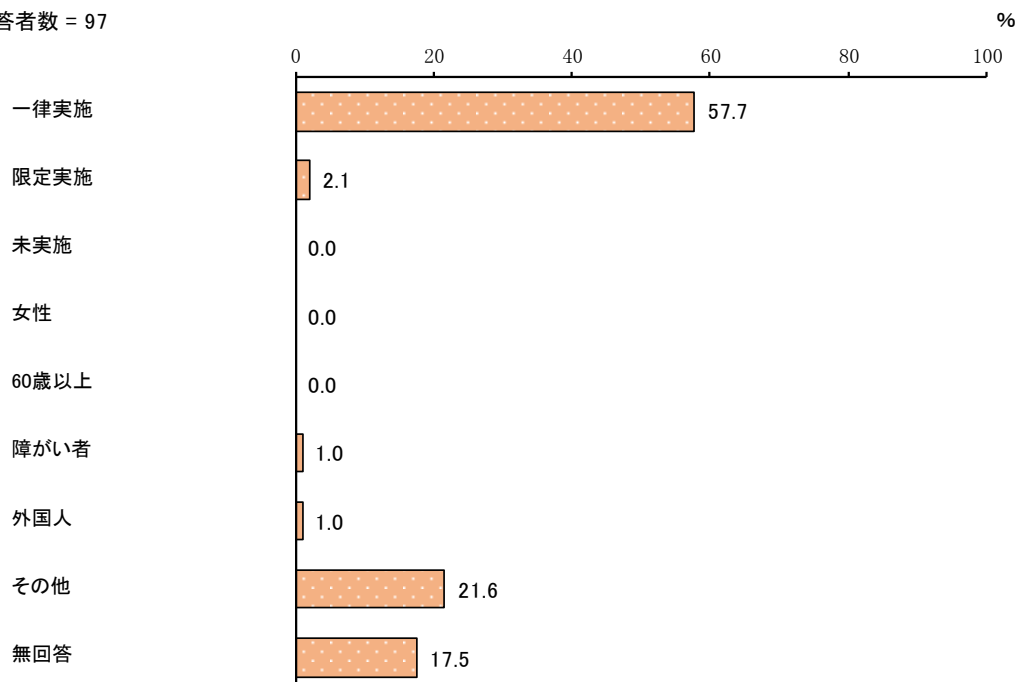
回答者数 = 97



【非正社員】優秀な人材の抜擢・登用

「一律実施」の割合が 57.7%と最も高くなっています。

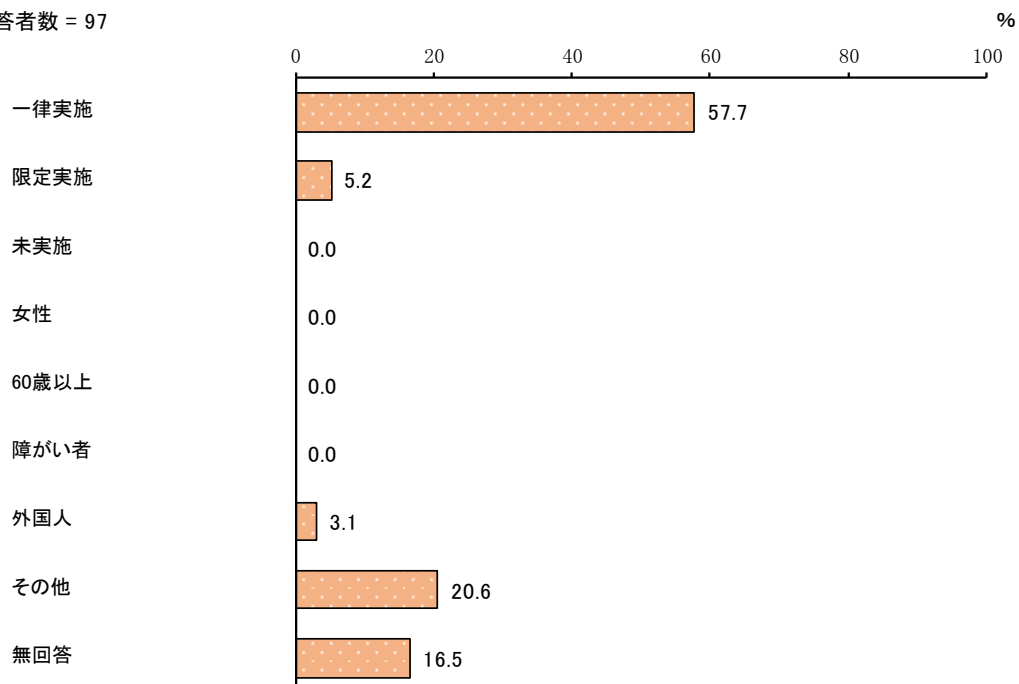
回答者数 = 97



【非正社員】能力・成果等に見合った賃金や昇進・昇格

「一律実施」の割合が 57.7%と最も高くなっています。

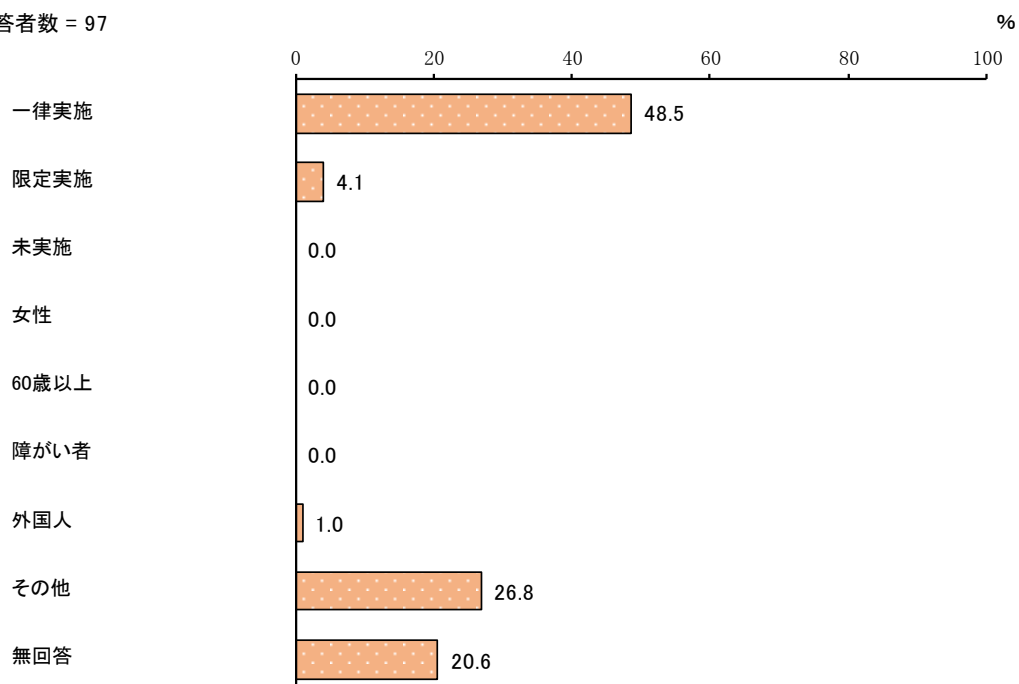
回答者数 = 97



【非正社員】能力開発機会の提供・充実

「一律実施」の割合が 48.5%と最も高くなっています。

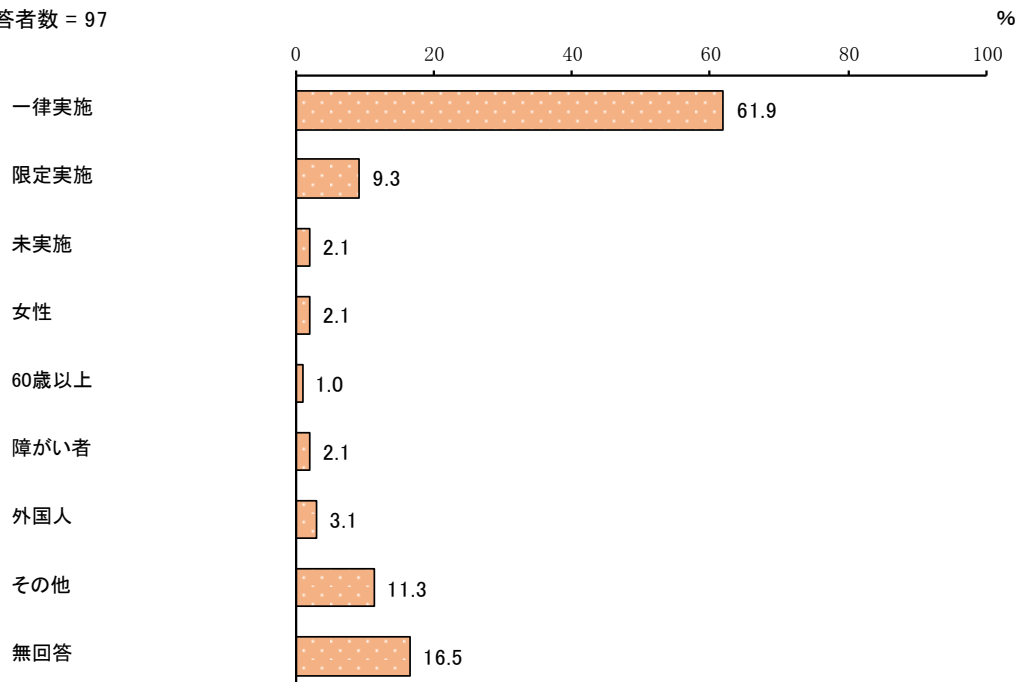
回答者数 = 97



【非正社員】労働時間の短縮や働き方の柔軟化

「一律実施」の割合が61.9%と最も高くなっています。

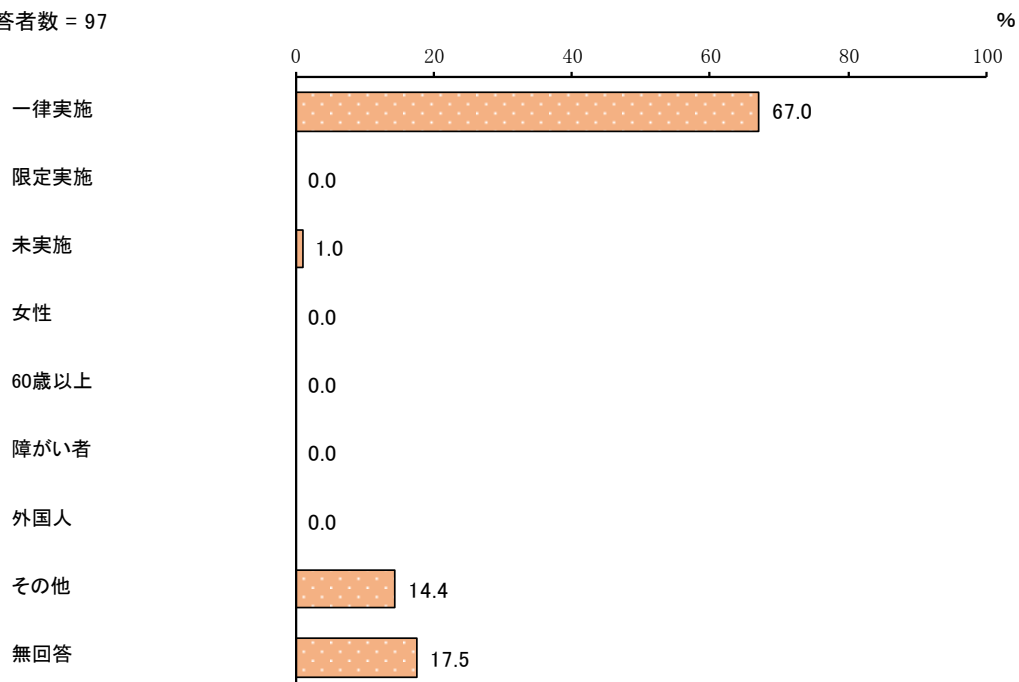
回答者数 = 97



【非正社員】採用時に職務内容を文書で明確化

「一律実施」の割合が67.0%と最も高くなっています。

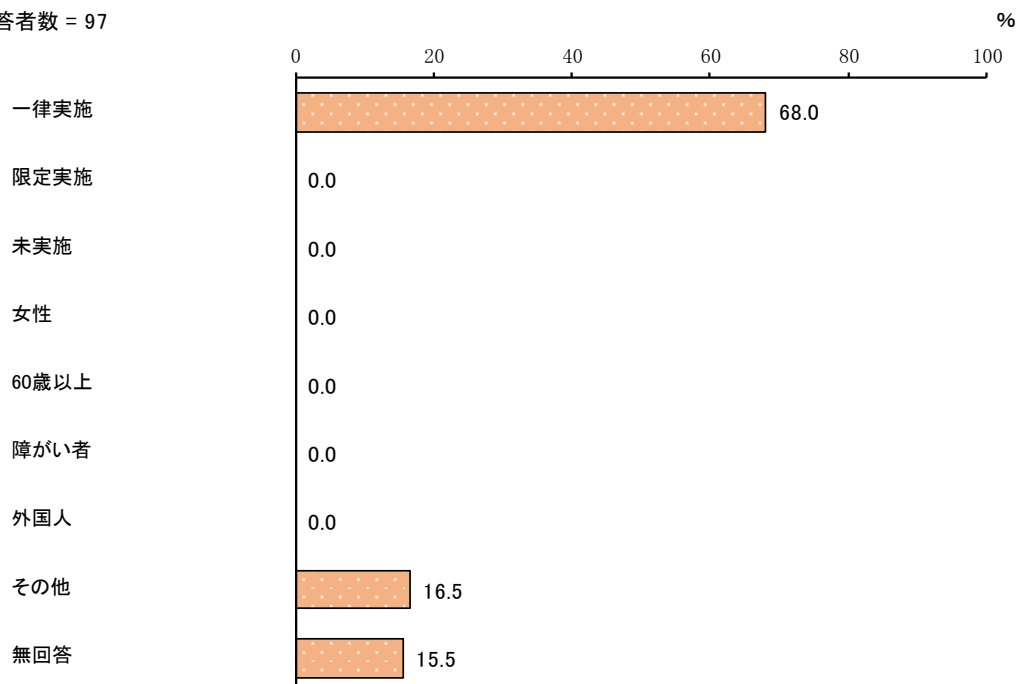
回答者数 = 97



【非正社員】長時間労働対策やメンタルヘルス対策

「一律実施」の割合が68.0%と最も高くなっています。

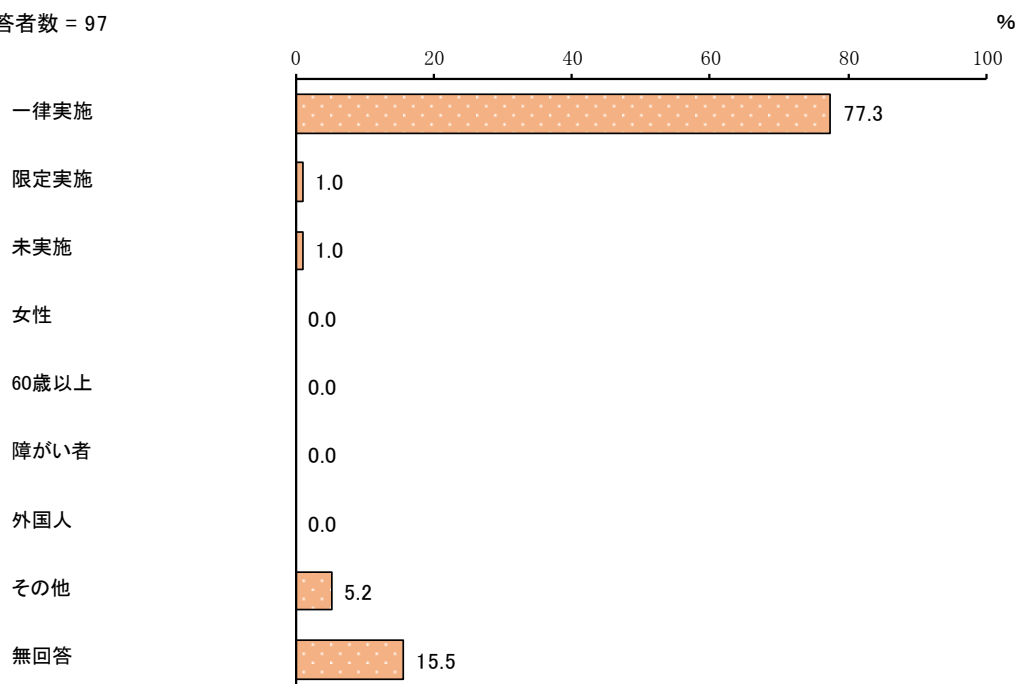
回答者数 = 97



【非正社員】有給休暇の取得促進

「一律実施」の割合が77.3%と最も高くなっています。

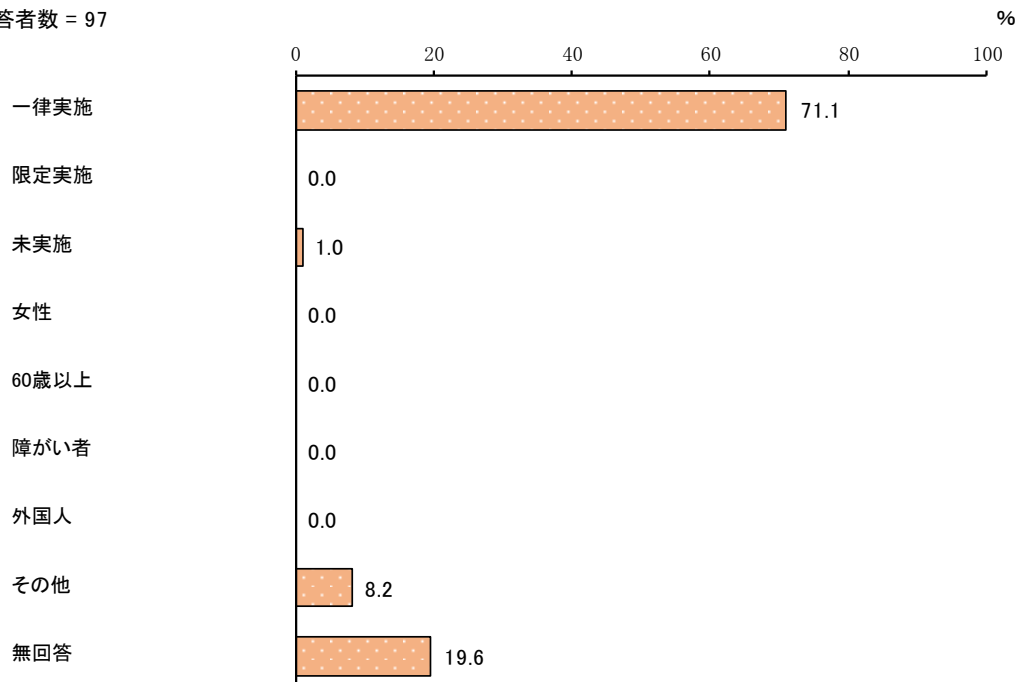
回答者数 = 97



【非正社員】職場の人間関係やコミュニケーションの円滑化

「一律実施」の割合が71.1%と最も高くなっています。

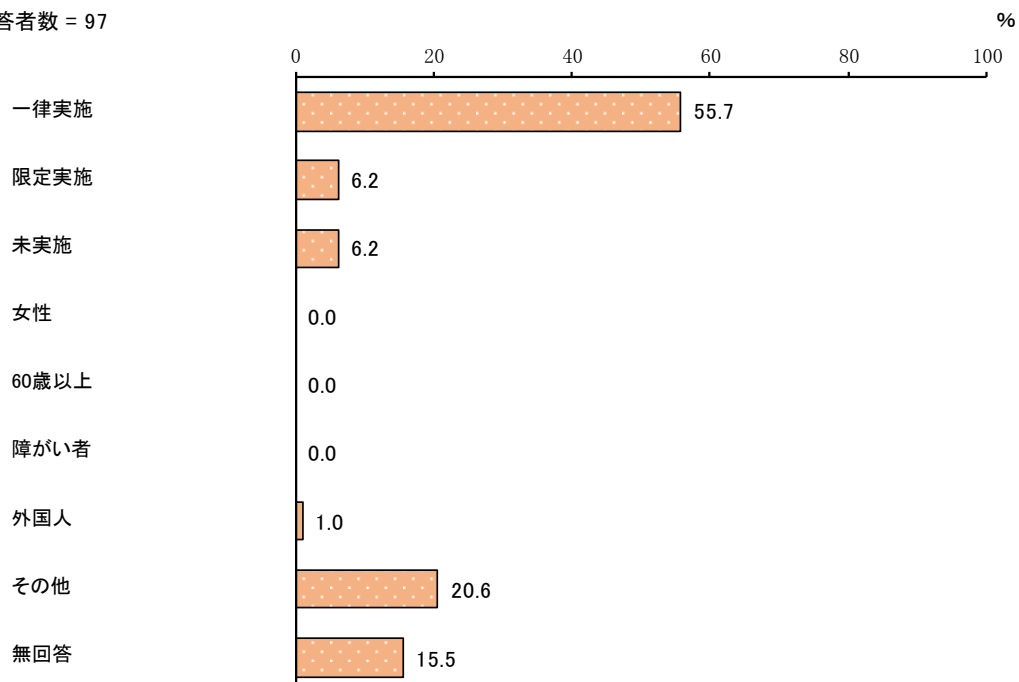
回答者数 = 97



【非正社員】仕事と育児の両立支援

「一律実施」の割合が55.7%と最も高くなっています。

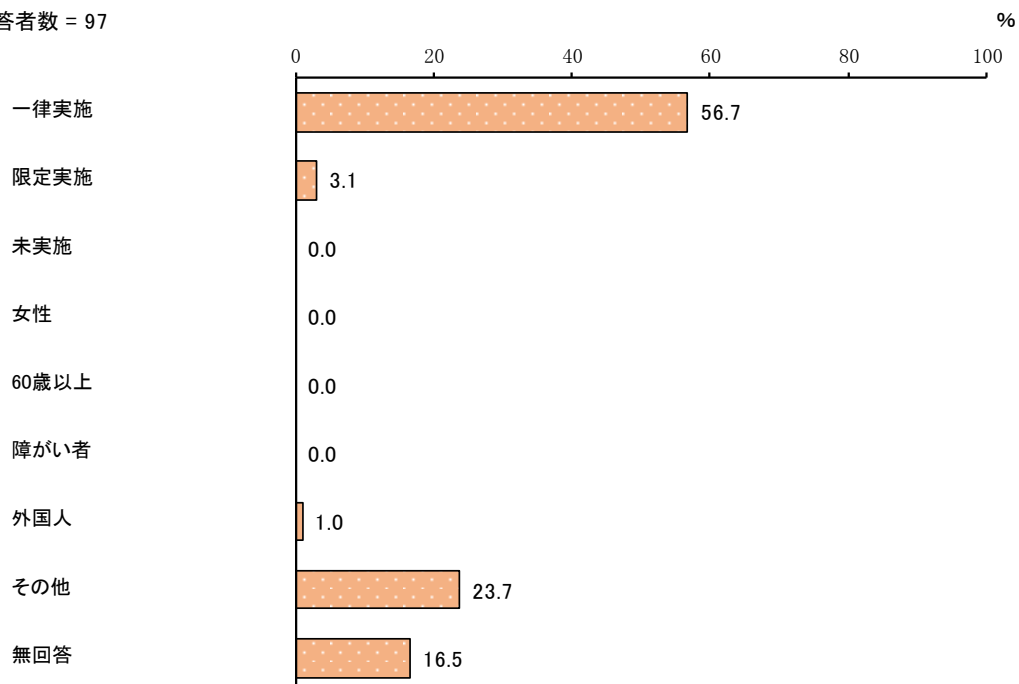
回答者数 = 97



【非正社員】仕事と介護の両立支援

「一律実施」の割合が 56.7%と最も高くなっています。

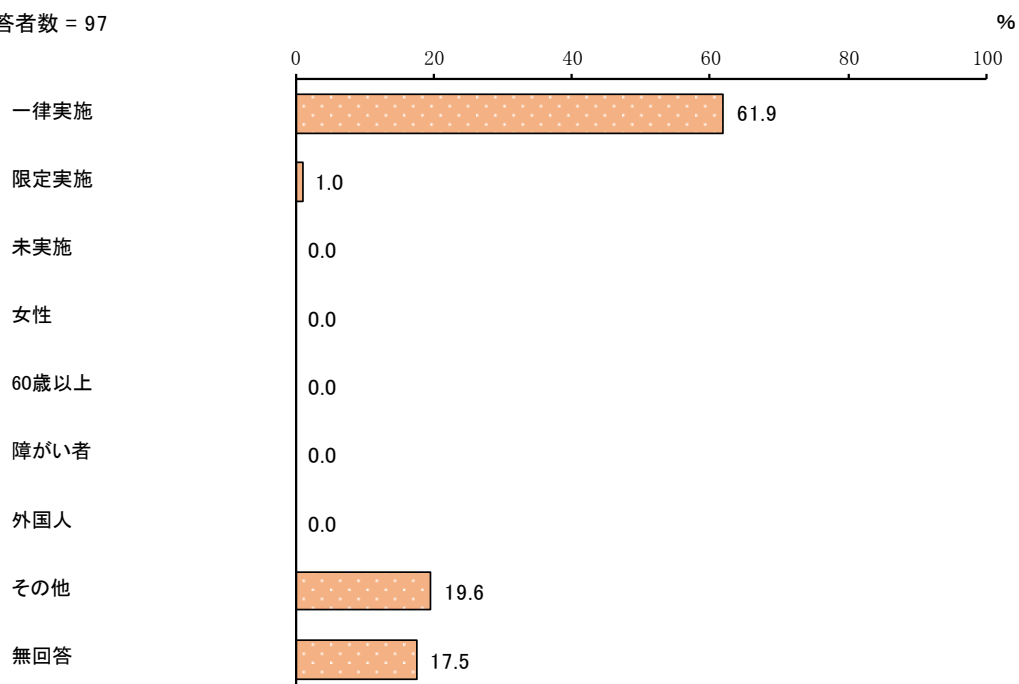
回答者数 = 97



【非正社員】仕事と病気治療の両立支援

「一律実施」の割合が 61.9%と最も高くなっています。

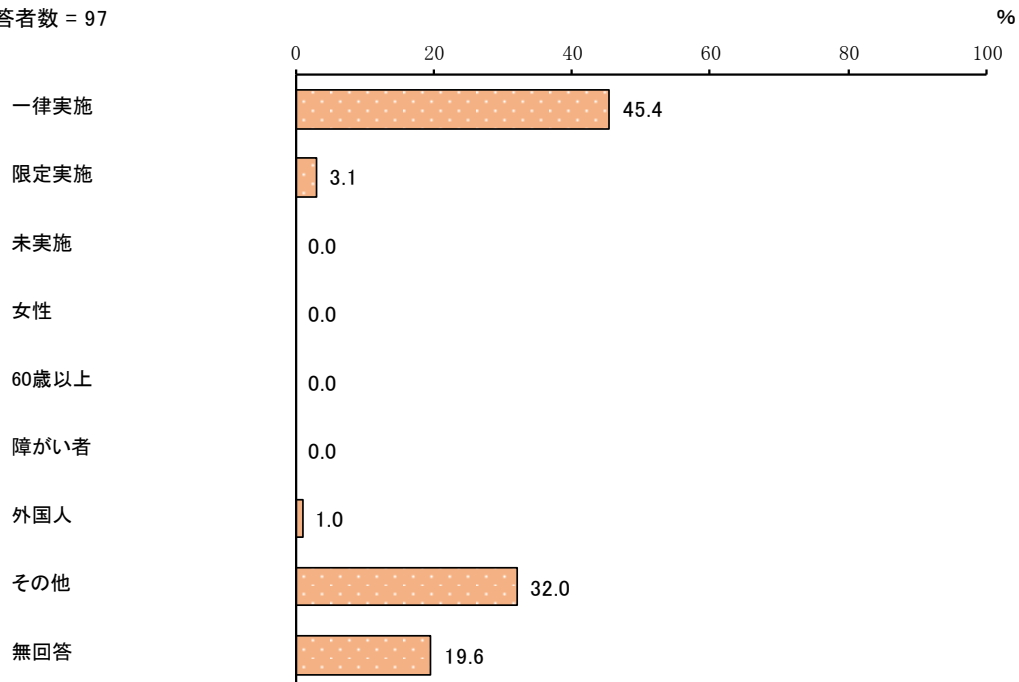
回答者数 = 97



【非正社員】育児・介護・病気治療等により離職・休職された方への復職支援

「一律実施」の割合が45.4%と最も高くなっています。

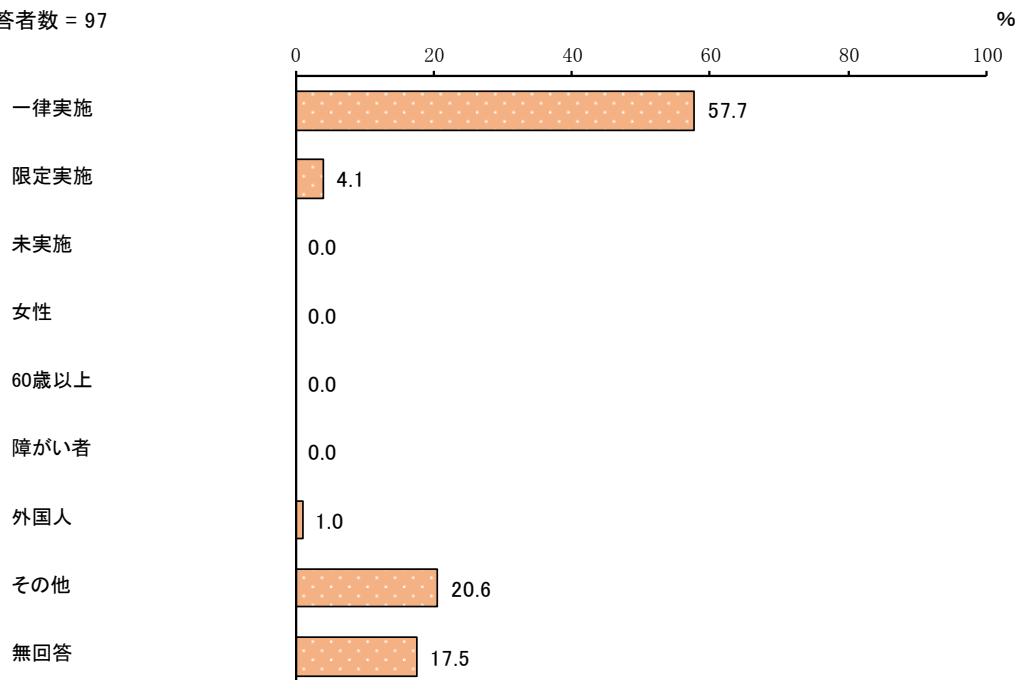
回答者数 = 97



【非正社員】従業員間の不合理な待遇格差の解消（男女間、正社員・非正社員間など）

「一律実施」の割合が57.7%と最も高くなっています。

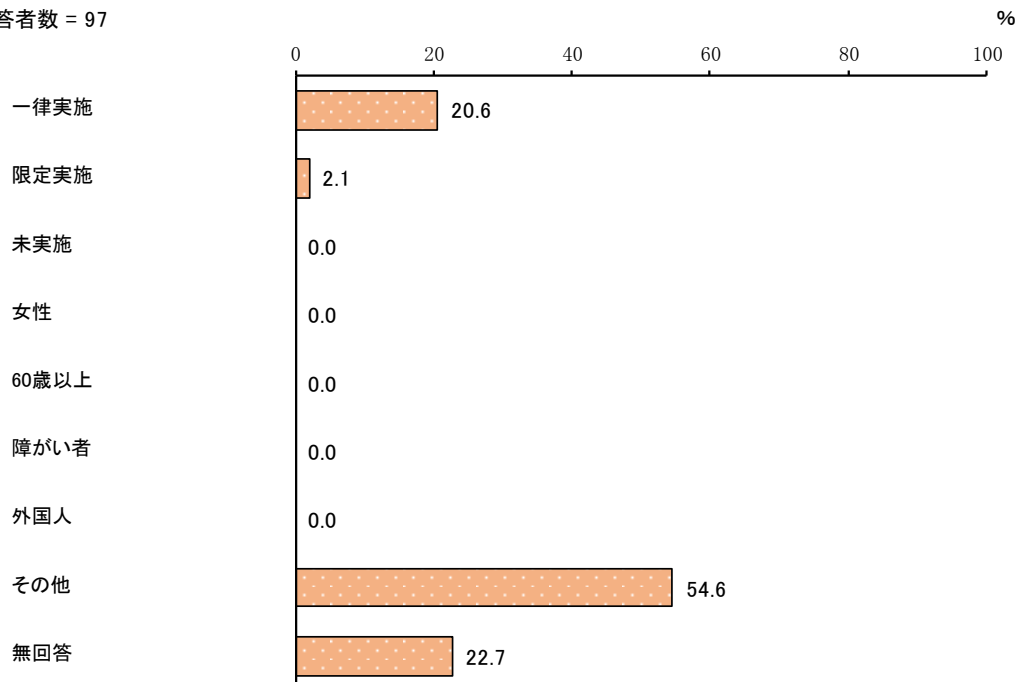
回答者数 = 97



【非正社員】ワークシェアリングの推進

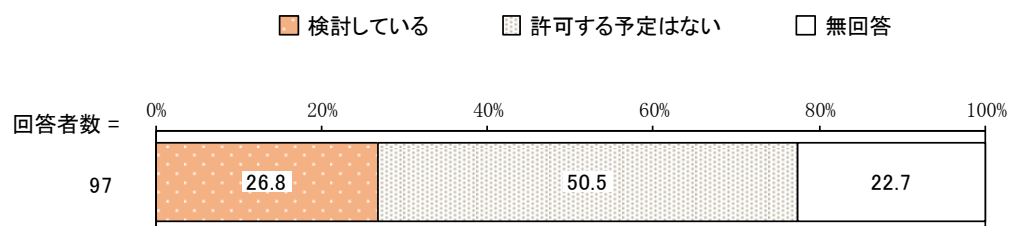
「一律実施」の割合が 20.6%と最も高くなっています。

回答者数 = 97



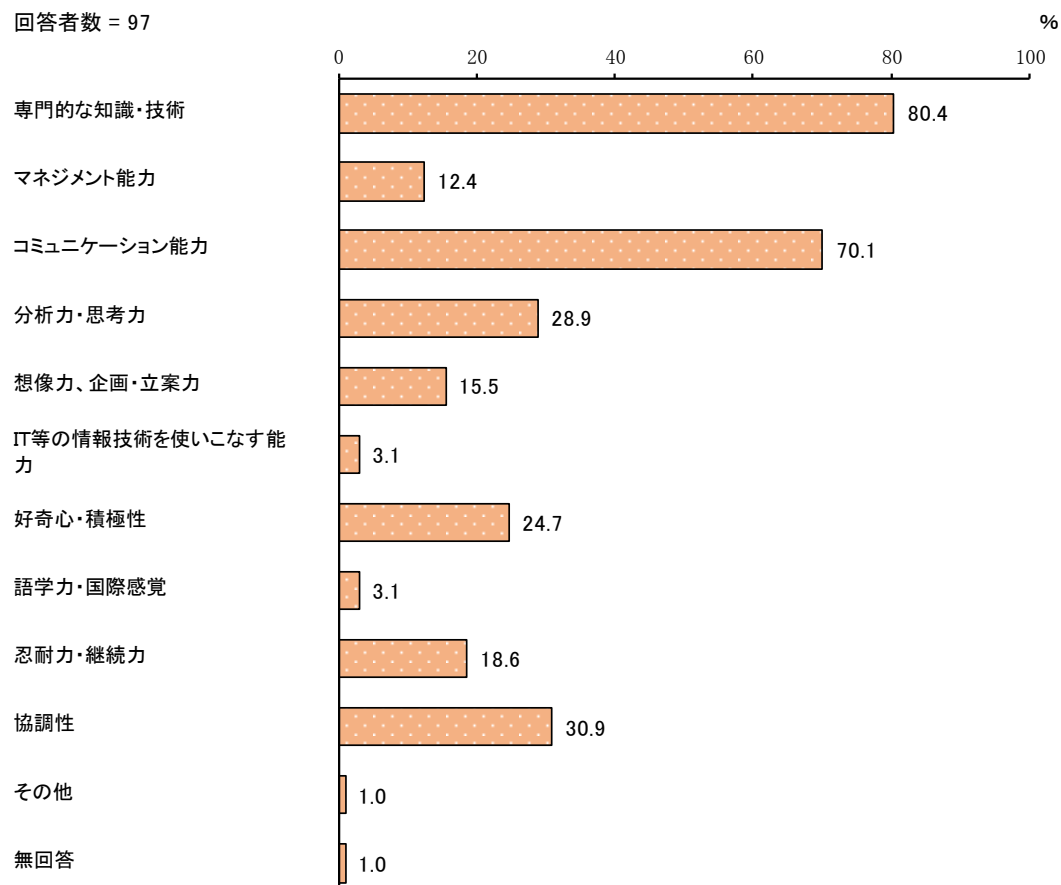
問7 現在従業員のワークシェアリングを許可していない事業所にお尋ねします。ワークシェアリングに関する貴事業所の意向を教えてください。(○は1つだけ)

「検討している」の割合が 26.8%、「許可する予定はない」の割合が 50.5%となっています。



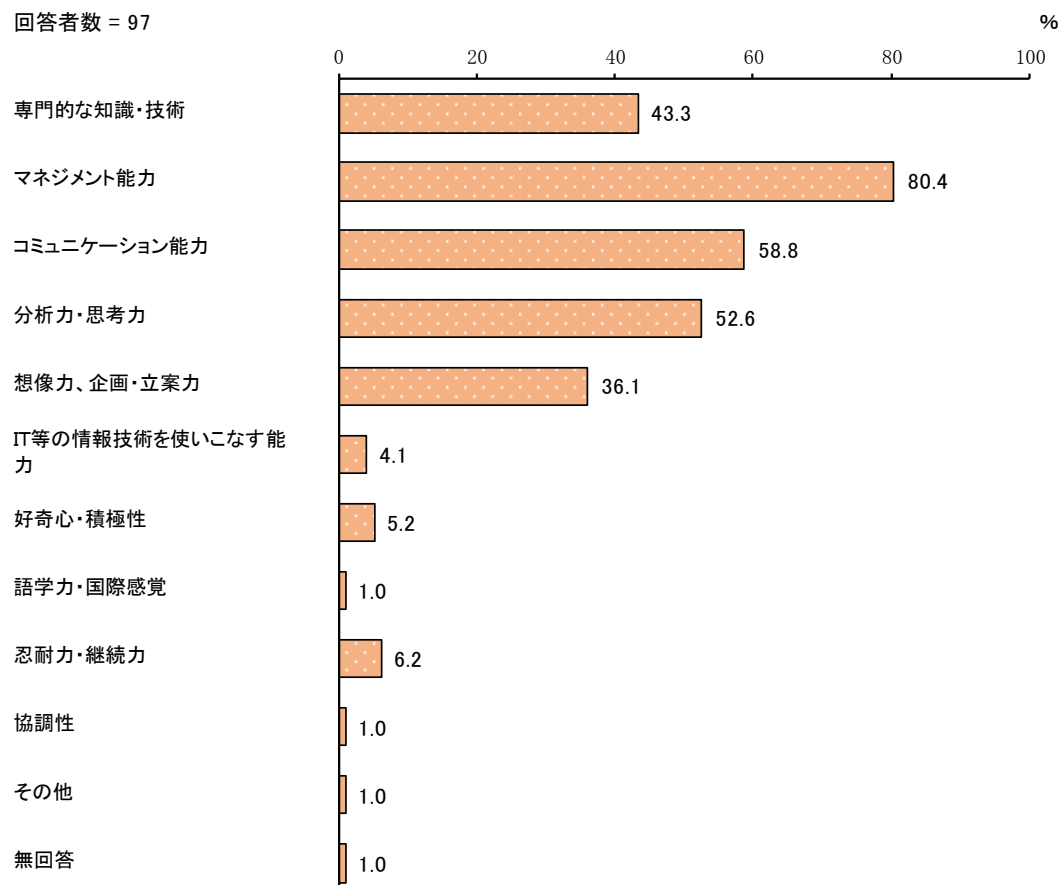
問 8 貴事業所で人材育成に取り組む際、入社5年目までの正社員にはどのような能力の向上を求めますか。(〇は上位3つまで)

「専門的な知識・技術」の割合が80.4%と最も高く、次いで「コミュニケーション能力」の割合が70.1%、「協調性」の割合が30.9%となっています。



問9 貴事業所で人材育成に取り組む際、将来に管理職や経営幹部となる可能性のある中核的人材にはどのような能力の向上を求めますか。(〇は上位3つまで)

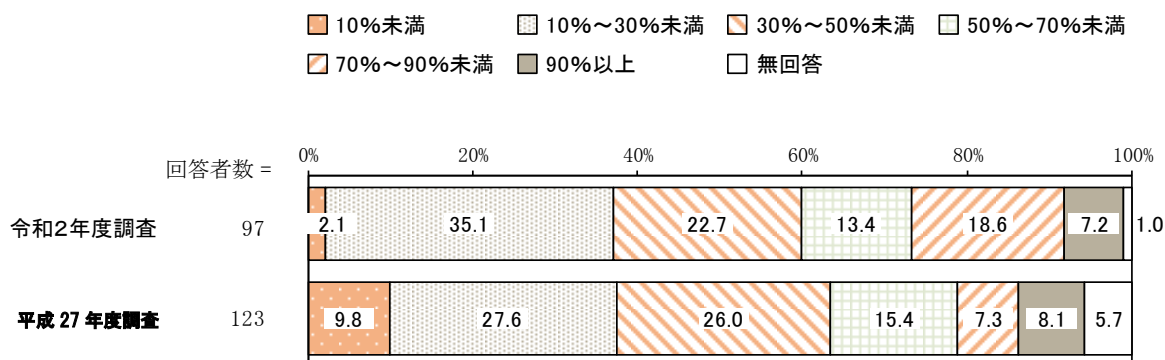
「マネジメント能力」の割合が80.4%と最も高く、次いで「コミュニケーション能力」の割合が58.8%、「分析力・思考力」の割合が52.6%となっています。



問 10 貴事業所では従業員の有給休暇取得率はどれくらいですか。全従業員の取得日数を、全従業員の取得可能日数で割った比率でお答えください。（○は1つだけ）

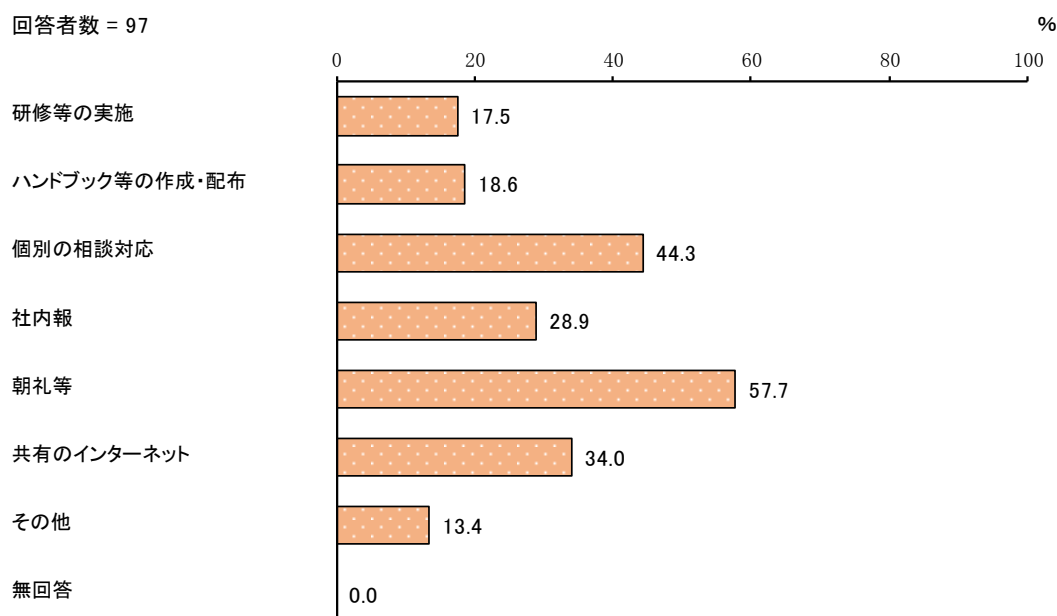
「10%～30%未満」の割合が 35.1%と最も高く、次いで「30%～50%未満」の割合が 22.7%、「70%～90%未満」の割合が 18.6%となっています。

平成 27 年度調査と比較すると、「10%～30%未満」「70%～90%未満」の割合が増加しています。一方、「10%未満」の割合が減少しています。



問 11 貴事業所では休暇等の制度や福利厚生等について、どのような方法で従業員に周知していますか。（○はいくつでも可）

「朝礼等」の割合が 57.7%と最も高く、次いで「個別の相談対応」の割合が 44.3%、「共有のインターネット」の割合が 34.0%となっています。



問 12 貴事業所の育児休業の 2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日までの取得状況について、男女別にお答えください。

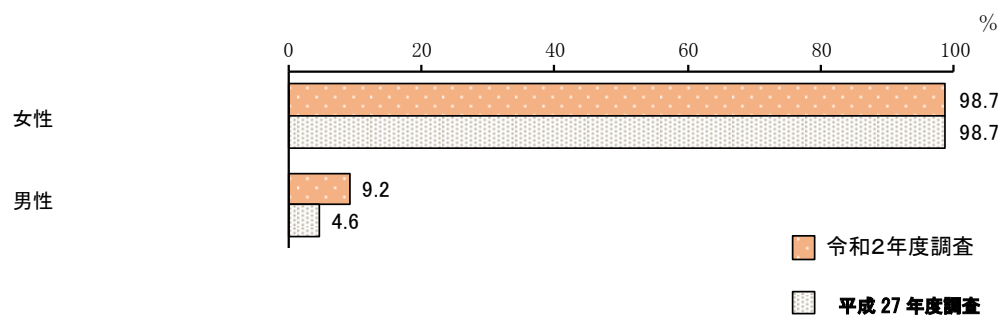
育児休業を取得した女性従業員割合は 98.7%となっています。一方、育児休業を取得した男性従業員割合は 9.2%となっています。

配偶者が出産した 男性従業員（A）	76 人	出産した女性従業員（A）	78 人
うち育児休業を 取得した男性従業員（B）	7 人	うち育児休業を 取得した女性従業員（B）	77 人
育児休業を取得した従業員の 割合（B/A）	9.2%	育児休業を取得した従業員の 割合（B/A）	98.7%
平均合計取得日数	19 日	平均取得日数	186 日

※97 事業所の合算

【平成 27 年度調査との比較】

平成 27 年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 13 貴事業所の介護休業の 2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日までの取得状況について、男女別にお答えください。

介護休業を取得した女性従業員は 3 人となっています。一方、介護休業を取得した男性従業員は 1 人となっています。

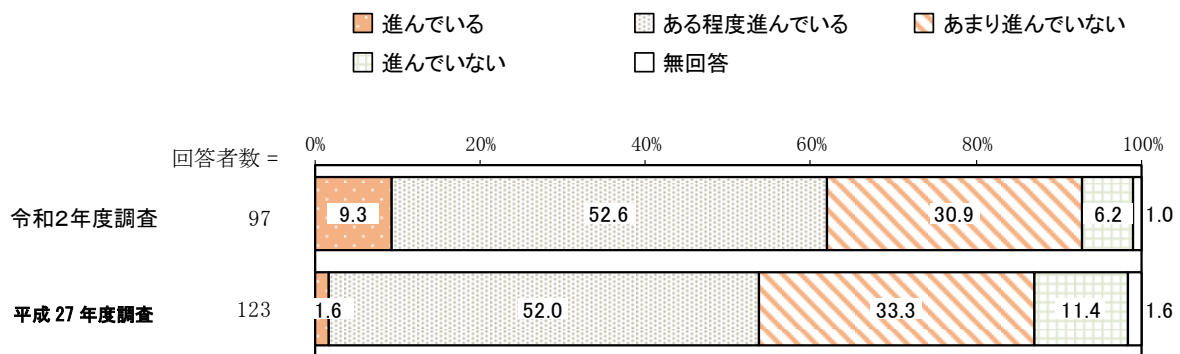
介護休業を取得した 男性従業員 (平成 27 年度調査)	1 人 (2 人)	介護休業を取得した 女性従業員 (平成 27 年度調査)	3 人 (4 人)
	平均取得日数 1 日		平均取得日数 15 日

※97 事業所の合算 (平成 27 年度調査は 123 事業所の合算)

問 14－1 貴事業所では仕事と生活の調和「ワーク・ライフ・バランス」の取組が進んでいると思いますか。（○は1つだけ）

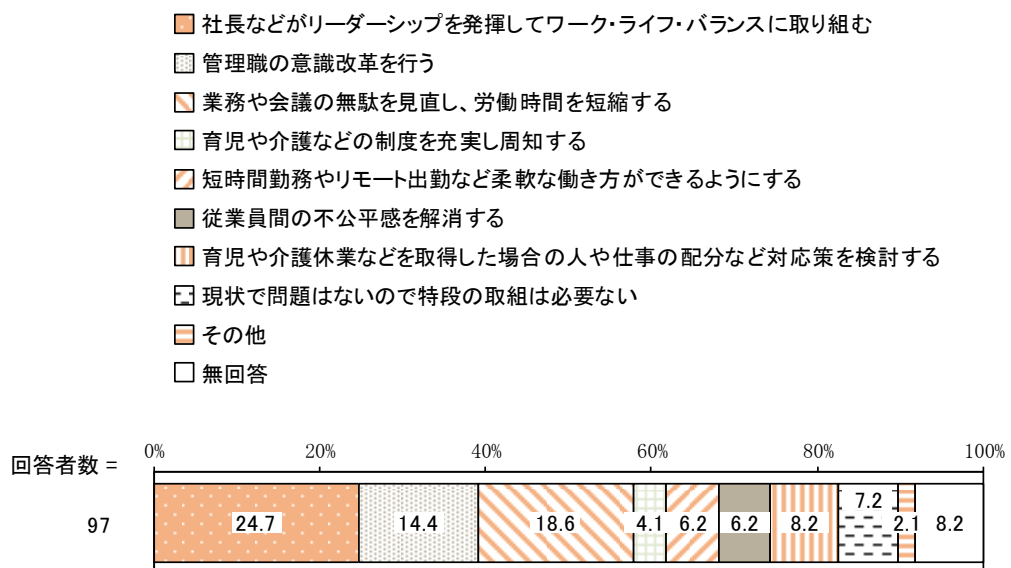
「進んでいる」と「ある程度進んでいる」を合わせた“進んでいる”の割合が 61.9%、「あまり進んでいない」と「進んでいない」を合わせた“進んでいない”の割合が 37.1%となっています。

平成 27 年度調査と比較すると、「進んでいる」の割合が増加しています。一方、「進んでいない」の割合が減少しています。



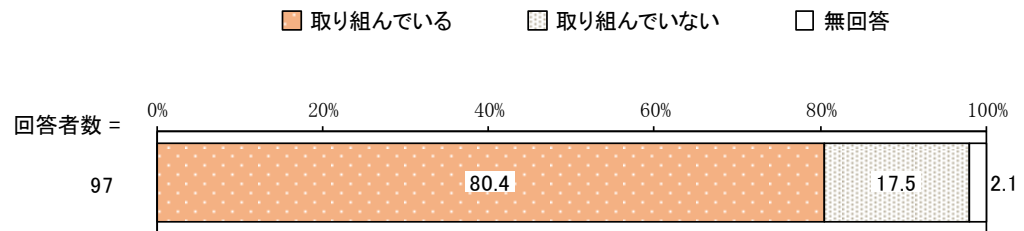
問 14－2 ワーク・ライフ・バランスを推進するためには、どのような取組が必要だと思いますか。（○は1つだけ）

「社長などがリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」の割合が 24.7%と最も高く、次いで「業務や会議の無駄を見直し、労働時間を短縮する」の割合が 18.6%、「管理職の意識改革を行う」の割合が 14.4%となっています。



問 15 貴事業所ではメンタルヘルス対策に取り組んでいますか。(○は1つだけ)

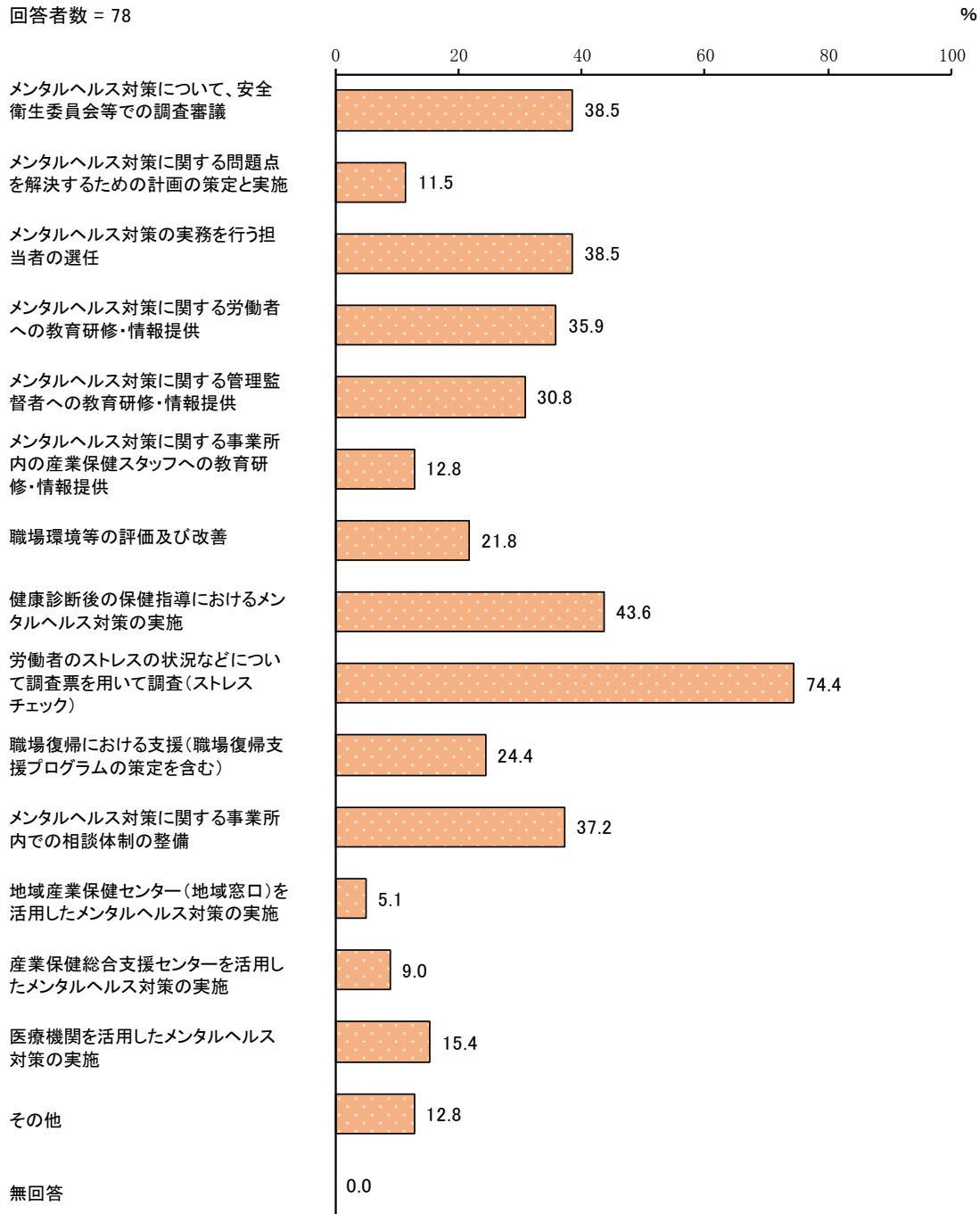
「取り組んでいる」の割合が 80.4%、「取り組んでいない」の割合が 17.5%となっています。



問 15－ 1 貴事業所では、どのようなメンタルヘルス対策に取り組んでいますか。（〇はいいくつでも可）

「労働者のストレスの状況などについて調査票を用いて調査（ストレスチェック）」の割合が 74.4%と最も高く、次いで「健康診断後の保健指導におけるメンタルヘルス対策の実施」の割合が 43.6%、「メンタルヘルス対策について、安全衛生委員会等での調査審議」、「メンタルヘルス対策の実務を行う担当者の選任」の割合が 38.5%となっています。

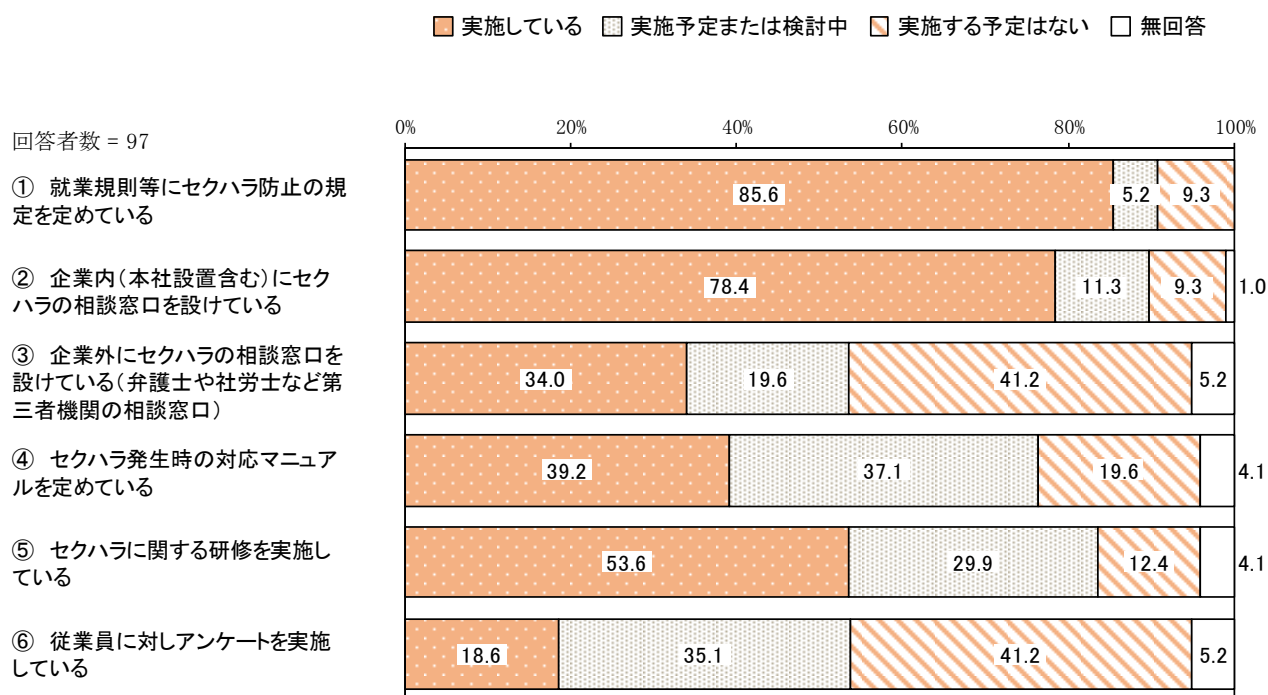
回答者数 = 78



(3) ハラスメントなど生きづらさについて

問 16 貴事業所のセクシュアル・ハラスメント（セクハラ）防止のための取組についてお答えください。（それぞれ○は1つだけ）

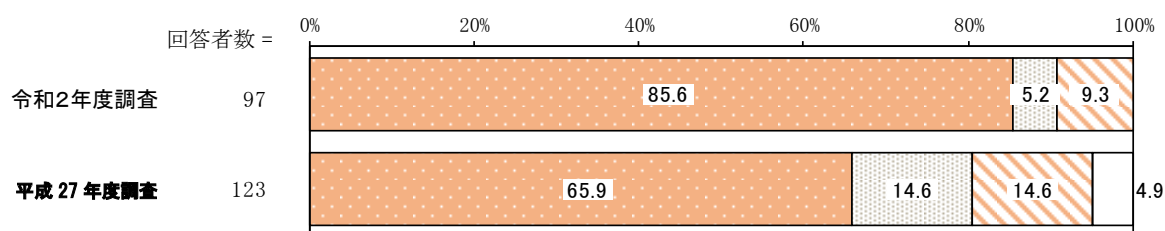
『① 就業規則等にセクハラ防止の規定を定めている』で「実施している」の割合が高くなっています。また、『④ セクハラ発生時の対応マニュアルを定めている』で「実施予定または検討中」の割合が、『③ 企業外にセクハラの相談窓口を設けている（弁護士や社労士など第三者機関の相談窓口）』『⑥ 従業員に対しアンケートを実施している』で「実施する予定はない」の割合が高くなっています。



【平成 27 年度調査との比較】

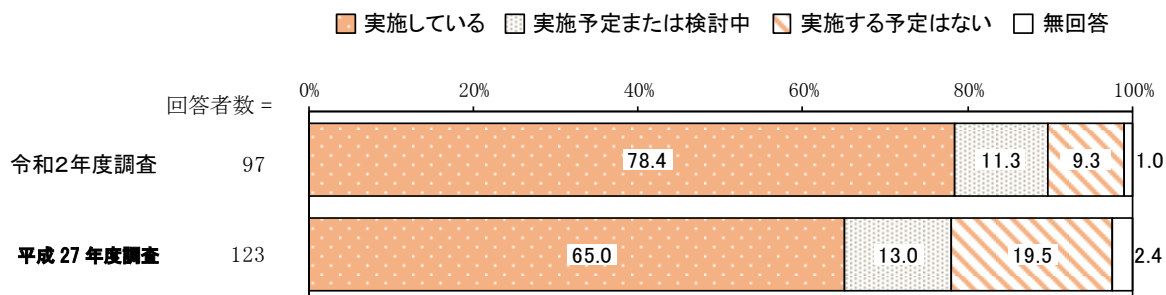
① 就業規則等にセクハラ防止の規定を定めている

平成 27 年度調査と比較すると、「実施している」の割合が増加しています。一方、「実施予定または検討中」「実施する予定はない」の割合が減少しています。



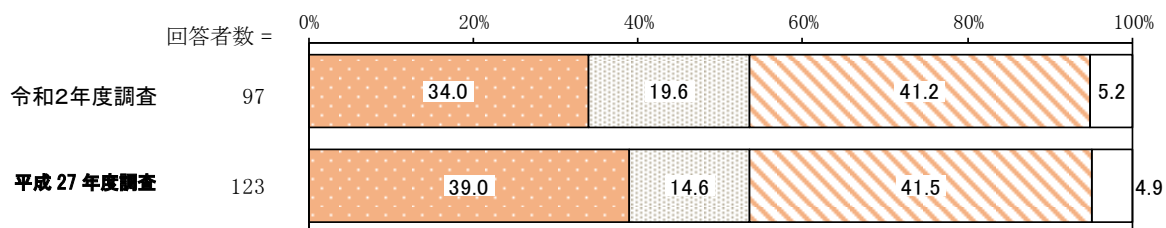
② 企業内（本社設置含む）にセクハラ相談窓口を設けている

平成 27 年度調査と比較すると、「実施している」の割合が増加しています。一方、「実施する予定はない」の割合が減少しています。



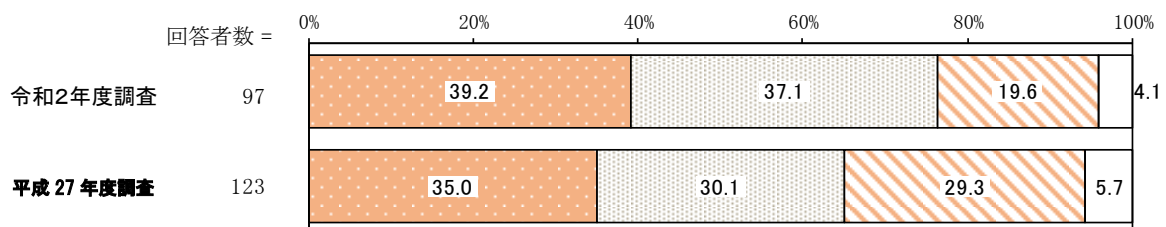
③ 企業外にセクハラ相談窓口を設けている（弁護士や社労士など第三者機関の相談窓口）

平成 27 年度調査と比較すると、「実施予定または検討中」の割合が増加しています。



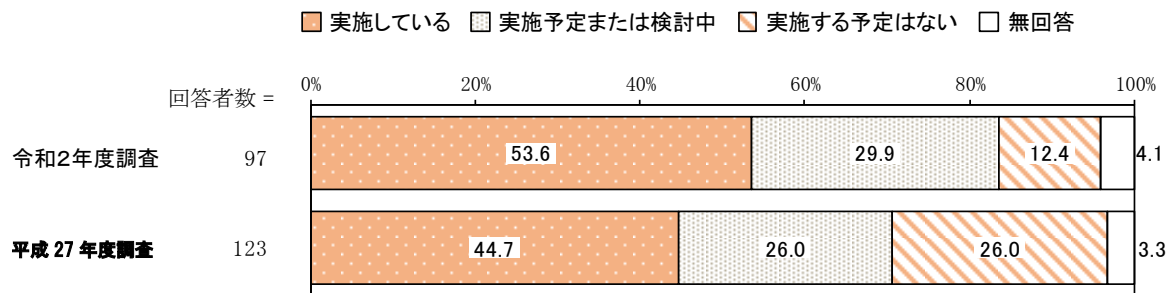
④ セクハラ発生時の対応マニュアルを定めている

平成 27 年度調査と比較すると、「実施予定または検討中」の割合が増加しています。一方、「実施する予定はない」の割合が減少しています。



⑤ セクハラに関する研修を実施している

平成 27 年度調査と比較すると、「実施している」の割合が増加しています。一方、「実施する予定はない」の割合が減少しています。



⑥ 従業員に対しアンケートを実施している

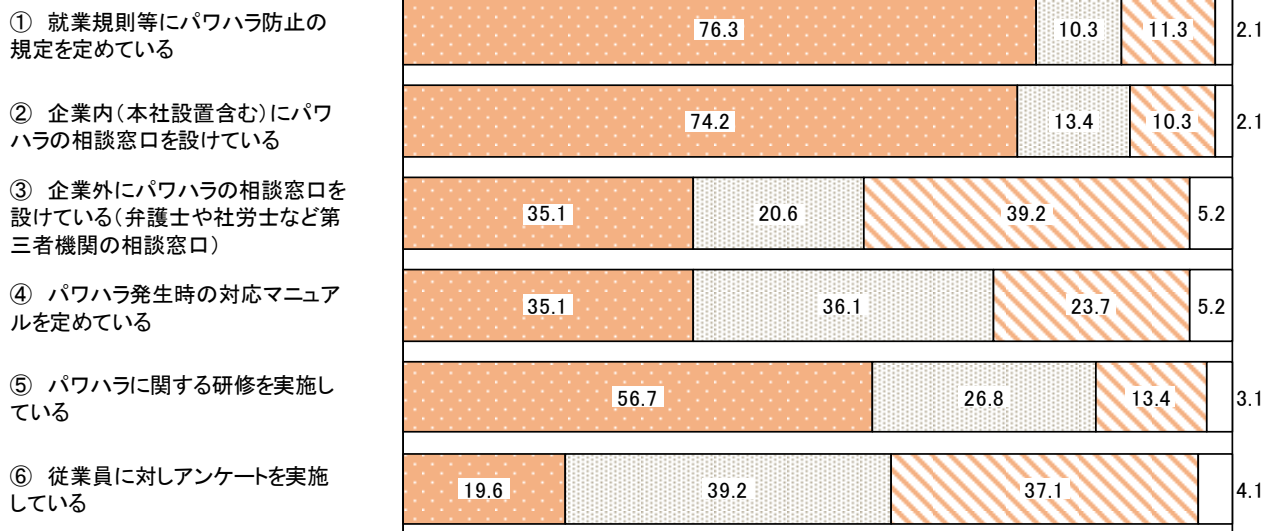
※平成 27 年度調査に設問がありません。

問 17 貴事業所のパワーハラスメント（パワハラ）防止のための取組についてお答えください。（それぞれ○は1つだけ）

『① 就業規則等にパワハラ防止の規定を定めている』で「実施している」の割合が高くなっています。また、『⑥ 従業員に対しアンケートを実施している』で「実施予定または検討中」の割合が、『③ 企業外にパワハラの相談窓口を設けている（弁護士や社労士など第三者機関の相談窓口）』で「実施する予定はない」の割合が高くなっています。

■ 実施している ■ 実施予定または検討中 ■ 実施する予定はない □ 無回答

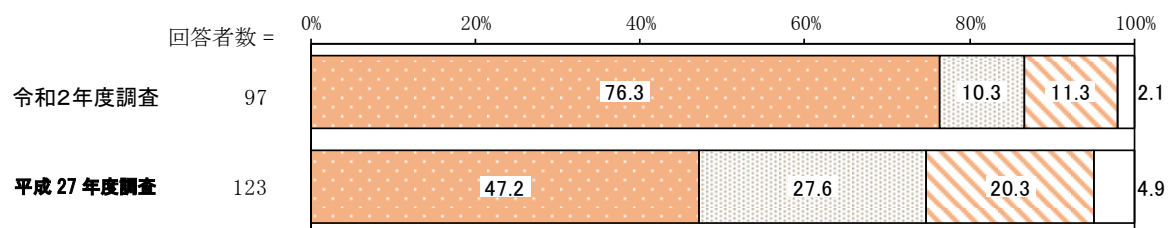
回答者数 = 97



【平成 27 年度調査との比較】

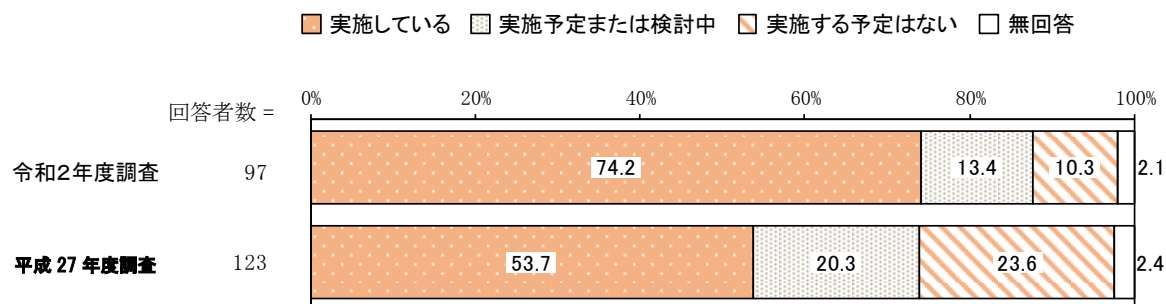
① 就業規則等にパワハラ防止の規定を定めている

平成 27 年度調査と比較すると、「実施している」の割合が増加しています。一方、「実施予定または検討中」「実施する予定はない」の割合が減少しています。



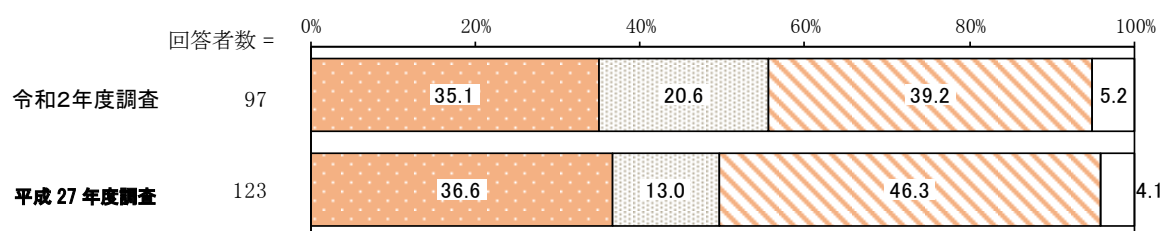
② 企業内（本社設置含む）にパワハラ相談窓口を設けている

平成 27 年度調査と比較すると、「実施している」の割合が増加しています。一方、「実施予定または検討中」「実施する予定はない」の割合が減少しています。



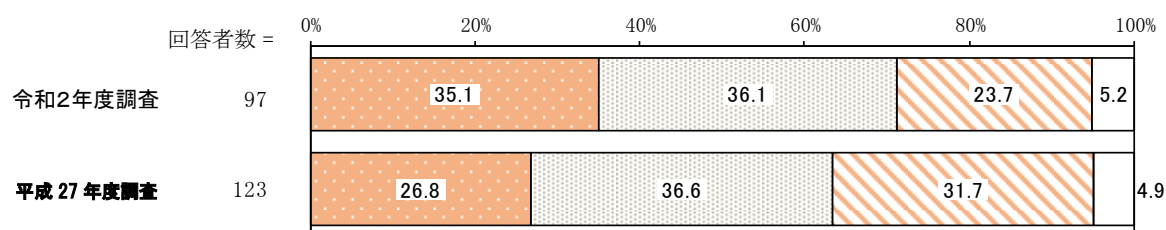
③ 企業外にパワハラ相談窓口を設けている（弁護士や社労士など第三者機関の相談窓口）

平成 27 年度調査と比較すると、「実施予定または検討中」の割合が増加しています。一方、「実施する予定はない」の割合が減少しています。



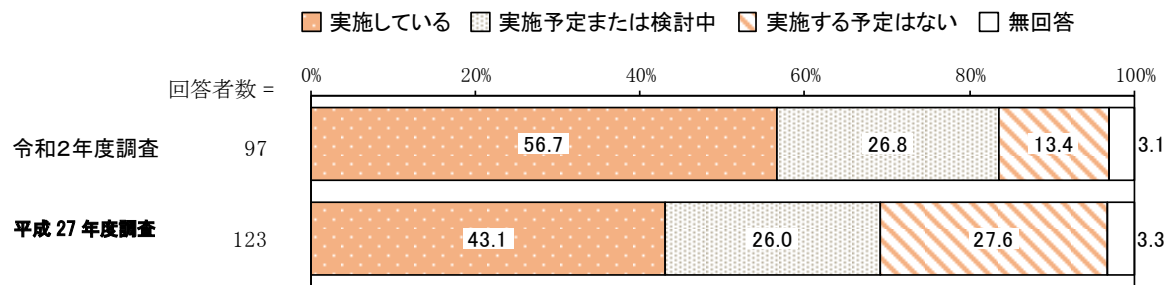
④ パワハラ発生時の対応マニュアルを定めている

平成 27 年度調査と比較すると、「実施している」の割合が増加しています。一方、「実施する予定はない」の割合が減少しています。



⑤ パワハラに関する研修を実施している

平成 27 年度調査と比較すると、「実施している」の割合が増加しています。一方、「実施する予定はない」の割合が減少しています。



⑥ 従業員に対しアンケートを実施している

※平成 27 年度調査に設問がありません。

4 自由回答

分類回答	件数
1. 職場や就労について	1

【分類別の主な意見】

1 職場や就労について

- ・ コロナの影響と労働環境について

Ⅲ 女性の生きづらさ等に関するヒアリング調査

1 調査の概要

1 調査目的

湖南省では、生きづらさを抱え支援を必要としているかたの現状を把握し、今後の男女共同参画施策の推進の参考にするとともに、令和3年度（2021年度）の「湖南省男女共同参画アクション2017計画」改定へ向けた基礎資料とするため、インタビュー形式のヒアリング調査を実施しました

2 調査対象

- ① 湖南省健康政策課
- ② 甲賀・湖南ひきこもり支援 『奏一かなでー』
- ③ 社会福祉法人 湖南省社会福祉協議会
- ④ 湖南省民生委員・児童委員協議会
- ⑤ 特定非営利活動法人 青少年支援ハウス輝
- ⑥ 特定非営利活動法人 青少年自立支援ホーム一歩
- ⑦ NPO 法人スーブル
- ⑧ ひきこもり当事者家族

3 調査方法

調査シートを配付した上で、後日面談によるヒアリング調査を実施

4 調査実施時期

令和3年（2021年）2月初旬～3月初旬

5 調査項目

（支援機関）

- ・ ひきこもりに関連した取組の概要について
- ・ ひきこもりに関する相談の傾向について
- ・ 支援をする中で効果的だと感じた取組や支援について
- ・ 必要と感じるひきこもり支援策について

（当事者または家族）

- ・ 現在の生活状況について
- ・ ひきこもりになるまでの経過について
- ・ ひきこもりになってからのこと
- ・ 将来について不安に感じる事
- ・ 居場所、地域との関係について
- ・ 行政や地域の相談窓口・支援体制について

6 調査結果のまとめ

ひきこもりに関する相談の傾向について（支援機関調査）

家族からの相談については、母親からの相談が多く、本人がひきこもりを問題と感じていない場合が多い。特にひきこもりであることをオープンにしたくない人が多い。

仕事が原因で健康上の問題があり、ひきこもりになる場合もあるが、不登校からそのままひきこもりになるケースが多く、その特徴として将来への不安を抱えている人が多い。

支援をする中で効果的だと感じた取組や支援について（支援機関調査）

好きなことや興味関心があることを一緒に共有し、頑張りを認めていくこと、話してくれた気持ちに寄り添うことで、自己肯定感や自尊感情を回復させていくことが大事である。そのために細く長く支えていくことができる人がいることで継続的な相談支援をすることが大切である。

また、個別のケースが出てきたら情報共有し、アセスメントや支援方針を定めていくことや関係機関が連携することでより多彩な支援をしていく必要がある。

必要とを感じるひきこもり支援策について（支援機関調査）

気軽に集うことができる居場所にきちんと繋ぎ、さらに就労へと繋ぐことが大切である。そのためには支援が途切れてしまうことがないように恒常的に連携しつつ、同行やフォローアップを行うことが大切である。さらに“ひきこもり支援”と看板を掲げている機関が県内では甲賀市に2つしかないので県下にどこでもくまなく相談できる仕組みが必要である。

また、市民に対し、ひきこもりの現状が知られていないので理解してもらう啓発活動をするべきである。

現在の生活状況について（当事者または家族調査）

現在の生活は息子と二人暮らしだが、家のなかでもほとんど顔を合わせることはない。

ひきこもりの状態になったのは、友だちの一言が原因で学校に行きづらくなり、学校を卒業してからひきこもりとなった。

ひきこもりの人が全国的にたくさんいることや、8050 問題が報道され、自分と息子の将来を突き付けられたような気持ちになることがある。しかし、支援者からの電話を通じて随分気が楽になることもある。

また、行政や地域の相談窓口・支援体制について、市役所は、悩んでいる者にとって飛び込みにくい、敷居が高いと感じる。相談できる場というのはとても大事なものであるため、まずは相談を丁寧引き継いでほしい。

2 調査項目（個別詳細）

① 湖南省健康政策課

ひきこもりに関連した取組の概要について

- ・ 個別相談や会議などを行っている。
- ・ 昨年度健康政策課が関わっているケースでは本人支援（実件数）11 件、家族支援として 30 件。市のひきこもり支援施策の担当は健康政策課であるが、役所内ではそれぞれひきこもりの主原因となった課がメインで担当している。
- ・ 単発の相談もあるが、地区担当保健師が継続的に関わるケースも様々ある。
- ・ 健診などの未受診者でひきこもりの状態が発見されるケースもある。
- ・ すぐに就職支援まで至らないことが多く、まず家族が安心して相談できる先であること、孤立しない支援をしている。
- ・ 孤立支援や居場所づくりをするために、ケースに応じて必要なことを支援策として他の課に繋ぐこともしている。

ひきこもりに関する相談の傾向について

- ・ 昨年度、本人支援の実件数 11 件のうち 6 件【男女比 3（内訳 40 代 2 人・50 代 1 人）：3（内訳 20 代 1 人・40 代 2 人）】が新規の相談。
- ・ 仕事が原因で健康上の問題がありひきこもりになる場合もあるが、不登校からそのままひきこもりになるケースが多い。
- ・ 家族からの相談については本人はひきこもりを問題と感じていないケースが多い。
- ・ 家庭環境の特徴として、経済的にどうにかして生活していけるような家庭が多い。
- ・ 両親の一方だけが心配しているなど、両親の心配具合に温度差を感じるケースもある。
- ・ 過去に結婚経験のある方もいるが、健康政策課では基本的には現在独身の方のひきこもりが多い。
- ・ 中には 4 年以上さらには 10 年以上ひきこもりの方も多くいる。

支援をする中で効果的だと感じた取組や支援について

- ・ 継続的な相談支援をすることによって、はっきりとした効果は出にくいですが、本人もしくは家族の変化として、追い詰められていた気持ちが軽くなっていくことがある、攻撃的にならずに見守るような親子関係等が築けるようになった。
- ・ 地区担当者は定期的に変わるので、丁寧な引継ぎを心掛けている。後任も過去の経緯や家庭環境等を把握し、前任が築き上げた関係を崩さないようにしている。
- ・ 最初の段階で障がいがある要因にあると考えられる場合、健康政策課から入るのではなく障がい担当から相談する場合もある、必要な担当に繋いでいく。

必要と感じるひきこもり支援策について

- ・ 今後必要な支援では居場所づくりをしたり、ひきこもりの方への認識をみんなですていくことが大事。
- ・ 過去にひきこもり経験がある方との繋がりがあると、ひきこもりの方でも自分の経験を話して何か役に立ちたいといったことを、共感することで役割を持てたり、それぞれの持っている能力を引き出せたら良いと思う。
- ・ 複数の支援箇所があると、何かあった場合でも継続して長い目でみて支援できると思う。
- ・ 一か所の課では支援しきれないところがあると思うので市全体で支援できる体制があれば良いと思う。
- ・ 社会からの孤立から自殺に繋がることもあるので広く孤立予防支援をしていくことが重要と感じる。

② 甲賀・湖南ひきこもり支援 『奏一かなでー』

ひきこもりに関連した取組の概要について

- ・ ご本人に対しての支援：自宅訪問、施設に来て頂く、市役所の一角を借りたり、ファミレス、釣り場等ご本人が過ごしやすい場所へのアウトリーチ支援を行っている。
- ・ ご家族に対しての支援：面談が主、施設に来ていただくことが多い。ご本人のことを教えて頂きながら、ご家族が抱えている葛藤（わが子がひきこもっていることを、誰にも言えないつらさ等）を話して頂く。
- ・ 市や保健所、社会福祉協議会や民生委員などから構成される運営会議や支援部会を行い、支援方針や普及啓発に向けて検討するなど、甲賀圏域全体でひきこもりの方を支援している（H27～）。
- ・ 啓発物を作ってひきこもりの経験をされている方と配ったり、生きづらさや肉声を載せた事例集、これまでの奏の活動をまとめた活動集を専門機関などに配っている。
- ・ 年に1度、広く市民に向けて公開講座（実践報告会）を開催し、普及啓発活動を行っている（参加者は年々増加傾向にあり、最大約250人にまで増えた）。
- ・ 相談件数：（5年間）200件前後、現在ひきこもりの方への本人支援：約35件、現在ご家族への支援：約20組。家族相談は、母親からのものが多い。
- ・ 相談のきっかけ：ご本人からではなく関係機関（生活困窮、障がい福祉、包括支援センター等）・地域住民（民生委員）・ご家族からの相談が多い。
- ・ 多くの場合、当事者はすぐさま就労につながる状態にはないが、「いつになれば、わが子は働きに行くのか」という相談も数多く寄せられる。その背景には、“ひきこもりを標榜している支援機関が少なく、どこに何を相談すればよいのか分からない”、“成人しているわが子の相談について、働いてほしいとしか言えない社会の風潮がある”といった要因があるように考えられる。
- ・ 奏創設当初は関係機関がきっかけの相談が多かったが、年々、地域住民やご家族からの相談が増えてきている。
- ・ 障がいや疾病を持っている方もある。
- ・ ひきこもりになったきっかけの傾向は学齢期からの不登校からそのままひきこもりになったり、一度は就職するもひきこもりに戻る方もいる（何らかの発達障がいがあったり、人間関係が作れなかったりする方もいる）。
- ・ 妊娠中や出産直後の方の相談はない。そのような方は、ひきこもりというよりは、虐待防止や産後うつ対策の一環として、市町保健師等にてフォローされていることが多い。
- ・ 女性は母親との関係が密接な人が多い。

ひきこもりに関する相談の傾向について

- ・ 年齢は20～50代が主（30～40代が最も多い）。10代は学校の支援に繋ぎ、60代以上は高齢分野の包括支援に繋いでいる。
- ・ 相談件数は圧倒的に男性が多く、“働かざる者、食うべからず”という圧力を受ける性差が件数に表れているように感じている。

- ・ 家庭環境：様々、ご家庭に問題があるからとか親の育て方は関係ない。
- ・ 両親は健在している場合でも、ご家族からの相談は母親からが多い。
- ・ 40～50代になってから、突如ひきこもる方はごく稀（不登校の経験等、学齢期のつまづきの延長線上が多い）。
- ・ 女性のひきこもりは、家の手伝いをしていると、それでカモフラージュされてしまい、ひきこもりと捉えられていないことがある。
- ・ 本人より親御さんが感情的になるケースがある。

支援をする中で効果的だと感じた取組や支援について

- ・ ひきこもりのゴールは働いて自分で稼ぐことだという考え方もあるが、いきなり仕事をするのは難しいことがほとんど。また、障がい福祉サービスの利用にも馴染みづらいことが多い。既存の障がい福祉サービスや、その他の施策が馴染みにくいケースも少なくない。
- ・ 学齢期から人との関係や勉強につまづいたり、自己肯定感が低い、自信がもてない場合もあり、自己肯定感や自尊感情の回復を大事にしている。好きなこと、興味関心があることをすることを一緒に共有すること（映画を観る、釣りをする等）を大事にすることで自信を回復させている。
- ・ 働く意思がある人には、仕事の斡旋はできないが夏祭りの準備、図書館の蔵書点検等ボランティア活動のような本人ができそうなことを一緒にすることから始めている。
- ・ 担当の職員がついて支援していく。異動等で頻繁に担当者が替わることにについて、ひきこもりがちな生活を送る人には馴染まない。
- ・ 本人と直接出会う支援者は一人だとしても、支援チーム（保健師、社会福祉協議会の方等）みんなでアセスメントや支援方針を定めていく（独りよがりな支援の防止、連携の土壌がある）。
- ・ ひきこもった背景や生育歴は一人ひとり異なり、個別の関わりが支援期間が5年以上になる場合もある。

必要と感じるひきこもり支援策について

- ・ “ひきこもり支援”と標榜している機関が少なく、家族等が相談先に困ったりするので施策となっていくことが必要（奏も単独での支援ではなく、市や県の方たちと協働で支援している）。
- ・ ひきこもりがちな方の生きづらさが公に認められ、定義され、そこに国からの支援やお金がついてくると、民間団体でも支援しやすいようになる。
- ・ 教育機関との連携が必要だと思うが、恒常的・具体的な連携には至っておらず、継続課題となっている。
- ・ 義務教育期間中は不登校になった場合の支援があるが、中学を卒業するタイミングで支援が途切れてしまうことが課題となっている。

③ 湖南省社会福祉協議会

ひきこもりに関連した取組の概要について

- ・ 個別の支援は行っていない。「奏」が圏域で個別のひきこもり支援を行っており、年3回程度の運営会議を奏が主催している。社会福祉協議会は、地域啓発交流部会で支援協力を行っている。部会にはほかに「アウトリーチ・奏サロン部会」「家族支援部会」がある。
- ・ 運営会議の構成団体がそれぞれの強みを生かして、ひきこもり当事者と連携できる啓発活動を行っている。社会福祉協議会では、障がいのある子どもたちに送るクリスマスカードの作成を「奏」の参加者に協力してもらった。
- ・ ひきこもりの方が作ったものを、ボランティアセンターで販売した。

ひきこもりに関する相談の傾向について

- ・ 直接の支援をしているわけではないため、社協事業である生活困窮者自立支援事業や地域福祉権利擁護事業などのケース会議での個別事例として検討するなかで、家族の中にひきこもりの方がおられることがわかるというケースもある。事例については関係機関や行政に繋いでいる。

支援をする中で効果的だと感じた取組や支援について

- ・ 1つの機関や行政だけでは限界がある。関係機関が連携することでより多彩な支援ができる。
- ・ 個別のケースが出てきたら情報共有していくことが有効である。
- ・ 今後、民生委員など地域の実情や、家庭などを知っている方と定期的な情報共有などの連携をしていきたい。

必要と感じるひきこもり支援策について

- ・ 地域福祉を行う団体なので、地域とのつながりを意識して活動していきたい。
- ・ ボランティアなど活動の場を提供などしていくことで、社会参加への第一歩になり、職に就くきっかけとなればよい。

④ 湖南市民生委員・児童委員協議会

ひきこもりに関連した取組の概要について

- ・ 3, 4 か月に一度、「奏」の運営についての会議が行われ、市民児協の会長が出席している。
- ・ 一委員として平成 29、30 年の県社協主催の民生委員・児童委員のテーマ研修に参加した。
- ・ 「奏」主催のひきこもりを考える講座に参加したり、市民児協の部会研修でひきこもりに関する講師を呼び研修している。今年度はコロナで全体研修はなくなり 3 分の 1 だけが参加した。
- ・ ひきこもりに関わる機会や把握することはあまりない。
- ・ ひきこもりを把握してもなかなか声がかけられない。

ひきこもりに関する相談の傾向について

- ・ ひきこもりの方の父親で、仕事ができ、プライドが高く、積極的に社会参加する方だったが、息子がひきこもりだということをととても恥に感じていた。どのようなきっかけでひきこもりになったのか、いまだに理解できていない様子だった（実の娘からの発言で）。
- ・ ひきこもりになっている方の状態として、部屋に鍵をかけひきこもり、風呂やトイレの時だけ外にでる。食事は母親が部屋の前に食事を置く。欲しい物があればメモをして母親に渡すような方もいる。
- ・ ひきこもりの子どもを持つ母親から相談を受けた事例として、その方と立ち話というかたちで話す機会を持ったことがきっかけとなり、次回にじっくりと話す機会もでき、支援に繋がっていったという事例もある。

支援をする中で効果的だと感じた取組や支援について

- ・ 民生委員は色々な見守りをしているが、ひきこもりなどのデリケートな問題に関しては素人なので、ひきこもりを発見したら、我流で動かず市役所や専門機関にまず相談することが基本であると思う。
- ・ 民生委員という後ろ盾があったからこそひきこもりの母親と接点を持つことができた。
- ・ ひきこもりの方本人と会うのはとても難しいが、周りの家族の支援が「カギ」になる。本人と唯一接触できる家族と協働し、サポートする力「家族支援力」が重要である。

必要とを感じるひきこもり支援策について

- ・ 民生委員であろうとひきこもりに関しては素人であるため、我流で関わることは、相手を傷つけたり、支援を遅らせることに繋がってしまうので危険である。ひきこもりに関する研修会や説明会などで現状を知り、一人ひとりの民生委員の資質を上げることに尽きるのではないかな。
- ・ ひきこもりに関してはまだまだ正しく理解されていないのが現状なので、勉強会などで資質を上げていくことが重要である。

⑤ 特定非営利活動法人 青少年支援ハウス輝

ひきこもりに関連した取組の概要について

- ・ 義務教育を終えた年齢が基本だがきちんとした線引きはなく学校に籍があっても状況によって柔軟に対応しており、通所している方は現在 12 名いる（16～46 歳、期間 3～4 年、長い方は 10 年ほどの方もいる）。
- ・ 障害者手帳は持っていない人が多い（現時点では）。
- ・ 自分の居場所が少なくなっている等の状況があるため、家以外の居場所を増やすための施設となっている。
- ・ つながりのスタートは行政、保健所からの相談が多いが当事者家族からの相談もある。医師とも連携している。
- ・ 自分のことを肯定的にみられる状況を作っていくことで、将来に向けて社会に進出できる気持ちと体を作っている。
- ・ 施設に来ることができる人もいるが、来られないの方が圧倒的に多いので、そういう方の訪問をできるだけ頻繁にする取組を行っている。
- ・ 行政の方では月に 1、2 回しか訪問できない状況と感じているため、できるだけ訪問回数を増やして信頼を得るようなことから始めている。
- ・ 社会参加のための訓練をする、色んなところに出掛ける（社会を知る）。
- ・ 一人ひとりの状態に合わせて取組をしている、ゆくゆくは仕事ができる自分で生活できるように支援している。
- ・ 家族が元気になれば本人も元気になるので家族関係の支援も行っている。家族会で勉強や懇談を行っている。
- ・ ひきこもりは本人や家族の責任にされがち。当事者やひきこもりを受け入れられる社会になることが必要。社会に対してひきこもりとは何か、訴えることをしている。

ひきこもりに関する相談の傾向について

- ・ 輝では圧倒的に男性のひきこもりが多い。
- ・ 男性中心の社会の中で、男性はこうあるべきという社会の風潮で男性が潰れてしまうことが多い。女性も同様だがセクハラやパワハラを受けやすいのでそれが原因になることもある。
- ・ 精神的な障がいや発達障がい、うつがひきこもりの背景になることもあり、家庭環境も様々だが、特徴的なのは家族も含め、人との会話が少ないように感じている。
- ・ 特徴として将来への不安を抱えている方が多い。

支援をする中で効果的だと感じた取組や支援について

- ・ 居場所づくりが大事。
- ・ こちらの意見は多く言わずに話してくれた気持ちに寄り添うこと、しっかり話を聞いてあげることが大事。
- ・ もう一度就労に繋ぐ難しさはあるが企業へのパイプがあるので施設の周辺で勤め先を探したりもしている。
- ・ 仕事への意欲が生まれた時には無理をせず、本人のペースで仕事をするように勧めている、その継続で自分の仕事と認識できるようになる。
- ・ 施設の雰囲気のような職場で働けるよう心と体を作っていく準備をしている。
- ・ 最初は短時間で、ゆくゆくはフルタイムで働けるようにしていく。
- ・ 就労先の会社でその方の特性を理解してくれる会社は繋げやすい。

必要と感じるひきこもり支援策について

- ・ それぞれの個人に合わせて支援することが必要。
- ・ 居住されている身近な場所での支援施設（滋賀型地域活動支援センター）は県内では甲賀市に2つしかないので県下に限なく相談できる施設が必要。
- ・ 相談者の増加に繋がると思うので、県や市、町はひきこもりを理解してもらう啓発活動をするべき。

⑥ 特定非営利活動法人 青少年自立支援ホーム一步

ひきこもりに関連した取組の概要について

- ・ 月曜日から金曜日の 9:30 から 16:30 まで実施している。
- ・ 通所者の特性によっては、女性と男性の通所する曜日を分けることもある。
- ・ 現在通所されているのは、女性 3 名、男性 8 名の計 11 名。アウトリーチは行っていないが、家から出づらい人は信頼されているスタッフが迎えに行くなどの対応をしている。
- ・ 通所者一人ひとりの特性に合わせつつ、全員でできる妥協点を探しながら取組を進めている。難しいが、できたときには自信に繋がる。
- ・ 市役所（教育委員会）から依頼を受けることもある。
- ・ 市役所や支援センターとチラシを配るなどの広報活動をしている。
- ・ 年 3 回保護者会を開いている。
- ・ 「滋賀型地域活動センター」として、義務教育修了後の人に対して支援をしている。

ひきこもりに関する相談の傾向について

- ・ 家族からの相談。ひきこもりであることをオープンにしたくない。できる限りそっと相談したい人が多い。
- ・ いじめなどによる不登校がきっかけでひきこもりになる人が多い。
- ・ 青少年支援なので、保護者よりも子どもについても相談が多い。
- ・ 人と違う接し方をされることが気になる人もいる。
- ・ 利用者の女性はみんな病院に通院していて、障害者手帳を持っている。自分の状態を把握して、しんどくなってきたら作業をやめるなどの判断ができる。
- ・ 家族との関係は良好な人がほとんど。保護者会などで、ひきこもりへの理解を深めている。

支援をする中で効果的だと感じた取組や支援について

- ・ 同じように接してもそれぞれの感じ方は全く違うので、個々でしっかりと寄り添いながら対応していくことが大切。
- ・ 頑張りを認めていくことが大切。

必要と感じるひきこもり支援策について

- ・ 行政から居場所があるという情報発信をしてほしい。
- ・ 居場所をつくっていくことで外に出るきっかけが増えていくと思う。
- ・ 居場所から就労につながっていきつつも気軽に来ることができる場が必要だと思う。

⑦ NPO 法人スーブル

ひきこもりに関連した取組の概要について

- ・ 「ひきこもり女子会」の事業を行っている。
- ・ 男性がいる場では話にくい、女子だけで気兼ねなく話せる場がほしいとの声があり、当事者の一人といっしょに3年前に「ひきこもり女子会」を設立。
- ・ 現在56名の方が参加している。(延べ176名)
- ・ 近隣だけでなく、SNSでの発信などにより遠方からの参加者もいる。
- ・ 自分自身が感じていることを周りわかりあえる場となっている。
- ・ 自助グループという認識の位置づけであるため、参加者から相談がない限りは、あえて積極的に就労支援などにつなげないことで、参加しやすい場となっていると思う。
- ・ すでに他の支援機関と繋がっていても、「わかってもらえない」という思いを抱えている方が多いように感じる。

ひきこもりに関する相談の傾向について

- ・ 10代から50代まで、学生、仕事をしている人、主婦、子育て中の人など様々な環境にいる方がいる。
- ・ ひきこもりは男性で、暗い所でじっとしているというイメージが世間的にはある。女子のひきこもりの現状について、自分たちの苦しみを周りに理解してもらえないと感じている方が多い。
- ・ 主婦で参加される方は、日常最低限の外出や家事しかできない方もいる。

支援をする中で効果的だと感じた取組や支援について

- ・ 自ら探してくる人より誰かから紹介されてくる人の方が定着率が良い。
- ・ 居場所をつくって人間関係にゆっくりと立ち上がっていくことが大切なので、いかに居場所に丁寧につないでいくかが大切。
- ・ 居場所は少しずつ増えているが、まだまだ足りない。
- ・ 居場所や施策の前に、細く長く支えていくことができる人がいることが大切。

必要と感じるひきこもり支援策について

- ・ 行政との連携を強めていきたい。
- ・ 女子のひきこもりの現状が知られていないので、周知していくことが必要。
- ・ 「働きたい(働かせたい)」と相談に来る人はいても、自ら「居場所に行きたい(紹介してほしい)」と言って相談に来る人はいないということ、また国も示している居場所の必要性や意義を、支援者がどこまで理解し、そのうえでその人にとっての是非を判断しているのか。支援者が伝えないとその存在は知られないまま終わるということを理解する必要がある。そしてひきこもり支援では特に繋ぐときは連絡先を教えるだけでなく、同行やフォローアップなどを含めて「丁寧に繋ぐ」ことが必要。場所や施策ではなく、「支援者」が大切。

⑧ ひきこもり当事者家族

ひきこもり始めて10年以上になる30代男性の母親からお話を伺いました。

現在の生活状況について

現在は、ひきこもっている息子と二人暮らしだが、家のなかでもほとんど顔を合わせる事が無い。直接の会話は無いので、伝えたいことはホワイトボードに書くようにしているが、今まで息子から書かれたのは「なにか内職ない？」というメッセージが一度だけ。

息子に少しでも外に出て気分転換してほしいと思い、先月からお金を少し渡して息子の食べる分は自分で用意してもらうようにした。冷蔵庫に新しい食材が入っていたので、買い物に行ったんだと思う。

息子のことを考えなくてもいい時間はないが、忘れて外に出る時間は必要だと思っている。泊まり込みで仕事をしていた時は、そういう時間を持っていた。何年前か、仕事で泊まり込んでいた時、大雪でしんとするなか心が静かになり、息子もこんなふうに関心なく家にいられることに安心感を持っているのかなと感じた。そのころから、息子の昔のことを話せるようになった。それまでは辛くて話すことができなかった。

ひきこもりになるまでの経過について

息子が中学生のときに、友だちの一言が原因で学校に行きづらくなった。学校に行っても教室には行けない状態の時に、夫から「なぜ学校へ行かせられないのか」と責められた。夫は息子本人には何も言わず、私や学校の対応が悪いと言っていた。

夫とは息子たちが高校のときに離婚した。息子は難しい年ごろだったが、兄弟でゲームをしたり、私と話したり、普通に過ごしていた。ひきこもりの状態になったのは、学校を卒業してから。アルバイトをしていたが、休んだり、行ったりを繰り返して徐々にひきこもっていった。ひきこもった理由は今もわからない。

ひきこもりになってからのこと

ひきこもりになった当初は、「働かないといけない」という思いが強く、きつい言葉で息子に手紙を書いたり、「貯金がなくなれば働くかも」と家にお金を入れさせたりしていた。その時々で一生懸命考えてやってきたが、今では間違っていたと思う。この時は「息子が30歳になるまでになんとかしないと」という思い込みがあり、自分で自分を追い込んでいた。「こんなふうになってほしい」と思うほどに小さなことに躓き、しんどくなっていた。

「普通に働いて、結婚して…」と願う自分と、「普通にできないしんどさを持っているのが私の息子なんだ」と理解する自分の間で、今も気持ちが行ったり来たりしている。2019年春、ひきこもりの人が全国的にもものすごくたくさんいることや、8050問題が報道され、自分と息子の将来を突き付けられたような気持ちになり、「80歳までこうなんだ…」と目の前が真っ暗になった。さらに、元農水省事務次官の事件があり、息子には失礼な話だが事務次官の苦しみがわかるような気がした。そんなときに、繋がっている支援者から「大丈夫ですか」という電話をいただき、相談し続けてよかったと思った。一人では乗り越えられなかった。報道やドラマを目にすることによって、反省や自分を責める気持ちが出てくるので、そういうメディアは自分で制限するようにした。

将来について不安に感じること

ひきこもりのことで相談していることは息子に言っていないが、私にもしものことがあった場合に開ける箱を用意している。箱には支援者の連絡先などを入れている。支援者のほうも、「なにかあった場合には息子さんに連絡を取る」と言ってくれているので、そのことで随分気が楽になった。そこから先、支援者と繋がるかどうかは息子次第だが、できるだけのことはしておいてあげたいと思っている。相談に行くのも母親が多く、父親と母親では向き合い方が違うと思う。

居場所、地域との関係について

現在の職場では息子の状況を話せる同僚女性もいるが、仕事に影響がないので上司に相談する必要もなく、ほかの人には話していない。

地域とはもともと繋がりが希薄で、掃除のときに顔を合わせる程度。私のいないところでは、息子のことも話題に上っているのではないかと思うが、直接聞かれることはない。

行政や地域の相談窓口・支援体制について

市役所は悩んでいる者にとって飛び込みにくい、敷居が高いと感じる。

5年ほど前に市の福祉課に相談に行ったことがある。担当の人が訪問に行きましようか、というところまで話が進んでから、連絡が途絶えた。市役所に聞いてみると、異動で担当者が替わったので、また初めから話してくれということになり、「もう嫌だ」と思い、自力で今の相談機関にたどり着いた。悩んでいる人が相談に行くのはすごくエネルギーがいること。相談を引き継いでもらえなくて市役所に不信感を持った。色々な施策を考えても現場が付いていっていない。相談できる場というのはとても大事なものの。当然のことだが、まずは相談を丁寧に引き継いでほしい。

Ⅳ調査票

1 市民意識調査

女性の生きづらさに関する市民意識調査

ご協力をお願い

日頃は、市の行政について、ご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本市は2017年（平成29年）に「湖南市男女共同参画アクション2017計画」を策定し、男女共同参画社会の実現をめざし、各種施策の推進に取り組んでおります。毎年度進捗状況を調査・評価したうえで見直しを図りつつ、社会情勢の変化などを踏まえた改訂が必要となります。

これにともない、湖南市内に居住する18歳以上の女性の市民から2,000人を無作為に選ばせていただき、アンケート調査を実施することになりました。市民のみなさんのご意見やご要望をお聞きすることにより、今後の施策を進めていくうえでの参考にさせていただきますと考えております。

つきましては、ご多忙とは存じますが、なにとぞ調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。なお、調査は無記名で、お答えいただいた内容は秘密を厳守し、すべて統計的數字に直して集計しますので、個人のお名前が出ることはありません。どうかみなさんの率直な意見をお聞かせください。また、不明な点は人権擁護課までお問い合わせください。

2020年（令和2年）12月

湖南市長 生田 邦夫

【このアンケート調査票の構成】

1. あなたご自身のことについて P. 1
2. 生きづらさについて P. 2
3. 男女共同参画について P. 10

【ご記入に当たってのお願い】

◇調査票の記入について

- ・この調査は封筒の宛名のご本人が対象となります。
- ・なんらかの事情でご本人が記入できない場合は、ご本人の意思を尊重して代わってご回答していただく方をお願いいたします。
- ・2020年（令和2年）12月1日現在の内容でご記入ください。
- ・設問に選択肢のあるものは、あてはまる番号に○をつけてください。お答えが「その他」にあてはまる場合は、できるだけ（ ）内に内容をご記入ください。
- ・設問によって、○をつけていただく数を（ ）内に指定していますので、ご注意ください。

◇調査票の回収について

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、2021年（令和3年）1月20日（水）までに郵送してくださいようお願いいたします。
（切手は不要です）

◇調査についての質問などは、下記までお問い合わせください。

湖南市役所 人権擁護課 人権対策・多文化共生・男女共同参画推進係
電話：0748-77-8512 ファックス：0748-77-4101
メール：jinken@city.shiga-konan.lg.jp

1. あなたご自身のことについてお伺いします。

問 1 あなたの年代についてお答えください。(Oは1つだけ)

- | | | |
|-----------|----------|-----------|
| 1. 10 歳代 | 2. 20 歳代 | 3. 30 歳代 |
| 4. 40 歳代 | 5. 50 歳代 | 6. 60 歳以上 |
| 7. 答えたくない | | |

問 2 配偶者・パートナーの有無についてお答えください。(Oは1つだけ)

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 結婚している | 2. 未婚だがパートナーがいる |
| 3. 過去に結婚していた | 4. 過去にパートナーがいた |
| 5. 結婚したことがない | 6. 答えたくない |

問 3 あなたはだれと同居していますか。(Oはいくつでも可)

- | | | | |
|---------------|---------------|---------|-----------|
| 1. 父親 | 2. 母親 | 3. 兄弟姉妹 | 4. 祖父母 |
| 5. 配偶者 | 6. パートナー | 7. 子ども | 8. ひどい暮らし |
| 9. グループホームにいる | 10. シェアハウスにいる | | |
| 11. その他 () | 12. 答えたくない | | |

問 4 最後に在籍した (または現在在籍している) 学校は次のうちどれですか。
(Oは1つだけ)

- | | | |
|----------------|---------|------------------------|
| 1. 小学校 | 2. 中学校 | 3. 高校、高等専門学校 (高卒認定を含む) |
| 4. 短期大学 | 5. 大学 | 6. 大学院 |
| 8. その他 (具体的に : | 7. 専門学校 | 9. 答えたくない |

問 5 学校を中退した経験はありますか。(Oは1つだけ)

- | | | |
|-------|-------|-----------|
| 1. ある | 2. ない | 3. 答えたくない |
|-------|-------|-----------|

問 6-1 日ごろ家族の中であなたを経済的に支えているのはどなたですか。
(Oはいくつでも可)

- | | | | |
|----------|--------------|--------|---------|
| 1. あなた自身 | 2. 父親 | 3. 母親 | 4. 兄弟姉妹 |
| 5. 祖父母 | 6. 配偶者、パートナー | 7. 子ども | |
| 8. いない | 9. その他 () | | |

問 6-2 日ごろ家族の中であなたを精神的に支えているのはどなたですか。
(Oはいくつでも可)

- | | | | |
|----------|--------------|--------|---------|
| 1. あなた自身 | 2. 父親 | 3. 母親 | 4. 兄弟姉妹 |
| 5. 祖父母 | 6. 配偶者、パートナー | 7. 子ども | |
| 8. いない | 9. その他 () | | |

問 7 あなたの現在の就学・就労の状況を教えてください。(Oは1つだけ)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 勤めている (正社員) |
| 2. 勤めている (契約社員、派遣社員、パート・アルバイト) |
| 3. 学生、予備校生 |
| 4. 自営業 |
| 5. 専業主婦 |
| 6. 家事手伝い |
| 7. 無職 |
| 8. その他 (具体的に : |

2. 生きづらさについてお伺いします。

内閣府によると「ひきこもり」とは『買い物などで外出する以外は、家にとどまることが半年以上続く状態』とされ、2019 年 (令和元年) にまとめられた調査では 40 歳から 60 歳までで 61 万人と推計されています。長期化や高齢化も課題となるなか、過去の調査では統計に含まれず見過ごされ続けてきた女性たちがいます。それが『家事手伝い・専業主婦』で、ひきこもる人たちです。

問 8 あなたは「女性のひきこもり」について、どのように思いますか。

(Oは1つだけ)

- | |
|---------------------------------|
| 1. 問題だとは思わなかった |
| 2. 問題だと考えているが、家庭の問題のため、対策が困難である |
| 3. 問題だと考え、行政としても対策・支援が必要である |
| 4. わからない |

問 9 「女性のひきこもり」について、どのような支援が必要だと思いますか。

(Oはいくつでも可)

- | |
|---------------------|
| 1. 気軽に相談できる窓口の充実 |
| 2. 女性に配慮した相談体制の充実 |
| 3. 気軽に参加できる居場所の確保 |
| 4. 就労のきっかけづくり・技術の習得 |
| 5. 積極的な広報・啓発活動 |
| 6. その他 () |

問 10-1 あなたはこれまで「ひきこもり」だったことはありますか。(○は1つだけ)
※「ひきこもり」として自認がある(あった)、苦しんでいる(いた)かどうかを
基準にご回答ください。

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 過去にひきこもっていた | 2. 現在ひきこもっている |
| 3. ひきこもったことがない | 4. わからない |
| 5. 答えたくない | |

問 10-1で「1. 過去に引きこもっていた」「2. 現在ひきこもっている」を選んだ方に
お聞きします。

問 10-2 あなたの「ひきこもり」の期間について教えてください。(○は1つだけ)
※複数回ひきこもりの期間がある場合は、すべての期間を足してご回答ください。

- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| 1. 6か月未満 | 2. 6か月～1年未満 | 3. 1年～2年未満 |
| 4. 2年～3年未満 | 5. 3年～5年未満 | 6. 5年～7年未満 |
| 7. 7年～10年未満 | 8. 10年～15年未満 | 9. 15年～20年未満 |
| 10. 20年～25年未満 | 11. 25年以上 | |
| 12. わからない | 13. 答えたくない | |

問 10-3 あなたの「ひきこもり」の原因やきっかけはなんですか。
(○はいくつでも可)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 家族との関係 | 2. 友人、知人との関係 |
| 3. からだの問題(不調、病氣、障がい) | 4. こころの問題(不調、病氣、障がい) |
| 5. いじめ | 6. 不登校 |
| 7. 就職活動 | 8. 学校や職場での人間関係 |
| 9. ハラスメント、暴力 | 10. 退職 |
| 11. 性自認や性的指向 | 12. わからない |
| 13. その他(具体的に:) | |
| 14. 答えたくない | |

問 10-4 ひきこもることはあなたにとってつらいことですか、気が楽になることですか。
(○は1つだけ)

- | | |
|------------|--------------|
| 1. とてもつらい | 2. つらい |
| 3. 気が楽になる | 4. とても気が楽になる |
| 5. あてはまらない | 6. わからない |
| 7. 答えたくない | |

問 11-1 あなたは「生きづらさ」を感じたことはありませんか。(○は1つだけ)

- | |
|---------------------|
| 1. 現在「生きづらさ」を感じている |
| 2. 過去に「生きづらさ」を感じていた |
| 3. 「生きづらさ」を感じたことはない |
| 4. 答えたくない |

問 11-1で「1. 現在「生きづらさ」を感じている」「2. 過去に「生きづらさ」を感じ
ていた」を選んだ方にお聞きします。

問 11-2 「生きづらさ」を感じる理由は何ですか。(○はいくつでも可)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 父親との関係 | 2. 母親との関係 |
| 3. それ以外の家族との関係 | 4. 家族以外の人間関係 |
| 5. からだの問題(不調、病氣、障がい) | 6. こころの問題(不調、病氣、障がい) |
| 7. 性自認や性的指向 | 8. 対人恐怖 |
| 9. 自己否定感 | 10. 経済的不安 |
| 11. その他(具体的に:) | |
| 12. わからない | 13. 答えたくない |

問 11-3 どうなったら生きづらさが改善されると思いますか。(○はいくつでも可)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 就職する | 2. 経済的に安定する |
| 3. からだの問題(不調や病氣)が改善する | 4. こころの問題(不調や病氣)が改善する |
| 5. 新しい人間関係ができる | 6. 家族関係が修復する |
| 7. 安心できる居場所が見つかる | 8. 自己肯定感を獲得する |
| 9. 良い治療者や支援者に出会う | |
| 10. その他(具体的に:) | |
| 11. 答えたくない | |

問 12 自分のことを好きだと感じるときがありますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|----------|----------|-------------|
| 1. 常を感じる | 2. 時々感じる | 3. ほとんど感じない |
| 4. 感じない | 5. わからない | 6. 答えたくない |

問 13 自分のことを嫌いだと感じるときがありますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|----------|----------|-------------|
| 1. 常を感じる | 2. 時々感じる | 3. ほとんど感じない |
| 4. 感じない | 5. わからない | 6. 答えたくない |

問 14 あなたが感じる不安について、該当するものを選んでください。
(それぞれ項目で○は1つだけ)

	とても不安	いつも不安	ときとき不安	まあ 感 じ り な い 安	な い 安 を 感 じ	わ か ら な い	答 え た く な い
1 健康状態	1	2	3	4	5	6	7
2 メンタルヘルス	1	2	3	4	5	6	7
3 経済的なこと	1	2	3	4	5	6	7
4 住まい	1	2	3	4	5	6	7
5 仕事	1	2	3	4	5	6	7
6 将来	1	2	3	4	5	6	7
7 家族関係	1	2	3	4	5	6	7
8 職場の人間関係	1	2	3	4	5	6	7
9 職場以外の人間関係	1	2	3	4	5	6	7
10 学校での人間関係	1	2	3	4	5	6	7

問 15 あなたが人間関係やコミュニケーションで感じることにについて選んでください。
(それぞれ項目で○は1つだけ)

	そう思う	思言と うえち ばら そか うと	思言と わえち なばら いそか うと	そう 思 わ な い	わ か ら な い	答 え た く な い
1 社会スキル（人との関係 の構築や気持ちを察する といったこと）に自信が ない	1	2	3	4	5	6
2 対人関係に漠然とした恐 怖感がある	1	2	3	4	5	6
3 男性に苦手意識がある	1	2	3	4	5	6
4 女性に苦手意識がある	1	2	3	4	5	6
5 人と話すのが苦手	1	2	3	4	5	6
6 今よりも人と交流したい	1	2	3	4	5	6
7 似た体験・経験をした人 と交流したい	1	2	3	4	5	6

問 16-1 あなたには、重要なことや悩みを相談できる相手はいますか。
(○は1つだけ)

1. いる

2. いない

3. 答えたくない

問 16-1 で「1. いる」を選んだ方にお聞きします。

問 16-2 あなたが相談できる相手はあなたとどのような関係にありますか。
(○はいくつでも可)

1. 友だち

2. 父親

3. 母親

4. 兄弟姉妹

5. その他の親族

6. 職場の同僚

7. 配偶者、パートナー

8. インターネット上の知り合い

9. 医者、カウンセラー

10. 同じ悩みを抱える人

11. 公的機関の相談員

12. その他（具体的に：

13. 答えたくない

問 17-1 あなたが「ひきこもり」や「生きづらさ」に関して、これまでに利用した
支援・サービスについてどう思いますか（それぞれの項目で○は1つだけ）

	よい	ふつう	わるい	が利 な用 いし た こ と	答え た く な い
1 病院、診療所による医療サービス	1	2	3	4	5
2 ハローワークなどの就労支援機関に よる支援・サービス	1	2	3	4	5
3 行政機関（県や市町村など）の 支援・サービス	1	2	3	4	5
4 民間団体やNPOによる支援・サービス	1	2	3	4	5
5 当事者主体による支援・サービス	1	2	3	4	5

問 17-1 でいずれかの項目で「1」から「3」を選んだ方にお聞きします。

問 17-2 これまでに利用した支援・サービスの課題について教えてください。
(○はいくつでも可)

1. 利用料などが高い
2. 予約などの手続きが面倒
3. 担当者が替わる
4. 期待した成果が得られない
5. 担当者の言動で傷ついた
6. 利用できる時間帯が限られている
7. 利用できる場所や方法が限られている
8. 担当者の知識不足
9. その他（ ）
10. 答えたくない

差し支えなければ、あなたが感じた課題について詳しくお書きください。

問 18-1 あなたの就業経験について教えてください。(○は1つだけ)

1. 過去に働いていた
2. 現在働いている
3. 働いたことはない
4. 答えたくない

問 18-1 で「1. 過去に働いていた」「2. 現在働いている」を選んだ方にお聞きします。

問 18-2 あなたが働いた期間をすべて足すとどのくらいになりますか。

(○は1つだけ)

1. 1年未満
2. 1年以上3年未満
3. 3年以上5年未満
4. 5年以上10年未満
5. 10年以上15年未満
6. 15年以上
7. わからない
8. 答えたくない

現在働いていない方にお聞きします。

問 18-3 あなたは働きたいと思いますか。(○は1つだけ)

1. とても思う
2. そう思う
3. あまり思わない
4. 思わない
5. わからない
6. 答えたくない

問 18-3 で「1. とても思う」「2. そう思う」を選んだ方にお聞きします。

問 18-4 あなたはどのような問題が解決したら働きたいと思いますか。

(○はいくつでも可)

1. 人間関係
2. コミュニケーション
3. からの問題
4. ところの問題
5. 就職活動
6. 勤務条件
7. 対人恐怖
8. 育児
9. 介護
10. 卒業
11. 働き方がわからない
12. 働くのが怖い
13. その他（具体的に： ）
14. 特になし
15. 答えたくない

問 19 あなたは1週間にどの程度働きたいと思いますか。(Oは1つだけ)

1. 週5日	2. 週3～4日	3. 週2日	4. 週1日
5. 月1～3日	6. その他()		
7. わからない	8. 答えたくない		

問 20 あなたにとっての理想の働き方はどれですか。(Oは1つだけ)

1. 正社員として働く	2. 契約社員、派遣社員として働く
3. パート、アルバイトとして働く	4. 扶養の範囲内で働く
5. 家でできる仕事をする	6. 自営業として働く
7. 障がい者枠で働く	8. 複数の仕事をかけ持つ(複業)
9. 働かない	
10. その他(具体的に:)	
11. 答えたくない	

問 21 ご自身の手取り月収についてあてはまるものを選んでください。(Oは1つだけ)

1. 5万円未満	2. 5～10万円未満
3. 10～15万円未満	4. 15～20万円未満
5. 20～25万円未満	6. 25～30万円未満
7. 30万円以上	8. 収入がない
9. わからない	10. 答えたくない

問 22 現在あなたは生活費に困っていますか。(Oは1つだけ)

1. 困っている	2. 困っていない
3. わからない	4. 答えたくない

問 23 あなたはワーク・ライフ・バランスという言葉についてご存知ですか。
(Oは1つだけ)

1. 言葉を知っていて内容も知っている
2. 言葉は知っているが内容はよく知らない
3. 言葉を聞いたことがなく内容も知らない
4. 答えたくない

問 24 「生きづらさ」を解決するために期待する事業や取組はなんですか。
(Oはいくつでも可)

1. シェアハウスやシェアターなどの住居施設の整備
2. SNS やポータルサイトなど交流情報サイトの運営
3. 自助会やフリースペースなどの居場所づくり
4. 当事者や経験者が働ける場づくり
5. 社会保障制度などを学べる研修機会
6. 家族や企業、市民への理解促進
7. 就労支援、仕事の紹介
8. 出会い、結婚相談
9. 公的機関での相談窓口の充実
10. 支援が1か所で行われる総合窓口の設置
11. その他(具体的に:)

3. 男女共同参画についてお伺いします。

問 25 各場面で男女は平等になっていると思いますか。
(それぞれの項目でOは1つだけ)

	男性が優遇されている	がどちらかと言えば男性が優遇されている	平等	がどちらかと言えば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	答えたくない
1 家庭	1	2	3	4	5	6	7
2 学校	1	2	3	4	5	6	7
3 職場	1	2	3	4	5	6	7
4 地域	1	2	3	4	5	6	7
5 政治	1	2	3	4	5	6	7
6 法律や制度	1	2	3	4	5	6	7
7 習慣やしきたり	1	2	3	4	5	6	7

2 事業所実態調査

男女共同参画社会づくりに関する事業所実態調査

ご協力をお願い

日頃、市の行政について、ご理解と協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、本市は2017年に「湖南市男女共同参画アクション2017計画」を策定し、男女共同参画社会の実現をめざし、各種施策の推進に取り組んでおります。毎年度進捗状況を調査・評価したうえで見直しを図りつつ、社会情勢の変化などを踏まえた改訂が必要となります。

これにともしない、市内の事業所における男女共同参画に関する実態を把握するとともに、事業所としての意見を聴き、今後の施策に反映させることを目的に「男女共同参画社会づくりに関する事業所実態調査」を実施することになりました。

つきましては、ご多忙とは存じますが、なにとぞ調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。なお、調査結果については統計的に処理いたしますので、貴社名や回答内容などの情報が個々に公表されることは一切ございません。どうかみなさんの率直な意見をお聞かせください。また、不明な点は人権擁護課までお問い合わせください。

2020年12月

湖南市長 生田 邦夫

【ご記入に当たってのお願い】

◇調査票の記入について

- ・この調査は封筒の宛名のご本人が対象となります。
- ・なんらかの事情でご本人が記入できない場合は、あなたの意思を尊重して代わってご回答していただく方をお願いいたします。
- ・2020年12月1日現在の内容でご記入ください。
- ・設問に選択肢のあるものは、あてはまる番号に○をつけてください。お答えが「その他」にあてはまる場合は、()内に具体的に記入してください。
- ・設問によって、○をつけていただく数を()内に指定していますので、ご注意ください。

◇調査票の回収について

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、2021年1月20日(水)までに郵送してくださいようお願いいたします。(切手は不要です)

◇調査についてのご質問などは、下記までお問い合わせください。

湖南市役所 人権擁護課 人権対策・多文化共生・男女共同参画推進係
電話：0748-77-8512 ファックス：0748-77-4101
メール：jinken@city.shiga-konan.lg.jp

1.事業所についてお伺いします。

問1 事業所についてお答えください。

業種	1. 農業、林業 3. 建設業 5. 電気・ガス・熱供給・水道業 7. 運輸業、郵便業 9. 金融業、保険業 11. 宿泊業、飲食サービス業 13. 教育、学習支援業 15. その他（具体的に： 2. 鉱業、採石業、砂利採取業 4. 製造業 6. 情報通信業 8. 卸売業、小売業 10. 不動産業、物品賃貸業 12. 医療、福祉 14. その他サービス業
従業員数 （派遣・請負社員を除く）	人（男性 人 ・ 女性 人）
在籍する従業員すべてに Oをしてください	1. 男性 2. 女性 3. 60歳以上 4. 障がい者 5. 外国人 1. 男性 2. 女性 3. 60歳以上 4. 障がい者 5. 外国人
従業員に占める 正社員比率	%（小数点第2位は四捨五入）
従業員に占める 女性正社員比率	%（小数点第2位は四捨五入）
従業員 の平均 勤続年数	1. 5年未満 2. 5年以上10年未満 3. 10年以上15年未満 4. 15年以上 1. 5年未満 2. 5年以上10年未満 3. 10年以上15年未満 4. 15年以上

※¹正社員：期間に定めのない労働契約を結び、就業規則で定められた所定労働時間の上限（フルタイム）まで労働する労働者のこと。
※²非正社員：上記以外の契約社員を含む労働者で、派遣及び請負労働者を除く。

2.就労環境・人材育成についてお伺いします。

問2-1 貴事業所における昨年度（2019年4月1日～2020年3月31日）の間における従業員の離職者数を記入してください。
該当者がおられない場合は0を記入してください。

人

問2-2 一昨年度（2018年4月1日～2019年3月31日）と比べて、従業員の離職する程度はどのように変化していますか。（Oは1つだけ）

1. 非常に低くなった	2. 低くなった	3. 変わらない
4. 高くなった	5. 非常に高くなった	

問3 性別、年齢、国籍、雇用形態、職種といった様々な観点から5年前と現在を比較し、貴事業所の人材の多様化が進んだと思いますか。また、5年後の貴事業所では人材の多様化は現在と比較して進むと思いますか。（それぞれOは1つだけ）

① 5年前と現在の比較

1. 多様化が大幅に進んだ	2. 多様化がやや進んだ	3. 変わらない
4. 多様化がやや後退した	5. 多様化が大幅に後退した	

② 現在と5年後の比較

1. 多様化が大幅に進む	2. 多様化がやや進む	3. 変わらない
4. 多様化がやや後退する	5. 多様化が大幅に後退する	

問 4 従業員のうち、女性の管理職は何人おられますか。
該当者がおられない場合は0を記入してください。

管理職数	
	うち女性
会社役員 (代表者、事業主を含める)	人 人
課長・部長相当職	人 人
係長（主任）相当職	人 人
合計	人 (管理職全体の %)

問 5 貴事業所内の人材状況変化を踏まえ、5年前と比較し、従業員の雇用管理^{※3}は多様化していると感じますか。(Oは1つだけ)

1. 大幅に多様化	2. やや多様化	3. 変わらない
4. やや同質化	5. 大幅に同質化	

※3：雇用管理の例については問6をご参照ください。

問 6 貴事業所で実施している制度・取組はなんですか。正社員、非正社員それぞれにおいて、あてはまる取組内容を教えてください。

※各項目で該当すべてに○をしてください。実施しているが、対象者を限定している場合には「限定実施」とその従業員の属性に○をしてください。限定している対象が女性、60歳以上、障がい者、外国人以外の場合は「その他」に○をしてください。

【正社員】

	一 律 実 施	限 定 実 施	女 性	60 歳 以 上	障 が い 者	外 国 人	そ の 他	未 実 施
人事評価に関する公正性・納得性の向上								
本人の希望を踏まえた配属、配置転換								
業務遂行に伴う裁量権の拡大								
優秀な人材の抜擢・登用								
能力・成果等に見合った賃金や昇進・昇格								
能力開発機会の提供・充実								
労働時間の短縮や働き方の柔軟化								
採用時に職務内容を文書で明確化								
長時間労働対策やメンタルヘルス対策								
有給休暇の取得促進								
職場の人間関係やコミュニケーションの円滑化								
仕事と育児の両立支援								
仕事と介護の両立支援								
仕事と病氣治療の両立支援								
育児・介護・病氣治療等により離職・休職された方への復職支援								
従業員間の不合理な待遇格差の解消 (男女間、正社員・非正社員間など)								
ワークシェアリング ^{※4} の推進								

※4：ワークシェアリングには副業・兼業・複業があり、それぞれの定義は、副業は本業以外の収入源の仕事を持つこと、兼業は本業の他に事業を兼ね営むこと、複業は本業を複数持つこととされています。

【非正社員】

	律実施	限定実施	女性	60歳以上	障がい者	外国人	その他	未実施
人事評価に関する公正性・納得性の向上								
本人の希望を踏まえた配属、配置転換								
業務遂行に伴う裁量権の拡大								
優秀な人材の抜擢・登用								
能力・成果等に見合った賃金や昇進・昇格								
能力開発機会の提供・充実								
労働時間の短縮や働き方の柔軟化								
採用時に職務内容を文書で明確化								
長時間労働対策やメンタルヘルズ対策								
有給休暇の取得促進								
職場の人間関係やコミュニケーションの円滑化								
仕事と育児の両立支援								
仕事と介護の両立支援								
仕事と病氣治療の両立支援								
育児・介護・病氣治療等により離職・休職された方への復職支援								
従業員間の不合理な待遇格差の解消 (男女間、正社員・非正社員間など)								
ワークシェアリングの推進								

問7 現在従業員のワークシェアリングを許可していない事業所にお尋ねします。ワークシェアリングに関する貴事業所の意向を教えてください。(Oは1つだけ)

1. 検討している	2. 許可する予定はない
-----------	--------------

問8 貴事業所で人材育成に取り組む際、入社5年目までの正社員にはどのような能力の向上を求めますか。(Oは上位3つまで)

1. 専門的な知識・技術	2. マネジメント能力
3. コミュニケーション能力	4. 分析力・思考力
5. 想像力、企画・立案力	6. IT等の情報技術を使いこなす能力
7. 好奇心・積極性	8. 語学力・国際感覚
9. 忍耐力・継続力	10. 協調性
11. その他(具体的に:)	

問9 貴事業所で人材育成に取り組む際、将来に管理職や経営幹部となる可能性のある中核的人材にはどのような能力の向上を求めますか。(Oは上位3つまで)

1. 専門的な知識・技術	2. マネジメント能力
3. コミュニケーション能力	4. 分析力・思考力
5. 想像力、企画・立案力	6. IT等の情報技術を使いこなす能力
7. 好奇心・積極性	8. 語学力・国際感覚
9. 忍耐力・継続力	10. 協調性
11. その他(具体的に:)	

問10 貴事業所では従業員の有給休暇取得率はどれくらいですか。全従業員の取得日数を、全従業員の取得可能日数で割った比率でお答えください。(Oは1つだけ)

1. 10%未満	2. 10%~30%未満	3. 30%~50%未満
4. 50%~70%未満	5. 70%~90%未満	6. 90%以上

問11 貴事業所では休暇等の制度や福利厚生等について、どのような方法で従業員に周知していますか。(Oはいくつでも可)

1. 研修等の実施	2. ハンドブック等の作成・配布
3. 個別の相談対応	4. 社内報
5. 朝礼等	6. 共有のインターネット
7. その他(具体的に:)	

3.ハラスメントなど生きづらさについてお伺いします。

問16 貴事業所のセクシュアル・ハラスメント（セクハラ）防止のための取組についてお答えください。（それぞれ○は1つだけ）

	実施している	実施予定または検討中	実施する予定はない
① 就業規則等にセクハラ防止の規定を定めている	1	2	3
② 企業内（本社設置含む）にセクハラの相談窓口を設けている	1	2	3
③ 企業外にセクハラの相談窓口を設けている（弁護士や社労士など第三者機関の相談窓口）	1	2	3
④ セクハラ発生時の対応マニュアルを定めている	1	2	3
⑤ セクハラに関する研修を実施している	1	2	3
⑥ 従業員に対しアンケートを実施している	1	2	3
⑦ その他（ ）			

問17 貴事業所のパワー・ハラスメント（パワハラ）防止のための取組についてお答えください。（それぞれ○は1つだけ）

	実施している	実施予定または検討中	実施する予定はない
① 就業規則等にパワハラ防止の規定を定めている	1	2	3
② 企業内（本社設置含む）にパワハラの相談窓口を設けている	1	2	3
③ 企業外にパワハラの相談窓口を設けている（弁護士や社労士など第三者機関の相談窓口）	1	2	3
④ パワハラ発生時の対応マニュアルを定めている	1	2	3
⑤ パワハラに関する研修を実施している	1	2	3
⑥ 従業員に対しアンケートを実施している	1	2	3
⑦ その他（ ）			

その他、ご意見をご自由にお書きください。

以上で終わります。お忙しい中、ご協力いただき、ありがとうございました。
 お手数ですが、ご記入いただいた調査票は、2021年1月20日（水）までに、
 同封の返信用封筒（切手不要）にてご返送ください。

問 12 貴事業所の育児休業の 2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日までの取得状況について、男女別にお答えください。

配偶者が出産した 男性従業員		人	出産した女性従業員	人
うち 育児休業を 取得した男性従業員		人	うち 育児休業を 取得した女性従業員	人
合計取得日数		日	合計取得日数	日

※出産の有無については、貴事業所の把握している情報の範囲内でご記入ください。

問 13 貴事業所の介護休業の 2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日までの取得状況について、男女別にお答えください。

介護休業を取得した 男性従業員		人	介護休業を取得した 女性従業員	人
合計取得日数		日	合計取得日数	日

問 14-1 貴事業所では仕事と生活の調和「ワーク・ライフ・バランス」の取組が進んでいると思いますか。(○は 1 つだけ)

1. 進んでいる
2. ある程度進んでいる
3. あまり進んでいない
4. 進んでいない

問 14-2 ワーク・ライフ・バランスを推進するためには、どのような取組が必要だと思いますか。(○は 1 つだけ)

1. 社長などがリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む
2. 管理職の意識改革を行う
3. 業務や会議の無駄を見直し、労働時間を短縮する
4. 育児や介護などの制度を充実し周知する
5. 短時間勤務やリモート出勤など柔軟な働き方ができるようにする
6. 従業員間の不公平感を解消する
7. 育児や介護休業などを取得した場合の人や仕事の配分など対応策を検討する
8. 現状で問題はないので特段の取組は必要ない
9. その他（具体的に： ）

問 15 貴事業所ではメンタルヘルス対策に取り組んでいますか。(○は 1 つだけ)

1. 取り組んでいる	2. 取り組んでいない
------------	-------------

問 15 で「1. 取り組んでいる」を選んだ方にお聞きします。

問 15-1 貴事業所では、どのようなメンタルヘルス対策に取り組んでいますか。
(○はいくつでも可)

1. メンタルヘルス対策について、安全衛生委員会等での調査審議
2. メンタルヘルス対策に関する問題点を解決するための計画の策定と実施
3. メンタルヘルス対策の実務を行う担当者の選任
4. メンタルヘルス対策に関する労働者への教育研修・情報提供
5. メンタルヘルス対策に関する管理監督者への教育研修・情報提供
6. メンタルヘルス対策に関する事業所の産業保健スタッフへの教育研修・情報提供
7. 職場環境等の評価及び改善
8. 健康診断後の保健指導におけるメンタルヘルス対策の実施
9. 労働者のストレスの状況などについて調査票を用いて調査（ストレスチェック）
10. 職場復帰における支援（職場復帰支援プログラムの策定を含む）
11. メンタルヘルス対策に関する事業所内での相談体制の整備
12. 地域産業保健センター（地域窓口）を活用したメンタルヘルス対策の実施
13. 産業保健総合支援センターを活用したメンタルヘルス対策の実施
14. 医療機関を活用したメンタルヘルス対策の実施
15. その他（具体的に： ）